2025年度
教職・資格（多摩）
講義概要（シラバス）



法政大学

科目一覧 ［発行日：2025/5/1］最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

凡例　その他属性

〈他〉：他学部公開科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目
〈S〉：サティフィケートプログラム_SDGs
〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ
〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル
〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室

教職関係科目【L3101】教職入門［菅沼　謙太郎］春学期授業/Spring …… 1
教職関係科目【L3102】教職入門［菅沼　謙太郎］秋学期授業/Fall …… 2
教職関係科目【L3103】教育原理［御園生　純］春学期授業/Spring …… 3
教職関係科目【L3105】教育原理［御園生　純］春学期授業/Spring …… 4
教職関係科目【L3104】教育の制度・経営［平塚　眞樹］春学期授業/Spring …… 5
教職関係科目【L3106】教育の制度・経営［平塚　眞樹］春学期授業/Spring …… 6
教職関係科目【LB102】発達・教育の理論Ⅰ［山下　大厚］春学期授業/Spring …… 7
教職関係科目【LB103】発達・教育の理論Ⅱ［山下　大厚］秋学期授業/Fall …… 8
教職関係科目【L3107】教育心理学［安齊　順子］秋学期授業/Fall …… 9
教職関係科目【L3108】教育心理学［安齊　順子］秋学期授業/Fall …… 10
教職関係科目【L3109】教育相談［富永　りか］春学期授業/Spring …… 11
教職関係科目【L3110】教育相談［富永　りか］秋学期授業/Fall …… 12
教職関係科目【L3115】生徒・進路指導論［谷川　由佳］春学期授業/Spring …… 13
教職関係科目【L3116】生徒・進路指導論［谷川　由佳］春学期授業/Spring …… 14
教職関係科目【L3164】社会・地歴科教育法（1）［篠塚　昭司］春学期授業/Spring …… 15
教職関係科目【L3165】社会・地歴科教育法（2）［篠塚　昭司］秋学期授業/Fall …… 16
教職関係科目【L3166】社会・公民科教育法（1）［松山　尚寿］春学期授業/Spring …… 17
教職関係科目【L3167】社会・公民科教育法（2）［松山　尚寿］秋学期授業/Fall …… 18
教職関係科目【L3168】情報科教育法Ⅰ［御園生　純］春学期授業/Spring …… 19
教職関係科目【L3169】情報科教育法Ⅱ［御園生　純］秋学期授業/Fall …… 20
教職関係科目【M9010】保健体育科教育法Ⅰ［小林　稔］春学期授業/Spring …… 21
教職関係科目【M9020】保健体育科教育法Ⅱ［笹澤　吉明］春学期授業/Spring …… 22
教職関係科目【M9030】保健体育科教育法Ⅲ［永木　耕介］秋学期授業/Fall …… 23
教職関係科目【M9040】保健体育科教育法Ⅳ［小田　佳子］秋学期授業/Fall …… 24
教職関係科目【L3114】道徳教育指導論［石神　真悠子］春学期授業/Spring …… 25
教職関係科目【L3123】道徳教育指導論［石神　真悠子］秋学期授業/Fall …… 26
教職関係科目【L3117】特別活動論［桐島　次郎］秋学期授業/Fall …… 27
教職関係科目【L3118】特別活動論［桐島　次郎］秋学期授業/Fall …… 28
教職関係科目【L3119】教育課程論［井上 環］秋学期授業/Fall …… 29
教職関係科目【L3120】教育課程論［井上 環］秋学期授業/Fall …… 30
教職関係科目【L3121】教育方法論（ICT活用を含む）［地村　茂樹］春学期授業/Spring …… 31
教職関係科目【L3122】教育方法論（ICT活用を含む）［地村　茂樹］秋学期授業/Fall …… 33
教職関係科目【L3160】特別な教育的ニーズの理解と支援［山下　洋児］春学期授業/Spring …… 35
教職関係科目【L3161】特別な教育的ニーズの理解と支援［山下　洋児］秋学期授業/Fall …… 36
教職関係科目【L3162】総合的な学習の時間の指導法［篠塚　昭司］春学期授業/Spring …… 37
教職関係科目【L3163】総合的な学習の時間の指導法［篠塚　昭司］秋学期授業/Fall …… 38
教職関係科目【L3136】教育実習（事前指導）［大庭　乾一］秋学期授業/Fall …… 39
教職関係科目【L3137】教育実習（事前指導）［平塚　眞樹］秋学期授業/Fall …… 40
教職関係科目【L3135】教育実習（事前指導）［前田　秀人］秋学期授業/Fall …… 41
教職関係科目【L3133】教育実習（事前指導）［御園生　純］秋学期授業/Fall …… 42
教職関係科目【M9210】教育実習（事前指導）［熊野　真司］秋学期授業/Fall …… 43
教職関係科目【L3139】教育実習（高）［平塚　眞樹］年間授業/Yearly …… 44
教職関係科目【M9310】教育実習（高）［小田　佳子、永木　耕介］年間授業/Yearly …… 45
教職関係科目【L3138】教育実習（中・高）［平塚　眞樹］年間授業/Yearly …… 46

教職関係科目【M9320】教育実習（中・高）［小田　佳子、永木　耕介］年間授業/Yearly 47
教職関係科目【L3128】教職実践演習（中・高）［大庭　乾一］秋学期授業/Fall 48
教職関係科目【L3129】教職実践演習（中・高）［平塚　眞樹］秋学期授業/Fall 49
教職関係科目【L3127】教職実践演習（中・高）［前田　秀人］秋学期授業/Fall 50
教職関係科目【L3125】教職実践演習（中・高）［御園生　純］秋学期授業/Fall 51
教職関係科目【M9120】教職実践演習（中・高）［熊野　真司］秋学期授業/Fall 52
教職関係科目【K5275】日本史A［岩橋　清美］春学期授業/Spring 53
教職関係科目【K5276】日本史B［岩橋　清美］秋学期授業/Fall 54
教職関係科目【K5277】世界史A［藻谷　悠介］春学期授業/Spring 55
教職関係科目【K5278】世界史B［藻谷　悠介］秋学期授業/Fall 56
教職関係科目【K8005】人文地理学Ⅰ［朴　宗玄］春学期授業/Spring 57
教職関係科目【K8006】人文地理学Ⅱ［朴　宗玄］秋学期授業/Fall 58
教職関係科目【K8007】自然地理学Ⅰ［山川　信之］春学期授業/Spring 59
教職関係科目【K8008】自然地理学Ⅱ［山川　信之］秋学期授業/Fall 61
教職関係科目【K8009】地誌Ⅰ［濱田　博之］春学期授業/Spring 63
教職関係科目【K8010】地誌Ⅱ［濱田　博之］秋学期授業/Fall 64
教職関係科目【K5179】哲学A［齋藤　範］春学期授業/Spring 65
教職関係科目【K5180】哲学B［齋藤　範］秋学期授業/Fall 66
教職関係科目【K5177】倫理学A［齋藤　範］春学期授業/Spring 67
教職関係科目【K5178】倫理学B［齋藤　範］秋学期授業/Fall 68
教職関係科目【K8015】データベースと情報システム［坂本　憲昭］春学期授業/Spring 69
教職関係科目【K8016】情報メディアと画像処理［坂本　憲昭］秋学期授業/Fall 70
教職関係科目【K8017】情報と職業A［坂本　憲昭］春学期授業/Spring 71
教職関係科目【K8018】情報と職業B［坂本　憲昭］秋学期授業/Fall 72
教職関係科目【L9007】国際法［妻木　伸之］秋学期授業/Fall 73
教職関係科目【L9010】国際政治論［白鳥　浩］春学期授業/Spring 74
資格関係科目【C6782】学校経営と学校図書館［松田　ユリ子］春学期授業/Spring 75
資格関係科目【C6783】学習指導と学校図書館［松田　ユリ子］春学期授業/Spring 76
資格関係科目【C6781】学校図書館メディアの構成［有山　裕美子］秋学期授業/Fall 77
資格関係科目【C6784】読書と豊かな人間性［有山　裕美子］秋学期授業/Fall 79
資格関係科目【C6785】情報メディアの活用［有山　裕美子］春学期授業/Spring 81
資格関係科目【L9003】社会教育概論Ⅰ［荒井　容子］春学期授業/Spring 83
資格関係科目【L9004】社会教育概論Ⅱ［荒井　容子］秋学期授業/Fall 84
資格関係科目【C6769】図書館情報学概論Ⅰ［山口　洋］春学期授業/Spring 85
資格関係科目【C6770】図書館情報学概論Ⅱ［竹之内　禎］秋学期授業/Fall 86
資格関係科目【C6771】図書館制度・経営論［山口　洋］秋学期授業/Fall 88
資格関係科目【C6772】図書館サービス概論［有山　裕美子］春学期授業/Spring 90
資格関係科目【C6773】児童サービス論［松田　ユリ子］春学期授業/Spring 92
資格関係科目【C6774】情報サービス論［栗原　智久］秋学期授業/Fall 93
資格関係科目【C6775】情報サービス演習［竹之内　禎］年間授業/Yearly 94
資格関係科目【C6776】図書館情報資源概論［山口　洋］春学期授業/Spring 96
資格関係科目【C6777】図書館情報資源特論［山口　洋］秋学期授業/Fall 97
資格関係科目【C6778】情報資源組織論［山口　洋］春学期授業/Spring 98
資格関係科目【C6779】情報資源組織演習［山口　洋］年間授業/Yearly 99
資格関係科目【C6780】図書館演習［山口　洋］年間授業/Yearly 101
資格関係科目【L3151】社会教育経営論［荒井　容子］年間授業/Yearly 103
資格関係科目【L3152】社会教育総合演習（実習を含む）［栗山　究］年間授業/Yearly 104
資格関係科目【L3153】生涯学習支援論［栗山　究］年間授業/Yearly 106
資格関係科目【C6724】博物館概論［森屋　雅幸］春学期授業/Spring 108
資格関係科目【C6727】博物館資料論［森屋　雅幸］秋学期授業/Fall 109
資格関係科目【L3155】視聴覚教育Ⅰ［原田　雅子］秋学期授業/Fall 110
資格関係科目【L3156】視聴覚教育Ⅱ［原田　雅子］秋学期授業/Fall 111
資格関係科目【L9013】グローバル社会のローカリティ［竹元　秀樹］秋学期授業/Fall 112
資格関係科目【L9009】地域社会学［竹元　秀樹］秋学期授業/Fall 113
資格関係科目【L9008】マス・コミュニケーション論［藤田　真文］春学期授業/Spring 114
資格関係科目【L9005】福祉社会学Ⅰ［堅田　香緒里］春学期授業/Spring 115
資格関係科目【L9006】福祉社会学Ⅱ［堅田　香緒里］秋学期授業/Fall 116

資格関係科目【C6725】博物館経営論［森屋　雅幸］春学期授業/Spring 117
資格関係科目【C6726】博物館経営論［杉長　敬治］秋学期授業/Fall 118
資格関係科目【C6752】博物館資料保存論［今野　農］春学期授業/Spring 120
資格関係科目【C6753】博物館資料保存論［清水　玲子］秋学期授業/Fall 121
資格関係科目【C6755】博物館展示論［松丸　裕之］春学期授業/Spring 122
資格関係科目【C6754】博物館展示論［大山　裕］秋学期授業/Fall 123
資格関係科目【C6728】博物館教育論［渡邊　祐子］春学期授業/Spring 124
資格関係科目【C6729】博物館教育論［荒川　裕子］秋学期授業/Fall 126
資格関係科目【C6758】博物館実習Ⅰ［森屋　雅幸］年間授業/Yearly 127
資格関係科目【C6759】博物館実習Ⅰ［森屋　雅幸］年間授業/Yearly 128
資格関係科目【C6760】博物館実習Ⅱ［小西　雅徳］年間授業/Yearly 129
資格関係科目【C6761】博物館実習Ⅱ［杉山　享司］年間授業/Yearly 131
資格関係科目【C6762】博物館実習Ⅲ［森屋　雅幸］年間授業/Yearly 133
資格関係科目【L9011】メディアと人間Ⅰ［李　舜志］春学期授業/Spring 134
資格関係科目【L9001】比較文化論Ⅰ［李　舜志］春学期授業/Spring 135
資格関係科目【L9012】メディアと人間Ⅱ［李　舜志］秋学期授業/Fall 136
資格関係科目【L9002】比較文化論Ⅱ［李　舜志］秋学期授業/Fall 137
資格関係科目【L9014】表象文化論A［髙橋　愛］春学期授業/Spring 138
資格関係科目【L9015】表象文化論B［濱中　春］秋学期授業/Fall 139
資格関係科目【A3857】美術史（日本）A［稲本　万里子］春学期授業/Spring 140
資格関係科目【A3858】美術史（日本）B［稲本　万里子］秋学期授業/Fall 141
資格関係科目【A3853】美術史（西洋）A［安藤　智子］春学期授業/Spring 142
資格関係科目【A3854】美術史（西洋）B［安藤　智子］秋学期授業/Fall 143
資格関係科目【A3855】考古学概論［高橋　健］春学期授業/Spring 144
資格関係科目【A3856】日本考古学［高橋　健］秋学期授業/Fall 145
資格関係科目【A3809】民俗学Ⅰ［室井　康成］春学期授業/Spring 146
資格関係科目【A3810】民俗学Ⅱ［室井　康成］秋学期授業/Fall 147

教職入門

菅沼　謙太郎

配当年次／単位：1～4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めることを目的としている。
具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に時代や社会の変化に向き合い、生涯にわたって学び続ける自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に、組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状や諸課題についての概要をおさえながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、受講生一人ひとりの教職についての理解を深めていきたい。

【到達目標】
教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
教職（学校の仕事）をめぐる現状と課題、意義と役割を講師の体験や具体的事例を通して伝え、時にグループワークを加えて実践的に考察する。必要に応じて、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、コメントしたり質問に答えたりする時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入と教職への条件：免許・養成（履修）・採用制度の概要と4年間の学びのイメージ	教職を目指そうとする自分の原点を確認し、大学4年間の学びをイメージする。 授業の進め方と課題などの説明
第2回	教師という職業の特徴	教師という仕事の難しさとやりがいについて考察する。教師に求められる力について知る。
第3回	教職の歴史	第二次世界大戦後、社会の変化に伴い、学校教育に何が求められてきたのか、その変遷をたどり、その中で教師の役割がどのように変わってきたのかを振り返る。
第4回	専門職としての教師の成長・育成：研修等の制度	自ら学び成長するために必要なことや教師の研修の様々な在り方を学ぶ。
第5回	現代の学校と教師の資質・役割	現代の学校が抱える課題を知る。児童生徒理解を深めるために必要なことを考察する。
第6回	教師の権利と義務：服務規律や身分保障	教師の権利と義務について知り、信頼される教師の姿とは何か、誇りを持って働き続けるために必要なことを学ぶ。
第7回	職務の全体像	学校の中で、教師がどのような役割を担っているのか、その全体像を知る。学級経営・教科指導以外の分野について知る。
第8回	職務内容①：教科指導	「主体的・対話的な深い学び」の視点からの授業づくりについて考える。
第9回	職務内容②：生徒・生活指導	生活・児童生徒指導とは何か。生活・児童生徒指導において何が大切なのか、いじめ・非行など具体的な問題を取り上げて考察する。
第10回	職務内容③：進路指導・キャリア教育	キャリア教育とは何かを考える。進路指導・キャリア教育の特徴について理解する。
第11回	職務内容④：学級経営	学級経営とは何かについて学ぶ。
第12回	教師の課題①：多様化する子どもの課題	子どもたちの今日的課題（子どもの貧困、学力格差、不登校など）について学ぶ。
第13回	教師の課題②：多様な関係者との連携	「チーム学校」への対応、保護者や地域との協働・連携、「共生」社会について考える。
第14回	まとめ：変わる学校、学び続ける教師	これまでの授業を振り返り、改めてこれからの学びをイメージする。授業から何を学ぶことができたか、自分の課題を知ることができたかを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。授業後のリアクションペーパーの作成、最終レポートの取り組みなどが含まれます。

【テキスト（教科書）】
教員が適宜指定します。

【参考書】
岩辺泰吏他編著『アニマシオンで道徳』（かもがわ出版/2019年）
鈴木和夫『子どもとつくる対話の教育』（山吹書店/2005年）
竹内常一・佐藤洋作　編著『教育と福祉の出会うところ』（山吹書店/2012）
学習指導要領、生徒指導提要（平成22年3月、文部科学省）　（PDFでダウンロード可能）
他、授業で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
基本的な知識や考え方を理解できること、4年間の教職課程の学びに主体的に取り組む意思があることを総合的に評価します。具体的には、授業中に提示される課題、毎授業ごとのリアクションペーパー：70％、レポート：30％で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
講義資料は基本的にデジタルデータで学習支援システムより提供します。授業ごとのリアクションペーパーや最終レポートの提出は学習支援システムを介して行う形式をとるため、PC等、ネット接続が可能な機器を必要とします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course introduces the role of teachers, the job as teachers the qualities to be a teacher and so on to students taking this course. The goal of this course is to motivate students to aim to be a teacher.
【Learning Objectives】
In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession. We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.
【Learning activities outside of classroom】
After each class meeting, students will be expected to spend more than one hour to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on following
Reaction paper:70%,Mid-term report:30%,and in-class contribution.

教職入門

菅沼　謙太郎

配当年次／単位：1～4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めることを目的としている。
具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に時代や社会の変化に向き合い、生涯にわたって学び続ける自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に、組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状や諸課題についての概要をおさえながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、受講生一人ひとりの教職についての理解を深めていきたい。

【到達目標】
教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
教職（学校の仕事）をめぐる現状と課題、意義と役割を講師の体験や具体的事例を通して伝え、時にグループワークを加えて実践的に考察する。必要に応じて、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、コメントしたり質問に答えたりする時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入と教職への条件：免許・養成（履修）・採用制度の概要と4年間の学びのイメージ	教職を目指そうとする自分の原点を確認し、大学4年間の学びをイメージする。 授業の進め方と課題などの説明
第2回	教師という職業の特徴	教師という仕事の難しさとやりがいについて考察する。教師に求められる力について知る。
第3回	教職の歴史	第二次世界大戦後、社会の変化に伴い、学校教育に何が求められてきたのか、その変遷をたどり、その中で教師の役割がどのように変わってきたのかを振り返る。
第4回	専門職としての教師の成長・育成：研修等の制度	自ら学び成長するために必要なことや教師の研修の様々な在り方を学ぶ。
第5回	現代の学校と教師の資質・役割	現代の学校が抱える課題を知る。児童生徒理解を深めるために必要なことを考察する。
第6回	教師の権利と義務：服務規律や身分保障	教師の権利と義務について知り、信頼される教師の姿とは何か、誇りを持って働き続けるために必要なことを学ぶ。
第7回	職務の全体像	学校の中で、教師がどのような役割を担っているのか、その全体像を知る。学級経営・教科指導以外の分野について知る。
第8回	職務内容①：教科指導	「主体的・対話的な深い学び」の視点からの授業づくりについて考える。
第9回	職務内容②：生徒・生活指導	生活・児童生徒指導とは何か。生活・児童生徒指導において何が大切なのか、いじめ・非行など具体的な問題を取り上げて考察する。
第10回	職務内容③：進路指導・キャリア教育	キャリア教育とは何かを考える。進路指導・キャリア教育の特徴について理解する。
第11回	職務内容④：学級経営	学級経営とは何かについて学ぶ。
第12回	教師の課題①：多様化する子どもの課題	子どもたちの今日的課題（子どもの貧困、学力格差、不登校など）について学ぶ。
第13回	教師の課題②：多様な関係者との連携	「チーム学校」への対応、保護者や地域との協働・連携、「共生」社会について考える。
第14回	まとめ：変わる学校、学び続ける教師	これまでの授業を振り返り、改めてこれからの学びをイメージする。授業から何を学ぶことができたか、自分の課題を知ることができたかを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。授業後のリアクションペーパーの作成、最終レポートの取り組みなどが含まれます。

【テキスト（教科書）】
教員が適宜指定します。

【参考書】
岩辺泰吏他編著『アニマシオンで道徳』（かもがわ出版/2019年）
鈴木和夫『子どもとつくる対話の教育』（山吹書店/2005年）
竹内常一・佐藤洋作　編著『教育と福祉の出会うところ』（山吹書店/2012）
学習指導要領、生徒指導提要（平成22年3月、文部科学省）　（PDFでダウンロード可能）
他、授業で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
基本的な知識や考え方を理解できること、4年間の教職課程の学びに主体的に取り組む意思があることを総合的に評価します。具体的には、授業中に提示される課題、毎授業ごとのリアクションペーパー：70％、レポート：30％で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
講義資料は基本的にデジタルデータで学習支援システムより提供します。授業ごとのリアクションペーパーや最終レポートの提出は学習支援システムを介して行う形式をとるため、PC等、ネット接続が可能な機器を必要とします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course introduces the role of teachers, the job as teachers the qualities to be a teacher and so on to students taking this course. The goal of this course is to motivate students to aim to be a teacher.
【Learning Objectives】
In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession. We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.
【Learning activities outside of classroom】
After each class meeting, students will be expected to spend more than one hour to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on following
Reaction paper:70%,Mid-term report:30%,and in-class contribution.

教育原理

御園生　純

配当年次／単位：1～4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　教育や学びの場面は学校の中に限られたものではありません。この講義では社会に息づく様々な場面での学びの機会を紹介し、そのありようを教員を目指す人たち同士の共通の題材として討議していくことを通じて、「関係性の中で学ぶ」ということへの理解を深めていきたい。また受講者が体験してきた学校や教育というものを様々な角度から捉えなおすことをつうじて過去の教育理論の概念を理解することをねらいとしています。

【到達目標】
この授業では、教育の基本的諸概念を正確に修得し、教育の本質や理念を歴史的・社会的・思想的変化と関連づけながら理解します。この作業をとおして、現実の教育や学校の営みを、その変遷をも踏まえつつ、深く掘り下げて考察する力を磨きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
　学校・教育にかかわる時節的なテーマを取り上げ、それらについてのさまざまな主張や意見の紹介を骨子にした講義形式の授業スタイルです。　また、受講者からの意見もその都度メールなどを利用して集約し、授業中に紹介していきます。この講義では社会に息づく様々な場面での学びの機会を歴史・現在あわせて紹介し，そのありようを教員を目指す人たち同士の共通の題材として討議していきます。その際，とりわけ近年注目されている学習理論や教育関係理論、また学校を取り巻く新しい課題「情報化・国際化・人権・環境」といった時節的なテーマを題材にし、それらの現象の理解を深めていきます。また受講者が体験してきた学校や教育というものを様々な角度から捉えなおすことをつうじて過去の教育理論の概念を理解することもねらいとします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。各課題について受講生毎に講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教育とはなにか？　その起源と学校～近代以前	学校の始まり～ヒマ人の集うところ？
2	教育とはなにか？　その起源と学校～近代以降	なぜ学校が必要だったのか？
3	人間の誕生の特質と発達観	子どもとはなにか？ おとなになるということ
4	発達の多様性と教育の課題	発達を保証するための教育の役割
5	教育思想の源流と現在（西洋）古代から中世～近代そして現代	子どもの発見
6	教育思想の源流と現在（日本）近世から近代そして現代	日本の教育の始まりと発展
7	発達の保障と共生の課題(1)	発達保障論の系譜
8	発達の保障と共生の課題(2)	発達保障と共生理論
9	学習理論の歴史と現段階―関係性のなかで学ぶ(1)	なぜ初歩から学ぶのか？
10	学習理論の歴史と現段階―関係性のなかで学ぶ(2)	分かち持たれる知性
11	教育関係論の過去と現在―おとなと子どもの関係論	おとなと子どもの境界線
12	教育関係論の過去と現在―発達段階と教育保障	発達論から関係論へ
13	学校教育の機能と役割を問う(1)	学校の相対化
14	学校教育の機能と役割を問う(2)	IT技術と教育

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
とくにありません。授業中に配布するプリント類は重要かもしれませんが、プリントさえ手に入れば授業を受けなくても何とかなる、というものでもありません。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業毎の課題　３０％
期末試験　　７０％

【学生の意見等からの気づき】
双方向性を重視し、問題提起型の授業により受講者に考察可能な実際の学校で起こっている教育にかかわる諸問題の解決方法を討議の対象とする。また、講義と同期したX(旧twitter)のハッシュタグ等を利用し受講生の意見を反映させて、授業形式を改善している。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Educational and learning situations are not limited to schools. In this lecture, we will introduce learning opportunities in various situations that live in society, and by discussing the situation as a common subject among those who aim to become teachers, "learning in a relationship". I want to deepen my understanding of. It also aims to understand the concept of past educational theory through re-examining the schools and education that the students have experienced from various angles.
【Learning Objectives】
In this class, you will accurately acquire the basic concepts of education and understand the essence and ideals of education in relation to historical, social, and ideological changes. Through this work, you will develop your ability to delve deeply into actual education and school activities.
【Learning activities outside of classroom】
The prints distributed during class are important, but they cannot be understood by themselves. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Tasks for each lecture 30%
Report 70%

教育原理

御園生　純

配当年次／単位：1～4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　教育や学びの場面は学校の中に限られたものではありません。この講義では社会に息づく様々な場面での学びの機会を紹介し、そのありようを教員を目指す人たち同士の共通の題材として討議していくことを通じて、「関係性の中で学ぶ」ということへの理解を深めていきたい。また受講者が体験してきた学校や教育というものを様々な角度から捉えなおすことをつうじて過去の教育理論の概念を理解することをねらいとしています。

【到達目標】
この授業では、教育の基本的諸概念を正確に修得し、教育の本質や理念を歴史的・社会的・思想的変化と関連づけながら理解します。この作業をとおして、現実の教育や学校の営みを、その変遷をも踏まえつつ、深く掘り下げて考察する力を磨きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
　学校・教育にかかわる時節的なテーマを取り上げ、それらについてのさまざまな主張や意見の紹介を骨子にした講義形式の授業スタイルです。　また、受講者からの意見もその都度メールなどを利用して集約し、授業中に紹介していきます。この講義では社会に息づく様々な場面での学びの機会を歴史・現在あわせて紹介し，そのありようを教員を目指す人たち同士の共通の題材として討議していきます。その際，とりわけ近年注目されている学習理論や教育関係理論、また学校を取り巻く新しい課題「情報化・国際化・人権・環境」といった時節的なテーマを題材にし、それらの現象の理解を深めていきます。また受講者が体験してきた学校や教育というものを様々な角度から捉えなおすことをつうじて過去の教育理論の概念を理解することもねらいとします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。各課題について受講生毎に講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教育とはなにか？　その起源と学校～近代以前	学校の始まり～ヒマ人の集うところ？
2	教育とはなにか？　その起源と学校～近代以降	なぜ学校が必要だったのか？
3	人間の誕生の特質と発達観	子どもとはなにか？ おとなになるということ
4	発達の多様性と教育の課題	発達を保証するための教育の役割
5	教育思想の源流と現在（西洋）古代から中世～近代そして現代	子どもの発見
6	教育思想の源流と現在（日本）近世から近代そして現代	日本の教育の始まりと発展
7	発達の保障と共生の課題(1)	発達保障論の系譜
8	発達の保障と共生の課題(2)	発達保障と共生理論
9	学習理論の歴史と現段階―関係性のなかで学ぶ(1)	なぜ初歩から学ぶのか？
10	学習理論の歴史と現段階―関係性のなかで学ぶ(2)	分かち持たれる知性
11	教育関係論の過去と現在―おとなと子どもの関係論	おとなと子どもの境界線
12	教育関係論の過去と現在―発達段階と教育保障	発達論から関係論へ
13	学校教育の機能と役割を問う(1)	学校の相対化
14	学校教育の機能と役割を問う(2)	IT技術と教育

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
とくにありません。授業中に配布するプリント類は重要かもしれませんが、プリントさえ手に入れば授業を受けなくても何とかなる、というものでもありません。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業毎の課題　３０％
期末試験　　７０％

【学生の意見等からの気づき】
双方向性を重視し、問題提起型の授業により受講者に考察可能な実際の学校で起こっている教育にかかわる諸問題の解決方法を討議の対象とする。また、講義と同期したX(旧twitter)のハッシュタグ等を利用し受講生の意見を反映させて、授業形式を改善している。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Educational and learning situations are not limited to schools. In this lecture, we will introduce learning opportunities in various situations that live in society, and by discussing the situation as a common subject among those who aim to become teachers, "learning in a relationship". I want to deepen my understanding of. It also aims to understand the concept of past educational theory through re-examining the schools and education that the students have experienced from various angles.
【Learning Objectives】
In this class, you will accurately acquire the basic concepts of education and understand the essence and ideals of education in relation to historical, social, and ideological changes. Through this work, you will develop your ability to delve deeply into actual education and school activities.
【Learning activities outside of classroom】
The prints distributed during class are important, but they cannot be understood by themselves. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Tasks for each lecture 30%
Report 70%

教育の制度・経営

平塚　眞樹

配当年次／単位：**1〜4年次／2単位**
開講時期：**春学期授業**/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えことであり、危機管理や安全対策、地域との連携も取り上げる。

【到達目標】
日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必須な公教育の法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促す。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業では原則として毎回のテーマに即して問いを投げかけた上で、受講生が考え、時に論じ合い、ロールプレイなどを行い、コメントを書いて読み合うなど、できるだけアクティブな学びに取り組む。また、出された声に可能な形で応答しながら、講義を進める。毎回の授業後にリアクションの提出を求め、次回冒頭にその概要を紹介しながらフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（現代社会と学校改革）	いま学校の何が問われているのか、考える
第2回	子どもの人権と学校	学校・教育制度における子どもの位置を考える
第3回	憲法・教育基本法	日本の教育は法にどのように記されているのか、オンライン教材にもとづき学ぶ
第4回	教育行政のしくみ	学校・教育の仕組みを誰がどのように決めるのか考える
第5回	学習指導要領と教科書制度	教育の中身を誰がどのように決めるのか考える
第6回	教育財政制度と無償化	教育にかかる費用を誰がどのように負担するのか考える
第7回	世界の教育改革	世界はいま教育の何を変えようとしているのか、様々なオンライン情報も交えて学ぶ
第8回	学校組織の法としくみ	学校はどのように規律されているのか学ぶ
第9回	学級経営	様々な視点で、どのようにしてクラスという場がつくられるのか考える
第10回	「チームとしての学校」	学校という場に必要なチームワークとはなにか考える
第11回	学校と教員の評価	学校と教師を誰がどう評価するのか
第12回	学校の危機管理と安全対策	学校が危機に直面したとき誰が何をするのか。オンラインによるグループワークを試み、考える
第13回	地域・家庭・多様な専門家に開かれた学校づくり	学校という場を開く価値とジレンマについて考える
第14回	教員の成長と同僚性	これまでの授業を踏まえて、教員の成長と同僚性について学び、あわせてまとめレポートの説明を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
決まったテキスト（教科書）は特に使用しない。

【参考書】
横井敏郎『教育行政学（第5版）』八千代出版、2024年
村上祐介他編『教育行政と学校経営』放送大学出版会、2024年
勝野正章他編『教育の法制度と経営』学文社、2020年
勝野正章・藤本典裕返書『教育行政学(改訂新版)』学文社、2015年
文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】
基礎知識の理解度だけでなく、客観的知識やデータの裏付けをもって自らの知見について論述できるか評価する。授業後に提出を求めるコメント（45％程度）、期末レポート(55％程度)によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業後に提出を求めているgoogleフォームによるリアクション・コメントは、毎回、多様でかつ示唆的な内容が多く、授業内容の深化・豊富化に大いに役だっており、またどのような説明が伝わりやすく、伝わりにくいか、教員がふりかえる重要な手立てにもなっており、とてもありがたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム、google共有フォルダを利用する。オンライン（オンデマンド）形式で授業・学習を実施する回があるため情報機器を必要とする。

【Outline (in English)】
Course outline : The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance.
The second is related to the topics on school organization and management including risk management, safety measure and cooperation with local community,
It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.
Learning Objectives : Students will be required to understand the fundamental knowledges not only on the education laws and institutions in Japan public education system, but also on the school organizations and managements including both the school and community collaborations,and the safeties and risk managements.
Learning activities outside of classroom : Your required study time is at least 2 hour for each class meeting.
Grading Criteria /Policy : Students will be evaluated not only on their understanding of basic knowledge, but also on their ability to discuss their own findings with objective knowledge and data evidence. Evaluation will be made on the basis of in-class comment papers (approx. 40%) and the final report (approx. 60%).

教育の制度・経営

平塚　眞樹

配当年次／単位：1〜4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えことであり、危機管理や安全対策、地域との連携も取り上げる。

【到達目標】
日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必須な公教育の法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促す。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業では原則として毎回のテーマに即して問いを投げかけた上で、受講生が考え、時に論じ合い、ロールプレイなどを行い、コメントを書いて読み合うなど、できるだけアクティブな学びに取り組む。また、出された声に可能な形で応答しながら、講義を進める。毎回の授業後にリアクションの提出を求め、次回冒頭にその概要を紹介してフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（現代社会と学校改革）	いま学校の何が問われているのか、考える
第2回	子どもの人権と学校	学校・教育制度における子どもの位置を考える
第3回	憲法・教育基本法	日本の教育は法にどのように記されているのか、オンライン教材にもとづき学ぶ
第4回	教育行政のしくみ	学校・教育の仕組みを誰がどのように決めるのか考える
第5回	学習指導要領と教科書制度	教育の中身を誰がどのように決めるのか考える
第6回	教育財政制度と無償化	教育にかかる費用を誰がどのように負担するのか考える
第7回	世界の教育改革	世界はいま教育の何を変えようとしているのか、様々なオンライン情報も交えて学ぶ
第8回	学校組織の法としくみ	学校はどのように規律されているのか学ぶ
第9回	学級経営	様々な視点で、どのようにしてクラスという場がつくられるのか考える
第10回	「チームとしての学校」	学校という場に必要なチームワークとはなにか考える
第11回	学校と教員の評価	学校と教師を誰がどう評価するのか
第12回	学校の危機管理と安全対策	学校が危機に直面したとき誰が何をするのか。オンラインによるグループワークを試み、考える
第13回	地域・家庭・多様な専門家に開かれた学校づくり	学校という場を開く価値とジレンマについて考える
第14回	教員の成長と同僚性	これまでの授業を踏まえて、教員の成長と同僚性について学び、あわせてまとめレポートの説明を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
決まったテキスト（教科書）は特に使用しない。

【参考書】
横井敏郎『教育行政学（第5版）』八千代出版、2024年
村上祐介他編『教育行政と学校経営』放送大学出版会、2024年
勝野正章他編『教育の法制度と経営』学文社、2020年
勝野正章・藤本典裕返書『教育行政学(改訂新版)』学文社、2015年
文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】
基礎知識の理解度だけでなく、客観的知識やデータの裏付けをもって自らの知見について論述できるか評価する。授業後に提出を求めるコメント（45％程度）、期末レポート(55％程度)によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業後に提出を求めているgoogleフォームによるリアクション・コメントは、毎回、多様でかつ示唆的な内容が多く、授業内容の深化・豊富化に大いに役だっており、またどのような説明が伝わりやすく、伝わりにくいか、教員がふりかえる重要な手立てにもなっており、とてもありがたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム、google共有フォルダを利用する。オンライン（オンデマンド）形式で授業・学習を実施する回があるため情報機器を必要とする。

【Outline (in English)】
Course outline : The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance.
The second is related to the topics on school organization and management including risk management, safety measure and cooperation with local community,
It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.
Learning Objectives : Students will be required to understand the fundamental knowledges not only on the education laws and institutions in Japan public education system, but also on the school organizations and managements including both the school and community collaborations,and the safeties and risk managements.
Learning activities outside of classroom : Your required study time is at least 2 hour for each class meeting.
Grading Criteria /Policy : Students will be evaluated not only on their understanding of basic knowledge, but also on their ability to discuss their own findings with objective knowledge and data evidence. Evaluation will be made on the basis of in-class comment papers (approx. 40%) and the final report (approx. 60%).

発達・教育の理論Ⅰ

山下　大厚

配当年次／単位：2〜4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育の歴史と思想、および人間発達の理論の形成と展開について学ぶと共に、現代日本の子ども・教育にかかわる諸問題を概観していく。

【到達目標】
主要な教育哲学、発達論の思潮のあらましをつかみ、教育実践における重要性が理解できる。近代の教育制度の特質を理解し、歴史の中で子どもたちの処遇はどう変化し、また今日の諸問題についても、どうあるべきか、考える手立てを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義は配布資料、映像資料を用いて行なう。授業のはじめに前回提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行なう。レポートやテストについての講評、解説は採点後、学習支援システムに掲載するが、個別の質問にも応じたい。また授業計画は適宜変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションと受講上の注意	educationの語源と「発達」
第2回	子どもの権利について	子どもの権利条約／教育を受ける権利
第3回	前近代と近代の子ども（観）	ルソーの「子どもの発見」とアリエスの「子どもの誕生」
第4回	児童中心主義の展開	ルソー/ペスタロッチ/オーエン/フレーベル/エレン・ケイ
第5回	近代公教育の展開	国民国家と義務教育/ヘルバルト派と新教育運動/デューイ
第6回	近代日本の学校教育のはじまり	封建的身分制度の撤廃と学制…
第7回	戦中・戦後の教育と人間観	戦時下の教育/戦後教育改革/高度経済成長と人的能力開発
第8回	教育基本法改正と安倍「教育再生」	平成の教育「改革」がもたらしたもの
第9回	登校拒否から不登校へ	不登校問題の現在
第10回	「いじめ」を考える	いじめ問題の現在/中井久夫「いじめの政治学」
第11回	近代学校教育への批判	再生産/脱学校/フリースクールほか
第12回	発達障害と特別支援教育	特性の理解か、過剰診断か
第13回	令和の教育の諸問題	個別最適の教育の向かう先
第14回	神経科学時代の子どもと教育	ニューロ・ダイバーシティか、新たな選別か、

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。各回の講義で必要な資料を配布する。

【参考書】
その都度必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
評価の方法とウェイト：中間レポート(40%)と期末テスト(40%)、平常点(20%)。評価の基準：レポートは、出題されたテーマを適切に理解し、調べたことだけでなく、生成AIによる文章ではない、自ら行なった考察・意見について評価する。テストは、学習内容の理解・修得度を確認する。平常点は参加度やリアクションペーパーの回数と内容で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
印刷配布した講義資料の文字が小さすぎるなどの声があるので、引き続き何らかの改善を考えていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムの利用が不可欠である。また学習支援システムの受講者名簿には連絡の取れるメールアドレスを必ず登録すること。

【その他の重要事項】
質問などは講義の後やメールで受け付けます。なお、この科目は発達・教育の理論Ⅱと併せて履修することが望ましい。

【Outline (in English)】
〔Course Outline〕
This course introduces the modern/premodern history of education, philosophy of education, and various issues related to children and education in present-day Japan to students taking this course.
〔Learning Objectives〕
By the end of the course, students should be able to do the followings:
· Understand the significance of educational and developmental theories in the practices,
· Outline the trend of philosophy of education and developmental theories,
· Compare and contrast the modern educational system and others.
〔Learning activities outside of classroom〕
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to prepare and review the course content with handouts, reference material, and reference books.
〔Grading Criteria〕
Your final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (40%), term-end examination (40%), and in-class contribution (20%).

発達・教育の理論Ⅱ

山下　大厚

配当年次／単位：2〜4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間発達の理論の形成と展開について学ぶと共に、現代日本の子ども・教育にかかわる諸問題と公教育の再編の行方を概観していく。

【到達目標】
わが国の公教育の再編、子ども・学校・教員をめぐる今日的な諸問題について理解し、批判的に考えることができる。発達の理論の歴史的な流れ、主要な理論・概念について批判的に理解し、現実の子ども・若者の理解に役立てることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義は配布資料、映像資料を用いて行なう。授業のはじめに前回提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行なう。レポートやテストなどについての講評、解説は採点後、学習支援システムに掲載するが、個別の質問にも応じたい。また授業計画は適宜変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションと受講上の注意	公教育を取り巻く現代的課題と「改革」を迫られる学校
第2回	公教育再編が提起するもの	教育の市場化・私企業化
第3回	教育のデジタル化がもたらすもの	個別最適な学びか、画一化と監視か
第4回	新しい学力とは何か	PISA型/問題解決型/非認知能力
第5回	教員をめぐる諸問題	教職のジェンダー/教員の地位/メンタルヘルス
第6回	子どもの貧困と支援	貧困の問題化/学習支援
第7回	能力主義と特別支援教育	能力主義の否定か、徹底か
第8回	発達の諸理論（1）	子どもの発達の主題化/発達理論の系譜
第9回	発達の諸理論（2）	ダーウィン/ヘッケル/ゴールトン
第10回	発達の諸理論（3）	ビネーと知能検査/知能神話
第11回	発達の諸理論（4）	ゲゼル/ワトソン/バンデューラ
第12回	発達の諸理論（5）	ピアジェ/ヴィゴツキー/ブルーナー
第13回	発達の諸理論（6）	アイデンティティとライフサイクル/エリクソン/栗原彬
第14回	アタッチメント理論/まとめ「反発達論」	フロイト/クライン/ボールドウィン/「発達論」を問い直す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。各回の講義で必要な資料を配布する。

【参考書】
その都度必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
評価の方法とウェイト：中間レポート(40%)と期末テスト(40%)、平常点(20%)。評価の基準：レポートは、出題されたテーマを適切に理解し、調べたことだけでなく、生成AIによる文章ではない、自ら行なった考察・意見について評価する。テストは、学習内容の理解・修得度を確認する。平常点は参加度やリアクションペーパーの回数と内容で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
印刷配布した講義資料の文字が小さすぎるなどの声があるので、引き続き何らかの改善を考えていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムの利用が不可欠である。また学習支援システムの受講者名簿には連絡の取れるメールアドレスを必ず登録すること。

【その他の重要事項】
質問などは講義の後やメールで受け付けます。この授業は、発達・教育の理論Ⅰと併せて履修することが望ましい。

【Outline (in English)】
〔Course Outline〕
This course introduces formation and development of the human developmental theories, various issues related to children and education in present-day Japan and destination for the reorganization of compulsory education to students taking this course.
〔Learning Objectives〕
By the end of the course, students should be able to do the followings:
· Understand and explain the Right to Education of the Constitution of Japan and Basic Act on Education,
· Outline the educational problem and reform trend in present-day Japan,
· Discuss the problems of children and youth, and the role of adults and society.
〔Learning activities outside of classroom〕
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to prepare and review the course content with handouts, reference material, and reference books.
〔Grading Criteria〕
Your final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (40%), term-end examination (40%), and a fraction of in-class contribution (20%).

教育心理学

安齊　順子

配当年次／単位：1～4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。
・本学の理念「自由と進歩」の内容に照らして、大学時代に学んだことを教師となったときに利用できるように、教育心理学的に考える力を付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
テキストとパソコンを利用した講義、資料の配布等で実施する。
基本的には対面で実施するが、授業形態は感染症の流行状態により変化する可能性がある。
方向性は大学に準ずる。変更等は掲示やホッピー等で知らせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業上の注意を説明する
2	教育における発達理解の意義	心理学における発達概念を学ぶ
3	対人関係の発達	心理学における発達概念、特に対人関係に注目して学ぶ
4	認知の発達	認知心理学、学習心理学の基礎概念を学ぶ
5	アイデンティティ	青年期の心理的問題について学ぶ
6	学習の理論	古典的条件づけなど大切な学習理論を学ぶ
7	学習の指導	学級の心理学、具体的には、いじめなどについて学ぶ
8	動機づけ	動機づけの理論的背景を学ぶ
9	学習の評価	教育評価とはどのようなものか学ぶ
10	記憶の種類	記憶の種類と、記憶のしくみについて学ぶ
11	性格の理解	人格理解とその歴史について学ぶ
12	性格の様々な測定方法	心理検査、知能検査について詳しく学ぶ
13	発達障害の理解	発達障害について学ぶ
14	発達障害の支援・指導	幼児期、児童期の心理的問題とその解決について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の学習　新聞などで子供や学校に関する記事を読むこと。ほかの参考書も用いて学習すること。「教育相談・心理学・臨床心理学・心理学辞典」など他の科目のテキストも参考に学ぶこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「使える」教育心理学　服部環、安齊順子他著　北樹出版

【参考書】
子安増生ら 2015『教育心理学 第3版 (ベーシック現代心理学6)』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）
「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ　鎌原　雅彦他著
「教師のたまごのための教育相談」北樹出版　会沢信彦・安斎順子編著

【成績評価の方法と基準】
定期試験（70％）、授業への積極的参加（30％）で評価

【学生の意見等からの気づき】
毎回プリントを配布して、やりとりのある授業を心掛けている。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
教員はスクールカウンセラーの体験があるためそれについて語る場合がある。

【Outline (in English)】
The　goal of this course is to understand the motivation and cognitive process in learning for children and to study how to integrate this knowledge into teaching practices.
It is also our aim to understand how teacher-student relationships and each child's disposition and developmental rate can affect their learning process and their ability to adapt to their learning environments.
We will also discuss educational psychology for learners with developmental disabilities.
Learning Objectives
The students are supposed to gain familiarity with psychological knowledge and application to education.
Learning activities outside of the classroom
To enhance effective learning, students are encouraged to spend approximately 100 minutes preparing for class and another 100 minutes reviewing class content afterward (including assignments) for each class.
They should do so by referring to textbooks and other course material.
Grading Criteria /Policy
The Final examination counts for 70%. In-class participation accounts for 30%.

教育心理学

安齊　順子

配当年次／単位：1～4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。
・本学の理念である「自由と進歩」の内容に照らし、学生時代に身に着けたことを教師になってから利用できるよう、教育心理学的に考える力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
テキストとパソコンを利用した講義や資料の配布を中心として対面で行う。基本的には対面授業を行うが、授業形態は感染症の流行状態により、変化する可能性がある。方向性は大学の方針に準ずる。変更等は掲示、ホッピー等で知らせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業上の注意を説明する
2	教育における発達理解の意義	心理学における発達概念を学ぶ
3	対人関係の発達	心理学における発達概念、特に対人関係に注目して学ぶ
4	認知の発達	認知心理学、学習心理学の基礎概念を学ぶ
5	アイデンティティ	青年期の心理的問題について学ぶ
6	学習の理論	古典的条件づけなど大切な学習理論を学ぶ
7	学習の指導	学級の心理学、具体的には、いじめなどについて学ぶ
8	動機づけ	動機づけの理論的背景を学ぶ
9	学習の評価	教育評価とはどのようなものか学ぶ
10	記憶の種類	記憶の種類と、記憶のしくみについて学ぶ
11	性格の理解	人格理解とその歴史について学ぶ
12	性格の様々な測定方法	心理検査、知能検査について詳しく学ぶ
13	発達障害の理解	発達障害について学ぶ
14	発達障害の支援・指導	幼児期、児童期の心理的問題とその解決について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の学習　新聞などで子供や学校に関する記事を読むこと。ほかの参考書も用いて学習すること。「教育相談・心理学・臨床心理学・心理学辞典」など他の科目のテキストも参考に学ぶこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「使える」教育心理学　服部環、安齊順子他著　北樹出版

【参考書】
子安増生ら 2015『教育心理学 第3版 (ベーシック現代心理学6)』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）
「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ　鎌原　雅彦他著
「教師のたまごのための教育相談」北樹出版　会沢信彦・安齊順子編著

【成績評価の方法と基準】
定期試験（70％）、授業への積極的参加（30％）で評価

【学生の意見等からの気づき】
毎回プリントを配布して、授業後の感想をもとにやりとりのある授業を心掛けている。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
教員はスクールカウンセラーの体験があるためそれについて語る場合がある。

【Outline (in English)】
The　goal of this course is to understand the motivation and cognitive process in learning for children and to study how to integrate this knowledge into teaching practices.
It is also our aim to understand how teacher-student relationships and each child's disposition and developmental rate can affect their learning process and their ability to adapt to their learning environments.
We will also discuss educational psychology for learners with developmental disabilities.
Learning Objectives
The students are supposed to gain familiarity with psychological knowledge and application to education.
Learning activities outside of the classroom
To enhance effective learning, students are encouraged to spend approximately 100 minutes preparing for class and another 100 minutes reviewing class content afterward (including assignments) for each class.
They should do so by referring to textbooks and other course material.
Grading Criteria /Policy
The Final examination counts for 70%. In-class participation accounts for 30%.

教育相談

富永　りか

配当年次／単位：1～4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学校における教育相談の意義と理論を学ぶ。具体的には、教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）を身につけ、教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携における基本的な考え方を理解することを目指す。

【到達目標】
教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・対面でもオンラインでも、対話や双方向のやり取りを大切にした授業を行います。講義の他、文献講読、グループセッション、授業内での発表などを取り入れて、主体的に学ぶことができるようにします。
・授業の始めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
1.【教育相談の意義及び理論】(第1回～第4回)
・学校における教育相談の意義及び課題、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論及び概念
2.【教育相談の方法】（第5回～第6回）
・学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性、教育相談を進める際に必要な基礎的知識
3.【教育相談の展開】（第7回～第14回）
・幼児、児童及び生徒の不適応や問題行動の意味
・教育相談の具体的な進め方やそのポイント及び組織的な取り組み並びに連携

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方を説明する。教育相談の定義を説明し、学校場面における教育相談の意義及び課題を理解する。
第2回	幼児期、児童期の発達	幼児期及び児童期における身体、思考、対人関係の発達などを扱う。
第3回	青年期の発達	青年期における身体、思考、対人関係の発達などを扱う。
第4回	成人期の発達	成人期における発達課題、心身の変化、親子関係の変化を扱う。
第5回	カウンセリングの基礎	相談場面における受容、傾聴及び共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢並びに技法を紹介する。
第6回	カウンセリングの技法	児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を扱う。進路選択に資する各種の機会の提供のあり方について考える。
第7回	教育相談の進め方	様々な問題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を紹介し、理解する。
第8回	非行に関する相談	非行が見られ学校が荒れる過程とその収束過程を、事例も見ながら理解する。教育相談の計画の作成及び必要な校内体制の整備等、組織的な取り組みの必要性を理解する。
第9回	いじめに関する相談	いじめの発生・継続の要因について、事例も交え紹介する。
第10回	不登校に関する相談	不登校の発生・継続の要因について、事例も交え紹介する。
第11回	虐待に関する相談	虐待を扱った調査や事例などを紹介し、背景や実態について理解する。
第12回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりについて、どのような相談希求があり、どのような支援体制があるのか理解する。
第13回	発達障害に関する相談	自閉スペクトラム症、限局性学習症、注意欠如・多動症について説明する。
第14回	外部機関との連携	地域の医療、福祉及び心理等の専門機関と学校との連携の例を紹介し、その意義並びに必要性を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に文献を読む、また授業中に取り組んだワークシートを用いて復習する必要が生じる場合があります。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定せず、必要に応じて、文献の紹介や資料の提供を行います。

【参考書】
「教育相談の理論と方法」　会沢信彦編著　北樹出版
文部科学省　『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）
「教育と福祉の出会うところ　ー子ども・若者としあわせをひらく」　竹内常一・佐藤洋作編著　山吹書店
文部科学省「生徒指導提要」令和4年12月改訂版

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーや課題(50%)、まとめのレポート(50%)を総合して成績評価を出します。

【学生の意見等からの気づき】
前年度の学生のリアクションペーパーに、さまざまな授業形態を取り入れたことについて、「学びやすかった」「よい雰囲気で授業が進められていた」「自分の授業で取り入れてみたい」などの記述が複数ありましたので、継続したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
ご自身の心身の必要に応じて、また、課題の状況に応じて、パソコンや携帯を準備してください。

【その他の重要事項】
授業で取り上げるケースは、実際に授業者が出会った人たちのことから構成されています。真摯に取り組んでいただけたらと思います。授業中の私語や授業関連ではないパソコンや携帯での作業は授業内では止めてください。
授業者は、ソーシャルワーカーとして、あるいは大学の授業を通して、相談とは何か、ケアとは何か、を学び、問題提起をします。一緒に考えあいましょう。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.
Acquiring an understanding of the significance of educational consultation in schools and the knowledge necessary to proceed with school counseling
Cultivating basic attitudes as a teacher based on understanding psychosocial developmental tasks of today's pupils and students.
Learning to work with students with developmental disorders as well as special need education, and work in collaboration with medical and social welfare staff.

教育相談

富永　りか

配当年次／単位：1～4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学校における教育相談の意義と理論を学ぶ。具体的には、教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）を身につけ、教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携における基本的な考え方を理解することを目指す。

【到達目標】
教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・対面でもオンラインでも、対話や双方向のやり取りを大切にした授業を行います。講義の他、文献講読、グループセッション、授業内での発表などを取り入れて、主体的に学ぶことができるようにします。
・授業の始めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
1.【教育相談の意義及び理論】(第1回～第4回)
・学校における教育相談の意義及び課題、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論及び概念
2.【教育相談の方法】（第5回～第6回）
・学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性、教育相談を進める際に必要な基礎的知識
3.【教育相談の展開】（第7回～第14回）
・幼児、児童及び生徒の不適応や問題行動の意味
・教育相談の具体的な進め方やそのポイント及び組織的な取り組み並びに連携

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方を説明する。教育相談の定義を説明し、学校場面における教育相談の意義及び課題を理解する。
第2回	幼児期、児童期の発達	幼児期及び児童期における身体、思考、対人関係の発達などを扱う。
第3回	青年期の発達	青年期における身体、思考、対人関係の発達などを扱う。
第4回	成人期の発達	成人期における発達課題、心身の変化、親子関係の変化を扱う。
第5回	カウンセリングの基礎	相談場面における受容、傾聴及び共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢並びに技法を紹介する。
第6回	カウンセリングの技法	児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を扱う。進路選択に資する各種の機会の提供のあり方について考える。
第7回	教育相談の進め方	様々な問題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を紹介し、理解する。
第8回	非行に関する相談	非行が見られ学校が荒れる過程とその収束過程を、事例も見ながら理解する。教育相談の計画の作成及び必要な校内体制の整備等、組織的な取り組みの必要性を理解する。
第9回	いじめに関する相談	いじめの発生・継続の要因について、事例も交え紹介する。
第10回	不登校に関する相談	不登校の発生・継続の要因について、事例も交え紹介する。
第11回	虐待に関する相談	虐待を扱った調査や事例などを紹介し、背景や実態について理解する。
第12回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりについて、どのような相談希求があり、どのような支援体制があるのか理解する。
第13回	発達障害に関する相談	自閉スペクトラム症、限局性学習症、注意欠如・多動症について説明する。
第14回	外部機関との連携	地域の医療、福祉及び心理等の専門機関と学校との連携の例を紹介し、その意義並びに必要性を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に文献を読む、また授業中に取り組んだワークシートを用いて復習する必要が生じる場合があります。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定せず、必要に応じて、文献の紹介や資料の提供を行います。

【参考書】
「教育相談の理論と方法」　会沢信彦編著　北樹出版
文部科学省　『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）
「教育と福祉の出会うところ　ー子ども・若者としあわせをひらく」　竹内常一・佐藤洋作編著　山吹書店
文部科学省「生徒指導提要」令和4年12月改訂版

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーや課題(50%)、まとめのレポート(50%)を総合して成績評価を出します。

【学生の意見等からの気づき】
前年度の学生のリアクションペーパーに、さまざまな授業形態を取り入れたことについて、「学びやすかった」「よい雰囲気で授業が進められていた」「自分の授業で取り入れてみたい」などの記述が複数ありましたので、継続したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
ご自身の心身の必要に応じて、また、課題の状況に応じて、パソコンや携帯を準備してください。

【その他の重要事項】
授業で取り上げるケースは、実際に授業者が出会った人たちのことから構成されています。真摯に取り組んでいただけたらと思います。授業中の私語や授業関連ではないパソコンや携帯での作業は授業内では止めてください。
授業者は、ソーシャルワーカーとして、あるいは大学の授業を通して、相談とは何か、ケアとは何か、を学び、問題提起をします。一緒に考えあいましょう。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.
Acquiring an understanding of the significance of educational consultation in schools and the knowledge necessary to proceed with school counseling
Cultivating basic attitudes as a teacher based on understanding psychosocial developmental tasks of today's pupils and students.
Learning to work with students with developmental disorders as well as special need education, and work in collaboration with medical and social welfare staff.

生徒・進路指導論

谷川　由佳

配当年次／単位：2〜4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生徒指導の意義と原理を理解し，生徒集団全体に対する指導，個別の課題を抱える生徒への指導のあり方や方法を理解できるようにする。また，進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し，子ども・若者の現代の課題を踏まえたうえで、生徒集団全体に対するガイダンス，個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

【到達目標】
生徒指導の理論と方法，進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業は講義形式となる。授業の初めに，前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ，全体に対してフィードバックを行う。
授業計画は授業の展開によって，若干の変更があり得る。
。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の概要とガイダンス	授業の概要，成績評価等についての説明,学校体験の振り返り（これまで受けた生徒指導と進路指導）
2	生徒指導の意義と役割	教育課程における生徒指導の位置付け
3	生徒指導の方法	生徒指導の基本的な考え方と方法
4	生徒指導における集団指導	生活集団と学習集団
5	生徒指導における個別指導（今日的な生徒指導の課題）	生徒指導における今日的課題と期待される実践、「生徒理解」
6	生徒指導における個別指導（不登校等への対処）	「不登校」の現在と生徒指導の考え方
7	生徒指導における個別指導（暴力行為，いじめ等への対処）	いじめの問題にどう取り組むのか
8	進路指導の意義と役割	進路指導の基本的な考え方
9	進路指導の歴史と方法	日本型青年期と＜学校から仕事へ＞の移行
10	キャリア教育の意義と役割	現代の若者の働き方、求められる「キャリア教育」の在り方
11	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの役割と方法	現代の若者の進学と労働のあり方を踏まえた進路指導・キャリア教育
12	進路指導・キャリア教育におけるキャリア・カウンセリングの役割と方法	青年期の視点からみた進路指導・キャリア教育
13	進路指導・キャリア教育におけるポートフォリオの活用	進路指導・キャリア教育における今日的課題と期待される実践
14	集団指導の組織的な推進体制	生徒・進路指導と学校外の機関との連携

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定しない。授業時にレジュメや資料を配布する。

【参考書】
望月一枝・森俊二・杉田真衣編『市民性を育てる生徒指導・進路指導』大学図書出版, 2020年
林尚示・伊藤秀樹編『生徒指導・進路指導 第2版:理論と方法』学文社，2018年
折出健二編『生活指導：生き方についての生徒指導・進路指導とともに』学文社，2014年
『生徒指導提要』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
提出物（小課題を予定）40％，期末レポート60%で，総合的に判断して成績評価を行う。
成績評価の詳細は,初回授業時に説明する。

【学生の意見等からの気づき】
授業リアクションペーパーのフィードバックがあることで授業理解が深まるという意見が多いため,今年度も継続していく。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業ではZoomを利用する。
また、課題提出には学習支援システムを利用する場合がある。
そのため,パソコン等の機器が利用できることが望ましい。

【その他の重要事項】
授業時にリアクションペーパーの提出を求める。また，その内容は匿名化したうえで授業内で紹介することがある。
この授業は、全14回中7回をZoomを用いたリアルタイムのオンライン授業で実施する。オンライン授業の実施回については、シラバスから変更がありうるため初回授業時に改めて提示する。

【Outline (in English)】
This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance &education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance &education for the whole student group, and career counseling for individual students.
【Learning Objectives】
The purpose of this class is to understand the theory and method of student
guidance and career guidance including basic matters of career education.
【Methods】
This course will be mostly lectures.
The feedback for the reaction paper will be done in every lecture.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Textbook】
No textbook will be used.
Handouts and reading materials will be provided by lecturer.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Mid-term report：40％、Term-end report: 60%

生徒・進路指導論

谷川　由佳

配当年次／単位：2～4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生徒指導の意義と原理を理解し，生徒集団全体に対する指導，個別の課題を抱える生徒への指導のあり方や方法を理解できるようにする。また，進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の意義と原理を理解し，子ども・若者の現代の課題を踏まえたうえで、生徒集団全体に対するガイダンス，個別の生徒に対するキャリア・カウンセリングのあり方や方法を理解できるようにする。

【到達目標】
生徒指導の理論と方法，進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業は講義形式となる。授業の初めに，前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ，全体に対してフィードバックを行う。
授業計画は授業の展開によって，若干の変更があり得る。
。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の概要とガイダンス	授業の概要，成績評価等についての説明,学校体験の振り返り（これまで受けた生徒指導と進路指導）
2	生徒指導の意義と役割	教育課程における生徒指導の位置付け
3	生徒指導の方法	生徒指導の基本的な考え方と方法
4	生徒指導における集団指導	生活集団と学習集団
5	生徒指導における個別指導（今日的な生徒指導の課題）	生徒指導における今日的課題と期待される実践、「生徒理解」
6	生徒指導における個別指導（不登校等への対処）	「不登校」の現在と生徒指導の考え方
7	生徒指導における個別指導（暴力行為，いじめ等への対処）	いじめの問題にどう取り組むのか
8	進路指導の意義と役割	進路指導の基本的な考え方
9	進路指導の歴史と方法	日本型青年期と＜学校から仕事へ＞の移行
10	キャリア教育の意義と役割	現代の若者の働き方、求められる「キャリア教育」の在り方
11	進路指導・キャリア教育におけるガイダンスの役割と方法	現代の若者の進学と労働のあり方を踏まえた進路指導・キャリア教育
12	進路指導・キャリア教育におけるキャリア・カウンセリングの役割と方法	青年期の視点からみた進路指導・キャリア教育
13	進路指導・キャリア教育におけるポートフォリオの活用	進路指導・キャリア教育における今日的課題と期待される実践
14	集団指導の組織的な推進体制	生徒・進路指導と学校外の機関との連携

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定しない。授業時にレジュメや資料を配布する。

【参考書】
望月一枝・森俊二・杉田真衣編『市民性を育てる生徒指導・進路指導』大学図書出版, 2020年
林尚示・伊藤秀樹編『生徒指導・進路指導 第2版:理論と方法』学文社，2018年
折出健二編『生活指導：生き方についての生徒指導・進路指導とともに』学文社，2014年
『生徒指導提要』（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
提出物（小課題を予定）40％，期末レポート60%で，総合的に判断して成績評価を行う。
成績評価の詳細は,初回授業時に説明する。

【学生の意見等からの気づき】
授業リアクションペーパーのフィードバックがあることで授業理解が深まるという意見が多いため,今年度も継続していく。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業ではZoomを利用する。
また、課題提出には学習支援システムを利用する場合がある。
そのため,パソコン等の機器が利用できることが望ましい。

【その他の重要事項】
授業時にリアクションペーパーの提出を求める。また，その内容は匿名化したうえで授業内で紹介することがある。
この授業は、全14回中7回をZoomを用いたリアルタイムのオンライン授業で実施する。オンライン授業の実施回については、シラバスから変更がありうるため初回授業時に改めて提示する。

【Outline (in English)】
This course introduces the significance and principles of student guidance and career guidance &education. The former includes how to guide the whole student group and individual students with special educational needs. The latter includes how to provide career guidance &education for the whole student group, and career counseling for individual students.
【Learning Objectives】
The purpose of this class is to understand the theory and method of student
guidance and career guidance including basic matters of career education.
【Methods】
This course will be mostly lectures.
The feedback for the reaction paper will be done in every lecture.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Textbook】
No textbook will be used.
Handouts and reading materials will be provided by lecturer.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Mid-term report：40％、Term-end report: 60%

社会・地歴科教育法（1）

篠塚　昭司

サブタイトル：**社会・地歴科教育法**
配当年次／単位：**2〜4年次／2単位**
開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会科の歴史を学び、学習指導要領の目標や内容を理解しながら、地歴分野の教材や学習方法、評価の仕方の基本を学ぶ。その上で、学習指導案を作成して模擬授業（教育実践研究）を実施し、その振り返りを通して授業改善の視点を身に着ける。ＩＣＴ機器の活用を学ぶ。

【到達目標】
中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導と授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義と演習（グループワーク、ディスカッション、スピーチ等）中心の対面授業を行います。（欠席時のオンライン補講は行いません。）
課題や授業振り返りの提出は、「学習支援システム」を通じて行う予定です。
授業計画は人数や学生の興味や関心によって、若干変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（授業の狙いや進め方）	授業計画を確認する。小・中・高における社会科の授業体験を振り返り、自身の社会科観を定める。
第2回	社会科教育の現在（地歴分野の学習指導要領）	学習指導要領を通して、全体の構成とその内容、指導上の留意点などを確認する。
第3回	社会科の前史（戦前の社会科系科目）	近代教育の出発と戦時下の教育について考える。
第4回	社会科の戦後史と教科書	戦後の社会科教育改革と初期社会科の成立について理解する。
第5回	社会科における資質・能力	学習指導要領の変遷と社会科教育における資質・能力の関連について考える。
第6回	社会・地歴科の教材（視聴覚・ICT教材の活用を含む）	社会・地歴科における視聴覚・ICT教材の活用方法を習得する。
第7回	社会・地歴科の学習方法（調査、発表、討論）	学校現場における調査、発表学習の実際についての理解を深め、その方法を習得する。
第8回	社会・地歴科の評価	評価の種類、観点、方法についての理解を深める。
第9回	教育実践研究（中学地理）	中学校地理学習の優れた授業実践を紹介し、分析と省察を行う。
第10回	教育実践研究（高校地理）	高校地理学習の優れた授業実践を紹介し、分析と省察を行う。
第11回	教育実践研究（中学歴史）	中学校歴史学習の優れた授業実践を紹介し、分析と省察を行う。
第12回	教育実践研究（高校歴史）	高校歴史学習の優れた授業実践を紹介し、分析と省察を行う。
第13回	社会・地歴科の課題（主体的・対話的・深い学び）	主体的・対話的・深い学びの授業設計を実践する。
第14回	まとめ　自分の教育実践を語る	自身の社会科（地歴科）観に基づく指導案を作成し、全14回のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。
＜予習＞次回の授業内容に関する参考文献の該当ページを読む。
＜復習＞授業で提示された課題や授業内容に関する振り返りを行い、学習支援システムで回答する。

【テキスト（教科書）】
特にありません。必要に応じて、適宜プリントを配布します。

【参考書】
文部科学省（2017）『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　社会編』
文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　地理歴史編』
＊いずれも文部科学省ＨＰで閲覧・ダウンロードが可能です。
中学校地理教科書、高等学校地理総合教科書
中学校歴史教科書、高等学校歴史総合教科書
中学校地図帳、高等学校地図帳
＊いずれも出版社は指定しません。

【成績評価の方法と基準】
平常点①（各授業内で行う演習への取り組み状況と内容）20％
平常点②（各授業後に行う振り返りの提出状況と内容）　30％
学習指導案以外の課題　20％
最終学習指導案　30％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更により、前年度のフィードバックはできません。
各回の授業後に提出する「授業振り返り」を踏まえて、授業を適宜改善していきます。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてＰＣを用意してもらいます。
資料配布・課題提出の際は、学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
東京都公立中学校で３１年間、国立大学附属中学校で７年間、計３８年間勤務した実務経験と知識を活かして実践的な授業を行っていきます。 毎回、グループワークとディスカッションを行いますので、授業には積極的に参加してください。

【Outline (in English)】
This class aims to understand the goals and contents of geography and history in the National Courses of Study by learning the historical evolution of social studies. Also, based on this knowledge and skills, the class further practices simulated lessons by developing lesson plans students are able to understand the goals and contents of junior and high school geography and history in the National Courses of Study, and students are further able to develop
knowledge and skills required for teaching and planning lessons review them for the better.
Grading Criteria [14times short report and in-class contribution 50%][Last long report 50%]

社会・地歴科教育法（2）

篠塚　昭司

サブタイトル：**社会・地歴科教育法**
配当年次／単位：**2〜4年次／2単位**
開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学習指導要領の基本的事項を確認しながら、授業設計の基本やあり方を学ぶ。その上で、具体的なテーマや教材に即して学習指導案を作成し、授業実践研究（模擬授業の実施と授業改善の振り返り）をおこなう。ＩＣＴ機器の活用を学ぶ。

【到達目標】
中学校と高等学校における地理・歴史分野の学習指導要領の目標や内容を考え理解するとともに、教科指導や授業設計をするに当たって必要な知識や資質・能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義と演習（グループワーク、ディスカッション、スピーチ等）中心の対面授業を行います。（欠席時のオンライン補講は行いません。）
課題や授業振り返りの提出は、「学習支援システム」を通じて行う予定です。
授業計画は人数や学生の興味や関心によって、若干変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：学習指導案とその作成方法	授業計画を確認する。小・中・高における社会科の授業体験を振り返り、自身の社会科観を定める。
第2回	授業の設計(1)：授業の構成	学習指導要領をもとにした授業構成を構想する。
第3回	授業の設計(2)：教材の探し方と問いの作り方、ICT教材の活用	社会・地歴科における視聴覚・ICT教材の活用方法を習得する。
第4回	授業実践研究「世界各地の人々の生活と環境」	中学校地理の視点から、「世界各地の人々の生活と環境」の学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。
第5回	授業実践研究「世界の諸地域」	中学校地理の視点から「世界の諸地域」の学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。
第6回	授業実践研究「日本の諸地域」	中学校地理の視点から「日本の諸地域」の学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。
第7回	授業実践研究「国際理解と国際協力」	高校地理総合の視点から「国際理解と国際協力」の学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。
第8回	授業実践研究「古代までの日本」	中学校歴史の視点から「古代までの日本」の学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。
第9回	授業実践研究「中世の日本」	中学校歴史の視点から「中世の日本」の学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。
第10回	授業実践研究「近代の日本と世界」	中学校歴史の視点から「近代の日本と世界」の学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。
第11回	授業実践研究「経済危機と第二次世界大戦」	高校歴史総合の視点から「経済危機と第二次世界大戦」の学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。
第12回	授業実践研究「世界秩序の変容と日本」	高校歴史総合の視点から「世界秩序の変容と日本」の学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。
第13回	社会・地歴科の授業と方法の課題	「主体的・対話的で深い学び」の授業設計を構想し、模擬授業で作成した学習指導案を修正する。
第14回	まとめ（授業内確認テストも含む）	自身の社会科（地歴科）観を振り返り、教師（社会人）としての生き方を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。
＜予習＞次回の授業内容に関する参考文献の該当ページを読む。
＜復習＞授業で提示された課題や授業内容に関する振り返りを行い、学習支援システムで回答する。

【テキスト（教科書）】
特にありません。必要に応じて、適宜プリントを配布します。

【参考書】
文部科学省（2017）『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　社会編』
文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　地理歴史編』
＊いずれも文部科学省ＨＰで閲覧・ダウンロードが可能です。
中学校地理教科書、高等学校地理総合教科書
中学校歴史教科書、高等学校歴史総合教科書
中学校地図帳、高等学校地図帳
＊いずれも出版社は指定しません。

【成績評価の方法と基準】
平常点①（各授業内で行う演習への取り組み状況と内容）20％
平常点②（各授業後に行う振り返りの提出状況と内容）　30％
学習指導案以外の課題　20％
最終学習指導案　30％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更により、前年度のフィードバックはできません。
各回の授業後に提出する「授業振り返り」を踏まえて、授業を適宜改善していきます。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてＰＣを用意してもらいます。
資料配布・課題提出の際は、学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
東京都公立中学校で３１年間、国立大学附属中学校で７年間、計３８年間勤務した実務経験と知識を活かして実践的な授業を行っていきます。 毎回、グループワークとディスカッションを行いますので、授業には積極的に参加してください。

【Outline (in English)】
This class aims to learn basic knowledge and skills regarding how to design lessons by reviewing foundational items of geography and history in the National Courses of Study. Also the class develops lesson plans on specific themes and their materials and then studies the lessons for their improvements.
Students are able to understand the goals and contents of junior and high school geography and history in the National Courses of Study, and students are further able to develop knowledge and skills required for teaching and planning lessons
Grading Criteria [14times short report and in-class contribution 50%][Last long report 50%]

社会・公民科教育法（1）

松山　尚寿

サブタイトル：**社会・公民科教育法**
配当年次／単位：**2〜4年次／2単位**
開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会・公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについ ての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行 う。 社会・公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについ ての基本的な知識・技能に基づいて、グループや個人で実践事例の研究、学習指導案の作成、模擬 授業の実施と振り返りなどを行う。また情報通信技術（ICT）を活用するスキルを身につける。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざし、社会・公民科における教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏 まえて学習指導案を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
社会科教育の歴史と現状をまずおさえ、問題点と課題をさぐり、実践的な内容と方法の検討へと進 めていく予定です。授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありえます。授業の初めに，前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ，全体に対してフ ィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	公民科と教師の力量形成
2	公民教育の意義と役割	公民的資質とは何か
3	公民教育の歴史	学習指導要領の変遷
4	学習指導要領と公民科	社会科、地理歴史科、公民科の全体構造
5	公民科の目標と内容	小学校・中学校・高等学校での展開
6	実践事例の検討(1)	中学校公民的分野
7	実践事例の検討(2)	高等学校公民科
8	学習指導案の書き方	授業設計のポイント
9	教材研究・教材開発の視点・方法	教材とは
10	学習指導の工夫	情報機器及び教材の効果的な活用
11	学習指導の工夫と実際	評価の考え方・進め方
12	学習指導案の検討(1)	中学校公民的分野
13	学習指導案の検討(2)	高等学校公民科
14	前期のまとめ	振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。次の授業への課題を時々出します。その課題にはしっかりと取り組んでください。また、社会科教 師をめざす学生として、日常的に世界と日本の動向・問題点・課題に関心をもち、報道や論説に注 目するようにしてほしいと思います。世の中の重要な問題について、関心や自分の意見がないよう では困ります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは指定せず、教材プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
文部科学省「中学校、高等学校学習指導要領　社会、公民」（最新版）
大月書店「未来の市民を育む『公共』の授業」杉浦真理他編

【成績評価の方法と基準】
平常点（25％）、宿題・予習課題（40％）、夏期・冬期のレポート課題（35％）によって総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講する学生の問題関心に配慮しながら、少しずつ要求水準を引き上げていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用します。またGoogleのアプリ「Classroom」を授業で活用します。

【その他の重要事項】
春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【授業中に求められる学習活動】
None.

【Outline (in English)】
This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them. And then, the class also implements case studies of teaching practices, developments of lesson plans, and practices and reviews of simulated lessons with groups and individuals.

社会・公民科教育法（2）

松山　尚寿

サブタイトル：**社会・公民科教育法**
配当年次／単位：**2〜4年次／2単位**
開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会・公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについ ての基本的な事項を理解するとともに、それらの知識・技能に基づいて、学習指導案の作成を行う。 社会・公民科の歴史、学習指導要領に示された目標や内容、教材研究や学習指導の方法などについ ての基本的な知識・技能に基づいて、グループや個人で実践事例の研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施と振り返りなどを行う。また情報通信技術（ICT）のスキルを身につける。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざし、社会・公民科における教育の目標や内容を理解し、学習指導理論を踏まえて学習指導案を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
社会科教育の歴史と現状をまずおさえ、問題点と課題をさぐり、実践的な内容と方法の検討へと進めていく予定です。授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありえます。授業の初めに，前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ，全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	実践研究及び授業評価の視点	教材内容・授業技術の視点
2	実践研究	中学校公民的分野 グループによる提案と質疑
3	実践研究	高等学校「公民」 グループによる提案と質疑
4	実践研究	高等学校「倫理」 グループによる提案と質疑
5	実践研究	高等学校「政治・経済」 グループによる提案と質疑
6	模擬授業	中学校公民的分野 現代社会を捉える視点
7	模擬授業	中学校公民的分野 社会にみられる課題の解決
8	模擬授業	高等学校「公共」 人間と社会のあり方
9	模擬授業	高等学校「公共」 公共的な空間に見られる課題の解決
10	模擬授業	高等学校「倫理」 人間としてのあり方生き方
11	模擬授業	高等学校「倫理」 現代の倫理的諸課題の解決
12	模擬授業	高等学校「政治・経済」社会のあり方
13	模擬授業	高等学校「政治・経済」 社会に見られる課題の解決
14	授業のまとめ	振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
次の授業への課題を時々出します。その課題にはしっかりと取り組んでください。また、社会科教 師をめざす学生として、日常的に世界と日本の動向・問題点・課題に関心をもち、報道や論説に注 目するようにしてほしいと思います。世の中の重要な問題について、関心や自分の意見がないようでは困ります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは指定せず、教材プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
文部科学省「中学校、高等学校学習指導要領　社会、公民」（最新版）
大月書店「未来の市民を育む『公共』の授業」杉浦真理他編

【成績評価の方法と基準】
平常点（25％）、宿題・予習課題（40％）、夏期・冬期のレポート課題（35％）によって総合評 価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講する学生の問題関心に配慮しながら、少しずつ要求水準を引き上げていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用します。またGoogleのアプリ「Classroom」を活用して授業を行います。

【その他の重要事項】
秋学期の授業は春学期の履修を前提に進めるので、春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【授業中に求められる学習活動】
None.

【Outline (in English)】
This class aims to gain basic understanding of the history of social studies and civic education, the goals and contents in the National Courses of Study, and teaching materials research and learning methods. Also, based on this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans and actually design them. And then, the class also implements case studies of teaching practices, developments of lesson plans, and practices and reviews of simulated lessons with groups and individuals.

情報科教育法Ⅰ

御園生　純

サブタイトル：**情報科教育法**
配当年次／単位：**2～4年次／2単位**
開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報及び情報通信技術（ICT）を活用するための知識と技能を習得し，情報に関する科学的な見方や考え方や情報化の進む社会に積極的に参画することができる能力・態度である「情報活用能力」を養うための授業運営の理論および実践方法の習得を目指す。
また新学習指導要領で新たに示された生成AI　ビッグデータ処理などの新技術の理解を深める。

【到達目標】
・教科「情報」設置の理念と社会的背景・高等学校全体の教育課程における位置づけを学ぶ。
・共通教科「情報」と専門教科「情報」の違い、および共通教科「情報」と他教科との関連等について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期は教科情報の成立過程のその目的や政策的な背景、授業運営の理論などを講義を中心に展開する。秋学期は年間計画、単元計画、授業指導案の作成を目標として受講者による発表や模擬授業を実施する。
　また、単に情報科の教員免許取得にとどまらず、教職を目指すものとして必要不可欠な教育観、人権観、情報倫理（他者の作成した情報を活用する際のルール等）などについても、受講者同士の討議を中心に理解を深めていきます。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。各課題について受講生毎に講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教科情報設置の経緯とその精神について	なぜ教科「情報」が設けられたのか、その背景と社会的状況について理解する。
2	ディスカッション：高校時代に受けた教科「情報」とはどんな授業だったか？	高校での情報の授業がその後の社会生活でどのように機能しているのかについて
3	普通科目「情報」と専門科目「情報」比較	他科目・高等学校の教育課程全体との関係の構造的理解
4	普通教科情報の３つの観点と授業内容～情報活用能力とは	何を教えるのか？ そのためにどんな知識・技能が必要なのか？
5	問題解決と課題解決の授業の観念的・理論的理解	問題解決の理論と論理的思考について
6	情報通信技術(ICT)の理論と活用①	ネットワーク通信を利用した情報や知識の共有について
7	情報通信技術(ICT)の理論と活用②	スマートフォンやIoTを利用した情報の伝達、共有が行える環境について
8	「情報の科学」の授業例～情報A・Bとの相違点を中心に	学習指導要領改訂の目的の理解と情報テクノロジーの変遷について
9	「情報A」「情報C」から「社会と情報」への変更点	「情報の科学」「社会と情報」の各々の到達点と授業運営についての理解
10	「社会と情報」の内容と指導計画の概要	授業内容の理解と把握
11	「社会と情報」の授業例～情報Cとの相違点を中心に	社会における情報技術の活用の実際とその問題点について
12	「情報」教員に求められるスキル、学習指導案の考え方・書き方	授業設計のデザインと単元の組み立てについて
13	メディアリテラシーの概念と指導法	各種ソーシャルメディアや情報受発信に必要なリテラシーについて。とりわけ情報の流用とそのルール・関係法規についての理解（小テスト実施）
14	Webとユーザビリティ、ユニバーサルデザインの理論、SNSの光と影	SNSなどの活用と実際の問題状況について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします
学習指導要領・高等学校「情報編」をあらかじめ精読しておくこと

【テキスト（教科書）】
学習指導要領・高等学校「情報編」

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
■評価配分
授業への参加度及び出席　４０％
課題　６０％（年間指導計画・単元計画の作成等）

【学生の意見等からの気づき】
ありません。

【学生が準備すべき機器他】
ありません

【その他の重要事項】
ありません

【Outline (in English)】
●Course outline
The course of Teaching Method of Information Sciences (Joho-ka Kyoiku-ho)is made up of the two classes, Teaching Method I and II. The objectives of Teaching Method I are mainly for students to learn the basic knowledges and skills on information and information technologies, and to understand the goals of the subject and its positioning in the Course of Study for high schools.
●Learning Objectives
・ Learn the policy and social background of setting up the subject "Information" and its position in the curriculum of the entire high school.
・ Understand the difference between the common subject "information" and the specialized subject "information", and the relationship between the common subject "information" and other subjects.
●Learning activities outside of classroom
A、The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
B、Carefully read the Course of Study /High School "Information" in advance.
●Grading criteria
Participation and attendance in class 40%
Assignment 60%(creation of annual guidance plan, unit plan, etc.)

情報科教育法Ⅱ

御園生　純

サブタイトル：**情報科教育法**
配当年次／単位：**2〜4年次／2単位**
開講時期：**秋学期授業**/Fall
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Ⅰ．教科「情報」の概要と意義
Ⅱ．ICT(情報通信技術）の理解と実践力・情報の科学的理解
Ⅲ．情報化社会に参画する態度
Ⅳ．教科「情報」における学習指導
Ⅴ．教科「情報」のカリキュラム・指導計画作成
以上5つの項目について、以下授業の構成の内容で講義・実習をおこなう。

【到達目標】
1、実際に高校での授業運営が可能な実践的な教職能力の習得
2、授業指導案の作成能力の獲得
3、実際の教室運営と指導観の涵養

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
前期は教科情報の成立過程のその目的や政策的な背景、授業運営の理論などを講義を中心に展開する。後期は年間計画、単元計画、授業指導案の作成を目標として受講者による発表や模擬授業を実施する。
また、単に情報科の教員免許取得にとどまらず、教職を目指すものとして必要不可欠な教育観、人権観、などについても、受講者同士の討議を中心に理解を深めていきます。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。各課題について受講生毎に講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第15回	情報社会に参画する態度Ⅰ〜受益者・受信者として。	Eコマースなどの消費者としての取り組み
第16回	情報社会に参画する態度Ⅱ〜発信者として。	SNSなどの発信者としての取り組みと問題。
第17回	メディアリテラシー、電子コミュニケーション	SNSなどの活用と実際
第18回	情報と職業	IT技術によって労働の形態がどのように変わっていくのか？
第19回	あたらしい労職業専門性と労働のスタイル、電子決済や仮想通貨について	消費者教育としての情報教育
第20回	情報教育の理論〜キーコンピテンシーとしての情報教育	あたらしい基礎リテラシーとしてのICT（情報通信技術）
第21回	情報テクノロジーの進化と教職の変化	教職専門性と情報技術について
第22回	問題解決能力について	論理的思考と問題解決の手法
第23回	教科「情報」と「総合的な学習の時間」	教育課程全体における情報科の位置づけ
第24回	他教科との連携と協働、プレゼンテーションとディスカッション・コラボレーション	プレゼンテーションツールの利用方法について
第25回	情報教育における評価方法	授業評価（生徒の評価と授業の評価の関係について）
第26回	教師の自己点検と授業評価、学習環境の整備と保守	クラス全体を評価する〜偏差値の重要性
第27回	「情報」の授業のイメージ作り	授業の入り口と出口〜なにを習得させるのか？
第28回	学習計画の作成	年間指導計画の作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
高校教科「情報」がどのような経緯で設置されたのか、目的とその歴史的経緯などについてはweb等で調べておくこと。

【テキスト（教科書）】
高等学校学習指導要領「総則」編
高等学校学習指導要領「情報」編

【参考書】
授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
日常的課題　３０％
レポート（発表プレゼン含む）　４０％
模擬授業　３０％

【学生の意見等からの気づき】
理論だけでなく、実際に教壇に立った時に必要となる実践的な授業運営方法について模擬授業などを通じて学びます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
I.Outline and significance of the subject "Information"
II.Understanding of ICT (Information and Communication Technology) and practical ability・ Scientific understanding of information
III.Attitude to participate in the information society
IV.Curriculum guidelines in the subject "Information"
V.Creating a curriculum and teaching plan for the subject "Information"
Lectures and practical training will be given on the above five items according to the contents of the lesson structure below.
【Learning Objectives】
1.　Acquisition of practical teaching ability that enables class management in high school
2. Acquisition of ability to create lesson guidance plans
3. Fostering actual classroom management and teaching views
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Check the web etc. for the background of the high school subject "Information", the purpose and its historical background.
【Grading Criteria /Policy】
Weekly tasks 30%
Report (including presentation) 40%
Simulated lesson 30%

保健体育科教育法Ⅰ

小林　稔

配当年次／単位：2〜4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校教育の法的根拠である学習指導要領（保健体育）の変遷を踏まえ、「体育」における学習指導要領（中学校・高等学校）に示される目標・内容・学習指導計画・指導評価などについて理解し、修得する。加えて、学習指導の基本的・実務的事項についての検討や学習指導案作成及び評価の方法について学ぶ。

【到達目標】
中等教育における保健体育科教育の目的・目標・学習内容、学習指導の留意事項、学習評価等を理解し、将来の体育教師として勤めるための知識や能力、態度を身につける。また、ICT(PCやタブレット)や教材を活かした体育の授業づくりの基礎知識について学び、体育(分野)学習指導計画の作成によって「生きる力」の育成並びに生涯スポーツの推進などに貢献することのできる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
中学校・高等学校における保健体育科教育の目的・目標、役割を明らかにし、学習指導の基本的・実務的事項について検討する。
講義内容としては、学校教育の法的関係、保健体育科教育の変遷より「体育」における学習指導要領の示す目標・内容・学習指導計画・学習評価・教師像などについてする。
※本講義は対面型を基本とし、新型コロナ感染症の拡大状況によりオンライン型に切り替えるなど柔軟に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	体育科教育の必要性	体育科教育とは何か
2	体育科教育の概念	教育課程における位置づけ
3	保健体育教師の心得	姿勢・態度、服装、 生徒との関わり方
4	学習指導要領 変遷(1)	法的根拠 (憲法・教育基本法・ 学校教育法・施行規則等)
5	学習指導要領 変遷(2)	戦前から現在の体育の 捉え方
6	学習指導要領 要点(1)	教科及び科目の目標 (中学校・高等学校)
7	学習指導要領 要点(2)	領域及び内容の取扱い 授業時数 小テスト
8	授業づくり①	A 体つくり運動 B 器械運動
9	授業づくり②	C 陸上競技 D 水泳
10	授業づくり③	E 球技 F 武道
11	授業づくり④	G ダンス H 体育理論
12	学習指導案作成(1)	指導計画 (年間・単元・単元時間/ 導入・展開・整理) 学習評価のねらい、方法
13	学習指導案作成(2)	単元目標・単元時間計画/単元における評価規準の設定方法
14	まとめ →期末試験	学習指導案の提出 学習指導要領の理解確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎授業ごとに、A4 一枚程度の内容要約を行っておくこと
(Each class should have a one-page A4 summary of the content.)
・学習指導要領の各領域について熟読すること
（Read carefully each area of the Courses of Study）
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。
（The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.）

【テキスト（教科書）】
・中学校学習指導要領解説(平成29年告示)　保健体育編（東山書房）
・高等学校学習指導要領解説(平成30年告示)　保健体育編　体育編（東山書房）
・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
・高等学校検定教科書　『最新高等保健体育』（大修館書店）
※教科書については多摩キャンパスの生協で購入可

【参考書】
・保健体育科教育法（大修館書店）
・新版体育科教育学入門 (大修館書店）

【成績評価の方法と基準】
・試験60%（中間テスト30％，期末テスト30％）
〔Examination：60%(midterm test：30%, final test：30%)〕
・課題レポート・発表20%
〔Assignment Report and Presentation：20％〕
・最終版学習指導案20%
〔proposed plan of study and instruction：20％〕

【学生の意見等からの気づき】
・試験のみの評価ではないため、毎回のプリント・レポートや学習指導案作成の取り組み方、授業態度など毎回の授業に精一杯参加すること

【その他の重要事項】
・授業の展開によっては、若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】
[Course outline]
This course introduces physical education goals, learning content and programme of teaching to students taking this course.
[Learning objectives]
The goals of this course are to understanding the objectives and content of the Courses of Study.
[Learning activities outside of classroom]
Students will be expected to read carefully about each area of the courses of Study. Your study time will be more than four hours for a class.
[Grading criteria/policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%、Short reports : 20%、proposed plan of study and instruction: 20%

保健体育科教育法Ⅱ

笹澤　吉明

配当年次／単位：2〜4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学習指導要領の示す中学校及び高等学校の「保健」の目標・内容・評価等について理解・習得する。また、学習指導の基本的・実務的事項についての検討や学習指導案作成及び学習評価の方法について学ぶ。

【到達目標】
中等教育における保健体育科の教科及び科目の目標、学習内容の留意事項、学習評価などを理解し、授業論・指導論を中心とした授業研究及び分析、ICT(PCやタブレット)や教材を活かした保健の授業づくりの基礎的知識について学び、学習指導計画の作成によって「生きる力」の育成並びに個人・社会生活における健康・安全に貢献することのできる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
「保健」の指導内容や効果的な指導法などについて理解を進めるとともに、教材活用や授業づくりのためのポイントについても学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	保健科教育の概念・必要性	保健科教育とはなにか
第2回	学校における保健教育	教育課程における位置づけ・歴史
第3回	学習指導要領要点(1)	中学校(保健分野)の目標
第4回	学習指導要領要点(2)	高等学校(科目保健)の目標　ヘルスプロモーションの意義
第5回	保健における各単元内容(1)	中学校(4単元)の主なねらい・留意点
第6回	保健における各単元内容(2)	高等学校(4単元)の主なねらい・留意点
第7回	授業づくり(1)	学習形態(効果的な展開方法)　学習過程(種類と利点・欠点)
第8回	授業づくり(2)	学習環境(実習・実験などを効果的に行うためのICT活用方法)
第9回	授業づくり(3)	学習評価(テスト作成方法　発問方法) 指導計画(年間・単元・単元時間/導入・展開・整理)
第10回	学習指導案作成	単元目標・単元時間計画・単元/本時の目標・本時案・学習活動における評価規準の設定方法
第11回	模擬授業と省察(1)	グループごとでの模擬授業と反省(運動・休養・食事)
第12回	模擬授業と省察(2)	グループごとでの模擬授業と反省(環境問題)
第13回	模擬授業と省察(3)	グループごとでの模擬授業と反省(性教育)
第14回	まとめ(実践研究)	現状と問題点、授業設計向上を目指した学習指導案修正作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎授業ごとに、A4一枚程度のレポートを作成すること。
・中学校及び高等学校の保健の教科書は熟読することを求める。
・日常的に保健の授業内容に関わる関連情報について敏感に収集し、発言できるようにしておくこと。
　準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『中学校学習指導要領解説　保健体育編』文部科学省　東山書房
『高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編』文部科学省　東山書房
『中学校学習指導要領』・『高等学校学習指導要領』（最新版　文部科学省）

【参考書】
『保健科教育の基礎』吉田瑩一郎　教育出版
『評価規準の作成、評価方法などの工夫改善のための参考資料【中学校　保健体育】』文部科学省国立教育政策研究所　教育課程研究センター
『評価規準の作成、評価方法などの工夫改善のための参考資料【高等学校　保健体育】』文部科学省国立教育政策研究所　教育課程研究センター

【成績評価の方法と基準】
定期試験40%学習指導案作成20%授業で求める発言・発表20%　毎回のリアクションペーパー又は小レポート20%

【学生の意見等からの気づき】
積極的な取り組みと発言を期待する。

【その他の重要事項】
授業の進展状況に応じ、内容の若干の変更が予想されるので、進捗状況について留意すること。

【Outline (in English)】
【Course outline】　Understand and master the objectives, contents, and evaluation of “health” studies at junior high and high schools as indicated in the Courses of Study.
In addition, students will examine the basic and practical aspects of learning and teaching, and learn how to create learning and teaching plans and how to evaluate learning.
【Learning Objectives】To understand the objectives of health and physical education subjects and subjects in secondary education, points to keep in mind regarding learning content, learning evaluation, etc., to study and analyze classes focusing on class theory and teaching theory, to learn the basic knowledge of creating health classes utilizing ICT (PCs and tablets) and teaching materials, and to develop the “power to live” by creating learning and teaching plans. The course aims to cultivate the ability to contribute to the development of the “power to live” and to health and safety in personal and social life through the creation of learning and teaching plans.
【Learning activities outside of classroom】Students are required to write a one-page A4 report for each class. Students are required to read the health textbooks of junior high school and high school carefully. Students are expected to read the health textbooks of junior high school and high school carefully, and to be sensitive to the information related to the content of health class on a daily basis, and to be able to speak up. The standard preparation and review time is one hour each.
【Grading Criteria /Policy】Periodic examinations 40%Preparation of instructional plans 20%Classroom remarks and presentations 20% Reaction papers or small reports 20%Each class.

保健体育科教育法Ⅲ

永木　耕介

配当年次／単位：3～4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学校・高等学校における体育科教育法について、模擬授業を通した具体的な授業づくりと実践的指導力の養成を目指す。

【到達目標】
学習指導案の作成、評価法等の検討ができるようになるとともに、模擬授業を通して、説明力やコミュニケーション能力の向上等、実践につながる指導力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
①グループによって選択した運動領域について、目標の設定、教材・教具、指導法、評価法等を検討し、単元計画を踏まえた学習指導案の作成を行う。②グループごとで指導案にもとづいた模擬授業を実施し、受講者全員による振り返りによって各模擬授業を評価し合う。それらを踏まえ、最終的に各自が改善した学習指導案を提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	事前テストと模擬授業用の指導案の確認
2	模擬授業① 陸上競技（ハードル走） または体育理論	グループによる模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
3	模擬授業② 陸上競技（リレー） または体育理論	グループによる模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
4	模擬授業③ 球技・ゴール型 （フットサル） または体育理論	グループによる模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
5	模擬授業④ 球技・ベースボール型 （ベースボール・ファイブ） または体育理論	グループによる模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
6	模擬授業⑤ 武道（剣道） または体育理論	グループによる模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
7	模擬授業⑥ 武道（柔道） または体育理論	グループによる模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
8	模擬授業⑦ 器械運動（マット） または体育理論	グループによる模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
9	模擬授業⑧ 球技・ネット型 （バレーボール） または体育理論	グループによる模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
10	模擬授業⑨ 球技・ゴール型 （バスケットボール3人制） または体育理論	グループによる模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
11	模擬授業⑩ 体つくり運動（動きを高める） または体育理論	グループによる模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
12	模擬授業⑪ ダンス（創作ダンス） または体育理論	グループによる模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
13	模擬授業⑫ ダンス（現代的なリズムのダンス） または体育理論	グループによる模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
14	合評会および総括	各グループで模擬授業のまとめをプレゼンテーション、グループ間による相互評価、改善指導案の提出（後日）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習指導案、模擬授業の準備についてはグループ毎で授業時間外も打ち合わせを必要とする。模擬授業の実施後、グループ毎で授業評価、授業記録等にもとづいた振り返りを行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各4 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領解説　保健体育編　（東山書房）
高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編　（東山書房）
中学保健体育　(学研)
最新高等保健体育　(大修館書店)

【参考書】
体育科教育学入門（大修館書店）
体育授業を観察評価する（明和出版）
体育の教材を創る（大修館書店）
楽しい体育理論の授業をつくろう（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】
事前テスト（２０％）、参加状況・態度による平常点（７０％）、改善指導案提出（１０％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
今年度も受講生が積極的に参加しながら理解を深めることができる授業を展開する。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出については学習支援システムを使用する。
模擬授業の教具は各グループで事務課から借用すること（借用願を1週間前までに提出）。

【その他の重要事項】
事前ガイダンス（8月初め）に必ず出席すること。
「保健体育科教育法Ⅰ」を履修していること。本授業計画は履修者数や授業展開によって若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】
The aim of this class is for students to acquire the capability to design lessons and deliver practical instruction based on the Physical Education pedagogy for both Junior and Senior High Schools.
The goal is to enable students to create lesson plans and consider evaluation methods, as well as to acquire practical teaching skills, such as improved explanatory and communication abilities through mock lessons.
Each group will be required to meet outside of class hours to prepare a learning instructional plan and mock class.After conducting the mock class, each group should reflect on the class based on class evaluations, class records, etc.The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.
Ordinary points based on participation and attitude(70％)
Test [mainly Course of Study〕(20％)
report [mainly proposed plan of study and instruction 〕(10％)

保健体育科教育法Ⅳ

小田　佳子

配当年次／単位：3〜4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学校及び高等学校「保健分野」の学習指導要領に示す目標・内容・学習指導計画・学習評価などを踏まえて学習指導案を作成し、模擬授業の経験を通して教師の資質や能力，責任などを認識し理解する。

【到達目標】
保健体育科の教科及び科目の目標、学習内容の留意事項、学習評価などを理解した上で、実際に「保健」における学習指導計画の作成及び授業展開を行うことで、教育的実践力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
中学校及び高等学校「保健」において、学習指導要領の示す目標・指導内容・評価などを踏まえて学習指導案を作成する。ICT(PCやタブレット)や教材を活用し、授業づくりの基礎知識など保健体育科教育法Ⅱ（保健）で学んだ内容を発展・具体化して模擬授業を実施する。ただし、指導法の基本である板書や教材づくりの工夫を大切にする。
授業後は、互いに授業評価をして振返りを行い、教師としての資質・能力、責任などを認識・理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の進め方 成績評価と各担当単元の確認 学習指導案の確認と修正
2	模擬授業及び省察 中学校①	健康な生活と病気の予防① (中学校1年)
3	模擬授業及び省察 中学校②	心身の機能の発達と心の健康① (中学校1年１～４)
4	模擬授業及び省察 中学校③	心身の機能の発達と心の健康② (中学校1年２～８)
5	模擬授業及び省察 中学校④	健康な生活と病気の予防② (中学校２年)
6	模擬授業及び省察 中学校⑤	傷害の防止① (中学校２年)
7	模擬授業及び省察 中学校⑥	健康な生活と病気の予防③ (中学校３年)
8	模擬授業及び省察 中学校⑦	健康と環境 (中学校3年)
9	模擬授業及び省察 高校①	現代社会と健康① （１～８）
10	模擬授業及び省察 高校②	現代社会と健康② （９～１７）
11	模擬授業及び省察 高校③	安全な社会生活
12	模擬授業及び省察 高校④	生涯を通じる健康
13	模擬授業及び省察 高校⑤	健康を支える環境づくり
14	模擬授業ふりかえり 合評会・まとめ	模擬授業反省のプレゼンテーション、 振り返りを踏まえた学習指導案の修正作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中学校及び高等学校の学習指導要領及び教科書(保健部分)を熟読し、保健分野の内容を理解している必要があります。(確認テストを実施)
事前に、単元目標・単元計画・単元における評価規準、教材観・生徒観・指導観を記述した授業指導案を作成することを課題とします。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・中学校学習指導要領解説　保健体育編（東山書房）
・高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編（東山書房）
・中学校教科書『新中学保健体育』(学研)
・高等学校教科書『最新高等保健体育』(大修館書店)
※教科書については多摩キャンパスの生協で購入可

【参考書】
・保健科教育の基礎　(教育出版)

【成績評価の方法と基準】
・学習指導案(模擬授業前)20%
・模擬授業の教材研究と実践 20%
・模擬授業者への授業評価(コメント)25%
・毎回の授業への参加貢献 25%
・模擬授業反省と指導案修正 10%

【学生の意見等からの気づき】
・模擬授業時間と振り返りの時間確保
・模擬授業を受ける学生(生徒役)は、授業者が行う授業から、参考になったこと(良かった点)、改善すべきこと(改善点)を具体的に見つけながら参加すること

【その他の重要事項】
授業の進行状況によっては、若干の内容変更があり得る。
夏休み前に事前の履修ガイダンスを実施し、模擬授業の指導案作成（課題）を提示する。

【Outline (in English)】
(Learning Objectives)
To create the "health education" teaching plans based on the goals, contents, learning guidance plan and learning evaluation through the course of study for junior high school and high school.
Then students can recognize and understand teachers' qualities, abilities, and responsibilities through the experience of mock lessons.
(Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have completed the required assignment after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.
(Grading Criteria/Policies)
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Class guide plane: before and after(30 %), Teaching skill and Attitude for the class(30%), Feedback for others(20%), in class contribution and feedback(10%)

道徳教育指導論

石神　真悠子

配当年次／単位：2〜4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は道徳の本質を問い直し、そのうえで今後の道徳教育のあり方についての展望を与えることを目指すものである。道徳教育をめぐっては、道徳が「特別の教科」に変更されたことに伴い、そのあり方をめぐって議論が進められているが、そうした転換期にあって、「そもそも道徳とは何か？」「道徳教育は可能なのか？」「道徳教育はいかになされるべきか？」といった根本的な問いに向き合うことは不可欠であろう。本講義ではそうした原理的な問いに立ち返りつつ、今後の道徳教育のあり方を問うべく、道徳教育の歴史、現状、課題について概説する。そしてそのうえで優れた道徳教育の実践を紹介し、履修者自らが授業を構成していくための知識の修得を目指す。

【到達目標】
道徳の意義や原理等に基づき、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。
①道徳教育の現状と課題について把握する。
②道徳の本質を説明できる。
③道徳教育の歴史について理解する。
④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。
⑤自ら「道徳」の授業を組み立てることができる。
⑥模擬授業の実施とそのふりかえりを通して、授業改善の視点を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式とするが、模擬授業やグループワーク等の機会を設ける。また、コメントシートの提出を必須とし、授業の初めに，前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ，全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	道徳教育を学ぶ意義について	授業の目的や進め方、評価方法についてガイダンスを行い、道徳教育を学ぶ意義を検討する。
2	道徳教育の現状と課題－「道徳の教科化」とその学習評価	学習指導要領を踏まえて、道徳の教科化とその学習評価について検討する。
3	道徳教育の歴史	戦前・戦後の道徳教育を検討する。
4	心の教育について―学習指導要領における「心の教育」	学習指導要領を踏まえて、「心の教育」について検討する。
5	いのちの教育について―学習指導要領における「いのちの教育」	学習指導要領を踏まえて、「いのちの教育」について検討する。
6	人権教育について―学習指導要領における「人権教育」	学習指導要領を踏まえて、「人権教育」について検討する。
7	道徳性の発達理論	道徳性の発達理論を踏まえて、道徳性が発達するとはどのようなことかを検討する。
8	悪の体験と子どもの発達	悪の体験から子どもの発達、教育の限界点について検討する。
9	情報モラル	情報モラルについて確認したうえで、情報モラル教育について検討する。
10	シティズンシップ教育について	シティズンシップ教育と道徳教育の重なりとずれを検討する。
11	モラルジレンマ型の道徳教育	モラルジレンマ型の道徳教育について、その意義と課題を検討する。
12	「道徳」における指導案の書き方および発問の仕方について	指導案作成のポイントについて検討する。
13	模擬授業の実施および「道徳」の実践例の紹介	模擬授業を実施するとともに、「道徳」の実践例を紹介し、それらについて検討する。
14	全体のふりかえりとまとめ	本講義のふりかえりとまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃より道徳教育に関わる新聞記事や文献等に目を通し、「道徳」とは何か、「道徳を教育する」とはどういうことかについて考えを深める。
また、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教員が適宜指定する。

【参考書】
井藤元編『ワークで学ぶ道徳教育』（ナカニシヤ出版、2016年）
中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版　文部科学省）
このほか、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業におけるコメントシート（30%）、中間課題（30％）と期末課題（40％）の点数を合わせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
授業の進め方は、履修者と相談したうえで、必要に応じて変更する場合がある。また授業の内容についても、適宜変更する場合がある。

【Outline (in English)】
This class aims to understand the goals and contents of moral education at a school and further discusses moral education through whole school educational activities as well as curriculum and instruction of moral education. Details are to explore ① the current situation and issues of moral education, ② the essence of morality, ③ the history of moral education, ④ the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ how to design lesson plans of moral education, and ⑥the simulated lessons and their reflection.
Students are able to understand the goals and contents of moral education at a school, moral education through whole school educational activities, and curriculum and instruction of moral education. Specifically students are able to ① grasp the current situation and issues of moral education, ② explain the essence of morality, ③ understand the history of moral education, ④ know the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ design lesson plans of moral education, and ⑥ develop perspectives of how to improve lessons through the simulated lessons and their reflection.
Please read newspapers and literature related to moral education on a daily basis and deepen your thoughts on what "morality" is and what it means to "educate morality."
Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report (30%), term-end examination (40%), and in-class contribution(30%).

道徳教育指導論

石神　真悠子

配当年次／単位：2〜4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は道徳の本質を問い直し、そのうえで今後の道徳教育のあり方についての展望を与えることを目指すものである。道徳教育をめぐっては、道徳が「特別の教科」に変更されたことに伴い、そのあり方をめぐって議論が進められているが、そうした転換期にあって、「そもそも道徳とは何か？」「道徳教育は可能なのか？」「道徳教育はいかになされるべきか？」といった根本的な問いに向き合うことは不可欠であろう。本講義ではそうした原理的な問いに立ち返りつつ、今後の道徳教育のあり方を問うべく、道徳教育の歴史、現状、課題について概説する。そしてそのうえで優れた道徳教育の実践を紹介し、履修者自らが授業を構成していくための知識の修得を目指す。

【到達目標】
道徳の意義や原理等に基づき、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。
①道徳教育の現状と課題について把握する。
②道徳の本質を説明できる。
③道徳教育の歴史について理解する。
④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。
⑤自ら「道徳」の授業を組み立てることができる。
⑥模擬授業の実施とそのふりかえりを通して、授業改善の視点を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式とするが、模擬授業やグループワーク等の機会を設ける。また、コメントシートの提出を必須とし、授業の初めに，前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ，全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	道徳教育を学ぶ意義について	授業の目的や進め方、評価方法についてガイダンスを行い、道徳教育を学ぶ意義を検討する。
2	道徳教育の現状と課題－「道徳の教科化」とその学習評価	学習指導要領を踏まえて、道徳の教科化とその学習評価について検討する。
3	道徳教育の歴史	戦前・戦後の道徳教育を検討する。
4	心の教育について―学習指導要領における「心の教育」	学習指導要領を踏まえて、「心の教育」について検討する。
5	いのちの教育について―学習指導要領における「いのちの教育」	学習指導要領を踏まえて、「いのちの教育」について検討する。
6	人権教育について―学習指導要領における「人権教育」	学習指導要領を踏まえて、「人権教育」について検討する。
7	道徳性の発達理論	道徳性の発達理論を踏まえて、道徳性が発達するとはどのようなことかを検討する。
8	悪の体験と子どもの発達	悪の体験から子どもの発達、教育の限界点について検討する。
9	情報モラル	情報モラルについて確認したうえで、情報モラル教育について検討する。
10	シティズンシップ教育について	シティズンシップ教育と道徳教育の重なりとずれを検討する。
11	モラルジレンマ型の道徳教育	モラルジレンマ型の道徳教育について、その意義と課題を検討する。
12	「道徳」における指導案の書き方および発問の仕方について	指導案作成のポイントについて検討する。
13	模擬授業の実施および「道徳」の実践例の紹介	模擬授業を実施するとともに、「道徳」の実践例を紹介し、それらについて検討する。
14	全体のふりかえりとまとめ	本講義のふりかえりとまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃より道徳教育に関わる新聞記事や文献等に目を通し、「道徳」とは何か、「道徳を教育する」とはどういうことかについて考えを深める。
また、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教員が適宜指定する。

【参考書】
井藤元編『ワークで学ぶ道徳教育』（ナカニシヤ出版、2016年）
中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版　文部科学省）
このほか、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業におけるコメントシート（30%）、中間課題（30％）と期末課題（40％）の点数を合わせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
授業の進め方は、履修者と相談したうえで、必要に応じて変更する場合がある。また授業の内容についても、適宜変更する場合がある。

【Outline (in English)】
This class aims to understand the goals and contents of moral education at a school and further discusses moral education through whole school educational activities as well as curriculum and instruction of moral education. Details are to explore ① the current situation and issues of moral education, ② the essence of morality, ③ the history of moral education, ④ the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ how to design lesson plans of moral education, and ⑥the simulated lessons and their reflection.
Students are able to understand the goals and contents of moral education at a school, moral education through whole school educational activities, and curriculum and instruction of moral education. Specifically students are able to ① grasp the current situation and issues of moral education, ② explain the essence of morality, ③ understand the history of moral education, ④ know the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ design lesson plans of moral education, and ⑥ develop perspectives of how to improve lessons through the simulated lessons and their reflection.
Please read newspapers and literature related to moral education on a daily basis and deepen your thoughts on what "morality" is and what it means to "educate morality."
Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report (30%), term-end examination (40%), and in-class contribution(30%).

特別活動論

桐島　次郎

配当年次／単位：2～4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担当、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、討議、グループワーク等を通して高める。

【到達目標】
特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業では、これからの特別活動のあり方を考える上で必要となる文献、実践等を紹介し、検討していく。毎回授業の最後に、各自の意見、論点をコメントペーパーにまとめ提出してもらう。授業の初めに、前回の授業で提出されたコメントペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の進め方、評価の仕方等の説明
2	教育課程の中の特別活動	特別活動の教育課程における位置づけ、およびその指導の特徴について考える。
3	特別活動の歴史	特別活動の変遷をたどり、今日の特別活動へと引き継がれている内容について考える。
4	学習指導要領と特別活動	特別活動に求められる新たな視点、および各教科等との関連性について考える。
5	特別活動の目標と展開	特別活動の目標についての理解を深め、実践を展開する上で必要な観点について考える。
6	特別活動の評価と改善	特別活動にふさわしい評価のあり方、また改善のすすめ方について考える。
7	話合い活動とその指導	対話と討論を通じた相互理解と合意形成にむけて、指導の課題を考える。
8	学級・ホームルーム活動	信頼関係に基づく学級づくり、仲間づくりの意義と方法について考える。
9	児童会・生徒会活動	参画と自治、協同性によって学校生活をより良いものへとつくり変えていくために必要な能力について考える。
10	学校行事	発見と共感、創造性によって運営される学校行事固有の魅力、特性について考える。
11	部活動	「文化」の共有をとおして仲間とつながり、その成果を地域社会へとひろげていく部活動の可能性について考える。
12	家庭・地域・関連機関と連携した特別活動（シティズンシップ教育）	ボランティア学習、社会への貢献的活動等を通じて育まれていく「市民性」の意味について考える。
13	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（キャリア教育）	学習の成果を社会の課題とつなぎ、自己の実現とよりよい集団の形成を達成していくための方法を考える。
14	まとめ：特別活動の課題と可能性	講義全体を振り返り、特別活動の展望と課題について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業において配付する関連資料を次回までに読了する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教員が適宜指定する。

【参考書】
中学校学習指導要領/特別活動編、高等学校学習指導要領/特別活動編
（最新版　文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
コメントペーパーと参加姿勢（６０％）、課題レポートの内容（４０％）

【学生の意見等からの気づき】
授業後に提出してもらうコメントペーパーのいくつかを毎回授業のはじめに紹介し、前回の授業の内容等に関する「気づき」について述べる。

【Outline (in English)】
This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.Extra-curricular activities are carried out in various groups, to discover and solve problems, and to build a better group and school life. The aim of this class is to understand the significance of extra-curricular activities in school education, and to acquire the knowledge and background necessary for guiding such activities. For that purpose students have to learn the perspectives of "human relations" "social participation" and "self-realization" in pupils' developmental process, and also the perspective of "school staff as a team" in teachers' systematic and collaborative guidance process. Before /after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports:60%、Term-end report:40%

特別活動論

桐島　次郎

配当年次／単位：2～4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生が将来、学級担任、教科担任、分掌担当、部活顧問として、特別活動の各分野、即ち学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事、部活動において、見通しをもって取り組む上で必要な視点、更には、家庭、地域住民や関係諸機関との連携の在り方も含めて必要となる知識や視点、特質についても理解する。また、その目標を達成するための指導法、企画力を、討議、グループワーク等を通して高める。

【到達目標】
特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業では、これからの特別活動のあり方を考える上で必要となる文献、実践等を紹介し、検討していく。毎回授業の最後に、各自の意見、論点をコメントペーパーにまとめ提出してもらう。授業の初めに、前回の授業で提出されたコメントペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の進め方、評価の仕方等の説明
2	教育課程の中の特別活動	特別活動の教育課程における位置づけ、およびその指導の特徴について考える。
3	特別活動の歴史	特別活動の変遷をたどり、今日の特別活動へと引き継がれている内容について考える。
4	学習指導要領と特別活動	特別活動に求められる新たな視点、および各教科等との関連性について考える。
5	特別活動の目標と展開	特別活動の目標についての理解を深め、実践を展開する上で必要な観点について考える。
6	特別活動の評価と改善	特別活動にふさわしい評価のあり方、また改善のすすめ方について考える。
7	話合い活動とその指導	対話と討論を通じた相互理解と合意形成にむけて、指導の課題を考える。
8	学級・ホームルーム活動	信頼関係に基づく学級づくり、仲間づくりの意義と方法について考える。
9	児童会・生徒会活動	参画と自治、協同性によって学校生活をより良いものへとつくり変えていくために必要な能力について考える。
10	学校行事	発見と共感、創造性によって運営される学校行事固有の魅力、特性について考える。
11	部活動	「文化」の共有をとおして仲間とつながり、その成果を地域社会へとひろげていく部活動の可能性について考える。
12	家庭・地域・関連機関と連携した特別活動（シティズンシップ教育）	ボランティア学習、社会への貢献的活動等を通じて育まれていく「市民性」の意味について考える。
13	家庭・地域・関係機関と連携した特別活動（キャリア教育）	学習の成果を社会の課題とつなぎ、自己の実現とよりよい集団の形成を達成していくための方法を考える。
14	まとめ：特別活動の課題と可能性	講義全体を振り返り、特別活動の展望と課題について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業において配付する関連資料を次回までに読了する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教員が適宜指定する。

【参考書】
中学校学習指導要領/特別活動編、高等学校学習指導要領/特別活動編
（最新版　文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
コメントペーパーと参加姿勢（６０％）、課題レポートの内容（４０％）

【学生の意見等からの気づき】
授業後に提出してもらうコメントペーパーのいくつかを毎回授業のはじめに紹介し、前回の授業の内容等に関する「気づき」について述べる。

【Outline (in English)】
This course introduces extra-curricular activities at school. In the field of extra-curricular activities, there are home room activities, student council activities, school events, etc. This course explains how the teacher guides students in these activities, and how to cooperate with students' families and related organizations in the regional community. In this lesson, discussions, group work and other active learning methods will be carried out.Extra-curricular activities are carried out in various groups, to discover and solve problems, and to build a better group and school life. The aim of this class is to understand the significance of extra-curricular activities in school education, and to acquire the knowledge and background necessary for guiding such activities. For that purpose students have to learn the perspectives of "human relations" "social participation" and "self-realization" in pupils' developmental process, and also the perspective of "school staff as a team" in teachers' systematic and collaborative guidance process.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports:60%、Term-end report:40%

教育課程論

井上 環

配当年次／単位：2～4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解します。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義とグループワークを組み合わせた形式で進めます。
毎回、授業の冒頭に前回の内容に関する小テストを実施し、授業の終わりには振り返りとしてリアクションペーパー（または小レポート）を提出してもらいます。
小テストや課題の提出は「学生支援システム」を通じて行う予定です。
小テストや提出物へのフィードバックは、原則として授業の冒頭に全体へ行いますが、必要に応じて個別にコメントを提供します。
なお、授業計画は進行状況に応じて若干の変更が生じる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の概要について説明をします。
2	カリキュラムとは	カリキュラムの概念について学びます。
3	教育内容の組織化	経験主義カリキュラムと系統主義カリキュラムなど、カリキュラムの組織化の種類について把握し、検討します。
4	カリキュラムデザインを支える学習理論	現行学習指導要領における学習理論の転換について学びます。
5	教育課程の意義と位置づけ	教育課程関連制度の基本的な枠組みについて学びます。
6	学習指導要領の変遷	学習指導要領の変遷について把握します。
7	学力論の系譜	「ゆとり教育」導入時の学力をめぐる議論を中心に、学力とは何かを検討します。
8	学習指導要領改訂の要点	現行の学習指導要領に関する分析を行います。
9	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方について学びます。
10	社会に開かれた教育課程	社会に開かれた教育課程の考え方について学びます。
11	教育課程と指導計画（教科・領域の横断）	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案します。
12	教育課程と指導計画（通時性と共時性）	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案します。
13	カリキュラム評価	カリキュラムデザインにおける評価の考え方について学びます。
14	授業内テストとまとめ	筆記試験と授業の総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回のテーマに関連するような文献（新聞・雑誌・専門書など）を読み、自分なりの関心を持つこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
文部科学省「中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領」（最新版）
※文部科学省ホームページよりダウンロード可。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【参考書】
松尾知明（2018）『新版　教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社。
山内紀幸・本田伊克(2022)『新時代の教育課程論』一藝社。

【成績評価の方法と基準】
小テスト（20%）：授業冒頭の確認テスト（毎回実施予定）
授業内課題・リアクションペーパー等（40%）：
　授業内容の振り返りや理解の深化を目的とした記述課題
　授業中のディスカッションや課題の取り組みを踏まえたレポート・コメント
　適宜、グループでの検討や共同作業を行うことがある
授業内テスト（40%）：学期末に実施（記述を含む）

【学生の意見等からの気づき】
※本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
授業で利用可能なＰＣの持参を推奨します。

【Outline (in English)】
This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.
Students are able to understand the significance of school curriculum, methods of their developments, and ideas and implementations of the curriculum management for competency building.

教育課程論

井上 環

配当年次／単位：2～4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解します。

【到達目標】
資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義とグループワークを組み合わせた形式で進めます。
毎回、授業の冒頭に前回の内容に関する小テストを実施し、授業の終わりには振り返りとしてリアクションペーパー（または小レポート）を提出してもらいます。
小テストや課題の提出は「学生支援システム」を通じて行う予定です。
小テストや提出物へのフィードバックは、原則として授業の冒頭に全体へ行いますが、必要に応じて個別にコメントを提供します。
なお、授業計画は進行状況に応じて若干の変更が生じる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の概要について説明をします。
2	カリキュラムとは	カリキュラムの概念について学びます。
3	教育内容の組織化	経験主義カリキュラムと系統主義カリキュラムなど、カリキュラムの組織化の種類について把握し、検討します。
4	カリキュラムデザインを支える学習理論	現行学習指導要領における学習理論の転換について学びます。
5	教育課程の意義と位置づけ	教育課程関連制度の基本的な枠組みについて学びます。
6	学習指導要領の変遷	学習指導要領の変遷について把握します。
7	学力論の系譜	「ゆとり教育」導入時の学力をめぐる議論を中心に、学力とは何かを検討します。
8	学習指導要領改訂の要点	現行の学習指導要領に関する分析を行います。
9	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方について学びます。
10	社会に開かれた教育課程	社会に開かれた教育課程の考え方について学びます。
11	教育課程と指導計画（教科・領域の横断）	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案します。
12	教育課程と指導計画（通時性と共時性）	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案します。
13	カリキュラム評価	カリキュラムデザインにおける評価の考え方について学びます。
14	授業内テストとまとめ	筆記試験と授業の総括を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回のテーマに関連するような文献（新聞・雑誌・専門書など）を読み、自分なりの関心を持つこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
文部科学省「中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領」（最新版）
※文部科学省ホームページよりダウンロード可。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【参考書】
松尾知明（2018）『新版　教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社。
山内紀幸・本田伊克(2022)『新時代の教育課程論』一藝社。

【成績評価の方法と基準】
小テスト（20%）：授業冒頭の確認テスト（毎回実施予定）
授業内課題・リアクションペーパー等（40%）：
　授業内容の振り返りや理解の深化を目的とした記述課題
　授業中のディスカッションや課題の取り組みを踏まえたレポート・コメント
　適宜、グループでの検討や共同作業を行うことがある
授業内テスト（40%）：学期末に実施（記述を含む）

【学生の意見等からの気づき】
※本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
授業で利用可能なＰＣの持参を推奨します。

【Outline (in English)】
This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.
Students are able to understand the significance of school curriculum, methods of their developments, and ideas and implementations of the curriculum management for competency building.

教育方法論（ICT活用を含む）

地村　茂樹

配当年次／単位：2～4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
伝統的な教育の方法や技術のなかに情報通信技術の活用を位置づけ、基礎的な理論や概念、活用法を学ぶ。そして、２１世紀の情報化社会を担う生徒の資質・能力の育成をめざして授業の中でいかにＩＣＴを活用するか、その実践的で具体的な知識・技能を身に付ける。

【到達目標】
２１世紀の情報化社会を担う生徒の資質・能力の育成をめざして、教育の方法や技術、ＩＣＴの活用に関する具体的で実践的な知識・技能を身に付けるとともに、学習指導案を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この講義では、伝統的な教育方法の理論から最新の理論までを歴史的に振り返りながら、批判的に検討し、これからの教育の在り方を考えていく。
さらにActive learningやＩＣＴを利用した具体的な授業実践例を紹介し、その効果と問題点を分析・評価をする。そして、その中で授業づくりの段取りや技術、教材の活用方法、板書の要領、プリントの作成など個別具体的な事項についても説明する。
また、２１世紀の情報化社会を担う生徒の資質・能力の育成を図るため、ＩＣＴの活用に関する具体的で実践的で具体的な知識と技術を学ぶ。
授業実践例としては、受講生の取得希望免許科目に応じて、情報科、社会科系の授業を中心に、また福祉科・保健体育科の実践事例も出来るだけ多く紹介したいと思う。
授業の評価は、毎回提出するレポート（70％）と教科ごとのチームによるTT形式の模擬授業（30％）です。設定されたテーマに沿って各チーム（教科別、４～５名）で１時間分の指導計画を議論・検討し、模擬授業をしていただきます。
模擬授業の評価のポイントは、学習指導案の妥当性・ＩＣＴの授業への活用・Active learningを取り入れた授業・教科内容の理解の４つです。特にＩＣＴの授業への有効な活用は大きな評価ポイントとなる。
学生諸君が実際に教育現場に立つときに役立つ知識と技能を指導・育成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	１．教育方法論の中心的な課題と要点 ２．なぜICTを授業で活用するのか、その理由と方法
2	教師の専門性とICT活用	１．学校の特色と教師の専門性について考える ２．学習指導と校務の中でICTをどのように活用するか
3	新学習指導要領と教育方法	１．学習指導要領の変遷と歴史、そしてその特徴を考える ２．新学習指導要領の中でICTの利用が強調される理由を考える
4	情報通信技術の活用の意義と理論	「情報通信技術」ICTの活用を含む「情報」の授業とアクティブラーニングの目的や具体的な方法を説明する
5	AI時代における「理想の教育」とは何か	１．人工知能 (AI) やロボットが生活に浸透していく21世紀の子ども達にとって必要な教育とはどのようなものかを考える。 ２．「ChatGPT」の教育への利用を具体的な事例を紹介しながら考察する
6	ICTを活用した学習指導と校務システムを利用する意義と理論	１．情報モラルの模擬授業をICTの有効性を考える ２．「FileMaker」などを利用して作成した校務システムや授業支援ソフトgooge classroomやTeamsの活用を紹介する
7	「主体的・対話的で深い学び」とICTの活用	１．「テキスト分析」「絵画分析」の授業実践例を紹介しながら主体的・対話的で深い学びとは何かを考える ２．AL授業とICTの親和性を検討する
8	教材の作成・活用と各教科等の特性に応じたICTの活用	１．「当事者意識を持たせる」授業の実践事例を模擬授業で紹介する ２．「SNSをどのように使うか」をテーマに各教科で共通の課題である情報モラルを考える
9	個に応じた指導の工夫	プロのコーチによるスクールコーチング「TALK」を体験を通して生徒に寄り添うことの重要さを認識する
10	発問や板書、情報通信機器などの指導技術	具体的な実践例を紹介しながら、ICTを利用した授業の構成、指導案の書き方とチェックするべき視点などについて解説する
11	模擬授業（１）	１．「チームA・B」による模擬授業と学生による相互評価 ２．ICTの活用によっていかに生徒の興味・関心をひくかその具体的な方法を学ぶ
12	模擬授業（２）	１．「チームC・D」による模擬授業と学生による相互評価 ２．PowerPointを利用したスライドの作成のポイントを解説する
13	模擬授業（３）	１．「チームE・F」による模擬授業と学生による相互評価 ２．動画やアンケート機能を使った効果的な授業のアイディアを紹介する
14	「理想の教師・教育とは何か」	３回の模擬授業の振り返りながら自分自身がどのような教育・教師を目指すのか、アクティブラーニング形式で考えていく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者は、免許を取得する教科について、深く広く学習すること。複数の新聞に毎日に目を通し、インターネットやテレビなどの複数のメディアから最新の正確な情報を取得すること。そして、AI時代にふさわしいICTを授業の中でどのように活用するかを考える。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
①佐藤学『教育の方法』左右社、2010年
②中川一史　苑復傑『教育のためのICT活用〔改訂版〕』放送大学教育振興会、2022年

【参考書】
①文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
②大村はま『新編教えるということ』ちくま学芸文庫、1996年

③平野朝久『はじめに子どもありき』東洋館出版社、2017年
④アーリック・ボーザー『Learn Better頭の使い方が変わり、学びが深まる6つのステップ』英治出版、 2018/7/19

【成績評価の方法と基準】

授業の評価は、毎回提出するレポート（70％）と教科ごとのチームによるTT形式の模擬授業（30％）です。設定されたテーマに沿って各チーム（教科別、４～５名）で１時間分の指導計画を議論・検討し、模擬授業をしていただきます。

模擬授業の評価のポイントは、学習指導案の妥当性・ＩＣＴの授業への活用・Active learningを取り入れた授業・教科内容の理解の４つです。特にＩＣＴの授業への有効な活用は大きな評価ポイントとなる。

【学生の意見等からの気づき】

授業に関して学生の意見はほとんどが肯定的なものでした。
以下はその一例でです。
・教育方法論の授業では、「教師として生徒に何を伝えるのか、伝えるべきなのか」について深く考えさせられた。
・これからの教育で最も大切なことは「生徒に主体的に考えさせる」ことだと感じた。
・時代の変化に合わせて積極的にICTの活用した授業や様々なアプリを用いてその場で生徒の意見を集約し議論する授業ができるようになったと感じた。
・授業内でのICTの活用の重要性がよくわかりました。ICTを活用することで授業の幅が、一気に広がるし生徒も退屈せずに理解しやすくなると思いました。

以上の意見をもとに来年度の授業では、以下のように改善するつもりです。
１．学生による模擬授業に関しては、全教科共通の具体的で詳細なアドバイスを心掛けます。
２．毎回行っている講評を数値化して学生に提示できるよう工夫します。
３．ＩＣＴ教育の最新研究を紹介します。

以上

【学生が準備すべき機器他】

・PC・タブレット端末
・学習支援システムとZoomに接続できるネットワーク環境
・授業の中で「Google Classroom」を利用するためGoogleアカウントを事前に準備しておく

【その他の重要事項】

★必要に応じて自由に判断して記述してください★

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to help students acquire education methods and techniques.
【Learning Objectives】Students are able to understand basic concepts, ideas and application regarding education methods and techniques, information communication technology (ICT) and teaching materials, and students are
further able to design lesson plans effectively for competency building.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to learn deeply and broadly about the subjects for which they will be licensed. Read various newspapers every day as much as possible and watch news on the Internet and TV. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policies】
The final report, which mainly consists of a "teaching plan", and mock lessons are the most important materials for evaluation (70%). In addition, the small report submitted every time will be about 15%of the evaluation material.

教育方法論（ICT活用を含む）

地村　茂樹

配当年次／単位：2～4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
伝統的な教育の方法や技術のなかに情報通信技術の活用を位置づけ、基礎的な理論や概念、活用法を学ぶ。そして、２１世紀の情報化社会を担う生徒の資質・能力の育成をめざして授業の中でいかにＩＣＴを活用するか、その実践的で具体的な知識・技能を身に付ける。

【到達目標】
２１世紀の情報化社会を担う生徒の資質・能力の育成をめざして、教育の方法や技術、ＩＣＴの活用に関する具体的で実践的な知識・技能を身に付けるとともに、学習指導案を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この講義では、伝統的な教育方法の理論から最新の理論までを歴史的に振り返りながら、批判的に検討し、これからの教育の在り方を考えていく。
さらにActive learningやＩＣＴを利用した具体的な授業実践例を紹介し、その効果と問題点を分析・評価をする。そして、その中で授業づくりの段取りや技術、教材の活用方法、板書の要領、プリントの作成など個別具体的な事項についても説明する。
また、２１世紀の情報化社会を担う生徒の資質・能力の育成を図るため、ＩＣＴの活用に関する具体的で実践的で具体的な知識と技術を学ぶ。
授業実践例としては、受講生の取得希望免許科目に応じて、情報科、社会科系の授業を中心に、また福祉科・保健体育科の実践事例も出来るだけ多く紹介したいと思う。
授業の評価は、毎回提出するレポート（70％）と教科ごとのチームによるTT形式の模擬授業（30％）です。設定されたテーマに沿って各チーム（教科別、４～５名）で１時間分の指導計画を議論・検討し、模擬授業をしていただきます。
模擬授業の評価のポイントは、学習指導案の妥当性・ＩＣＴの授業への活用・Active learningを取り入れた授業・教科内容の理解の４つです。特にＩＣＴの授業への有効な活用は大きな評価ポイントとなる。
学生諸君が実際に教育現場に立つときに役立つ知識と技能を指導・育成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	１．教育方法論の中心的な課題と要点 ２．なぜICTを授業で活用するのか、その理由と方法
2	教師の専門性とICT活用	１．学校の特色と教師の専門性について考える ２．学習指導と校務の中でICTをどのように活用するか
3	新学習指導要領と教育方法	１．学習指導要領の変遷と歴史、そしてその特徴を考える ２．新学習指導要領の中でICTの利用が強調される理由を考える
4	情報通信技術の活用の意義と理論	「情報通信技術」ICTの活用を含む「情報」の授業とアクティブラーニングの目的や具体的な方法を説明する
5	AI時代における「理想の教育」とは何か	１．人工知能 (AI) やロボットが生活に浸透していく21世紀の子ども達にとって必要な教育とはどのようなものかを考える。 ２．「ChatGPT」の教育への利用を具体的な事例を紹介しながら考察する
6	ICTを活用した学習指導と校務システムを利用する意義と理論	１．情報モラルの模擬授業をICTの有効性を考える ２．「FileMaker」などを利用して作成した校務システムや授業支援ソフトgooge classroomやTeamsの活用を紹介する
7	「主体的・対話的で深い学び」とICTの活用	１．「テキスト分析」「絵画分析」の授業実践例を紹介しながら主体的・対話的で深い学びとは何かを考える ２．AL授業とICTの親和性を検討する
8	教材の作成・活用と各教科等の特性に応じたICTの活用	１．「当事者意識を持たせる」授業の実践事例を模擬授業で紹介する ２．「SNSをどのように使うか」をテーマに各教科で共通の課題である情報モラルを考える
9	個に応じた指導の工夫	プロのコーチによるスクールコーチング「TALK」を体験を通して生徒に寄り添うことの重要さを認識する
10	発問や板書、情報通信機器などの指導技術	具体的な実践例を紹介しながら、ICTを利用した授業の構成、指導案の書き方とチェックするべき視点などについて解説する
11	模擬授業（１）	１．「チームA・B」による模擬授業と学生による相互評価 ２．ICTの活用によっていかに生徒の興味・関心をひくかその具体的な方法を学ぶ
12	模擬授業（２）	１．「チームC・D」による模擬授業と学生による相互評価 ２．PowerPointを利用したスライドの作成のポイントを解説する
13	模擬授業（３）	１．「チームE・F」による模擬授業と学生による相互評価 ２．動画やアンケート機能を使った効果的な授業のアイディアを紹介する
14	「理想の教師・教育とは何か」	３回の模擬授業の振り返りながら自分自身がどのような教育・教師を目指すのか、アクティブラーニング形式で考えていく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者は、免許を取得する教科について、深く広く学習すること。複数の新聞に毎日に目を通し、インターネットやテレビなどの複数のメディアから最新の正確な情報を取得すること。そして、AI時代にふさわしいICTを授業の中でどのように活用するかを考える。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
①佐藤学『教育の方法』左右社、2010年
②中川一史　苑復傑『教育のためのICT活用〔改訂版〕』放送大学教育振興会、2022年

【参考書】
①文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
②大村はま『新編教えるということ』ちくま学芸文庫、1996年

③平野朝久『はじめに子どもありき』東洋館出版社、2017年
④アーリック・ボーザー『Learn Better頭の使い方が変わり、学びが深まる6つのステップ』英治出版、 2018/7/19

【成績評価の方法と基準】

授業の評価は、毎回提出するレポート（70％）と教科ごとのチームによるTT形式の模擬授業（30％）です。設定されたテーマに沿って各チーム（教科別、４～５名）で１時間分の指導計画を議論・検討し、模擬授業をしていただきます。

模擬授業の評価のポイントは、学習指導案の妥当性・ＩＣＴの授業への活用・Active learningを取り入れた授業・教科内容の理解の４つです。特にＩＣＴの授業への有効な活用は大きな評価ポイントとなる。

【学生の意見等からの気づき】

授業に関して学生の意見はほとんどが肯定的なものでした。
以下はその一例でです。
・教育方法論の授業では、「教師として生徒に何を伝えるのか、伝えるべきなのか」について深く考えさせられた。
・これからの教育で最も大切なことは「生徒に主体的に考えさせる」ことだと感じた。
・時代の変化に合わせて積極的にICTの活用した授業や様々なアプリを用いてその場で生徒の意見を集約し議論する授業ができるようになったと感じた。
・授業内でのICTの活用の重要性がよくわかりました。ICTを活用することで授業の幅が、一気に広がるし生徒も退屈せずに理解しやすくなると思いました。

以上の意見をもとに来年度の授業では、以下のように改善するつもりです。
１．学生による模擬授業に関しては、全教科共通の具体的で詳細なアドバイスを心掛けます。
２．毎回行っている講評を数値化して学生に提示できるよう工夫します。
３．ＩＣＴ教育の最新研究を紹介します。

以上

【学生が準備すべき機器他】

・PC・タブレット端末
・学習支援システムとZoomに接続できるネットワーク環境
・授業の中で「Google Classroom」を利用するためGoogleアカウントを事前に準備しておく

【その他の重要事項】

★必要に応じて自由に判断して記述してください★

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to help students acquire education methods and techniques.
【Learning Objectives】Students are able to understand basic concepts, ideas and application regarding education methods and techniques, information communication technology (ICT) and teaching materials, and students are
further able to design lesson plans effectively for competency building.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to learn deeply and broadly about the subjects for which they will be licensed. Read various newspapers every day as much as possible and watch news on the Internet and TV. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policies】
The final report, which mainly consists of a "teaching plan", and mock lessons are the most important materials for evaluation (70%). In addition, the small report submitted every time will be about 15%of the evaluation material.

特別な教育的ニーズの理解と支援

山下　洋児

配当年次／単位：1～4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
発達障害や軽度知的障害をはじめとするさまざまな障害、外国籍あるいは家庭養育基盤が弱いことなどにより、特別な支援を必要としている幼児、児童、生徒が、通常の学級に在籍し、授業活動にも参加している実感をもち、また、子どもたちが生きる力を身に付けていくための、現状の把握、支援の方法を学ぶ。

【到達目標】
特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性、心身の発達を理解する。特に、様々な障害の学習上および生活上の困難に関する基礎的な知識を身に着け、当該の子どもの心身の発達、心理的特性、学習の過程を理解し、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の制度の理念や仕組みを理解する。
特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法を理解する。特に、支援方法の具体例を理解し、通級指導と自立活動のカリキュラム上の位置づけを理解し、個別の指導計画や教育支援計画を作成する意義と方法を理解し、コーディネーターや関係機関、家庭と連携した支援体制の構築の意義を理解している。
障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援を理解する。特に、母国語や貧困の問題等により本件に該当する子どもたちの学習上、生活上の困難とその対応方法を理解し、組織的な対応の必要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の生きづらさに気付き、どのような理解、支援を行えばよいのか、考えを深められるよう、具体的な事例も伝え、授業を行う。資料の読み取りが中心となるが、毎回のリアクションペーパーの内容を適宜取り入れ、他の受講生がどのように考えているのかが参考となるようにする。リアクションペーパーは毎時間提出する。必要に応じてグループディスカッションも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本講義の目的、授業の進め方、評価の仕方。受講者自身の「特別な支援を必要とする児童・生徒」に関わる学校体験を振り返る。
第2回	特別支援教育の概要	特別支援教育の概要と、教師として特別な支援を必要とする子どもたちをどのように理解するかということについて学ぶ。
第3回	障害特性とはなにか	発達障害の「障害特性・認知特性」について、事例に沿って学ぶ。
第4回	自閉スペクトラム症(ASD)の子どもの理解とその支援	自閉スペクトラム症について概要と具体例を学ぶ。
第5回	注意欠如多動症(ADHD)の子どもの理解とその支援	注意欠如多動症について概要と具体例を学ぶ。
第6回	学習障害(LD)の子どもの理解とその支援	学習障害について概要と具体例を学ぶ。
第7回	知的障害の子どもの理解とその支援	知的障害について概要と具体例を学ぶ。
第8回	肢体不自由・病弱の子どもの理解とその支援	肢体不自由・病弱教育について概要と具体例を学ぶ。
第9回	家庭基盤の弱い子どもの理解とその支援	不適切な養育状況にある子ども、貧困状況にある子ども等の概要と具体例について学ぶ。
第10回	多様性とインクルーシブ教育	障害だけでなく、特別な支援が必要な子どもについて知り、インクルーシブ教育、合理的配慮について学ぶ。
第11回	個別の指導計画、教育支援計画	個別の指導計画、教育支援計画の意義と作成について学ぶ。
第12回	多様な関係・連携と支援	学校内における連携、学校外の関係諸機関との連携について学ぶ。
第13回	介護等体験の意義と留意点	介護体験の意義と留意点について学び、特別支援学校の教育活動のイメージをもつ。
第14回	まとめ：特別支援教育の今後の展望	特別支援教育の今後の展望について学び、自身が教員になった際のイメージをもつ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業は、1回ずつが単独で終わるのでなく、他の回とも関連し合っているので、授業資料を事前・事後にていねいに読むこと。また、日常的に、特別支援教育に関わるニュースやテレビ番組等に意識を向けておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しない。毎回資料を配布する予定。配布資料は、その回の授業だけでなく、他の回の授業、期末レポート等に必要になるので、整理して保存すること。

【参考書】
・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版　文部科学省）
・戸田竜也「学級担任・特別支援教育コーディネーターのための『特別な教育的ニーズ』をもつ子どもの支援ガイド」明治図書、2015年
その他、適宜授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（毎時間の理解を示すリアクションペーパー等）70％＋最終レポート30％

【学生の意見等からの気づき】
公立中学校教員として勤務した経験からのエピソード、映像などを使用して行った授業が分かりやすかったという学生からの意見を参考にし、引き続き分かりやすい授業改善に取り組む。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
公立中学校特別支援学級教員の経験を活かし、特別支援教育に関わる今日的な課題についての授業を行う。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Support and Understand for Special Educational Needs, concretely developmental disorders, mild mental retardation, ethnic minority, poverty, child abuse and so on.
【Learning Objectives】
The goal is to understand (or acquire):
◇ the characteristics of disabilities and mental and physical development of infants, children and students with special needs, in particular, basic knowledge about learning and living difficulties of various disabilities.
◇ the mental and physical development, psychological characteristics, and learning process of such child, and the philosophy and mechanism of system of special support education including inclusive education.
◇ the curriculum and support methods for infants, children and students who require special support through case studies of support methods, the position of class guidance and independence activities in the curriculum,
◇ the significance and methods of creating individual guidance plans and educational support plans.
◇ the significance of building a support system in collaboration with coordinators, related organizations, and families.
◇ infants, children and students who have no disabilities but have special educational needs. In particular, those who fall under this case due to problems such as their mother tongue and poverty, and how to deal with them, and the need for systematic measures.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policies】
Final grade will be calculated according to the following process Term-end report:30%, and in-class contribution(reaction paper):70%.

特別な教育的ニーズの理解と支援

山下　洋児

配当年次／単位：1～4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
発達障害や軽度知的障害をはじめとするさまざまな障害、外国籍あるいは家庭養育基盤が弱いことなどにより、特別な支援を必要としている幼児、児童、生徒が、通常の学級に在籍し、授業活動にも参加している実感をもち、また、子どもたちが生きる力を身に付けていくための、現状の把握、支援の方法を学ぶ。

【到達目標】
特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性、心身の発達を理解する。特に、様々な障害の学習上および生活上の困難に関する基礎的な知識を身に着け、当該の子どもの心身の発達、心理的特性、学習の過程を理解し、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の制度の理念や仕組みを理解する。
特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法を理解する。特に、支援方法の具体例を理解し、通級指導と自立活動のカリキュラム上の位置づけを理解し、個別の指導計画や教育支援計画を作成する意義と方法を理解し、コーディネーターや関係機関、家庭と連携した支援体制の構築の意義を理解している。
障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援を理解する。特に、母国語や貧困の問題等により本件に該当する子どもたちの学習上、生活上の困難とその対応方法を理解し、組織的な対応の必要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の生きづらさに気付き、どのような理解、支援を行えばよいのか、考えを深められるよう、具体的な事例も伝え、授業を行う。資料の読み取りが中心となるが、毎回のリアクションペーパーの内容を適宜取り入れ、他の受講生がどのように考えているのかが参考となるようにする。リアクションペーパーは毎時間提出する。必要に応じてグループディスカッションも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本講義の目的、授業の進め方、評価の仕方。受講者自身の「特別な支援を必要とする児童・生徒」に関わる学校体験を振り返る。
第2回	特別支援教育の概要	特別支援教育の概要と、教師として特別な支援を必要とする子どもたちをどのように理解するかということについて学ぶ。
第3回	障害特性とはなにか	発達障害の「障害特性・認知特性」について、事例に沿って学ぶ。
第4回	自閉スペクトラム症(ASD)の子どもの理解とその支援	自閉スペクトラム症について概要と具体例を学ぶ。
第5回	注意欠如多動症(ADHD)の子どもの理解とその支援	注意欠如多動症について概要と具体例を学ぶ。
第6回	学習障害(LD)の子どもの理解とその支援	学習障害について概要と具体例を学ぶ。
第7回	知的障害の子どもの理解とその支援	知的障害について概要と具体例を学ぶ。
第8回	肢体不自由・病弱の子どもの理解とその支援	肢体不自由・病弱教育について概要と具体例を学ぶ。
第9回	家庭基盤の弱い子どもの理解とその支援	不適切な養育状況にある子ども、貧困状況にある子ども等の概要と具体例について学ぶ。
第10回	多様性とインクルーシブ教育	障害だけでなく、特別な支援が必要な子どもについて知り、インクルーシブ教育、合理的配慮について学ぶ。
第11回	個別の指導計画、教育支援計画	個別の指導計画、教育支援計画の意義と作成について学ぶ。
第12回	多様な関係・連携と支援	学校内における連携、学校外の関係諸機関との連携について学ぶ。
第13回	介護等体験の意義と留意点	介護体験の意義と留意点について学び、特別支援学校の教育活動のイメージをもつ。
第14回	まとめ：特別支援教育の今後の展望	特別支援教育の今後の展望について学び、自身が教員になった際のイメージをもつ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業は、1回ずつが単独で終わるのでなく、他の回とも関連し合っているので、授業資料を事前・事後にていねいに読むこと。また、日常的に、特別支援教育に関わるニュースやテレビ番組等に意識を向けておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しない。毎回資料を配布する予定。配布資料は、その回の授業だけでなく、他の回の授業、期末レポート等に必要になるので、整理して保存すること。

【参考書】
・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版　文部科学省）
・戸田竜也「学級担任・特別支援教育コーディネーターのための『特別な教育的ニーズ』をもつ子どもの支援ガイド」明治図書、2015年
その他、適宜授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（毎時間の理解を示すリアクションペーパー等）70％＋最終レポート30％

【学生の意見等からの気づき】
公立中学校教員として勤務した経験からのエピソード、映像などを使用して行った授業が分かりやすかったという学生からの意見を参考にし、引き続き分かりやすい授業改善に取り組む。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
公立中学校特別支援学級教員の経験を活かし、特別支援教育に関わる今日的な課題についての授業を行う。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Support and Understand for Special Educational Needs, concretely developmental disorders, mild mental retardation, ethnic minority, poverty, child abuse and so on.
【Learning Objectives】
The goal is to understand (or acquire):
◇ the characteristics of disabilities and mental and physical development of infants, children and students with special needs, in particular, basic knowledge about learning and living difficulties of various disabilities.
◇ the mental and physical development, psychological characteristics, and learning process of such child, and the philosophy and mechanism of system of special support education including inclusive education.
◇ the curriculum and support methods for infants, children and students who require special support through case studies of support methods, the position of class guidance and independence activities in the curriculum,
◇ the significance and methods of creating individual guidance plans and educational support plans.
◇ the significance of building a support system in collaboration with coordinators, related organizations, and families.
◇ infants, children and students who have no disabilities but have special educational needs. In particular, those who fall under this case due to problems such as their mother tongue and poverty, and how to deal with them, and the need for systematic measures.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policies】
Final grade will be calculated according to the following process Term-end report:30%, and in-class contribution(reaction paper):70%.

総合的な学習の時間の指導法

篠塚　昭司

配当年次／単位：2～4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
総合的な学習の時間の意義と原理、特に学校ごとに目標や内容を定める際の考え方を理解する。総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方、特に探究的な学習の基礎的な理論や対話を中心とした学習の具体的方法、および他教科との連携の方法を理解し、実際に指導計画が立てられるようになる。総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解できる。

【到達目標】
探究的な見方・考え方をし、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育む総合的な学習の時間の指導計画の作成および具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識・技能を身につける。特に、教科ごとに育まれる見方・考え方を活用し、広範な事象を多様な角度から俯瞰してとらえ、実社会・実生活の課題を探求する学びを実現する授業づくりに必要な基礎的力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義と演習（グループワーク、ディスカッション、スピーチ等）中心の対面授業を行います。（欠席時のオンライン補講は行いません。）
課題や授業振り返りの提出は、「学習支援システム」を通じて行う予定です。
授業計画は受講人数や学生の興味・関心によって、若干変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（ねらいと目標、進め方）	「総合的な学習の時間」の体験の振り返りと、その学習の意義についての共有化を図る。
第2回	「総合的な学習の時間」の位置づけ（目標、授業時数、他教科との関連）	学習指導要領にみる「総合的な学習の時間」と、戦後初期のコア・カリキュラムとの共通点・相違点を考える。
第3回	カリキュラム上の特徴（問題解決型学習や探究的な学習）	教育課程と指導計画の基本的な考え方を理解する。ＳＤＧｓと関連付けた「総合的な学習の時間」について理解する。
第4回	実社会に活かす学び（学校教育と実社会経験の架橋）	体験活動、シティズンシップ教育、地域との連携等から、社会に開かれた教育課程の在り方について考える。
第5回	アクティヴ・ラーニングの技法	問題解決型学習、課題解決型学習、参加型学習、他者との協同学習等の実際から、生徒の能動的な学習方法についての理解を深める。
第6回	具体的な実践例（社会科系）と評価方法	国際理解、福祉・健康等の領域を中心とした実践について学ぶ。
第7回	具体的な実践例（理科系）と評価方法	環境、情報等の領域を中心とした実践について学ぶ。
第8回	学校ごとの目標の立て方（目標と診断的評価）	「総合的な学習の時間」の目標と、育成を目指す資質・能力について理解し、評価の観点や方法について考える。
第9回	年間計画と指導案作成の理解	クラス、学年、学校、講座等を単位とした、年間指導計画と指導案を構想する。
第10回	指導案作成の実践的学習	探究のプロセスのポイントを理解し、思考ツールの使用した協同学習を実践する。
第11回	指導案改善の観点と方法	課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現の観点と指導方法を改善する。
第12回	指導案改善の実践的学習	生徒同士の学び合いを促すため、学習者視点での指導案改善を実践する。
第13回	指導案の発表と講評（中学校）	中学校における指導案の発表を行い、記録・分析・協議を行う。
第14回	指導案の発表と講評（高校)	高等学校における指導案の発表を行い、記録・分析・協議を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。
＜予習＞次回の授業内容に関する参考文献の該当ページを読む。
＜復習＞授業で提示された課題や授業内容に関する振り返りを行い、学習支援システムで回答する。

【テキスト（教科書）】
特にありません。必要に応じて、適宜プリントを配布します。

【参考書】
文部科学省（2017）『中学校学習指導要領（平成29年告示）』
文部科学省（2017）『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　総合的な学習の時間編』
文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』
文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　総合的な探究の時間編』
＊いずれも文部科学省ＨＰで閲覧・ダウンロードが可能です。

【成績評価の方法と基準】
平常点①（各授業内で行う演習への取り組み状況と内容）20％
平常点②（各授業後に行う振り返りの提出状況と内容）　30％
学習指導案以外の課題　20％
最終学習指導案　30％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更により、前年度のフィードバックはできません。
各回の授業後に行う「授業振り返り」を踏まえて、授業を適宜改善していきます。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてＰＣを用意してもらいます。
資料配布・課題提出の際は、学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
東京都公立中学校で３１年間、国立大学附属中学校で７年間、計３８年間勤務した実務経験と知識を活かして実践的な授業を行っていきます。 毎回、グループワークとディスカッションを行いますので、授業には積極的に参加してください。

【Outline (in English)】
Method for the Period for Integrated Studies. The significance of this subject, the flame of purpose and contents in each school, how to make teaching plans, the way of evaluation of students grades.
To acquire knowledge and skills related to the preparation of instructional plans, specific teaching methods, and evaluation of learning activities about "the Period for Integrated Study."
In particular, students will acquire the basic skills necessary to create classes that achieve the following three points. (1) to utilize the perspectives and ideas nurtured in each subject, (2) to view a wide range of events from a variety of angles, and (3) to realize learning that explores issues in real society and real life.
Grading Criteria [14times short report and in-class contribution 50%][Last long report 50%]

総合的な学習の時間の指導法

篠塚　昭司

配当年次／単位：2～4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
総合的な学習の時間の意義と原理、特に学校ごとに目標や内容を定める際の考え方を理解する。総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方、特に探究的な学習の基礎的な理論や対話を中心とした学習の具体的方法、および他教科との連携の方法を理解し、実際に指導計画が立てられるようになる。総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解できる。

【到達目標】
探究的な見方・考え方をし、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育む「総合的な学習の時間」の指導計画の作成および具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識・技能を身につける。特に、教科ごとに育まれる見方・考え方を活用し、広範な事象を多様な角度から俯瞰してとらえ、実社会・実生活の課題を探求する学びを実現する授業づくりに必要な基礎的力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義と演習（グループワーク、ディスカッション、スピーチ等）中心の対面授業を行います。（欠席時のオンライン補講は行いません。）
課題や授業振り返りの提出は、「学習支援システム」を通じて行う予定です。
授業計画は受講人数や学生の興味・関心によって、若干変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（ねらいと目標、進め方）	「総合的な学習の時間」の体験の振り返りと、その学習の意義についての共有化を図る。
第2回	「総合的な学習の時間」の位置づけ（目標、授業時数、他教科との関連）	学習指導要領にみる「総合的な学習の時間」と、戦後初期のコア・カリキュラムとの共通点・相違点を考える。
第3回	カリキュラム上の特徴（問題解決型学習や探究的な学習）	教育課程と指導計画の基本的な考え方を理解する。ＳＤＧｓと関連付けた「総合的な学習の時間」について理解する。
第4回	実社会に活かす学び（学校教育と実社会経験の架橋）	体験活動、シティズンシップ教育、地域との連携等から、社会に開かれた教育課程の在り方について考える。
第5回	アクティヴ・ラーニングの技法	問題解決型学習、課題解決型学習、参加型学習、他者との協同学習等の実際から、生徒の能動的な学習方法についての理解を深める。
第6回	具体的な実践例（社会科系）と評価方法	国際理解、福祉・健康等の領域を中心とした実践について学ぶ。
第7回	具体的な実践例（理科系）と評価方法	環境、情報等の領域を中心とした実践について学ぶ。
第8回	学校ごとの目標の立て方（目標と診断的評価）	「総合的な学習の時間」の目標と、育成を目指す資質・能力について理解し、評価の観点や方法について考える。
第9回	年間計画と指導案作成の理解	クラス、学年、学校、講座等を単位とした、年間指導計画と指導案を構想する。
第10回	指導案作成の実践的学習	クラス、学年、学校、講座等を単位とした、年間指導計画と指導案を構想する。
第11回	指導案改善の観点と方法	課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現の観点と指導方法を改善する。
第12回	指導案改善の実践的学習	生徒同士の学び合いを促すため、学習者視点での指導案改善を実践する。
第13回	授業指導案の発表と講評（中学校）	中学校における指導案の発表を行い、記録・分析・協議を行う。
第14回	授業指導案の発表と講評（高校)	高等学校における指導案の発表を行い、記録・分析・協議を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。
＜予習＞次回の授業内容に関する参考文献の該当ページを読む。
＜復習＞授業で提示された課題や授業内容に関する振り返りを行い、学習支援システムで回答する。

【テキスト（教科書）】
特にありません。必要に応じて、適宜プリントを配布します。

【参考書】
文部科学省（2017）『中学校学習指導要領（平成29年告示)』
文部科学省（2017）『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　総合的な学習の時間編』
文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領（平成30年告示)』
文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　総合的な探究の時間編』
＊いずれも文部科学省ＨＰで閲覧・ダウンロードが可能です。

【成績評価の方法と基準】
平常点①（各授業内で行う演習への取り組み状況と内容）20％
平常点②（各授業後に行う振り返りの提出状況と内容）　30％
学習指導案以外の課題　20％
最終学習指導案　30％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更により、前年度のフィードバックはできません。
各回の授業後に行う「授業振り返り」を踏まえて、授業を適宜改善していきます。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてＰＣを用意してもらいます。
資料配布・課題提出の際は、学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
東京都公立中学校で３１年間、国立大学附属中学校で７年間、計３８年間勤務した実務経験と知識を活かして実践的な授業を行っていきます。 毎回、グループワークとディスカッションを行いますので、授業には積極的に参加してください。

【Outline (in English)】
Method for the Period for Integrated Studies. The significance of this subject, the flame of purpose and contents in each school, how to make teaching plans, and the way of evaluating students' grades.
To acquire knowledge and skills related to the preparation of instructional plans, specific teaching methods, and evaluation of learning activities in relation to "the Period for Integrated Study."
In particular, students will acquire the basic skills necessary to create classes that achieve the following three points. (1) to utilize the perspectives and ideas nurtured in each subject, (2) to view a wide range of events from a variety of angles, and (3) to realize learning that explores issues in real society and real life.
Grading Criteria [14times short report and in-class contribution 50%][Last long report 50%]

教育実習（事前指導）

大庭　乾一

配当年次：3〜4年次
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目は、次年度に教職員として自覚を持って、教育実習に臨むためのいわば関門、ハードルとしての役割をもつものです。従って、出席や課題提出などについて、大変厳しい扱いをせざるを得ませんので、あらかじめよく認識してください。また7月に初回授業としてオリエンテーションを実施し、夏休み課題を提示します。オリエンテーションへの参加が受講の条件になります。

【到達目標】
次年度の教育実習を前に、実習がもつ様ざまな意味での重みや責任を認識・理解してもらうこと、より具体的にはグループワークによる模擬授業の実施を通じて、教育実践に必要なチームワーク、教材研究、授業案作成、教壇実習実施の最低条件を学習・修得することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この授業としては、模擬授業の準備・実施・検討を中心にして事前指導をおこないますが、これに加えて、当該年度に実習を経験した上級生から、授業、生徒理解、特別活動など教育実習総体の経験を学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	夏休み提出課題の返却、模擬授業に向けたオリエンテーション	夏休み課題の講評、模擬授業の手順およびスケジュールの確認をします。
第2回	授業研究①および4年生との交流	授業の方法、展開の仕方、指導案の作成方法、使用教材について解説します。また模擬授業の準備をします。
第3回	授業研究②および4年生との交流	生徒とのコミュニケーション（発問、指示など）について解説します。また模擬授業の準備をします。
第4回	4年生の教育実習経験を聞く	4年生の教育実習体験談を聞き、討議する。、
第5回	模擬授業とその評価①	模擬授業を行い、全体で批評します。
第6回	模擬授業とその評価②	模擬授業を行い、全体で批評します。
第7回	模擬授業とその評価③	模擬授業を行い、全体で批評します。
第8回	模擬授業とその評価④	模擬授業を行い、全体で批評します。
第9回	模擬授業とその評価⑤	模擬授業を行い、全体で批評します。
第10回	模擬授業とその評価⑥	模擬授業を行い、全体で批評します。
第11回	模擬授業とその評価⑦	模擬授業を行い、全体で批評します。
第12回	模擬授業とその評価⑧	模擬授業を行い、全体で批評します。
第13回	模擬授業の振り返り	振り返りレポートを作成します。
第14回	実習経験者・実習予定者の交流学習	4年生が修了作品の発表をおこない、討議を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。
模擬授業についてはこれとは別に十分な準備時間が必要となります。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
「中学校学習指導要領」(社会)およびその「解説」
「高等学校学習指導要領」(地歴・公民)およびその「解説」

【成績評価の方法と基準】
教育実習事前指導は、不合格の評価を受けると次年度の実習が行えません。実習教科ですので、評価にあたっては、出席と授業への積極的参加、課題の提出・実施・取り組みの水準などが厳しく問われます。
模擬授業の運営と、それにかかわる準備・授業計画の立案等を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
次年度に実際に教育実習に行って困らない準備ができるよう、受講生の皆さんの要望にも応えながら進めていく。

【学生が準備すべき機器他】
模擬授業の際に自分が必要な教材、機材。資料の共有や課題提出のために学習支援システムおよびGoogle Classroomを利用する。また、様々な状況に対応しかつより充実した授業にするために、会議システム(Zoom)を使っての取り組みに対応できる環境があることが望ましい。

【その他の重要事項】
・教職課程履修上のこの授業の特別な位置づけについては、4月に実施される3年生対象のオリエンテーションでお話しますので必ず確認ください。
・7月に実施するオリエンテーション（初回授業）への出席が受講の条件となりますので、各学部掲示版で日程確認を怠らないよう留意ください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to help students prepare their teaching practice in secondary schools.
【Learning Objectives】
Students will be expected to conduct mock classes in group. You are required to work for preparing class plan and teaching materials and so on. Those activities enable you to understand the importance of teaching practice in the schools and to acquire necessary skills and knowledge for the practice next year.
【Learning activities outside of classroom】
Student will be requested to work intensively for the preparation of mock class.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Attendance in the class.
Contribution in the class.
Performance in you mock class.

教育実習（事前指導）

平塚　眞樹

配当年次：3〜4年次
開講時期：秋学期授業/Fall
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
次年度に教育実習を行うにあたり、これまで学んだ教職課程の集大成として、教員に求められる資質を身につけるとともに、授業の構成の方法・生徒指導のあり方などを、各自の模擬授業を通して実践的かつ総合的に学びます。

【到達目標】
次年度の教育実習を前に、実習がもつ様ざまな意味での重みや責任を認識・理解してもらうこと、より具体的にはグループワークによる模擬授業の実施を通じて、教育実践に必要なチームワーク、教材研究、授業案作成、教壇実習実施の最低条件を学習・修得することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
具体的には、模擬授業の準備・実施・検討を中心にして事前指導をおこないますが、これに加えて、当該年度に実習を経験した上級生から、授業、生徒理解、特別活動など教育実習総体の経験を学びます。授業内で行った模擬授業や発表に対して毎回フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション（グループ編成・夏休み提出課題の提示）	授業の目的と方法や全体の概要、今後の予定を説明します。
2	夏休み提出課題の返却、講評	提出課題の特徴と注意点を説明します。
3	授業・生活指導研究（4年生との交流授業）	授業の方法、展開の仕方、授業案の作成、学級経営、生徒指導等について教育実習経験者から話を聞き、学習します。
4	模擬授業準備のグループワーク	グループ単位で模擬授業の準備を行います
5	模擬授業とその評価①	模擬授業を行い、全体で評価します。
6	模擬授業とその評価②	模擬授業を行い、全体で批評します。
7	模擬授業とその評価③	模擬授業を行い、全体で批評します。
8	模擬授業とその評価④	模擬授業を行い、全体で批評します。
9	模擬授業とその評価⑤	模擬授業を行い、全体で批評します。
10	模擬授業とその評価⑥	模擬授業を行い、全体で批評します。
11	模擬授業とその評価⑦	模擬授業を行い、全体で批評します。
12	模擬授業のふりかえりふりかえりレポートの作成	ここまでをふりかえり、模擬授業の到達点と課題を確認、共有します
13	実習経験者・実習予定者の交流学習①	教育実習経験者からの報告を受けて、学びます。
14	実習経験者・実習予定者の交流学習②	教育実習経験者からの報告を受けて、学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①7月下旬に実施するオリエンテーションへの参加
②夏休み課題の取り組み・提出、
③授業期間中のグループ模擬授業の準備とふりかえり、
③「教職実践演習」受講生との交流学習、
以上含めて、本授業の準備学習・復習時間は合わせて毎回最低1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。

【参考書】
７月に実施予定のオリエンテーション時に配布します。

【成績評価の方法と基準】
教育実習事前指導は、○と×で評価をおこないます。×の評価を受けると、次年度の実習が行えません。実習教科ですので、評価にあたっては、出席と授業への積極的参加、課題の提出・実施・取り組みの水準などが厳しく問われます。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の皆さんとのインタラクティブな授業ですので、毎回そのやりとりを通じて、授業の進行を見直すことができ、とてもありがたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】
模擬授業は、実施グループがビデオで撮影することを予定しています。

【その他の重要事項】
・次年度に教育実習を実施するためには、この授業に合格することが条件となっており本科目は教職課程履修上特別な位置づけにあります。その点は、年度当初の３年生対象のオリエンテーションでも提示されますので必ず確認ください。
・７月下旬に実施するオリエンテーション（初回授業）に出席することが、この授業受講の条件となります（欠席者は受講できない）ので、各学部掲示で日程確認を怠らないよう留意ください。
・この授業では、授業支援システムを利用します。

【Outline (in English)】
Course outline : The aim of this course is to help students prepare their teaching practice in secondary schools.
Learning Objectives : Students are required to recognise and understand the importance and responsibilities of the following year's teacher training, to learn and master the minimum requirements for teamwork, research of teaching materials, preparation of lesson plans.
Learning activities outside of classroom : Your required study time is at least one hour for each class meeting、including work on summer assignments, preparation for and review of mock lessons, and participation in presentations by the class of students who have completed teacher training
Grading Criteria /Policy : The evaluation of this class is indicated by ○ and ×. If you receive a grade of ×, you will not be able to do your teacher training in the following year. The assessment will be based strictly on attendance, active participation in the class, and the performance of the work.

教育実習（事前指導）

前田　秀人

配当年次：3〜4年次
開講時期：秋学期授業/Fall
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目は、次年度に教育実習に臨むためのいわば関門、ハードルとしての役割をもつものです。従って、出席や課題提出などについて、大変厳しい扱いをせざるを得ませんので、あらかじめよく認識してください。また７月に初回授業としてオリエンテーションを実施し、夏休み課題を提示します。オリエンテーションへの参加が受講の条件になります。

【到達目標】
次年度の教育実習を前に、実習がもつ様ざまな意味での重みや責任を認識・理解してもらうこと、より具体的にはグループワークによる模擬授業の実施を通じて、教育実践に必要なチームワーク、教材研究、授業案作成、教壇実習実施の最低条件を学習・修得することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
具体的には、模擬授業の準備・実施・検討を中心にして事前指導をおこないますが、これに加えて、当該年度に実習を経験した上級生から、授業、生徒理解、特別活動など教育実習総体の経験を学びます。授業計画は授業の展開によって、若干の変更はあり得ます。課題に対する講評と解説は授業の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	グループ編成・夏休み提出課題の提示
第2回	学習指導案の書き方	夏休み提出課題の返却と講評。グループ研究。
第3回	授業研究	４年生による模擬授業と交流
第4回	生活指導研究	４年生による発表と交流
第5回	模擬授業１	第1グループによる模擬授業および批評会
第6回	模擬授業２	第２グループの模擬授業と批評会
第7回	模擬授業３	第３グループの模擬授業と批評会
第8回	模擬授業４	第４グループの模擬授業と批評会
第9回	模擬授業５	第５グループの模擬授業と批評会
第10回	模擬授業６	第６グループの模擬授業と批評会
第11回	模擬授業７	第７グループの模擬授業と批評会
第12回	模擬授業のふりかえり	模擬授業で学んだことをまとめる
第13回	現代の教育課題	実習経験者・実習予定者の交流学習 ４年生の発表を聞く
第14回	まとめ	実習経験者・実習予定者の交流学習 教育実習までに準備しておくことをまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
７月に実施するオリエンテーション（初回授業）で提示する夏休み課題への取り組み
後期授業でおこなうグループ模擬授業の準備・反省
教育実習修了者（４年生）の学習発表への参加
本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。

【参考書】
中学校・高等学校の各種教科書および指導関連の図書が図書館にありますので、積極的に利用してください。
必要文献、資料などを適宜紹介、あるいは配布します。

【成績評価の方法と基準】
教育実習事前指導は、○と×で評価をおこないます。×の評価を受けると、次年度の実習が行えません。実習教科ですので、評価にあたっては、出席と授業への積極的参加、課題の提出・実施・取り組みの水準などが厳しく問われます。

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業のグループ分けや準備方法を工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】
模擬授業は、実施グループがビデオで撮影することを予定しています。
そのため、後期の冒頭、授業開始前にビデオ講習（撮影のみ）を受講してもらいます。

【その他の重要事項】
この授業では、学習支援システムの利用を予定しています。

【授業中に求められる学習活動】
・教職課程履修上この授業の特別な位置づけについて、３年次生対象の４月のオリエンテーションでお話します。
・７月に実施するオリエンテーション（初回授業）への出席が受講の条件となりますので、各学部掲示版で日程確認を怠らないよう留意してください

【Outline (in English)】
Course outline : The aim of this course is to help students prepare their teaching practice in secondary schools.
Learning Objectives : Students are required to recognise and understand the importance and responsibilities of the following year's teacher training, to learn and master the minimum requirements for teamwork, research of teaching materials, preparation of lesson plans.
Learning activities outside of classroom : Your required study time is at least one hour for each class meeting、including work on summer assignments, preparation for and review of mock lessons, and participation in presentations by the class of students who have completed teacher training
Grading Criteria /Policy : The evaluation of this class is indicated by ○ and ×. If you receive a grade of ×, you will not be able to do your teacher training in the following year. The assessment will be based strictly on attendance, active participation in the class, and the performance of the work.

教育実習（事前指導）

御園生　純

配当年次：3〜4年次
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目は、次年度に教育実習に臨むためのいわば関門、ハードルとしての役割をもつものです。従って、出席や課題提出などについて、大変厳しい扱いをせざるを得ませんので、あらかじめよく認識してください。また7月に初回授業としてオリエンテーションを実施し、夏休み課題を提示します。オリエンテーションへの参加が受講の条件になります。

【到達目標】
次年度の教育実習を前に、実習がもつ様々な意味での重みや責任を認識・理解してもらうこと、より具体的にはグループワークによる模擬授業の実施を通じて、教育実践に必要なチームワーク、教材研究、授業案作成、教壇実習実施の最低条件を学習・修得することが目標です。
・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
具体的には、模擬授業の準備・実施・検討を中心にして事前指導をおこないますが、これに加えて、当該年度に実習を経験した上級生から、授業、生徒理解、特別活動など教育実習総体の経験を学びます。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。プレゼンテーション及び各課題について受講生毎に講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のオリエンテーション	ガイダンス
第2回	教育実習の実際と実習に向けての準備のあり方	教育実習の意味と目的について
第3回	授業の進め方や実習に向けての準備・心構えについて	高校教員に求められる資質とは
第4回	実習ガイダンス　生活指導について	生活指導のあり方について
第5回	実習ガイダンス2　教育実習全般の注意	実習期間中の過ごし方
第6回	実習ガイダンス3　校務分掌	教職員の服務　生徒指導
第7回	実習ガイダンス4　学校運営全体における情報科担当教員の役割	左記のとおり
第8回	教科指導　授業の事前準備の方法	年間計画と単元計画
第9回	教科指導　学習指導案の作成	副教材の作成方法
第10回	教科指導　学習指導案に即して	発問・板書・まとめ・考査の方法
第11回	教科指導　模擬授業の実施と検討	授業を演出する意味について
第12回	担任指導	生活・進路指導
第13回	ホームルーム指導の実際	生徒指導の実際例を引いてその効果的な指導方法などをまなぶ
第14回	特別活動の指導	HRや行事の教育的な効果について理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
高等学校学習指導要領　情報編

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
教育実習事前指導は、不合格の評価を受けると次年度の実習が行えません。実習教科ですので、評価にあたっては、
■授業への積極的参加、貢献度　30%
■課題（指導案等）の提出　40%
■授業計画のプレゼンテーション　30%

【学生の意見等からの気づき】
実際に授業ができる。
様々な局面における適切な生徒指導ができる。

【その他の重要事項】
・教職課程履修上のこの授業の特別な位置づけについては、4月に実施される3年生対象のオリエンテーションでお話しますので必ず確認ください。
・7月に実施するオリエンテーション（初回授業）への出席が受講の条件となりますので、各学部掲示版で日程確認を怠らないよう留意ください。
・この授業では、授業支援システムの利用を予定しています。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This lecture serves as a barrier and hurdle for practical training in the next year. Therefore, please be aware in advance that attendance and submission of assignments will have to be treated very rigorously. In July, we will hold an orientation as the first class and present summer vacation assignments. Participation in the orientation is a condition of attendance.
【Learning Objectives】
Teamwork necessary for educational practice through the recognition and understanding of the weights and responsibilities of the training in various ways before the next year's training, and more specifically, by conducting mock lessons through group work. The goal is to learn and acquire the minimum requirements for studying teaching materials, creating lesson plans, and conducting teaching practice. · Submission and feedback of assignments will be carried out using the "learning support system".
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
■Active participation in classes, 30%contribution
■Submission of issues (guidance proposals, etc.) 40%
■Presentation of lesson plans 30%

教育実習（事前指導）

熊野　真司

配当年次：3〜4年次
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
次年度の教育実習に向けて、その意義や重要性を踏まえて、教師としての自覚や責任などを理解する。
教育実習に向けた心構えを構築することを目的とする。

【到達目標】
教育実習を通して、教師としての責任と自覚を認識し、各学校現場における充実した教育実習を実施する心構えを備える。
教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の実施により、教育実習に取り組む姿勢を自覚し、基本的な指導技術や実践的な指導方法を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
教育実習にかける心構えや実習校での生徒指導や生徒対応を学ぶ機会を設ける。
模擬授業の準備、実施、省察を中心に進める。
また、教育実習を経験した４年生から教育実習報告を聴き、各自の教育実習をイメージする機会を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価、出欠等の説明、グループ分け
2	教育実習の心構え 模擬授業準備	教育実習生としての心構え 自己紹介と目指すべき教師像（全校生徒・担当学級）
3	簡易模擬授業 (教壇指導練習)	自己紹介と目指すべき教師像（全校生徒・担当学級での発表を想定） ＊４年生とともに
4	模擬授業準備 (指導案作成)	教材研究の進め方　学習指導案作成・用具確認 ＊４年生とともに
5	模擬授業準備 (教壇指導練習)	学習指導案作成 教壇指導練習 ＊４年生とともに
6	模擬授業① 学級活動(1)及び省察	領域：学級活動の担当Aグループによる 模擬授業及び講評
7	模擬授業② 学級活動(2)及び省察	領域：学級活動の担当Bグループによる 模擬授業及び講評
8	模擬授業③ 道徳(1)及び省察	領域：道徳の担当Cグループによる 模擬授業及び講評
9	模擬授業④ 道徳(2)及び省察	領域：道徳の担当Dグループによる 模擬授業及び講評
10	模擬授業⑤ 体育理論の授業及び省察	領域：体育理論の担当Eグループによる 模擬授業及び講評
11	教育実習報告① 登壇実習（教科指導）について	実習を終えた4年生の実習報告を聴講（質疑応答） ＊４年生とともに
12	教育実習報告② 実習生活について	実習を終えた4年生の実習報告を聴講（質疑応答） ＊４年生とともに
13	教育実習報告③ 学級経営・生徒指導について	実習を終えた4年生の実習報告を聴講（質疑応答） ＊４年生とともに
14	模擬授業のまとめ	模擬授業の振り返りと 実習に向けての取り組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習指導案の作成
模擬授業のための準備作業
模擬授業後の評価シート作成
模擬授業後の学習指導案修正作業
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
・中学校学習指導要領解説　保健体育編（東山書房）
・高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編（東山書房）
・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
・高等学校検定教科書　『最新高等保健体育』（大修館書店）
※教科書については多摩キャンパスの生協で購入可

【成績評価の方法と基準】
・学習指導案作成(模擬授業前＋模擬授業後)(30%)
・模擬授業　(30%) ＋事前プレゼンテーション（10%）
・他学生の模擬授業のリアクションペーパー作成(20%)
・4年生からの指導・アドバイスに対する姿勢・態度(10%)
・７月のオリエンテーションにて、模擬授業の担当分野(体育・保健、特別活動、　道徳)を　決めるため参加必須　遅刻・無断欠席は厳禁とする
・教育実習事前指導は、○×の評価となる(×の評価を受けると、次年度の教育実習が行えない)

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業において保健体育科教員として人の前に立つことを体験することで、より体育教師として必要な知識・能力・態度を実感できるような場づくりを提供する

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、PC/プロジェクター等を使用して授業展開をします。

【その他の重要事項】
授業の進行状況によっては、内容の若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】
[Course outline]
These classes focus on trial lessons and acquiring basic knowledge and practical skills about the teacher training course.
To understand the awareness and responsibilities as a teacher based on its significance and importance for the teaching training at schools in next year.
The purpose of this class is to build up the proper attitude for the teaching training at each school.
[Learning objectives]
Through teaching practice, students become aware of their responsibilities and self-awareness as teachers, and are prepared to implement fulfilling teaching practice at each school.
By researching teaching materials, creating learning guidance plans, and conducting mock classes, students will become aware of their attitude toward practical teaching and aim to acquire basic teaching skills and practical teaching methods.
[Learning activities outside of classroom]
Creation of lesson plans
Preparatory work for mock class
Evaluation sheet creation after mock class
Revision work of the learning guidance plan after the mock class
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
[Grading criteria/policy]
· Creation of learning instruction plan (before mock lesson + after mock lesson) (30%)
· Mock class (30%) + Pre-presentation (10%)
· Creating reaction papers for mock classes of other students (20%)
· Attitude and attitude toward guidance and advice from fourth graders (10%)
· At the orientation in July, the field of charge (physical education, health) of the mock class
Participation is required to make a decision　Tardiness and unauthorized absence are strictly prohibited
· Pre-teaching practice guidance will be evaluated as ○× (If you receive an evaluation of ×,
I can't do teaching practice for the next year)

教育実習（高）

平塚　眞樹

配当年次／単位：4年次／3単位
開講時期：年間授業/Yearly
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実際の高等学校に赴き、教育実習生として2週間ないし3週間にわたり、授業、学級運営、課外活動指導などにあたる。

【到達目標】
教育の現場たる中学校・高等学校における教師の多様な教育実践・実務（教師の仕事）を体験することを通して，「教育」の重要性・困難性，人間性（生徒）と接し，未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに，その責任と自覚を確立することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
教育実習は，教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。具体的には，①教育実習に向けての事前指導（現職教師の特別講義を含む），②中学校・高等学校での実習，③実習後の反省と総括（次年度実習予定者への助言も含む）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導	第3年次（教育実習前年度）に各免許教科別に分かれて授業を行う。事前指導は，模擬授業を中心に、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とする。
実習前②	教育実習特別講義	教育実習を直前に控えた学生を対象とした講義、教育実習指導教員からの教科指導・生活指導に関するアドバイス・諸注意などの指導を行う。
実習中①	教育実習校でのオリエンテーション	実習校の概要や特色，指導方針等の確認，指導教員との打ち合わせ等
実習中②	教育実習（2週間）	・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習 ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践） ・研究授業の反省会（研究授業後，実習校の先生から指導を受ける。）
実習後	事後指導	事後指導は，教育実習の体験を総括し，共有することで，今後教壇に立つための更なる課題を自覚することを目的とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
担当する授業の授業案の作成など本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各プロセスで指示する。

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
実習校の採点を主とし，実習日誌の評価，実習後にまとめる実習リポートの採点および事後指導の結果を加味して，総合的に出される。なお，評価は，この両者を総合評価するが，それぞれに一定の基準を満たさなければ，教育実習の単位は修得できない。

【学生の意見等からの気づき】
該当しない

【Outline (in English)】
Course outline: This course is teaching practice in secondary schools for 2 or 3 weeks. Students will work on teaching, class management and extra curricular activities as trainees.
Learning Objectives : By experiencing a variety of the work of teachers in senior high schools, students are exposed to the importance and difficulties of education and the humanity of students, and develop the basic competencies of future teachers and establish their responsibility and awareness.
Learning activities outside of classroom : Students are expected to prepare lesson plans for your classes. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading Criteria /Policy : Students will be graded comprehensively, mainly by the score by the school of educational training, but also by taking into account the evaluation of its diary, its reports, and the post-training guidance. If you do not meet certain standards for each of these, you will not receive credit.

教育実習（高）

小田　佳子、永木　耕介

配当年次／単位：4年次／3単位
開講時期：年間授業/Yearly

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
3年次秋学期に行われる「事前指導」において教職に関する知識と教壇指導の実践力の基礎を身に付ける。4年次春学期(または秋学期)に学校現場実習によって学び、秋学期に行われる「事後指導」において、現場実習を振り返り、将来教師になるために必要な資質・能力を養う。

【到達目標】
教育現場における教師の多様な教育実践・実務の体験を通して，「教育」の重要性・課題・困難性等を知り，未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに，その責任と自覚を確立することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
教育実習は，教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。
①教育実習に向けての事前指導(現職教師の特別講義を含む)
②高等学校における現場実習
③実習後の反省と総括（次年度実習予定者への助言も含む)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導(3年次)	学校現場に関する実践的な知識と力量の基礎を身につける。
実習前②	教育実習特別講義	教育実習を控えた学生を対象に、教科指導・生活指導に関するアドバイス・諸注意などの指導を行う。
実習中①	教育実習校におけるオリエンテーション	実習担当教員及び指導教員と実習校の概要や特色、指導方針等の確認、打ち合わせを行う。
実習中②	教育実習(2～4週間)	・現職の先生方の授業見学 ・学習指導案の作成 ・教壇実習 ・学校行事等のお手伝い ・研究授業(教育実習総仕上げの授業実践) ・研究授業の反省会(研究授業後、教科の先生方からの講評・指導)
実習後	事後指導①	教育実習の体験を総括し、共有することで、今後教壇に立つための更なる課題を自覚する。 ①実習体験から得たもの、反省点などの振り返り ②次年度教育実習を迎える3年生へのアドバイス ③実際に行った授業を改めて模擬授業を行うことによるまとめ
実習後	事後指導②	次年度教育実習予定者（3年）への助言として、実習報告会を開催する。
実習後	事後指導③	次年度教育実習予定者（3年）の模擬授業に対し助言、指導案指導を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
担当する単元内容の学習指導案作成
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします

【テキスト（教科書）】
各プロセスにおいて必要に応じて指示する

【参考書】
必要に応じて指示する

【成績評価の方法と基準】
・3年次事前指導評価(20%)
・実習校の指導教員による採点(60%)
・事後指導(事前指導を受ける3年生への指導・サポート)(10%)
・実習日誌、実習後にまとめる実習リポート(10%)

【学生の意見等からの気づき】
事前指導、教育実習、事後指導を通し、最終的に教員として求められているものは何であるのかについて自分なりの考えを確立するよう導く。

【その他の重要事項】
定期授業以外でガイダンス等の出席は必須である。無断遅刻・無断欠席をしないこと。特に4年次で行われる事後指導は不定期であるため、必ずガイダンス・授業日を掲示板などで確認し、教員免許を取得するという自覚を持って出席すること。

【Outline (in English)】
At first, in the "Preliminary Guidance" held in the fall semester of the 3rd year, students acquire knowledge about teaching and a foundation of practical skills in teaching.
Secondly, in the spring semester of the 4th year (or fall semester), students learn through school field practice, and in the "Post-Teaching" held in the fall semester, students reflect on the field practice and develop the qualities and abilities necessary to become teachers in the future.
(learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have completed the required assignment after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.
(Grading Criteria/Policies)
・Your overall grade in the class will be decided based on the following
3rd year: Pre-guidance evaluation(20％),Score at the teaching training school(60%), 4th year: Post guidance(10%), practical training report and diary(10%)

教育実習（中・高）

平塚　眞樹

配当年次／単位：**4年次／5単位**
開講時期：**年間授業**/Yearly
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実際の中学校・高等学校に赴き、教育実習生として2週間ないし3週間にわたり、授業、学級運営、課外活動指導などにあたる。

【到達目標】
教育の現場たる中学校・高等学校における教師の多様な教育実践・実務（教師の仕事）を体験することを通して，「教育」の重要性・困難性，人間性（生徒）と接し，未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに，その責任と自覚を確立することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
教育実習は，教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。具体的には，①教育実習に向けての事前指導（現職教師の特別講義を含む），②中学校・高等学校での実習，③実習後の反省と総括（次年度実習予定者への助言も含む）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導	第3年次（教育実習前年度）に各免許教科別に分かれて授業を行う。事前指導は，模擬授業を中心に、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とする。
実習前②	教育実習特別講義	教育実習を直前に控えた学生を対象とした講義、教育実習指導教員からの教科指導・生活指導に関するアドバイス・諸注意などの指導を行う。
実習中①	教育実習校でのオリエンテーション	実習校の概要や特色，指導方針等の確認，指導教員との打ち合わせ等
実習中②	教育実習（３週間）	・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習 ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践） ・研究授業の反省会（研究授業後，実習校の先生から指導を受ける。）
実習後	事後指導	事後指導は，教育実習の体験を総括し，共有することで，今後教壇に立つための更なる課題を自覚することを目的とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
担当する授業の授業案の作成など本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各プロセスで指示する。

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
実習校の採点を主とし，実習日誌の評価，実習後にまとめる実習リポートの採点および事後指導の結果を加味して，総合的に出される。なお，評価は，この両者を総合評価するが，それぞれに一定の基準を満たさなければ，教育実習の単位は修得できない。

【学生の意見等からの気づき】
該当しない

【Outline (in English)】
Course outline :This course is teaching practice in secondary schools for 2 or 3 weeks. Students will work on teaching, class management and extra curricular activities as trainees.
Learning Objectives : By experiencing a variety of the work of teachers in junior and senior high schools, students are exposed to the importance and difficulties of education and the humanity of students, and develop the basic competencies of future teachers and establish their responsibility and awareness.
Learning activities outside of classroom : Students are expected to prepare lesson plans for your classes. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading Criteria /Policy : Students will be graded comprehensively, mainly by the score by the school of educational training, but also by taking into account the evaluation of its diary, its reports, and the post-training guidance. If you do not meet certain standards for each of these, you will not receive credit.

教育実習（中・高）

小田　佳子、永木　耕介

配当年次／単位：4年次／5単位
開講時期：年間授業/Yearly

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
3年次秋学期に行われる「事前指導」において教職に関する知識と教壇指導の実践力の基礎を身に付ける。
4年次春学期(または秋学期)に学校現場実習によって学び、秋学期に行われる「事後指導」において、現場実習を振り返り、将来教師になるために必要な資質・能力を養う。

【到達目標】
教育現場における教師の多様な教育実践・実務の体験を通して，「教育」の重要性・課題・困難性等を知り，未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに，その責任と自覚を確立することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
教育実習は，教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。
①教育実習に向けての事前指導(現職教師の特別講義を含む)
②中学校・高等学校における現場実習
③実習後の反省と総括（次年度実習予定者への助言も含む)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導(3年次)	学校現場に関する実践的な知識と力量の基礎を身につける。
実習前②	教育実習最終ガイダンス	教育実習を控えた学生を対象に、教科指導・生活指導に関するアドバイス・諸注意などの指導を行う。
実習中①	教育実習校におけるオリエンテーション	実習担当教員及び指導教員と実習校の概要や特色、指導方針等の確認、打ち合わせを行う。
実習中②	教育実習(3～4週間)	・現職の先生方の授業見学 ・学習指導案の作成 ・教壇実習 ・学校行事等のお手伝い ・研究授業(教育実習総仕上げの授業実践) ・研究授業の反省会(研究授業後、教科の先生方からの講評・指導)
実習後①	事後指導① 教育実習後のまとめ	教育実習の体験を総括し、共有することで、今後教壇に立つための更なる課題を自覚する。 ①実習体験から得たもの、反省点などの振り返り ②次年度教育実習を迎える3年生へのアドバイス ③実際に行った授業を改めて模擬授業を行うことによるまとめ
実習後②	事後指導② 教育実習報告	次年度教育実習予定者（3年）への助言として、実習報告会を開催する。
実習後③	事後指導③ 指導案の補助指導	次年度教育実習予定者（3年）の模擬授業に対し助言、指導案指導を行う。
実習後④	事後指導④ 模擬授業の補助指導	次年度教育実習予定者（3年）の模擬授業に対し助言、指導案指導を行う。
実習指導巡回	教育実習指導① （東京都・付属中高）	教育実習現場での研究授業の実施と評価 実習期間中の教育相談など
実習指導巡回	教育実習指導② （東京都・付属中高）	教育実習現場での研究授業の実施と評価 実習期間中の教育相談など
実習指導巡回	教育実習指導③ （東京都・付属中高）	教育実習現場での研究授業の実施と評価 実習期間中の教育相談 など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
担当する単元内容の学習指導案作成
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします

【テキスト（教科書）】
各プロセスにおいて必要に応じて指示する

【参考書】
必要に応じて指示する

【成績評価の方法と基準】
・3年次事前指導評価(20%)
・実習校の指導教員による採点(60%)
・事後指導(事前指導を受ける3年生への指導・サポート)(10%)
・実習日誌、実習後にまとめる実習リポート(10%)

【学生の意見等からの気づき】
事前指導、教育実習、事後指導を通し、最終的に教員として求められているものは何であるのかについて自分なりの考えを確立するように導く。

【その他の重要事項】
定期授業以外でガイダンス等の出席は必須である。無断遅刻・無断欠席をしないこと。特に4年次で行われる事後指導は不定期であるため、必ずガイダンス・授業日を掲示板などで確認し、教員免許を取得するという自覚を持って出席すること。
【2025年度秋学期】
　初回授業などについては、学習支援システムを確認してください。

【Outline (in English)】
In the "preparatory training" held in the fall semester of the third year, students will acquire basic knowledge about the teaching profession and practical skills for teaching in the class.
In the spring semester (or fall semester) of the fourth year, students will learn through on-site training at a school, and in the "follow-up training" held in the fall semester, they will reflect on their on-site training and develop the qualities and abilities necessary to become a teacher in the future.
(learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have completed the required assignment after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.
(Grading Criteria/Policies)
・Your overall grade in the class will be decided based on the following 3rd year: Pre-guidance evaluation(20％),Score at the teaching training school(60%), 4th year: Post guidance(10%), practical training report and diary(10%)

教職実践演習（中・高）

大庭　乾一

配当年次／単位：4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、以下の観点から、将来教職を担うに相応しい知識、技能、姿勢の理解を深め、４年間の大学における教職課程履修の総仕上げをおこなう科目です。この授業を通じて高い教職員の自覚を持ってほしい。

【到達目標】
①学校現場における授業計画・実践力量（授業指導案の作成を含む）の深化、
②専門教科領域における教育研究と教材作成力量の深化、
③子ども理解及び学級・学校の実際の理解、
④教育職に向けた意欲と各自の目標の設定、
⑤コミュニケーションと発表・プレゼンテーションの技能(ICTの活用を含む)向上、
の五点を学習の到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
　授業は演習形式でおこない、グループ学習、次年度教育実習予定者との共同討論、模擬授業づくりのサポートを通した経験報告やアドバイス、最終報告(プレゼンテーションや報告)の発表会などによって構成されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	本講義の目標と性格について	本講義の性格、課題、到達すべき目標の確認。「履修カルテ」および「教職課程のふりかえり～自己評価と課題」レポート(1500字程度)の提出(あるいはその指示)。 ②本「演習」の期末課題に関する説明。課題は「教育関係者のヒアリング報告・後輩に残す教科教材の作成・教職に関する研究レポート」から学生が選択し決定する。
2	①各自のふりかえり交流（１回目） ②期末課題のテーマ登録	提出された「自己評価と課題」を素材に、これからの時代・社会における教職にはどのような力量・専門性が求められるのか、学生の報告と討論を行う。
3	各自のふりかえり交流（２回目）	前回に引き続き、提出された「自己評価と課題」を素材に、これからの時代・社会における教職にはどのような力量・専門性が求められるのか、学生の報告と討論を行い、そのまとめを踏まえて、次年度教育実習予定者へのメッセージを作成する
4	次年度実習予定者へのプレゼンテーション	教育実習に向けて準備をしている3年生に対して、教育実習への準備の在り方、指導案の書き方、実習授業の進め方などを伝え、3年生との応答をおこなう。(グループ分けによって多くの学生の報告を可能にする)
5	①「これからの時代・社会の教職に求められる専門職性」をめぐる講義ならびにグループディスカッションのテーマの起案 ②　期末課題の計画書提出	テーマ設定にあたっては、「教科教育・生徒指導・学校・学級運営」についてそれぞれ起案する。今日の教育労働がおかれている実態や法的仕組みなども踏まえつつ、その専門職性の高度化について考える。
6	グループディスカッション①	グループディスカッションに向けた準備作業。
7	グループディスカッション②	「教科教育」を通した、これからの時代・社会の教職に求められる専門職性をめぐるシンポジウムもしくはディベート形式の討論
8	グループディスカッション③	「生徒指導・学校・学級運営」を通した、これからの時代・社会の教職に求められる専門職性をめぐるシンポジウムもしくはディベート形式の討論
9	期末課題製作作業①	第12回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。
10	期末課題製作作業②	第13回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。
11	期末課題製作作業③	第14回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。
12	期末課題発表会①	成させた期末課題の発表会をおこなう。ここには次年度教育実習予定者はじめ、1,2,3年生の教職課程履修学生にも参加を呼びかけ、その評価を受ける場合もある。以下第13回、14回も同様。
13	期末課題発表会②	期末課題発表会②
14	期末課題発表会③	期末課題発表会③

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
オリエンテーション時に提示した課題への取り組み
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しない

【参考書】
必要に応じて提示する

【成績評価の方法と基準】
教職実践演習は通常の評価をおこないます。実習教科ですので、評価にあたっては、出席、授業への積極的参加・発言、課題の提出・実施・取り組みの水準などが厳しく問われます。評価の割合と基準は以下の通りです。
(1)教育実習後レポート（20%）：教育実習の基本的な振り返りができたか。
(2)授業内での発表・取り組み（30%）：自らの実習体験を3年生に有用な形で伝えることができたか。演習に積極的に参加・貢献できたか。
(3)修了作品（50%）：教育実習の成果と課題をまとめることができたか。

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業への相互の講評を今後も大事にしたい。動画撮影した3年生のすべての模擬授業について、オンラインで講評・アドヴァイスできる環境を整備する。

【学生が準備すべき機器他】
資料の共有や課題提出のために学習支援システムおよびGoogle Classroomを利用する。また、様々な状況に対応しかつより充実した授業にするために、会議システム(Zoom)を使っての取り組みに対応できる環境があることが望ましい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to help students acquire proper knowledge and skills needed for educational professionals. By the end of this course, students should complete their final report of teacher training course.
【Learning Objectives】
1 To enhance class planning and practical teaching skills in school.
2 To enhance skills of conducting research and preparing teaching materials in the subject areas.
3 To understand students and their classes and schools.
4 To enhance their own motivation and to set their own targets to be educational professionals.
5 To enhance skills of communication with students and of presentation by using new information and communication technologies.
【Learning Activities outside of classroom】
You will be expected to provide necessary information and advices based on your experiences with 3rd year students so that the 3rd year students can conduct their mock classes successfully. You also will be expected to complete and submit a final report of teacher training course.
【Grading Criteria】
Your overall grade in the class will be decided on the following
Short Report expected to submit just after your teaching practice in school: 20%
Contribution in the class: 30%
Final report: 50%

教職実践演習（中・高）

平塚　眞樹

配当年次／単位：**4年次／2単位**
開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、教職の仕事を担うに相応しい知識、技能、姿勢の理解を深め、4年間の大学における教職課程履修の総仕上げをおこなう科目です。

【到達目標】
①学校現場における授業計画・実践力量（授業指導案の作成を含む）の深化
②専門教科領域における教育研究と教材作成力量の深化
③子ども理解及び学級・学校の実際の理解
④教育職に向けた教育観の深化
⑤コミュニケーションとICTの活用含めたプレゼンテーション技能の向上
の五点を学習の到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は演習形式でおこない、本授業の期末課題の作成、次年度教育実習予定者への経験報告や模擬授業づくりのアドバイス、ICTを活用した期末課題の発表・批評などによって構成されます。授業内で出された質問にはその都度応え、プレゼンテーションに対してその都度フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	①本講義の目標と性格について――本講義の性格、課題、到達目標の確認②本「演習」の期末課題に関する説明	「教育実習ファクトシート」の作成、提出。期末課題「教職課程履修をふりかえり教育・学校・教師とは何かについて表すストーリー」作成に関する説明
第2回	教育実習経験の報告、交流	次年度教育実習予定者に対して、教育実習への準備、指導案作成、授業運営などの経験を伝える
第3回	期末課題に関するレクチャー	期末課題「教職課程履修をふりかえり教育・学校・教師とは何かについて表すストーリー」についてレクチャーする
第4回	期末課題のプロット提出、報告、検討①	期末課題のプロット案を各自提出し報告し、検討しあう
第5回	期末課題のプロット提出、報告、検討②	期末課題のプロット案を各自提出し報告し、検討しあう
第6回	期末課題のプロット提出、報告、検討③	期末課題のプロット案を各自提出し報告し、検討しあう
第7回	期末課題のプロット提出、報告、検討④	期末課題のプロット案を各自提出し報告し、検討しあう
第8回	期末課題中間・直前報告・検討①	期末課題の中間・直前報告を行い、完成に向けた検討をおこなう
第9回	期末課題の中間・直前報告・検討②	期末課題の中間・直前報告を行い、完成に向けた検討をおこなう
第10回	期末課題の中間・直前報告・検討③	期末課題の中間・直前報告を行い、完成に向けた検討をおこなう
第11回	期末課題の中間・直前報告・検討④	期末課題の中間・直前報告を行い、完成に向けた検討をおこなう
第12回	期末課題の中間・直前報告・検討⑤	期末課題の中間・直前報告を行い、完成に向けた検討をおこなう
第13回	期末課題の発表・批評①	次年度教育実習予定者の参加も得て、期末課題の発表と批評の会をおこない、課題を提出する
第14回	期末課題の発表・批評②	次年度教育実習予定者の参加も得て、期末課題の発表と批評の会をおこない、課題を提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・7月下旬に実施するオリエンテーションへの参加
・期末課題の作成、改訂、提出
・次年度教育実習予定者の事前指導クラスへの参加（数回）、同模擬授業作成プロセスにおける後輩の支援・指導。
上記含めて、本授業の準備学習・復習時間は最低限各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・特に指定しません。毎回必要文献、資料など指定、あるいは配布します。

【参考書】
・『文部科学白書』最新版（インターネットによる文科省ホームページを利用）等のデータ
・『中学校・高等学校学習指導要領』

【成績評価の方法と基準】
①期末課題とその発表に対する評価、②演習への積極的参加と貢献を総合的に評価します。最終的評価については、必要に応じて個別評価面接を実施する事があります。平常点30％、期末課題70％。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の皆さんとのインタラクティブな授業にて、毎回のやりとりから、授業の進行を都度見直すことができ、とてもありがたいと思っています。

【その他の重要事項】
上記以外に別途、次年度教育実習予定者を対象とした「教育実習事前指導」クラス並びに、同クラスにおける模擬授業づくりプロセスへの各自数回参加・サポートをおこなう。

【Outline (in English)】
Course outline : The aim of this course is to help students acquire proper knowledge and skills needed for educational professionals. By the end of this course, students should complete their final report of teacher training course.
Learning Objectives : (1) Deepening of lesson planning in the school setting, (2) Understanding on specialist subjects and development of teaching materials, (3) Understanding of children and class/school, (4) development the educational perspective for the teaching profession (5) Improvement of communication and presentation skills, including the use of ICT.
Learning activities outside of classroom : Students are required to have study time for this class is 2 hours each, including participation in the orientation, use of ICT and fieldwork activities as necessary, and support and guidance for junior students.
Grading Criteria /Policy : The final assessment is based on the following criteria: (1) evaluation of the final project and its presentation, and (2) active participation and contribution to the class. For the final assessment, an individual assessment interview may be held if necessary. Ordinary points 30%, final assignment 70%.

教職実践演習（中・高）

前田　秀人

配当年次／単位：4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
将来教職を担うに相応しい知識、技能、姿勢の理解を深め、４年間の大学における教職課程履修の総仕上げをおこなう科目です。

【到達目標】
①学校現場における授業計画・実践力量（授業指導案の作成を含む）の深化
②専門教科領域における教育研究と教材作成力量の深化
③子ども理解及び学級・学校の実際の理解
④教育職に向けた教育観の深化
⑤コミュニケーションとICTの活用を含めたプレゼンテーション技能の向上

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は演習形式でおこない、グループ学習、次年度教育実習予定者との共同討論、模擬授業づくりのサポートを通した経験報告やアドバイス、期末課題の発表会などによって構成されます。授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます。課題に対する講評と解説は、授業の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	①本講義の概要説明。「履修カルテ」および「教職課程のふりかえり～自己評価と課題」レポートの提出の指示。 ②本演習の期末課題に関する説明。
第2回	各自のふりかえり交流	提出された「自己評価と課題」を素材に、これからの時代・社会における教職にはどのような力量・専門性が求められるのか、学生の報告と討論を行う。
第3回	次年度実習予定者へのプレゼンテーション	３年生に対して、教育実習への準備の在り方、指導案の書き方、実習授業の進め方などをＩＣＴを活用して伝え、応答をおこなう。
第4回	「これからの時代・社会の教職に求められる専門職性」をめぐるグループディスカッションのテーマの起案。	テーマ設定にあたっては、「教科教育・生徒指導・学校・学級運営」についてそれぞれ起案する。今日の教育労働がおかれている実態や法的仕組みなども踏まえつつ、その専門職性の高度化について考える。
第5回	グループディスカッション準備	ディスカッションに向けた準備。
第6回	グループディスカッション①	「教科教育」を通した専門職性をめぐる討論。テーマは、「主体的対話的で深い学び」「ＩＣＴの活用」など。
第7回	グループディスカッション②	「生徒指導・学校・学級運営」を通した専門職性をめぐる討論
第8回	期末課題製作作業①	第11回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこなう。
第9回	期末課題製作作業②	第12回発表予定者は中間報告
第10回	期末課題製作作業③	第13回発表予定者は中間報告
第11回	期末課題発表会①	期末課題の発表会。ここには次年度教育実習予定者はじめ、1,2,3年生の教職課程履修学生にも参加を呼びかけ、その評価を受ける場合もある。
第12回	期末課題発表会②	前回に続き、期末課題の発表を行う。
第13回	期末課題発表会③	前回に続き、期末課題の発表を行う。あわせて、後期に教育実習を行った学生の報告も行う。
第14回	まとめ	これまでの授業をふりかえるとともに、課題を提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・７月にオリエンテーションを行いますので必ず参加下さい。
・期末課題の作成には、学外でのフィールドワークなど課外活動が必要になります。
・教育実習予定者を対象とした「教育実習事前指導」に数回参加して､模範授業の実施、後輩の模擬授業づくりへのサポートをおこないます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
・必要文献、資料などを適宜指定、紹介、あるいは配布します。

【成績評価の方法と基準】
①期末課題とその発表・報告に対する評価（50％）②演習への参加と積極的な役割の遂行や討論への参加状況（40％）③レポート課題（10％）を総合的に勘案して評価をおこないます。なお、最終的評価については、必要に応じて個別評価面接を実施する事があります。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションなどを通して、目標がより深化するよう努めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
この授業では学習支援システムの利用を予定しています。

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
Course outline : The aim of this course is to help students acquire proper knowledge and skills needed for educational professionals. By the end of this course, students should complete their final report of teacher training course.
Learning Objectives : (1) Deepening of lesson planning in the school setting, (2) Understanding on specialist subjects and development of teaching materials, (3) Understanding of children and class/school, (4) development the educational perspective for the teaching profession (5) Improvement of communication and presentation skills, including the use of ICT.
Learning activities outside of classroom : Students are required to have study time for this class is 2 hours each, including participation in the orientation, use of ICT and fieldwork activities as necessary, and support and guidance for junior students.
Grading Criteria /Policy : The final assessment is based on the following criteria: (1) evaluation of the final project and its presentation, and (2) active participation and contribution to the class. For the final assessment, an individual assessment interview may be held if necessary. Ordinary points 50%, final assignment 50%.

教職実践演習（中・高）

御園生　純

配当年次／単位：4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、将来の教育専門職に相応しい知識、技能などの理解を深め、4年間の大学における教職課程履修の総仕上げをおこなう科目です。情報倫理やICT（情報通信技術）の日常生活への援用のための方法を理解します。

【到達目標】
学習の目標は以下の通りです。
①学校現場における授業づくりの実践力量の深化、
②専門教科領域における教育研究と教材作成力量の深化、
③生徒理解や学級・学校運営に関する実践力量の深化、
④教育職に関する理解の深化と各自の目標の設定、
⑤教育専門職としての他者との関わり・自己表現の深化、
⑥情報通信技術（ICT）の基礎的理解と活用の実際

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は演習形式でおこない、グループ学習、次年度教育実習予定者との共同学習、模擬授業づくりのサポートを通した経験報告やアドバイス、期末報告の発表会などによって構成されます。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。各課題について受講生毎に講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス　本講義の目的と位置づけ	①本講義の性格、課題、到達目標の確認。②本演習の期末課題に関する説明。課題は「教育関係者のヒアリング報告・後輩に残す教科教材の作成・教職に関する研究レポート」から学生が選択し決定する。
2	教職課程のふりかえり交流（1回目）	これからの時代・社会における教職にはどのような力量・専門性が求められるのか、報告と討論を行う。
3	教職課程のふりかえり交流（2回目）	前回の報告と討論を踏まえて、次年度教育実習予定者へのメッセージを作成する。
4	次年度実習予定者へのプレゼンテーション	次年度教育実習予定者に対して、教育実習への準備の在り方、授業づくりのあり方、実習授業の展開などを伝える。
5	グループディスカッションに向けた準備作業。	これからの教職実践の問い（授業づくり、生徒理解）を出し合い、グループディスカッションのテーマを決め、準備をおこなう。
6	グループディスカッション①	「授業づくり」を通した、これからの時代・社会の教職に求められる専門職性をめぐるディベート形式の討論。
7	グループディスカッション②	「生徒理解」を通した、これからの時代・社会の教職に求められる専門職性をめぐるディベート形式の討論。
8	期末課題のテーマの起案と計画書の提出	期末課題の計画書を作成・提出する
9	期末課題製作作業①	第12回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。
10	期末課題製作作業②	第13回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。
11	期末課題製作作業③	第14回の発表予定者は教員に対して中間報告をおこない、コメントを受ける。
12	期末課題発表会①	完成させた期末課題の発表会をおこなう。ここには次年度教育実習予定者など教職課程履修学生にも参加を呼びかけ、コメントを受ける。
13	期末課題発表会②	各自の発表に対する講評と問題点や改善点の抽出。
14	期末課題発表会③	前回の授業を踏まえて加筆修正した最終課題の再発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・7月にオリエンテーションをおこないますので、必ず参加ください。
・期末課題の作成には、グループワークが必要になります。
・次年度教育実習予定者のクラスに何度か参加して、後輩の支援・指導にあたります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・特に指定しません。必要に応じて、文献や資料などを指定あるいは配布します。

【参考書】
・『文部科学白書』最新版（インターネットによる文科省ホームページを利用）等のデータ
・教育実践記録（講義の最初に提示します）
・『中学校・高等学校学習指導要領』

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加度）　２０％
授業指導案　４０％
模擬授業　４０％

【学生の意見等からの気づき】
現時点では特にありませんが、授業期間の途中でも、積極的な意見を歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】
この授業では授業支援システムの利用を予定しています。

【その他の重要事項】
7月にオリエンテーションをおこないますので、必ず参加ください。

【授業中に求められる学習活動】
学生がつくる授業ですので授業への積極的な参加が要求されます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class is a course that deepens the understanding of knowledge and skills suitable for future education professions, and completes the course of teaching profession at the university for 4 years. Understand information ethics and methods for applying ICT (Information and Communication Technology) to daily life.
【Learning Objectives】
The learning goals are as follows:
① Deepening the practical ability of class making at school sites, (② Deepening the ability to create educational research and teaching materials in specialized subject areas, ③ Deepening of practical skills related to student understanding and class /school management, ④ Deepening understanding of educators and setting their own goals, ⑤ Relationship with others as an education profession ・ Deepening self-expression, ⑥Practical understanding and utilization of information and communication technology (ICT)
【Learning activities outside of classroom】
・ The orientation will be held in July, so please be sure to participate. ・ Group work is required to create term-end assignments. ・ Participate in the classes of those who are planning to practice next year several times to support and instruct juniors. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
degree of participation in class 20%
Lesson Guidance 40%
Simulated classes 40%

教職実践演習（中・高）

熊野　真司

配当年次／単位：4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
将来、中学校及び高等学校の保健体育科教員になる上で、自己の教育的実践の課題を把握し、必要に応じて不足している知識、技能、教員の資質を補い、その定着を図ることにより4年間の大学における教職課程履修の総仕上げを行う。

【到達目標】
「これからの時代、社会の教職に求められる専門職性」について以下を到達できるようにする。
①教育における使命感や責任感、熱意・愛情について自分の課題を見出す。
②教員としての社会性や対人関係能力を身に付ける。
③生徒理解や学級経営等の問題点を挙げて解決方法を考える。
④専門教科領域における教材研究・教材作成及び指導法について知識を深める。
⑤コミュニケーションと発表・プレゼンテーション(人の前に立つこと)の技能向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
演習形式でおこなう。「到達目標」に記された内容を踏まえ、教育実習を通して考えさせられたこと・課題になったことを具体的な議題として取り上げ、それらについて討議を行い様々な意見をもとに解決策をみつける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・本講義の性格、課題、到達目標の確認 ・進め方、成績評価、出席、グループ分け
2	ディスカッション起案	「これからの時代、社会に求められる教職の専門性」をめぐるテーマ設定を行う 「求められる教師像」とは？
3	ディスカッション準備	討議法・テーマに沿った具体的な議題の立案・役割を決める 「教育実習を通した最も大きな課題は何か？」
4	ディスカッション模擬	グループ内で模擬討議を行い、円滑に進行できるように組み立てる
5	ディスカッション① (保健体育科教員)	テーマ：「学校における保健体育科教員の役割」
6	ディスカッション② (教科-保健・体育-)	テーマ：「教科の指導力と適正な評価」
7	ディスカッション③ (安全管理)	テーマ：「生徒に対する教師の責任と危機管理」
8	ディスカッション④ (生徒理解)	テーマ：「生徒理解の重要性」
9	ディスカッション⑤ (学級経営)	テーマ：「学級内の人間関係形成と学級担任の在り方」
10	ディスカッション⑥ (特別活動)	テーマ：「健康安全・体育的行事の効果的実施」
11	ディスカッション⑦ (社会適応力)	テーマ：「キャリア教育・社会的態度の育成」
12	ディスカッション⑧ (職務内容)	テーマ：「教員の働き方改革－生徒指導と部活動顧問－」
13	ディスカッション⑨ (対人関係能力)	テーマ：「生徒・保護者・地域住民・他の教員との関わり方」
14	まとめ	ディスカッションの振り返り、最終課題提出に向けての説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・7月の事前オリエンテーションへの参加必須
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
・中学校学習指導要領解説　保健体育編（東山書房）
・高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編（東山書房）
・中学校検定教科書『中学保健体育』（学研）or（大日本図書）
・高等学校検定教科書　『最新高等保健体育』（大修館書店）

※教科書については多摩キャンパスの生協で購入可

【成績評価の方法と基準】
・ディスカッション起案と内容等のグループワーク、役割の遂行(40%)
・討論の参加及びリアクションペーパー作成(30%)
・最終レポート(30%)

【学生の意見等からの気づき】
4年間の教職課程の講義、介護等体験、教育実習などを通して改めて将来教員になるうえで必要なこと、課題などを討論の中で、クラスの皆で考える場を提供していく。
現場に出る前に、抱えている課題の共有や解決方法を見出すことで、不安をやわらげ自信をもって教職に向かう態度を養う。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、プロジェクターを使用する

【その他の重要事項】
教育実習の進行状況によっては、内容の若干の変更があり得る
7月に事前の履修ガイダンスを開催する

【Outline (in English)】
[Course outline］
In order to become a P.E. teacher at (junior) high school in the future, grasp the issues of each educational practice and supplement the lack of knowledge, skills, and teacher qualifications as necessary.
Through this class, we complete the four-year teaching training course at the university.
[Learning objectives]
Students will be able to achieve the following with regard to "professionalism required of society's teaching profession in the future."
(1) Discover your own challenges in terms of a sense of mission, responsibility, enthusiasm and affection in education.
(2) Acquire social skills and interpersonal skills as a teacher.
(3) Identify problems such as student understanding and class management, and think about ways to solve them.
(4) To deepen knowledge of teaching material research, creation of teaching materials, and teaching methods in specialized subject areas.
⑤ Aim to improve communication and presentation/presentation skills (standing in front of people).
[Learning activities outside of classroom]
Participation in pre-orientation in July is mandatory
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
[Grading criteria/policy]
Group work such as drafting discussion and content, fulfilling roles (40%)
Participate in discussions and write reaction papers (30%)
Final report (30%)

日本史Ａ

岩橋　清美

配当年次／単位：1～4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史の調べ方、歴史的なものの見方や考え方を身につける。教科書の記述のもとになった学説を取り上げ、関連史料を読み解きながら、日本史の大きな流れを把握するとともに、歴史を学ぶ意義を考える。

【到達目標】
日本史に関する基礎的な知識と歴史学の方法論を身につける。具体的には、先行研究や関連文献・史料を読み解きながら歴史像を構築できるようになる。指導案（教案）作成に必要な知識やスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業では、原始・古代から近現代にいたる歴史の展開を、政治史を中心としながら、国際環境や地理的条件などと関連づけながら講義する。各時代の特色とその変遷の総合的な考察を通じて日本社会の特質を考える。授業は講義を中心に進め、基本的な知識の習得につとめるとともに、近年の日本史研究の成果も紹介し、より専門的な事柄についても学ぶ。史料や文献の調べ方、読み方、および文献・史料に基づいて歴史像を構築する力を養うために、授業中に、適宜、史料を提示し、解読を行う。毎回、リアクションペーパーを提出してもらう。毎回、授業の始めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーのいくつかを紹介し、意見交換を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	本授業のガイダンス・無文字社会の特質	授業の進め方／「歴史総合」・「日本史探究」が目指すもの／日本列島への人類の到来／遺跡から見た旧石器時代／遺跡から見た縄文時代／地域間ネットワーク
2	古墳の創出と展開	鉄がもたらす社会の変化／古墳を読み解く／副葬品が意味するもの／巨大古墳はなぜつくられたのか
3	律令国家の成立と展開	乙巳の変／壬申の乱と天皇権力の高まり／大宝律令と古代官僚制／地方行政と民衆の負担／「大化の改新」の評価をめぐって
4	摂関政治と地方の争乱	摂関政治の成立と構造／地震・噴火・洪水の脅威／東国の自立と武士の成長
5	鎌倉幕府と中世国家	東国国家の成立／幕府と御家人／承久の乱／執権政治の確立／武士の生活
6	織豊政権	戦国大名の領国経営／太閤検地／刀狩令／自検断権と自力救済権／惣無事令
7	東アジアと近世社会	「鎖国」とは？ ／通商国オランダ・中国／通信国　朝鮮／琉球と蝦夷／日本型華夷秩序の成立
8	近世社会の成熟	人命尊重から見た近世社会／綱吉政権と捨子政策／吉宗と医療情報／寛政改革と町会所／天保の飢饉と救済／名君の時代
9	グローバルヒストリーで読み解く幕末	ペリー来航／日米情報比較／幕末の留学生／戊辰戦争と西洋列強／シュネル兄弟と東北諸藩
10	近代国家の成立	近世国家の解体／国民の形成／憲法制定と国会開設／条約改正／日清・日露戦争
11	戦間期の日本	大正政変／第一次世界大戦／政党政治の展開／ワシントン体制と協調外交／関東大震災と復興
12	満州事変から日中戦争へ	満蒙権益をめぐる外交戦略と認識の相違／満州事変／国連脱退の経緯／盧溝橋事件
13	アジア・太平洋戦争	開戦当時の世論／開戦決定の背景／戦局の展開／戦争の諸相
14	占領から国際社会への復帰	占領政策/日本国憲法制定をめぐる動き/サンフランシスコ条約と日米安全保障条約

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①レポートの作成。
②授業中に提示した参考文献に目を通しておくこと。
③図書館や博物館などを利用して史料を収集・文献の調査などを行い、理解を深め、教案（授業案）作成にむけた準備を行う。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回、学習支援システムに資料と授業の内容（講義内容をまとめたもの・レジメ）をアップしておきますので、必ず確認して下さい。

【参考書】
『日本の時代史』全30巻（吉川弘文館、2003～2004年）、歴史科学協議会編『歴史の「常識」をよむ』（東京大学出版会、2015年）、歴史教育者協議会編『日本社会の歴史』上・下（大月書店、2012年）、『岩波講座　日本歴史』全22巻（岩波書店、2013～2015年）

【成績評価の方法と基準】
期末試験　６０％
課題レポート提出　３０％
平常点　　１０％

【学生の意見等からの気づき】
日本史の専門用語や学説について、できるだけ、わかりやすい説明を行います。
基本的な文献の探し方、教案（授業案）作成に必要な文献についても紹介します。

【その他の重要事項】
本授業は教職課程を履修している学生を対象にしていますが､日本史・歴史学に興味のある学生を歓迎します。

【Outline (in English)】
We aim to acquire the knowledge necessary for teaching Japanese history at junior and senior high schools, how to investigate history, and how to view and think about historical things. Taking up the theory underlying textbook descriptions, reading the related historical materials, grasping the big flow of Japanese history and thinking about the significance of learning history.

日本史Ｂ

岩橋　清美

配当年次／単位：1～4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は中学校社会科・高等学校地理歴史の教員を目指すにあたり、必要な専門的知識の習得と諸資料を用いて歴史像を構築する力を身につける。教科書記述のもとになった学説および近年の新しい研究成果を紹介しながら、日本史の大きな流れを把握するとともに、歴史を学ぶ意義を考える。

【到達目標】
日本史に関する基礎的な知識と歴史学の方法論を身につける。
先行論文や諸資料などを読み解きながら歴史像を構築できるようになる。
大きな歴史の流れを理解すると同時に、各時代の特質をとらえられるようになる。指導案（教案）作成に必要な知識やスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
本授業では、原始・古代から近現代にいたる歴史の展開を、社会経済史・文化史を中心にしながら国際環境や地理的条件などと関連づけて考える。各時代の特色とその変遷の統合的な考察を通じて、日本の伝統文化の形成過程を学ぶ。教科書記述の基盤となっている学説の紹介、さらには近年の新しい研究成果も取り上げ、一つの歴史事実に対して様々な見方や考え方があることを学ぶ。また、文献史料だけではなく、絵画や地図・写真などを用いて文化財・文化遺産に関する理解を深める。毎回、リアクションペーパーを提出してもらう。毎回、授業の始めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーのいくつかを紹介し、意見交換を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・日本文化の黎明	授業の進め方／「歴史総合」・「日本史探究」がめざすもの／縄文土器が示す心性／鉄の需要と社会の変化／古墳の発生／埋葬品を読みとく
2	律令国家と天平文化	7～9世紀の東アジア情勢と遣唐使／国家仏教の展開／正倉院宝物にみる東西交流
3	摂関政治と国風文化	災害と疫病／浄土の信仰と末法思想／貴族の生活／都市のくらし・村のくらし
4	中世社会と民衆	百姓の権利／紀伊国阿河荘民の訴状に見る村社会／「一遍上人絵伝」にみる都市の賑わい／女性と子ども
5	室町幕府と東アジア	前期倭寇と明の海禁／室町幕府と朝鮮・明との外交／足利義満と勘合貿易／足利義教の遣明船再興／大内氏の貿易独占／琉球と蝦夷ヶ島
6	村から見た戦国の争乱	『雑兵物語』が伝える戦場／商人と情報操作／百姓の平和／刀狩令／喧嘩停止令／海賊停止令
7	村から見た近世社会	百姓は農民か？ ／自然環境と近世社会／山村の暮らし／漁村の暮らし/物流ネットワークの拡大／農村文化の興隆
8	都市から見た近世社会	巨大都市「江戸」／町役人と町の運営／町会所の設置／大店の世界／浮世絵に見る江戸の年中行事と庶民
9	幕末の民衆文化	メディアが伝える民衆の心性／安政江戸大地震と鯰絵／コレラ・麻疹の流行と錦絵／世直しの思想
10	国民国家の形成	近代国民国家とは？ ／文明開化と殖産興業／教育の普及／女子教育の展開／文化史から見た近代天皇制
11	市民生活の変容と大衆文化	大戦景気と恐慌／社会運動の広がり／都市化の進展と地域格差／大衆文化の展開／女性の社会進出／関東大震災
12	アジア・太平洋戦争	兵士たちの戦争／勤労動員日誌にみるこどもたち／満州開拓民の暮らし／「加害」の実態／エゴ・キュメントの可能性
13	占領期の日本	民主化政策の諸相／生活の混乱と闇市／言論・思想の民主化
14	高度経済成長の時代	朝鮮特需と経済復興／高度経済成長／大衆消費社会の出現／高度経済成長のひずみ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①レポートの作成
②授業時に提示した参考文献に目を通しておくこと。
③図書館等を利用して史料の収集・文献の調査などを行い、理解を深め、教案（授業案）作成に向けた準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムに資料と授業の内容（講義内容をまとめたもの・レジメ）をアップしておきますので、確認してください。

【参考書】
『日本の時代史』全30巻（吉川弘文館、2003～2004年）、歴史科学協議会編『歴史の「常識」を読む』（東京大学出版会、2015年）、歴史教育者協議会編『日本社会の歴史』上・下（大月書店、2012年）、『岩波講座　日本歴史』全22巻（岩波書店、2013～2015年）。

【成績評価の方法と基準】
期末試験　６０％
課題レポート提出　３０％
平常点　１０％

【学生の意見等からの気づき】
歴史学の専門用語や研究史等で難解なものがあるので、わかりやすく説明します。
文献や史料の探し方について指導し、教案（授業案）作成にむけた知識とスキルの習得をめざします。

【その他の重要事項】
本授業は教職課程を履修している学生を対象にしていますが、日本史・歴史学に興味を持っている学生を歓迎します。

【Outline (in English)】
We aim to acquire the knowledge necessary for teaching Japanese history at junior and senior high schools, how to investigate history, and how to view and think about historical things. Taking up the theory underlying textbook descriptions, reading the related historical materials, grasping the big flow of Japanese history and thinking about the significance of learning history.

世界史Ａ

藻谷　悠介

サブタイトル：**外国史Ａ**
配当年次／単位：**1～4年次／2単位**
開講時期：**春学期授業**/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、中学校・高等学校の授業を念頭に、世界の歴史を学ぶことの意義、方法、そして楽しさについて受講生と共に考える。また、2022年から新たに始まった「歴史総合」と「世界史探究」においては、自らが主体となり「問い」を考えることが重要となる。そのため、史料を用いた世界史教育の方法や史料の読解スキルについても実践的に学ぶ。今学期は「思想・学知の伝播、人の移動・交流」を主題とし、西アジアに軸足を置きつつ、近代までの政治・社会・経済の変化、思想・文化の展開を学ぶ。

【到達目標】
この授業は、高校新学習指導要領を踏まえ、歴史的思考力を養う歴史教育の方法を身につけることを目標とする。具体的には、（1）歴史への関心を引き出す方法、（2）史料を使った歴史教育の方法、（3）世界史の大きな流れの理解、の3点である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この授業では、講義を中心とし、授業の状況に応じてディスカッションを組み合わせる。各回ごとにあらかじめ史料を配布し、新科目「歴史総合」と「世界史探究」を念頭に、史料の読解・解釈を中心に進める。出席確認を兼ねて、毎回、リアクション・ペーパーの提出を求める。リアクション・ペーパーへのフィードバックは、次回授業時に口頭で行う。
学期末に期末試験を行なう。持込可の形式を予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業概要の説明。
第2回	歴史教育の移り変わり	「世界史」科目の変遷と新学習指導要領の理念について。
第3回	史料から考える世界史	史料を使った世界史教育の方法について。
第4回	西アジアと世界史	地域区分のあり方、西アジアの地誌。
第5回	古代世界と人の移動・交流	古代世界における交易と戦争、大帝国の成立。
第6回	キリスト教の成立と発展	ユダヤ教との関係、ヨーロッパ世界への影響。
第7回	イスラーム教の成立と伝播	西アジアとイスラーム教、広域への伝播の要因。
第8回	交易・巡礼・移住	移動の動機、移動の手段・経路・障壁。
第9回	モンゴルの大帝国	東西世界の接触、社会制度の波及。
第10回	大交易・大交流の時代	アジア交易の世界、ヨーロッパの海洋進出。
第11回	西アジアの諸帝国	オスマン帝国、サファヴィー朝、ムガル帝国。
第12回	主権国家体制の成立	蘭仏英の台頭、ルネサンスや宗教改革との繋がり。
第13回	科学革命と啓蒙思想	科学技術の発展と啓蒙思想家の活動、西アジアとの接続。
第14回	まとめ	今学期の内容を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習として、あらかじめ配布した史料を読み込み、指示に応じてディスカッションに備えておくことが求められる。また、授業前後に高校で使用した世界史教科書もあわせて読んでおくことを推奨する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。適宜配布する。

【参考書】
・各自の高等学校世界史教科書
・荒川正晴ほか編『岩波講座　世界歴史01　世界史とは何か』岩波書店、2021年
・金沢周作監修『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房、2020年
・歴史学研究会編『史料から考える世界史20講』岩波書店、2014年
・歴史学研究会編『「歴史総合」をつむぐ　新しい歴史実践へのいざない』東京大学出版会、2022年
・吉澤誠一郎監修『論点・東洋史学』ミネルヴァ書房、2022年
・山口みどりほか編著『論点・ジェンダー史学』ミネルヴァ書房、2023年
その他、授業内でその都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】
（1）授業への取り組み（ディスカッションへの参加、リアクション・ペーパー含む）60%（2）期末試験40%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバック不可。

【学生が準備すべき機器他】
授業内で学習支援システムを使用する場合があるので、ノートパソコンやタブレットなどの持参を推奨する。

【その他の重要事項】
（1）この授業は教職資格取得を目指す学生を対象とするが、大学で世界史を学び直したいと考える受講者も歓迎する。
（2）この授業では出席を重視する。教育実習、介護実習、対外試合等、正当な理由で欠席する場合は、できるだけ事前に連絡すること。やむを得ない場合は、事後でも可。
（3）秋学期開講の「世界史B」も履修することを推奨する。

【Outline (in English)】
【Course outline)】
The purpose of this class is to think and learn together with the students about (1) the significance, (2) the methods, (3) the fun of studying world history.
【Learning Objectives】
The course aims to enable students to:
(1) how to draw out students' interest in history,
(2) how to use historical documents in history education,
(3) how to understand the major trends in world history.
【Learning activities outside of classroom】
240 minutes per week.
【Grading Criteria /Policy】
(1) Class work (including response sheets): 60%(2) Term Exam: 40%.

世界史Ｂ

藻谷　悠介

サブタイトル：**外国史Ｂ**
配当年次／単位：**1〜4年次／2単位**
開講時期：**秋学期授業**/Fall
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、中学校・高等学校の授業を念頭に、世界の歴史を学ぶことの意義、方法、そして楽しさについて受講生と共に考える。また、2022年から新たに始まった「歴史総合」と「世界史探究」においては、自らが主体となり「問い」を考えることが重要となる。そのため、史料を用いた世界史教育の方法や史料の読解スキルについても実践的に学ぶ。今学期は「制度・技術の波及、統治の拡大・変容」を主題とし、西アジアに軸足を置きつつ、近代以降の世界各地の政治・社会・経済の変化、思想・文化の展開を学ぶ。

【到達目標】
この授業は、高校新学習指導要領を踏まえ、歴史的思考力を養う歴史教育の方法を身につけることを目標とする。具体的には、（1）歴史への関心を引き出す方法、（2）史料を使った歴史教育の方法、（3）世界史の大きな流れの理解、の３点である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この授業では、講義を中心とし、授業の状況に応じてディスカッションを組み合わせる。各回ごとにあらかじめ史料を配布し、新科目「歴史総合」と「世界史探究」を念頭に、史料の読解・解釈を中心に進める。出席確認を兼ねて、毎回、リアクション・ペーパーの提出を求める。リアクション・ペーパーへのフィードバックは、次回授業時に口頭で行う。
学期末に期末試験を行なう。持込可の形式を予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業概要の説明。
第2回	「世界史」科目の誕生と新学習指導要領	「世界史」科目の変遷と新学習指導要領の「歴史的思考力」について。
第3回	近代化への問い	改革、軍隊、制度、技術、教育、労働、権利。
第4回	産業革命と欧米国民国家の形成	産業革命の背景、欧米の政治変動。
第5回	アジア諸地域の動揺	アジア諸地域の政治変容、改革の機運。
第6回	エジプトの近代	ムハンマド・アリー朝の支配、国民国家エジプトへの道。
第7回	帝国主義と民族運動	列強による世界分割、アジアにおける民族運動。
第8回	第一次世界大戦と大衆社会	ヴェルサイユ体制、大衆の地位と生活様式の変化。
第9回	第二次世界大戦と新しい国際秩序	ファシズムの台頭、太平洋戦争、戦後の国際秩序。
第10回	冷戦と第三世界の台頭	超大国と集団防衛体制、第三世界の連携と試練。
第11回	グローバル化する世界と日本	経済のグローバル化、地域紛争の激化、日本の立ち位置。
第12回	歴史のなかの家族と女性	ヨーロッパとアジアの比較、近代以降の展開。
第13回	今日的課題を考える	ウクライナ侵攻、パレスチナ問題。
第14回	まとめ	今学期の内容を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習として、あらかじめ配布した史料を読み込み、指示に応じてディスカッションに備えておくことが求められる。また、授業前後に高校で使用した世界史教科書もあわせて読んでおくことを推奨する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。適宜配布する。

【参考書】
・各自の高等学校世界史教科書
・荒川正晴ほか編『岩波講座　世界歴史 01　世界史とは何か』岩波書店、2021年
・金沢周作監修『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房、2020年
・歴史学研究会編『史料から考える世界史20講』岩波書店、2014年
・歴史学研究会編『「歴史総合」をつむぐ　新しい歴史実践へのいざない』東京大学出版会、2022年
・吉澤誠一郎監修『論点・東洋史学』ミネルヴァ書房、2022年
・山口みどりほか編著『論点・ジェンダー史学』ミネルヴァ書房、2023年
その他、授業内でその都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】
（1）授業への取り組み（ディスカッションへの参加、リアクション・ペーパー含む）60%（2）期末試験40%。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバック不可。

【学生が準備すべき機器他】
（1）この授業は教職資格取得を目指す学生を対象とするが、大学で世界史を学び直したいと考える受講者も歓迎する。
（2）この授業では出席を重視する。教育実習、介護実習、対外試合等、正当な理由で欠席する場合は、できるだけ事前に連絡すること。やむを得ない場合は、事後でも可。
（3）春学期開講の「世界史A」も履修することを推奨する。

【その他の重要事項】
（1）この授業は教職資格取得を目指す学生を対象とするが、大学で世界史を学び直したいと考える受講者も歓迎する。
（2）この授業では出席を重視する。教育実習、介護実習、対外試合等、正当な理由で欠席する場合は、できるだけ事前に連絡すること。やむを得ない場合は、事後でも可。
（3）春学期開講の「世界史A」も履修することを推奨する。

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to think and learn together with the students about (1) the significance, (2) the methods, (3) the fun of studying world history.
【Learning Objectives】
The course aims to enable students to:
(1) how to draw out students' interest in history,
(2) how to use historical documents in history education,
(3) how to understand the major trends in world history.
【Learning activities outside of classroom】
240 minutes per week.
【Grading Criteria /Policy】
(1) Class work (including response sheets): 60%(2) Term exam: 40%.

人文地理学Ⅰ

朴　宗玄

サブタイトル：**人文地理学A**
配当年次／単位：**2〜4年次／2単位**
開講時期：**春学期授業**/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、国内外の地域を事例に、人文地理学の基礎概念・方法論に関する知識の習得を目標とする。

【到達目標】
授業の到達目標は、日本をはじめ、世界各国の地図や統計資料などを通じて、人文地理学の基礎概念・方法論を学習するとともに、人文地理学の研究方法と視点を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は教室での講義を基本とし、毎回の授業でリアクションペーパーの提出を求める。学期末にはまとめとして試験を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	地理学の分類方法と人文地理学の課題・方法論
2	産業地理学Ⅰ	工業都市の変容と日本工業の立地展開
3	産業地理学Ⅱ	工業集積地域と工業機能の変容
4	産業地理学Ⅲ	電気機械工業の立地展開
5	産業地理学Ⅳ	インド・韓国の工業立地展開
6	商業地理学Ⅰ	コンビニエンスストアの立地展開
7	商業立地Ⅱ	百貨店立地展開
8	商業立地Ⅲ	都心・郊外の立地展開
9	都市地理学Ⅰ	都市機能と都市空間構造
10	都市地理学Ⅱ	都市発展と都市問題
11	都市地理学Ⅲ	都市分類方法
12	行政地理学Ⅰ	行政と生活
13	行政地理学Ⅱ	市町村合併と通勤圏
14	まとめと試験	これまでの内容の復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は求めない。毎講義ごとに前回の復習を簡単に行うが、理解を深めるためにも、各自が積極的に復習をしてほしい。本授業の復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
竹中 克行「人文地理学への招待」ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
毎回のリアクションペーパー(50%)、学期末の試験(50%)。

【学生の意見等からの気づき】
とくになし

【学生が準備すべき機器他】
とくになし

【Outline (in English)】
This course deals with human geography.
The goal of this course is to provide students with an understanding of the basic human geographical concepts, viewpoints and phenomena.
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Weekly quizzes: 50%
Final Exam: 50%

人文地理学Ⅱ

朴　宗玄

サブタイトル：**人文地理学B**
配当年次／単位：**2〜4年次／2単位**
開講時期：**秋学期授業**/Fall
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、国内外の地域を事例に、人文地理学の基礎概念・方法論に関する知識の習得を目標とする。

【到達目標】
授業の到達目標は、日本をはじめ、世界各国の地図や統計資料などを通じて、人文地理学の基礎概念・方法論を学習するとともに、人文地理学の研究方法と視点を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は教室での講義を基本とし、毎回の授業でリアクションペーパーの提出を求める。学期末にはまとめとして試験を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	地理学の分類方法と人文地理学の課題・方法論
2	農業地理学Ⅰ	都市と農業立地論
3	農業地理学Ⅱ	大都市近郊の農業
4	農業地理学Ⅲ	地方の農業経営
5	農業地理学Ⅳ	食料供給体系と酒造生産構造
6	観光地理学Ⅰ	観光・ツーリズム概念と構造
7	観光地理学Ⅱ	エコツーリズムと地域的展開
8	環境地理学Ⅰ	地域変容と景観・環境
9	環境地理学Ⅱ	現代社会のごみ問題と環境
10	福祉地理学Ⅰ	地域福祉活動
11	福祉地理学Ⅱ	高齢者問題と生活環境
12	福祉地理学Ⅲ	介護施設と高齢者問題
13	福祉地理学Ⅳ	高齢者の経済活動と地域特性
14	まとめと試験	これまでの内容の復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は求めない。毎講義ごとに前回の復習を簡単に行うが、理解を深めるためにも、各自が積極的に復習をしてほしい。本授業の復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
竹中 克行「人文地理学への招待」ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
毎回のリアクションペーパー(50%)、学期末の試験(50%)。

【学生の意見等からの気づき】
とくになし

【学生が準備すべき機器他】
とくになし

【Outline (in English)】
This course deals with human geography.
The goal of this course is to provide students with an understanding of the basic human geographical concepts, viewpoints and phenomena.
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Weekly quizzes: 50%
Final Exam: 50%

自然地理学Ⅰ

山川　信之

サブタイトル：**自然地理学A**
配当年次／単位：**2〜4年次／2単位**
開講時期：**春学期授業**/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、中学校課程および高校課程で扱う自然地理学分野について学習する。自然地理学は、自然環境の諸要素である地形、気候、植生、土壌の成り立ちを明らかにする学問である。その中から自然地理学Ⅰでは、おもに気候と気候に関連した土壌および植生帯について学習する。また、気象災害にも目を向け、防災に対する意識を身に着ける。

【到達目標】
以下の3点を到達目標とする。
①中学課程および高校課程の自然地理的分野の学習指導に対応できる知識と能力を身につける。
②気候の成り立ちと世界及び日本の気候環境に関する基本的な知識を身につける。
③自然地理学的立場から防災や減災についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
教員による講義を中心とする。講義では学習資料とパワーポイントを使いながら毎回の講義内容の基礎知識や重要事項の整理を行う。学習資料は、学習支援システムの教材欄にアップする。毎回配布する学習資料はワークシートになっているのでフィードバックとして次回の学習資料にて解説と解答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	自然環境の捉え方	ガイダンスとしてさまざまな自然景観や自然現象を取り上げ、それがどのようにして成り立っているのかについて学習する。それにより自然環境は、一つの要素だけで成り立っているのではなく、様々な要素から成り立っていることを理解する。
2	気候の成り立ち	気温、降水量、風という気候要素に対し、緯度や隔海度、標高、海流、地形などの気候因子にどのような影響を及ぼすかについて学習する。それによりさまざまな気象現象や気候が生じることを理解する。
3	ケッペンの気候区分と気候区分の基本的な考え方	中高の教育課程で用いられるケッペンの気候区分について学習する。それによりケッペンの気候区分の基本的な考え方として気温と降水量に加え、植生帯も気候区分の重要な指標になる事ことを理解する。
4	熱帯・乾燥帯の気候	熱帯および乾燥帯に属するさまざまな気候について学習する。それにより熱帯および乾燥帯の気温、降水量の分布とそれを規定する要因およびそれぞれの気候環境下でみられる自然の特色について理解する。
5	温帯・亜寒帯・寒帯の気候	温帯、亜寒帯および寒帯に属するさまざまな気候について学習する。それにより温帯、亜寒帯および寒帯の気候区の気温、降水量の分布とそれを規定する要因やそれぞれの気候環境下でみられる自然の特色について理解する。
6	日本の気候と気候区分	日本の気候と気候区分について学習する。それにより日本の気候の全般的な特色や各気候区の特色および日本の気候に影響を与える気団や気象現象について理解する。
7	気象災害	日本における台風、雪崩、集中豪雨などの気象災害について学習する。また、異常気象や都市気候についても言及する。それにより気象災害がどのようなメカニズムで発生するのかについて理解する。
8	第四紀の気候変動	第四紀に起きた氷河期や小氷期、亜間氷期の気候変動でどのような環境が生じたのかについて学習する。それによって現在の自然環境が、気候変動を経て成り立っていることを理解する。
9	土壌の形成過程	土壌の生成過程について学習する。それにより土壌の生成には基盤岩の風化だけでなく、生物的および化学的変質を受けながら層位に分化した土壌層を形成することを理解する。また、成帯土壌の生成過程では、気候や植物の影響が大きいことを理解する。
10	熱帯・乾燥帯の土壌	熱帯および乾燥帯に分布する成帯土壌と成帯内性土壌（間帯土壌）について学習する。それにより熱帯および乾燥帯に分布するさまざまな土壌の性質と特徴について理解する。
11	温帯・亜寒帯・寒帯の土壌	温帯、亜寒帯および寒帯に分布する成帯土壌と成帯内性土壌（間帯土壌）について学習する。それにより温帯、亜寒帯および寒帯に分布するさまざまな土壌の性質と特徴について理解する。
12	日本の土壌	日本に分布する土壌とその特質について学習する。それにより日本の土壌分布は、複雑な地形と多様な気候環境および異なる性質の母材によって規定されていることを理解する。
13	日本の植生帯	日本の植生帯とその成り立ちについて学習する。それにより日本の植生帯は気候環境に対応した水平分布と標高によって成り立つ垂直分布があることを理解する。
14	試験・まとめと解説	前期のまとめと理解度の確認として試験を行う。また、試験後にはフィードバックとして解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業で配布する学習資料の最後に復習のためのワークがあるので、それを完成させる。フィードバックとして次回に配布する学習資料に解答と解説を掲載する。予習については、各回の授業の終わりに指示する。復習と予習に要する時間は各2時間、計4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。教科書の代わりに毎回の授業で学習資料を配布し、学習資料に基づいて授業を行う。

【参考書】
「環境気候学」　吉野正敏・福岡義隆編著，東京大学出版会。
「最新気象百科」　ドナルド・アーレン, 丸善。
「日本の気候景観」増補版　青山高義他編，古今書院。
「日本気候百科」　日下博幸・藤部文昭編，丸善出版。
「気象・防災情報の見方と使い方」　平井信行，第一法規。
「自然地理学概論」　高橋日出夫・小泉武栄編著，朝倉書店
「土壌地理学序説」　松井健，築地書館

【成績評価の方法と基準】
①平常点30％
毎回の授業で配布する学習資料がワークシートになっています。出席は毎回取りますが、ワークシートを完成させ、提出することが平常点となります。
②試験70％
第14回目の授業ですべての授業内容を出題範囲とした試験を行います。試験終了後、フィードバックとして解答と解説を行います。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容に対する質問や要望がある場合は、出席票の裏面に書いてください。次回の授業の最初に回答します。

【学生が準備すべき機器他】
機器等の準備は必要ありませんが、高校で使用した地図帳があれば持参してください。

【その他の重要事項】
授業内容の構成から、前期の自然地理学Ⅰを受講した者は、後期の自然地理学Ⅱを合わせて受講することが望ましい。また、授業の展開によっては多少の授業計画の変更があることを了解してください。

【Outline (in English)】
In this class, students will learn about the physical geography fields of junior high school and high school courses. Physical geography is a discipline that landform, climate, vegetation, and soil, which are various elements of the natural environment. In physical geography I, students learn about soils and vegetation zones, which are mostly related to climate and climate. In addition, we will look at weather disasters and acquire awareness of disaster prevention.
The three goals to be achieved are as follows.
(1) Acquire the knowledge and ability to respond to learning guidance in the field of natural geography in junior high and high school courses.
(2) Acquire basic knowledge of the formation of topography and the natural environment of the world and Japan.

(3) To deepen understanding of disaster risk reduction and environmental conservation in the world and Japan from a physical geographical perspective.
Classes are conducted mainly by lectures by faculty members. In the lectures, learning materials and PowerPoint are used to organize the basic knowledge and important matters of each lecture content. The learning materials will be uploaded to the teaching materials column of the learning support system. The study materials distributed each time are worksheets, so we will explain and answer them in the next study material as feedback.
At the end of the study materials distributed in each class, there is a review work, so complete it. Post answers and explanations in the next study material as feedback. Instructions will be given at the end of each class, but study materials will be delivered by the day before the class, so be sure to read them as preparation. The standard time required for review and preparation is 2 hours each, for a total of about 4 hours.
The grading method is as follows.
(1) Normal point 10%
The study materials distributed in each class are worksheets. Attendance is required every time, but completing the worksheet is the usual goal.
(2) Interim issues: 30%
Around the eighth lecture, you will be given an intermediate assignment based on the content of the lecture so far.
(3) Test 60%
In the 14th class, we will conduct an examination with all class contents as the scope of the questions. After the exam, we will give you answers and explanations as feedback. However, depending on the status of the new coronavirus infection, we may switch to a report.
(4) Standards
As a general rule, we use the raw score standard (absolute evaluation) indicated by the university.

自然地理学Ⅱ

山川　信之

サブタイトル：**自然地理学B**
配当年次／単位：**2〜4年次／2単位**
開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、中学校課程および高校課程で扱う自然地理学分野について学習する。自然地理学は、自然環境の諸要素である地形、気候、植生、土壌の成り立ちを明らかにする学問である。その中から自然地理学Ⅱでは、おもに地形の成り立ちについて学習する。また、地震や火山による災害、環境破壊にも目を向け、防災や環境問題に対する意識を身に着ける。

【到達目標】
①中学および高校課程における自然地理的分野の学習指導に対応できる知識と能力を身につける。
②地形の成り立ちと世界および日本の自然環境に関する基本的な知識を身につける。
③自然地理学的立場から世界および日本の防災や環境保全についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
教員による講義を中心とする。講義では学習資料とパワーポイントを使いながら毎回の講義内容の基礎知識や重要事項の整理を行う。学習資料は、学習支援システムの教材欄にアップする。毎回配布する学習資料はワークシートになっているのでフィードバックとして次回の学習資料にて解説と解答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	世界の大地形	ガイダンスとして大陸移動や大山脈の形成など地球内部のエネルギーによって起こるさまざまな現象について学習する。それにより地球の陸地が3つの形成時代の異なる地形に分けられることについて理解する。
2	地震と災害	地震が引き起こされるメカニズムと災害について学習する。それにより日本が変動帯に位置し、世界の中でも地震による災害が多い国であることを理解する。
3	火山がつくる地形	火山の噴火形式や火山がつくるさまざまな地形について学習する。また、火山の噴火によって起こるさまざまな災害について学習する。それにより日本が変動帯に位置し、世界有数の火山国であることを理解する。
4	河川がつくる地形	河川の流域に形成される河岸段丘や扇状地、三角州などの地形や氾濫原の微地形について学習する。それにより河川の地形形成作用と人々が地形を巧みに利用して生活してきたことを理解する。
5	海岸地形	砂浜海岸やリアス海岸などの海岸地形について学習する。また、人々がそれらの地形をどのように利用してきたかについても言及する。それにより海岸地形の形成過程や人々がそれらの地形を巧みに利用して生活してきたことを理解する。
6	氷河時代の環境と氷河地形	第四紀の気候変動の中で起こったヴュルム氷期に焦点を当て、氷河作用によって形成された地形や氷河時代の環境について学習する。それにより氷河時代の環境変化が現在の自然環境に大きな影響を及ぼしたことを理解する。
7	永久凍土と周氷河環境	北極海沿岸や高山帯における地形形成作用と永久凍土がつくる地形について学習する。それにより地球上には周氷河帯とよばれる特殊な地形形成作用が働く地域があることを理解する。
8	乾燥帯の地形	砂漠の形態や砂漠に見られる微地形について学習する。また、乾燥帯での人々の生活と関連付けて砂漠化などの環境問題にも言及する。それによって乾燥帯における地形形成のメカニズムや乾燥帯で暮らす人々の生活について理解する。
9	石灰岩がつくるカルスト地形	石灰岩の溶食によって形成されるさまざまな地形について学習する。また、石灰岩地域に分布する土壌についても言及する。それによって石灰岩の溶食は異なる気候環境では個別に働き、その気候環境特有のカルスト地形が形成されることを理解する。
10	年代を測る・古環境を知る	火山灰や炭素の同位体を用いた編年法や花粉分析、プラントオパール分析など古環境の復元方法について学習する。それにより地形の形成時代や古環境が復元されていることを理解する。
11	地球温暖化と自然環境への影響	地球温暖化のメカニズムと地球温暖化によって起こるさまざまな自然環境への影響について学習する。それにより温暖化を防止することが地球レベルの重要な課題であることを理解する。
12	人為が引き起こすさまざまな環境問題	熱帯雨林の縮小と砂漠化、過度な灌漑による塩地化、自然改変によるアラル海の縮小など人間の経済活動によって引き起こされたさまざまな環境問題について学習する。それにより人為的影響が自然環境の破壊につながっていることについて理解する。
13	中高における自然地理学の取り扱い方の違いと自然地理学の課題	新課程における中学と高校課程での自然地理学的分野の扱い方について学習する。また、教員に自然地理学的素養が必要な理由について東日本大震災で起きた事件などを例に学習する。それにより生徒のみならず教員にも防災意識が必要であることを理解する。
14	試験・まとめと解説	後期のまとめと理解度の確認として試験を行う。また、試験後にはフィードバックとして解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業で配布する学習資料の最後に復習のためのワークがあるので、それを完成させる。フィードバックとして次回に配布する学習資料に解答と解説を掲載する。予習については、各回の授業の終わりに指示する。復習と予習に要する時間は各2時間、計4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。代わりに毎回の授業で配布する学習資料をもとに授業を行う。

【参考書】
『東京の自然史』　貝塚爽平著，講談社学術文庫
『技術者のための地形学入門』　熊木洋太他編著，山海堂
『日本地誌1・日本総論Ⅰ（自然編）』　中村和郎他編，朝倉書店
『地形がわかるフィールド図鑑』　青木正博他著，誠文堂新光社
『写真と図で見る地形学』　貝塚爽平他編，東京大学出版会
『日本列島100万年史』　山崎晴雄・久保純子，講談社ブルーバックス
『自然地理学概論』　高橋日出夫・小泉武栄編著　朝倉書店

【成績評価の方法と基準】
①平常点30％
出席は毎回取ります。毎回の授業でワークシートを配布します。ワークシートを完成させ、提出することが平常点となります。
②試験70％
第14回目の授業ですべての授業内容を出題範囲とした試験を行います。試験終了後、フィードバックとして解答と解説を行います。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容に対する質問や要望があれば出席票の裏面に記入して下さい。次の授業の最初に回答します。

【学生が準備すべき機器他】
機器の準備は特にありません。高校で使った地図帳があれば持参してください。

【その他の重要事項】
授業内容の構成から前期の自然地理学Ⅰと合わせて受講することを推奨します。

【Outline (in English)】
In this class, students will learn about the physical geography fields of junior high school and high school courses. Physical geography is a discipline that landform, climate, vegetation, and soil, which are various elements of the natural environment. In Physical Geography II, students will learn mainly about the origins of the landform. In addition, he will focus on disasters caused by earthquakes and volcanoes, as well as environmental destruction, and acquire awareness of disaster prevention and environmental issues.
The three goals to be achieved are as follows.

(1) Acquire the knowledge and ability to respond to learning guidance in the field of natural geography in junior high and high school courses.
(2) Acquire basic knowledge of the formation of topography and the natural environment of the world and Japan.
(3) To deepen understanding of disaster risk reduction and environmental conservation in the world and Japan from a physical geographical perspective.
Classes are conducted mainly by lectures by faculty members. In the lectures, learning materials and PowerPoint are used to organize the basic knowledge and important matters of each lecture content. The learning materials will be uploaded to the teaching materials column of the learning support system. The study materials distributed each time are worksheets, so we will explain and answer them in the next study material as feedback.
At the end of the study materials distributed in each class, there is a review work, so complete it. Post answers and explanations in the next study material as feedback. Instructions will be given at the end of each class, but study materials will be delivered by the day before the class, so be sure to read them as preparation. The standard time required for review and preparation is 2 hours each, for a total of about 4 hours.
The grading method is as follows.
(1) Normal point 10%
The study materials distributed in each class are worksheets. Attendance is required every time, but completing the worksheet is the usual goal.
(2) Interim issues: 30%
Around the eighth lecture, you will be given an intermediate assignment based on the content of the lecture so far.
(3) Test 60%
In the 14th class, we will conduct an examination with all class contents as the scope of the questions. After the exam, we will give you answers and explanations as feedback. However, depending on the status of the new coronavirus infection, we may switch to a report.
(4) Standards
As a general rule, we use the raw score standard (absolute evaluation) indicated by the university.

地誌Ⅰ

濱田　博之

サブタイトル：**地誌A**
配当年次／単位：**2〜4年次／2単位**
開講時期：**春学期授業**/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本各地の特徴的な都市に焦点をあて、その成り立ちや構造から生活や文化、自然環境などの多様性についての理解を深める。

【到達目標】
日本各地の都市の文化的・自然的景観についてその多様性を把握する。さらにはそこで発生している諸課題について、いかなる背景によってもたらされたものかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行う。スライドとプリントを利用し、視覚的にも理解しやすいものとしたい。まとめとして毎回の授業においてリアクションペーパーの提出を求め、翌回の授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要と基本的な都市の概念についての解説
2	都市の成立	海外の都市を事例とした都市の発生過程
3	都市計画とは何か	海外の都市を事例とした近現代における都市計画の成立
4	日本の都市(1)横浜	港湾都市の成立と発展過程
5	日本の都市(2)多摩	ニュータウンの成立と発展過程
6	日本の都市(3)横須賀	軍事機能を中心とした都市の発展
7	日本の都市(4)つくば	学術研究都市の開発
8	日本の都市(5)広島	戦災からの復興と発展
9	日本の都市(6)神戸	震災からの復興と発展
10	日本の都市(7)札幌	広域中心都市の成立
11	日本の都市(8)延岡	企業城下町の成立
12	日本の都市(9)夕張	縮小する鉱山都市
13	日本の都市(10)富山	コンパクトシティの展開
14	まとめ	日本の都市開発の今後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
普段から新聞やニュースなどに注意し、日本の様々な都市における情勢についての認識を深めてほしい。また授業で扱った都市や関連する都市について、個々で地図を確認するなどして理解を深めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
都市地理学に関する基本的な文献として、
富田和暁・藤井正(2019)『図説 大都市圏』古今書院
藤塚吉浩・高柳長直編(2016)『図説 日本の都市問題』古今書院
稲垣稜(2019)『都市の人文地理学』古今書院
などが参考になる。

【成績評価の方法と基準】
毎回のリアクションペーパー(50%)、学期末のレポート(50%)。

【学生の意見等からの気づき】
時事的な社会情勢の理解に役立つよう、最新の題材を取り入れたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業内で使用するスライドは電子データで配布する。そのためPDF形式のファイルを閲覧・書き込みできるタブレットやノートPCなどの機器が授業中に手元にあるとよい（必須ではない）。

【その他の重要事項】
授業は対面形式を基本とするが、一部をオンライン形式で実施することがある。実施の場合はあらかじめ通知する。

【Outline (in English)】
This course introduces the formation process of Japanese cities to students taking this course.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end reports : 50%, in class contribution: 50%

地誌Ⅱ

濱田　博之

サブタイトル：**地誌B**
配当年次／単位：**2〜4年次／2単位**
開講時期：**秋学期授業**/Fall
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界各地の生活や文化、自然環境などの多様性についての理解を深め、現代における様々な社会問題の背景を探る。

【到達目標】
世界各地の文化的・自然的景観についてリアリティをもってその多様性を把握する。さらにはそこで発生している諸課題について、いかなる背景によってもたらされたものかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
毎回、授業の前半では対象となる地域・テーマに焦点をあてたドキュメンタリー番組などの映像を紹介し、各地で起こっている問題について具体的なイメージを把握する。その上で後半では、それらの問題が引き起こされた背景について解説する。まとめとして毎回の授業においてリアクションペーパーの提出を求める。
下記の授業計画は、時事的な状況をみて適宜変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	中等教育における地誌と映像教材の意義
2	東アジアⅠ	中国における少子高齢化の進展と一人っ子政策の廃止
3	東アジアⅡ	韓国における経済格差の拡大と若者を中心とした失業率の悪化
4	東南アジア	ASEANの結成とインドシナ半島における経済交流の拡大
5	南アジア	インドにおけるカースト問題の現代的課題
6	西アジア・北アフリカ	サウジアラビアにおけるイスラム文化
7	ヨーロッパⅠ	ギリシアにおける中東からの難民流入と住民対立
8	ヨーロッパⅡ	ドイツにおけるベルリンの壁崩壊と東西冷戦の終結
9	ロシアと周辺諸国	ロシアにおける大統領制の背景
10	北アメリカⅠ	大統領選挙におけるアメリカの分断
11	北アメリカⅡ	アメリカにおけるIT企業の増加と経済格差の拡大
12	南アメリカ	ブラジルにおけるサッカーワールドカップの開催と経済格差の拡大
13	アフリカ	エジプトにおけるナイル川流域大規模開発と遺跡の保護
14	オセアニア	ツバルにおける海面上昇への対応と移民の増加

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
普段から新聞やニュースなどに注意し、世界の社会情勢についての認識を深めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
各国・各地域についての詳細については朝倉書店「世界地誌シリーズ」、原書房「地図で見るハンドブックシリーズ」などが参考となる。

【成績評価の方法と基準】
毎回のリアクションペーパー(50%)、学期末のレポート(50%)。

【学生の意見等からの気づき】
時事的な社会情勢の理解に役立つよう、常に最新の題材を取り扱っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業内で使用するスライドは電子データで配布する。そのためPDF形式のファイルを閲覧・書き込みできるタブレットやノートPCなどの機器が授業中に手元にあるとよい（必須ではない）。

【その他の重要事項】
授業は対面形式を基本とするが、一部をオンライン形式で実施することがある。実施の場合はあらかじめ通知する。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire cross-cultural understanding.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end reports : 50%, in class contribution: 50%

哲学A

齋藤　範

配当年次／単位：1～4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【教職】受講生が教職に就くことを前提とし、「世界とは何か」という問題を中心に据えながら、哲学および思想文化の基本的な問題、概念、考え方について学びます。

【到達目標】
この授業では、哲学の基本的な問題や概念について正確に理解し、現代のさまざまな哲学的課題について自ら主体的に考察し、さらにその考えを論理的かつ適切に表現する能力や態度を養うことを目標とします。具体的には、人間観や世界観を先哲に学び、それらを自分とのかかわりにおいて捉え、自ら思索しつつ形成できるようになるということです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義で、対面授業形式と、音声収録を行ったmp4ファイルの教材をGoogle Classroomにて視聴するオンデマンド授業形式を組み合わせて実施します。Google Classroomへの案内や入室に必要な「クラスコード」は、教室または学習支援システムにて告知します。また、前回の授業で受講生から出た質問や考察や感想をいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。授業では、古代から近世までの哲学と思想文化全般について時代を追って解説し、哲学が何を問題とし、またどのような概念を用いて思考を展開してきたか、講義します。過去のそれぞれ哲学は、一方では各々の時代背景や社会情勢に固有な特殊性を有しつつも、他方ではどんな時代や社会にも通底し、現代においても十分参照する価値のある普遍性を有しています。この授業では、そうした特殊性と普遍性の両方を広く視野に入れながら、世界観や人間観に関してこれまでどのような議論や考察がなされ、また現代においてもなされつつあるか、概説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	哲学とは	学問の紹介と中学社会・高校公民の教育における本授業の意味
2	哲学の草創期と初期自然学	古代ギリシアとソクラテス以前の哲学者たち
3	アテナイ古典哲学①	哲学者ソクラテス
4	アテナイ古典哲学②	プラトンの哲学
5	アテナイ古典哲学③	アリストテレスの哲学
6	ヘレニズム期の哲学①	キュニコス派・エピクロス派の哲学
7	ヘレニズム期の哲学②	ストア派・懐疑派の哲学
8	ローマ帝政期の哲学	新プラトン派の哲学
9	ユダヤ・キリスト教の思想	宗教思想と哲学
10	中世の哲学①	教父哲学とスコラ哲学
11	中世の哲学②	神学と哲学・普遍論争
12	ルネサンス期の哲学①	宗教や文化や芸術をめぐる新しい思想
13	ルネサンス期の哲学②	フィチーノやクザーヌスらの新しい人間観と世界観
14	試験・まとめ解説	総括および理解度の確認のためのテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業でとったノートを、内容を思い返しながら整理し、併せて疑問点や自分の考えや感想も記録します。授業で配布する資料や、紹介する参考文献を自ら読み、自ら考察して理解を深めます。特に「教育」という観点を常に意識しながら学習するとなおよいでしょう。これらの授業時間外学習には4時間ほど要します。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しませんが、必要に応じて適宜プリントを配布します。

【参考書】
参考書は特に指定しませんが、授業で扱う資料や参考文献については講義のなかで適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績は平常点（40%）と学期末試験（60%）にて総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
毎回一定量のノートをとることになるため、スライドの構成をできるだけわかりやすく簡潔にしている。ノートをとる際は、学習内容についてよく考えながら、自分自身で理解が深まるように工夫してとりましょう。

【学生が準備すべき機器他】
本科目は原則対面授業ですが、一部オンデマンド授業（Googleクラスルームにより授業動画のストリーム配信形式）となるため、授業動画視聴に必要なPCやインターネット環境が必要です（一般的なPCおよびインターネット環境があれば問題ありません）。

【Outline (in English)】
Course outline: This course introduces basic problems and concepts of philosophy to students taking this course.
Learning Objectives: The goals of this course are to understanding the basic problems and concepts of philosophy and develop the ability and attitude to express ideas logically and appropriately.
Learning activities outside of classroom: Students will be expected to summarize what you have learned in a notebook and consider what kind of philosophical issues are being discussed in what way.
Grading Criteria /Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following. Each mini-exams: 50%. Term-end exams or reports: 50%.

哲学Ｂ

齋藤　範

配当年次／単位：1～4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【教職】受講生が主として教職に就くことを前提とし、「人間（あるいは「私」）とは何か」という問題を中心に据えながら、哲学および思想文化の基本的な問題や概念や考え方について学びます。

【到達目標】
この授業では、哲学の基本的な問題や概念について正確に理解し、現代のさまざまな哲学的課題について自ら主体的に考察し、さらにその考えを論理的かつ適切に表現する能力や態度を養うことを目標とします。具体的には、人間観や世界観を先哲に学び、それらを自分とのかかわりにおいて捉え、自ら思索しつつ形成できるようになるということです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義で、対面授業形式と、音声収録を行ったmp4ファイルの教材をGoogle Classroomにて視聴するオンデマンド授業形式を組み合わせて実施します。Google Classroomへの案内や入室に必要な「クラスコード」は、教室または学習支援システムにて告知します。また、前回の授業で受講生から出た質問や考察や感想をいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。授業では、近代から現代までの哲学と思想文化全般について解説し、哲学が何を問題とし、またどのような概念を用いて思考を展開してきたか、講義します。近代以降の哲学は、科学を初めとする他の学問や社会状況の変化とより緊密に連携・連動し、これらはそのまま現代の人間、社会、世界をめぐる諸問題として、いまなお活発に考察と議論がなされています。この授業では、これらの哲学的問題を、現代を生きる自らの課題として引き受け、さらに多様化する現代哲学・現代思想に学びながら、共に考察しつつ講義します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	哲学とは	学問の紹介と学校教育における本科目の意味
2	近代哲学の課題	哲学と科学と宗教
3	大陸合理論の哲学①	デカルト
4	大陸合理論の哲学②	スピノザ、ライプニッツ
5	イギリス経験論の哲学①	ロック、バークリ
6	イギリス経験論の哲学②	ヒューム
7	ドイツ観念論の哲学①	カント
8	ドイツ観念論の哲学②	ヘーゲル
9	生の哲学	ニーチェ
10	実存主義の哲学	キルケゴール、サルトル
11	現代哲学の諸相①	精神分析と言語学
12	現代哲学の諸相②	現象学と身体論
13	現代哲学の諸相③	構造主義以降
14	試験・まとめ解説	総括および理解度の確認のためのテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業でとったノートを、内容を思い返しながら整理し、併せて疑問点や自分の考えや感想も記録します。授業で配布する資料や、紹介する参考文献を自ら読み、自ら考察して理解を深めます。特に「教育」という観点を常に意識しながら学習するとなおよいでしょう。これらの授業時間外学習には4時間ほど要します。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しませんが、必要に応じて適宜プリントを配布します。

【参考書】
参考書は特に指定しませんが、授業で扱う資料や参考文献については講義のなかで適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績は平常点（40%）と学期末試験（60%）にて総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
毎回一定量のノートをとることになるため、スライドの構成をできるだけわかりやすく簡潔にしています。ノートをとる際は、学習内容についてよく考えながら、自分自身で理解が深まるように工夫してとりましょう。

【学生が準備すべき機器他】
本科目は原則対面授業ですが、一部オンデマンド授業（Googleクラスルームにより授業動画のストリーム配信形式）となるため、授業動画視聴に必要なPCやインターネット環境が必要です（一般的なPCおよびインターネット環境があれば問題ありません）。

【Outline (in English)】
Course outline: This course introduces basic problems and concepts of philosophy to students taking this course.
Learning Objectives: The goals of this course are to understanding the basic problems and concepts of philosophy and develop the ability and attitude to express ideas logically and appropriately.
Learning activities outside of classroom: Students will be expected to summarize what you have learned in a notebook and consider what kind of philosophical issues are being discussed in what way.
Grading Criteria /Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following. Each mini-exams: 50%. Term-end exams or reports: 50%

倫理学 A

齋藤　範

配当年次／単位：1～4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【教職】受講生が主として教職に就くことを前提とし、「自己と他者」をめぐるテーマをケーススタディとして示しながら、倫理学の基礎となる考え方や諸問題について学びます。なお、本授業は原則対面授業ですが、数回オンラインを予定しています。各回の授業形態（対面またはオンライン）については開講時に改めて確定事項を告知します。

【到達目標】
この授業では、倫理学が扱う諸問題や基盤となる学説や具体的な考え方について正確に理解し、広い視野のもと、現代社会における倫理的諸課題について自ら主体的に考察し、そのうえで自分の考えを論理的かつ適切に表現する能力を養うことを目標とします。具体的には、生命、環境、家族、地域社会、情報社会、文化と宗教、国際平和と人類の福祉など、人間としての生き方に直接関係の深い倫理的諸課題を、他者と共に生きる自らの課題として考察を深めるということです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義で、対面授業形式と、音声収録を行ったmp4ファイルの教材をGoogle Classroomにて視聴するオンデマンド授業形式を組み合わせて実施します。Google Classroomへの案内や入室に必要な「クラスコード」は、教室または学習支援システムにて告知します。また、前回の授業で受講生から出た質問や考察や感想をいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。授業では、倫理学の基本的な構図と主要な学説を、基礎的概念の解説を通して概説し、倫理学が何を問題とし、またどのような方法を用いて議論と考察を展開するか、講義します。変化の激しい現代社会においては人々の倫理的判断も多様化し、人間としての在り方や生き方が日々問われています。そうしたなか、この授業では、自己、他者、文化、宗教、家族、地域社会、国際社会、自然環境にかかわる具体的な事例をとりあげながら、主権者として、また、良識ある公民として、めざすべき社会や民主政治の在り方について主体的に考察できるよう講義します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	倫理学とは	学問の紹介および学校教育と本科目の関係
2	倫理学の基本構図①	課題と方法について
3	倫理学の基本構図②	考察と実践について
4	倫理学の基本構図③	事例と判断について
5	倫理学の基本構図④	幸福や利益について
6	倫理学の主要学説①	功利主義の基礎
7	倫理学の主要学説②	功利主義の展開
8	倫理学の主要学説③	義務論の基礎
9	倫理学の主要学説④	義務論の展開
10	現代社会の倫理学①	社会と公共をめぐる諸問題について
11	現代社会の倫理学②	国際社会をめぐる諸問題について
12	現代社会の倫理学③	環境をめぐる諸問題について
13	現代社会の倫理学④	自己と他者をめぐる諸問題について
14	試験・まとめと解説	総括および理解度の確認のためのテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業でとったノートを、内容を思い返しながら整理し、併せて疑問点や自分の考えや感想も記録します。また、授業で紹介する参考文献などを必要に応じて参照し、理解を深めます。さらに、現代社会において具体的にどのような倫理問題がどのようなかたちで議論されているか、新聞等のメディアを通じて情報を収集し、考察します。特に「教育」に関する問題には敏感に反応できるようになりましょう。これらの授業時間外学習には4時間ほど要します。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しません。

【参考書】
参考書は特に指定しませんが、授業で扱う資料や参考文献については講義のなかで適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績は平常点（40%）と学期末試験（60%）にて総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業で取り上げる具体的なテーマには、人によってはかなり重いと思われる問題（例えば犯罪や差別や貧困や障害や疾病をめぐる諸問題）も含まれます。その点を十分考慮したうえで履修してください。

【学生が準備すべき機器他】
本科目は原則対面授業ですが、一部オンデマンド授業（Googleクラスルームにより授業動画のストリーム配信形式）となるため、授業動画視聴に必要なPCやインターネット環境が必要です（一般的なPCおよびインターネット環境があれば問題ありません）。

【Outline (in English)】
Course outline: This course introduces the basic ideas of ethics and various issues related to modern ethics to students taking this course.
Learning Objectives:The goals of this course are to acquire knowledge of ethics, consider ethical issues and state your thoughts concretely.
Learning activities outside of classroom: Students will be expected to summarize what you have learned in a notebook, collect information through media such as newspapers, and consider what kind of ethical issues are being discussed in what way.
Grading Criteria /Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following. Each mini-exams: 40%. Term-end exams or reports: 60%

倫理学Ｂ

齋藤　範

配当年次／単位：1〜4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【教職】受講生が主として教職に就くことを前提とし、「生命・健康・医療・教育」に関わる問題をテーマとしながら、倫理学的思考や背景となる事実問題について学びます。なお、本授業は原則対面授業であるが、数回オンラインを予定しています。各回の授業形態（対面またはオンライン）については開講時に改めて確定事項を告知します。

【到達目標】
この授業では、倫理学が扱う諸問題や基盤となる学説や具体的な考え方について正確に理解し、広い視野のもと、現代社会における倫理的諸課題について自ら主体的に考察し、そのうえで自分の考えを論理的かつ適切に表現する能力を養うことを目標とします。具体的には、生命、環境、家族、地域社会、情報社会、文化と宗教、国際平和と人類の福祉など、人間としての生き方に直接関係の深い倫理的諸課題を、他者と共に生きる自らの課題として考察を深めるということです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義で、対面授業形式と、音声収録を行ったmp4ファイルの教材をGoogle Classroomにて視聴するオンデマンド授業形式を組み合わせて実施します。Google Classroomへの案内や入室に必要な「クラスコード」は、教室または学習支援システムにて告知します。また、前回の授業で受講生から出た質問や考察や感想をいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。授業では、生命をめぐる倫理学の基本的な構図と主要な学説を、基礎的概念の解説を通して講義します。変化の激しい現代社会において、とりわけ生命をめぐる人生観や死生観は複雑に多様化し、人間としての在り方や生き方が日々問われています。そうしたなか、この授業では、生命、医療、技術、健康、家族、宗教、そして人生観と死生観にかかわる具体的な事例をとりあげながら、主権者として、また、良識ある公民として、めざすべき人間の生き方と生命の在り方について主体的に考察できるよう講義します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	倫理学とは	学問の紹介と中学社会・高校公民の教育における本授業の意味
2	生命倫理学の基礎①	課題と方法について
3	生命倫理学の基礎②	考察と実践について
4	死生観をめぐる倫理①	現代の生と死をめぐって
5	死生観をめぐる倫理②	脳死と臓器移植について
6	死生観をめぐる倫理③	尊厳死と安楽死について
7	医療と技術をめぐる倫理①	現代の社会と病をめぐって
8	医療と技術をめぐる倫理②	遺伝子と医療について
9	医療と技術をめぐる倫理③	家族と生殖について
10	生命と誕生と家族をめぐる倫理①	現代社会と出生をめぐって
11	生命と誕生と家族をめぐる倫理②	妊娠中絶について
12	生命と誕生と家族をめぐる倫理③	生命と人格の問題について
13	障害と福祉をめぐる生命の倫理について	障害学の展開
14	試験・まとめ解説	総括および理解度の確認のためのテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業でとったノートを、内容を思い返しながら整理し、併せて疑問点や自分の考えや感想も記録します。また、授業で紹介する参考文献などを必要に応じて参照し、理解を深めます。さらに、現代社会において具体的にどのような倫理問題がどのようなかたちで議論されているか、新聞等のメディアを通じて情報を収集し、考察する。特に「教育」に関する問題には敏感に反応できるようになりましょう。これらの授業時間外学習には4時間ほど要します。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しません。

【参考書】
参考書は特に指定しませんが、授業で扱う資料や参考文献については講義のなかで適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績は平常点（40%）と学期末試験（60%）にて総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業で取り上げる具体的なテーマには、人によってはかなり重いと思われる問題（例えば病気や生殖や生死をめぐる諸問題）も含まれます。その点を十分考慮したうえで履修してください。

【学生が準備すべき機器他】
本科目は原則対面授業ですが、一部オンデマンド授業（Googleクラスルームにより授業動画のストリーム配信形式）となるため、授業動画視聴に必要なPCやインターネット環境が必要です（一般的なPCおよびインターネット環境があれば問題ありません）。

【Outline (in English)】
Course outline: This course introduces the basic ideas of bioethics and various issues related to bioethics to students taking this course.
Learning Objectives:The goals of this course are to acquire knowledge of bioethics, consider ethical issues and state your thoughts concretely.
Learning activities outside of classroom: Students will be expected to summarize what you have learned in a notebook, collect information through media such as newspapers, and consider what kind of ethical issues are being discussed in what way.
Grading Criteria /Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following. Each mini-exams: 40%. Term-end exams or reports: 60%

データベースと情報システム

坂本　憲昭

配当年次／単位：3〜4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
(1)情報システム概観を学ぶとともに，データベースの役割を理解します。例えば図書館システムにおけるデータの流れやデータベースシステムを取り上げます。(2)正規化を学び，基礎的なリレーショナルデータベースを設計します。そのために正規化を学びます。(3)Accessを使用した実習により，データベースを管理・運用する技術を学びます。あわせてSQL言語を習得します。(4)実社会において構築されたデータベースの情報が社会に及ぼす影響と課題を理解し，情報セキュリティの確保，利用者の個人認証や暗号化などの技術的内容や情報セキュリティポリシーの策定など情報セキュリティを高めるための様々な方法を習得します。

【到達目標】
情報を蓄積し管理・検索するためのデータベースの概念を理解し，データベースを中心とした情報システムに関する知識を習得します。情報システムの設計・管理分野などの基本知識を習得し，基礎的なデータベースを設計できるようになります。問題解決においてデータベースを活用しているビジネス事例を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
BYODを活用し，卒業後の教職授業を想定した汎用性のある環境で，実際に演習しながらデータベースの設計および構築をします。教材の配布や課題の提出は「学習支援システム」を，解説やフィードバックは「オンライン」を使用します。質問等は学習支援システムとオンラインの両方を使えるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	情報システム概観	情報システム概観，インフラとして社会におよぼす影響，セキュリティについて
第2回	情報システムにおけるデータベースの位置付け	情報システムとデータベースについて，情報の保護について
第3回	データベースの基本構成	実際のデータベースの紹介と要求定義から詳細設計について
第4回	データベース製品とデータセンター	リレーショナルデータベースの実際の商品とデータセンターの紹介
第5回	正規化を学ぶ	統計データとデータファイルの違い，正規化の必要性
第6回	正規化の実習	表計算ソフトを用いて正規化手法を実習
第7回	リレーショナルデータベースの構成	データベースの設計演習
第8回	SQL言語	SQL言語とは
第9回	SQL言語の実習	SQLに関する演習問題
第10回	データベースファイルの構築	表計算ソフトウェアによるデータファイルの設計とデータ入力
第11回	データベースシステムの作成実習，基礎構築	表計算ソフトウェアの高機能であるデータベース機能の操作方法
第12回	データベースシステムの詳細設計	表計算ソフトウェアの高機能であるデータベース機能による実習
第13回	データベースシステムの構築実習	表計算ソフトウェアの高機能であるデータベース機能の活用
第14回	総合演習問題	振り返りと総合演習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習の取り組みをします。本授業のレポートまたは課題に取り組む時間は，各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せずに担当教員による自作資料を配布します。

【参考書】
実際に書籍店等で参照してご自分で読みやすいかどうかを確認してください。発行年が古いものは避けてください。「データベース入門，データベースとは，SQL入門，SQLとは」の書名が該当します。おうちで学べるデータベースのきほん（翔泳社），なぜ？ がわかるデータベース（翔泳社），基本がわかるSQL入門（技術評論社），いちばんやさしいSQL入門教室（ソーテック社）など。

【成績評価の方法と基準】
実習課題を合計100%とします。成績評価は100点満点とし60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
データベース作成の実習制作規模を縮小して理解度を高めます。

【学生が準備すべき機器他】
ご自分のパソコン，インターネット環境

【その他の重要事項】
教職（高校「情報」）科目です。勘違いしている方が多いのでよく確認してください。本登録前に学習支援システムの「お知らせ」を参照し，担当教員あてに必ず連絡をしてください。

【Outline (in English)】
< Course outline >
The aim of this course is to help students understand the outline of information systems and the role of databases.
< Learning Objectives >
At the end of the course, students are expected to understand normalization, relational databases, and SQL.
< Learning activities outside of classroom >
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
< Grading Criteria /Policies >
Final grade will be calculated according to the reports (100%).

情報メディアと画像処理

坂本　憲昭

配当年次／単位：3〜4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
(1) 講義により，情報メディア・情報デザイン・表現メディア・情報コンテンツが社会や情報産業に果たしている役割を理解します。(2) 実習により，アナログデータをディジタル化することからネット配信まで情報コンテンツ等に関する知識と技術を習得します。(3) 知的財産権の学習により，著作権，音や映像，形状などが法律により保護されていることを学びます。(4) 実際のビジネス事例を研究します。情報を表現し伝達する業種について，時間を超えて情報を伝達するビジネスモデル，空間を超えて情報を伝達するビジネスモデルを紹介します。

【到達目標】
情報メディアに関する知識と技術を習得し，情報コンテンツの制作・発信を適切に行うために必要となる特性等を理解します。実習により実際に適切かつ効果的に活用できるように，実践的な能力を身に付けます。また，個人情報の保護や著作権に関する内容等，情報コンテンツを取り扱う際に，技術や情報に関する守秘義務や法令遵守などの社会的な責任や知的財産権を習得します。最近の関連する情報産業のビジネスモデルを把握します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
BYODを活用し，卒業後の教職授業を想定した汎用性のある環境で，実際に演習しながらデータベースの設計および構築をします。教材の配布や課題の提出は「学習支援システム」を，解説やフィードバックは「オンライン」を使用します。質問等は学習支援システムとオンラインの両方を使えるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	情報メディアの概観	情報メディアが社会や情報産業に果たしている役割
第2回	情報メディアの種類	情報メディアのほか，デザイン・表現メディア・コンテンツなど関係する種類と特性
第3回	情報メディアのハードウェアに関する基礎知識	情報メディアを活用するためにデータ収集，分析，発信などにおいて基礎的な知識
第4回	関連する最近のビジネスモデル	新しい情報産業，インターネットを活用したビジネスモデルの事例紹介
第5回	知的財産権	知的財産権について最近のマルチメディアに関する保護の学習と事例紹介
第6回	マルチメディアに関する定石	ポスター，新聞，雑誌などのデザイン，Webデザインの定石について
第7回	ディジタルデータの取り扱い	音声や映像アナログデータのディジタル化実習
第8回	音声編集	音声編集の実習
第9回	映像編集	映像編集の実習
第10回	音声・映像とWebとの連携実習	情報コンテンツの各種アプリケーションソフトウェアの紹介と基本的な操作実習
第11回	情報コンテンツの実習	情報コンテンツのアプリケーションソフトウェアによる実習課題の取り組み
第12回	ディジタルデータの保存および運用管理について基礎実習	ディジタルデータの配信について実習
第13回	演習問題	情報コンテンツに関する資格試験の紹介，サンプル問題の取り組み
第14回	情報産業の事例紹介	振り返りと情報産業の事例紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レポート等の取り組みをします。本授業のレポートまたは課題に取り組む時間は，各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せずに担当教員による自作資料を配布します。

【参考書】
実際に書籍店等で参照してご自分で読みやすいかどうかを確認してください。発行年が古いものは避けてください。ウェブデザイン技能検定，色彩検定，CGクリエイター検定，マルチメディア検定，ディジタル技術検定など「デザイン・クリエイティブ」に関する資格試験の教材，実施協会・団体のホームページにある練習問題などが参考書となります。

【成績評価の方法と基準】
レポート課題を合計100%とします。成績評価は100点満点とし60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
Excelの操作に戸惑うことがないように適宜復習をしながら実習を進めます。

【学生が準備すべき機器他】
ご自分のパソコン，インターネット環境

【その他の重要事項】
教職（高校「情報」）科目です。勘違いしている方が多いのでよく確認してください。本登録前に学習支援システムの「お知らせ」を参照して，担当教員あてに必ず事前連絡をしてください。

【Outline (in English)】
< Course outline >
The aim of this course is to help students understand the role that information media, information design, expression media and information content play in society and the information industry.
< Learning Objectives >
At the end of the course, students are expected to acquire knowledge and skills related to information content, etc., from digitizing analog data to online distribution.
< Learning activities outside of classroom >
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
< Grading Criteria /Policies >
Final grade will be calculated according to the reports (100%).

情報と職業Ａ

坂本　憲昭

配当年次／単位：3〜4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高校生の情報産業に対する職業観について指導できる教養を身に付けることを目的とします。さらに，昨今50%を超える大学への進学率を鑑みると，情報産業に興味ある高校生は就業する前に大学学部等の選択が求められます。そのため大学の履修内容，すなわち，情報システムに関係する教養を習得し，情報産業とのつながりを理解しておく必要があります。Aではそのために必要な知識習得が中心です。

【到達目標】
高校生の情報に関連した職業感や概要，関連する進路指導などのアドバイスができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
BYODによりインターネットによる情報収集や調査，レポート作成をおこないます。情報関係の技術は栄枯盛衰が早く，常に最新の情報や知識が必要なため，情報過多の時代において自らが情報収集して整理して，まとめるスキルが要求されます。そのために解説後，自分で調査してレポートにするプロセスで授業を進めます。教材の配布や課題の提出は「学習支援システム」を，解説やフィードバックは「オンライン」を使用します。質問等は学習支援システムとオンラインの両方を使えるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	高校情報教科書内容	指導要領から必要な関連知識を把握する
第2回	官公庁による情報戦略	戦略，政令や施策などを理解する，情報通信白書の概要を理解する
第3回	情報処理試験の概要	国家資格から民間による試験まで一覧と内容を知る
第4回	情報分野の知的財産権	知的財産権のなかから情報システムに関する内容を学ぶ
第5回	情報倫理	情報漏えいの原因や取り組み事例を学ぶ
第6回	前半のまとめと演習問題	演習問題に取り組む，理解が不足な内容について補足をする
第7回	前半のまとめとレポート発表	これまでに取り組んだレポートのまとめを発表する
第8回	大学理系学部の履修内容	各大学のシラバスを参照して履修内容を調べる，職業訓練の内容を知る
第9回	インターネットに関する技術の基礎知識	インターネットの仕組みなどを学ぶ
第10回	情報システム技術の基礎知識	情報システムがインターネットを利用する際の技術的背景を学ぶ
第11回	ビジネスインダストリアルのアナログデータ収集	情報システムに用いられる技術についてIoTのための機器を中心に学ぶ
第12回	ビジネスインダストリアルネット活用	情報システムに用いられる技術についてネット活用を中心に学ぶ
第13回	後半のまとめと演習問題	演習問題に取り組む，理解が不足な内容について補足をする
第14回	後半のまとめと成果発表	これまでに取り組んだ内容の成果発表をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レポート等の取り組みをします。本授業のレポートまたは課題に取り組む時間は，各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず，担当教員による自作資料を使います。

【参考書】
発行年の新しい書籍をガイダンス時に紹介します，最新IT用語辞典やトレンド，ITエンジニア，システム業務に関する本です。

【成績評価の方法と基準】
レポート課題を合計100%とします。成績評価は100点満点とし60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
特にありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】
ご自分のパソコン，インターネット環境

【その他の重要事項】
教職（高校「情報」）科目です。勘違いしている方が多いのでよく確認してください。本登録前に学習支援システムの「お知らせ」を参照して，必ず担当教員あてに事前に連絡をしてください。

【Outline (in English)】
< Course outline >
The aim of this course is to help students the knowledge to be able to teach high school students about careers in the information industry.
< Learning Objectives >
At the end of the course, students are expected to have mastered the culture related to information systems and acquire knowledge about the information industry.
< Learning activities outside of classroom >
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
< Grading Criteria /Policies >
Final grade will be calculated according to the reports (100%).

情報と職業Ｂ

坂本　憲昭

配当年次／単位：3〜4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高校生の情報産業に対する職業観について指導できる教養を身に付けることを目的とします。さらに，昨今50%を超える大学への進学率を鑑みると，情報産業に興味ある高校生は就業する前に大学学部等の選択が求められます。そのため大学の履修内容，すなわち，情報システムに関係する教養を習得し，情報産業とのつながりを理解しておく必要があります。Bでは多様化する情報産業を知るとともに，具体的な事例研究が中心です。

【到達目標】
(1)システム導入における構築までの流れを理解している。
(2)情報システムの仕組みを説明できる。具体的にデータの流れ，データ入出力に用いられるデバイスなどの基礎知識がある。
(3)情報産業の事例を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
情報関係の技術は栄枯盛衰が早く，常に最新の情報や知識が必要なため，情報過多の時代において自らが情報収集して整理して，まとめるスキルが要求されます。そのために解説後，自分で調査してレポートにするプロセスで授業を進めます。教材の配布や課題の提出は「学習支援システム」を，解説やフィードバックは「オンライン」を使用します。質問等は学習支援システムとオンラインの両方を使えるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	情報システム設計	システム設計の流れを理解する，RFPとは，見積り工数手法を学ぶ
2	教育機関における情報インフラ	身近な事例として大学における情報インフラを学ぶ
3	ユニバーサルデザイン	Webサイトなどのユニバーサルデザインを知る
4	デジタルマーケティング概観	デジタルマーケティング手法の概観
5	デジタルマーケティング事例	デジタルマーケティングの事例
6	デジタルマーケティング調査	実例のレポート作成
7	ITを利活用した業務改革としてビックデータ利用を中心に解説	ビッグデータの取扱，商品としてのビッグデータ事例について学ぶ
8	ITを利活用した業務改革として人工知能を中心に解説	人工知能の基礎と活用事例を学ぶ
9	ITを利活用した業務改革としてRPA解説	RPA活用事例を学ぶ
10	ITを利活用した業務改革として介護および農業分野	介護テック，農業テック
11	ITを利活用した業務改革として空港および流通分野	空港テック，流通テック
12	システム障害	事例研究（規模や影響，損失額など）
13	後半のまとめとして確認問題	授業内アンケートおよび確認問題により理解が不足な内容について補足をする
14	後半のまとめとして成果発表	これまでに取り組んだレポートを発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レポート等の取り組みをします。本授業のレポートまたは課題に取り組む時間は，各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず，担当教員による自作資料を使います。

【参考書】
発行年の新しい書籍をガイダンス時に紹介します，最新IT用語辞典やトレンド，ITエンジニア，システム業務に関する本です。

【成績評価の方法と基準】
レポート課題を合計100%とします。成績評価は100点満点とし60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
特にありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】
ご自分のパソコン，インターネット環境

【その他の重要事項】
教職（高校「情報」）科目です。勘違いしている方が多いのでよく確認してください。本登録前に学習支援システムの「お知らせ」を参照して，必ず担当教員あてに事前連絡をしてください。

【Outline (in English)】
< Course outline >
The aim of this course is to provide students with the knowledge they can teach high school students about their careers in the information industry. This Course B focuses on the diversifying information industry and specific case studies.
< Learning Objectives >
At the end of the course, students are expected to have mastered the culture related to information systems and acquire knowledge about the information industry.
< Learning activities outside of classroom >
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
< Grading Criteria /Policies >
Final grade will be calculated according to the reports (100%).

国際法

妻木　伸之

配当年次／単位：2～4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目では、国際社会を規律している法である国際法の概要について学び、現代国際社会における諸課題解決の手がかりを得ます。

【到達目標】
国際法学について基本的な理解ができること。
加えて、可能であれば、現代国際社会の諸課題について国際法に基づき評価・検討できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
原則として対面での講義方式で実施する。
（出席できない学生については講義内容をまとめたPP資料配布で対応予定）
なお、授業の実施方法については、状況にあわせて変更の可能性があることに留意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入1：「国際法」の歴史的展開	国際法の歴史を通じ、現代国際法の特徴とその課題を学ぶ。
2	導入２：国際社会における立法・司法・執行	国内社会・国内法などとの比較を通じ、国際社会・国際法の特徴について学ぶ
3	国際法の「法源」―国際法の存在形式	国際法がどのような形で存在するかについて学ぶ。
4	国際法の「主体」―国家・国際組織・その他	国際法をつくり、国際法により規律されるのは誰かについて学ぶ。
5	「主権」と国家の基本的権利・義務	国際法の基本概念である「主権」および「主権」を持つ存在である国家の基本的な権利・義務について学ぶ。
6	陸・海・空に関する国際法	国際法における領域（主に海洋）の取扱いについて学ぶ。
7	個人と国際法―国際刑事法・国際人権法	「国際犯罪」への国際法の対応および国際人権法の誕生・展開について学ぶ。
8	国際人権法の実現―国内実現と国際実現	国内平面と国際平面それぞれにおける国際人権法の実現について学ぶ（国内平面での国際法の地位についても学ぶ）。
9	武力不行使原則の確立と平和的紛争処理手続	武力行使の違法化と武力を用いず紛争を処理する手段（国際裁判など）について学ぶ。
10	集団安全保障―その限界と克服の努力	戦争抑止のための集団安全保障の展開について国際連盟および国際連合を例に学ぶ（特にPKOの誕生・展開を学ぶ）。
11	自衛権／武力紛争法	武力不行使原則の例外としての自衛権および武力紛争における国際法による規律について学ぶ。
12	ブレトンウッズ体制／GATT・WTO体制	第2次世界大戦後の西側先進国主導の経済秩序について学ぶ。
13	南北問題と「新国際経済秩序」	「南側」からの経済秩序変革の要求とその顛末について学ぶ。
14	まとめ	全体のまとめ（調整日）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない（講義用のレジュメ等は授業支援システムを通じて配布する予定である）。

【参考書】
これらに限定するものではないが、例として、横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣、2010年）、玉田大ほか『国際法（第2版）』（有斐閣、2022年）、森川幸一ほか編『ビジュアルテキスト国際法（第3版）』（有斐閣、2022年）、渡部茂己ほか編『国際法（第4版）』（弘文堂、2022年）、中谷和弘ほか『国際法（第5版）』（有斐閣、2024年）、柳原正治ほか編『プラクティス国際法講義（第4版）』（信山社、2023年）、浅田正彦編『国際法（第6版）』（東信堂、2025年予定）など。

【成績評価の方法と基準】
試験期間に実施予定の論述形式の試験 100％
（追試験以外の救済措置を行いませんので、注意すること）。
なお、様々な状況により代替レポートへの切り替えの可能性がある点に留意してください。

【学生の意見等からの気づき】
質問については、迅速に応えるようにする。

【学生が準備すべき機器他】
レジュメ・資料などを授業支援システムを通じ配布する予定なので、ネット接続が可能な機器があるとよいかと存じます
（必須ではないがPCの利用できる状況を確保することが望ましい）

【その他の重要事項】
疑問点などは躊躇せず質問を通じて解消していきましょう。
また、国際法に限らず様々な書籍を読む習慣をつけるとよいでしょう。

【Outline (in English)】
This course is an introduction of international public law (Lectures are conducted in Japanese).
The goals are following,
(1) to obtain basic knowledge of present international public law,
(2) as possible, to be able to work on global issues from legal perspective.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading will be decided based on term-end examination (100%).

国際政治論

白鳥　浩

配当年次／単位：2〜4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
責任ある「有権者」として必須な、国際政治の体系的理解

【到達目標】
「有権者」の国際政策の選択の基準として、理論のみならず事例の理解にも到達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
現在、政治はかつてない変動の時代を迎えているといって良い。「グローバリズム」、「ボーダーレス」という時代のキーワードが示すように、国際政治の影響力は、我々の生活の上に大きな影響を及ぼしている。この国際政治の現実を理論的にどう分析するのか。そのための多様な認識枠組を価値中立的に紹介することを目的とする。なお、以下の記述は、扱うべきトピックを述べているが講義の展開によって変更がありうる。最後の講義で講義内容のまとめや、課題に対する講評や解説によるフィードバックを試みる。また講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	国際政治学とは何か？	導入
2	国際政治学の基礎概念	基礎概念
3	冷戦と現実主義	戦後政治の基本
4	デ・タントと相互依存論	戦後政治の変容
5	ガルトゥングの平和学	構造的な視点
6	ローズノーのリンケージ・ポリティックス論	国際政治と国内政治
7	ロッカンの国家形成・国民形成論	国家と国民とは
8	ロッカンの「欧州概念地図」	マクロな分析枠組み
9	欧州統合の展開	国際統合の現実態
10	レジーム論	多様なレジーム
11	「帝国」論	帝国と国民国家
12	欧州統合と国民国家の変容	国民国家の変容
13	日本をとりまく国際政治	最近の事例から
14	国際政治論の展望	現在の国際政治論の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義時に指示。

【参考書】
講義時に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】
テスト70%、レポート20%、講義科目への積極度10%を中心として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生との双方向のコミュニケーションを大切にしたい。継続して行っているこの講義の試みは、学生に好意的に評価されている。また、講義を通じ、現実の問題への関心を喚起することで、現代を現実的に理解することができているようである。

【Outline (in English)】
This course aims to provide basic understandings of theoretical aspects of International Relations.
The goals of this course are to realize relationship between international political theory and political process.
Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be decided based on term-end examination 70%, short reports 20%, and class contribution 10%.

学校経営と学校図書館

松田　ユリ子

配当年次／単位：2〜4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校図書館の本質的な意義に迫る。まずは学校教育における学校図書館の位置づけを、法律・制度・歴史・学習理論などの面から考察する。その上で学校図書館運営の実際について、事例を豊富に交えながら概観し、受講者とともに理想的な学校図書館のあり方を探る。

【到達目標】
講義の内容を踏まえて、受講生が理想の学校図書館像を明確に捉え、他者に説明できることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
教科書および関連する文献を読み、与えられたテーマで期日までにレポートを提出する
翌週までに講師からのコメントを受け取り、指定された時間にやり取りの過程で生じた疑問点や考察したことをディスカッションする

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	この授業で扱う内容と講義のすすめ方の確認
第2回	自分の学校図書館体験から考える学校図書館の意義	事前に課題を提出し、それに基づいて解説及び議論を行う。
第3回	新しい知から考える学校図書館の意義	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第4回	学校教育から考える学校図書館の意義	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第5回	学校の中の学校図書館	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第6回	米国における学校図書館の歴史	事前に教科書の第8章を熟読し、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第7回	日本における学校図書館の歴史	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第8回	日本の学校図書館の現状	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第9回	学校図書館の目的と機能	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第10回	学校図書館のサービス	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第11回	学校図書館の教育活動	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第12回	学校図書館のマネジメント	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。る。
第13回	学校図書館の担当者	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第14回	学校図書館の設計/まとめ	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書だけでなく、示された参考文献その他の情報も可能な限り参照すること。また、参照した文献は全て必ずレポート末尾に書誌情報を明記すること。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
中村百合子編著『学校経営と学校図書館(司書教諭テキストシリーズII・1)』樹村房, 2022

【参考書】
金沢みどり編著『学校司書の役割と活動改訂版:学校図書館の活性化の視点から』学文社, 2024
全国学校図書館協議会監修『司書教諭・学校司書のための学校図書館必携:理論と実践』改訂版, 悠光堂, 2017
野口武悟, 前田稔編著『学校経営と学校図書館』改訂ニ版, 放送大学教育振興会, 2023
堀川照代編著『「学校図書館ガイドライン」活用ハンドブック 解説編』悠光堂, 2018

【成績評価の方法と基準】
各レポートの提出が必須である。
事前課題レポート70％、最終レポート30％の比率で評価を行う。質問やディスカッションなど授業参加の状況なども加味する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
課題の指示をより明確にする

【学生が準備すべき機器他】
パソコンが必要だが、準備できない場合は相談すること

【Outline (in English)】
【Course outline】Students will articulate the history, values, legal and foundational principles of the school library profession.
To provide a broad understanding of the field of school library, and facilitate the exploration of the rich possibilities of practice in the field.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to clearly grasp the ideal school library image and explain it to others.
【Learning activities outside of classroom】Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text, and submit a report on the assigned topic by the due date.Preparation 1 hours, review 1 hours, a total of 2 hours.
【Grading Criteria /Policy】Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (70%), term-end report (30 %), and in-class contribution.

学習指導と学校図書館

松田　ユリ子

配当年次／単位：2〜4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、情報リテラシー教育、メディア・リテラシー教育、言語活動、探究型学習についての理解を深め、学校図書館がいかに教科学習を支えていくかを考える。

【到達目標】
授業のゴールとしては、受講生各自が司書教諭としてのオリジナルな探究学習の授業案をつくることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
指定された文献等を読み、与えられたテーマで期日までにレポートを提出する
授業では、レポート作成の過程で生じた疑問点や考察したことをディスカッションする

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義のすすめ方の説明と学校図書館資料を使った授業を受けた経験の共有
第2回	学習と学校図書館	学習と学校図書館の関係
第3回	「学習指導要領」と学校図書館	学習指導要領と学校図書館の関係
第4回	学校図書館における情報リテラシー教育	情報リテラシー教育と情報活用教育とは
第5回	探究学習プロセスモデル	探究学習プロセスモデルとは
第6回	探究学習プロセスの指導：課題の設定	ブレーンストーミング・マッピング・マンダラート
第7回	探究学習プロセスの指導：情報の収集	レファレンスツール・情報源の探索と収集
第8回	探究学習プロセスの指導：整理・分析	情報カード
第9回	探究学習プロセスの指導：まとめ・共有	プレゼンソフト・論文作法
第10回	学校図書館資料の把握	パスファインダー
第11回	小学校カリキュラムにおける学校図書館の活用	小学校の事例
第12回	中学高校カリキュラムにおける学校図書館の活用	中学・高校の事例
第13回	授業案の発表	発表
第14回	まとめ	司書教諭の役割

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分が卒業した小学校、中学校、高等学校における学校図書館の状況（職員体制・授業での活用状況）を確認しておくこと。読むことを課された文献だけでなく、参考文献その他の情報も可能な限り参照すること。また、レポート提出の際は参照した文献は全て必ず末尾に示すこと。本授業の準備・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない

【参考書】
桑田てるみ他.チームでつくる探究的な学び：授業のヒントは学校図書館に.全国学校図書館協議会, 2024
塩谷京子ほか.学習指導と学校図書館放送大学教育振興会, 2022
「探究学校図書館学」編集委員会. 学習指導と学校図書館. 全国学校図書館協議会, 2020
日本図書館協会図書館利用教育委員会.問いをつくるスパイラル:考えることか ら探究学習をはじめよう!.日本図書館協会, 2011

【成績評価の方法と基準】
各レポートの提出が必須である。事前課題レポート60％、最終レポート40％の比率で評価を行う。質問やディスカッションなど授業参加の状況なども加味する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
特に無し

【学生が準備すべき機器他】
パソコンが必要だが、用意できない場合は相談すること

【Outline (in English)】
【Course outline】Students will demonstrate competency in multiple literacies (literacy, information literacy and media literacy etc.) and inquiry-based-learning of the school library profession.
To understand the importance of collaboration between school library specialist, teachers and students.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to create an original lesson plan as a librarian teacher.
【Learning activities outside of classroom】Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text, and submit a report on the assigned topic by the due date.Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.
【Grading Criteria /Policy】Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (70%), term-end repotr (30%),and in-class contribution.

学校図書館メディアの構成

有山　裕美子

配当年次／単位：2～4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校図書館メディアの種類、組織化、選択法と分類、目録の基礎を学ぶ。また、学校図書館におけるメディアの構成に関する理解と実務能力の育成を通して、使いやすい学校図書館をつくる上での基礎的な知識を身につける。

【到達目標】
学校図書館の現場で必要な学校図書館メディアについての知識、選択にあたっての心構えを身につける。また、それぞれのメディアの特徴を抑えた上で、利用者にとってどうメディアを構成していけば良いか考え、分類や件名などの意味や付与の方法について学ぶ。さらに、メディア検索のための目録の基礎や、利用しやすい排架、レイアウトの基本を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
各種メディアの種類と特性を理解し、授業においてどう活用するかをまず考える。また、学校図書館メディアの構築のために、資料・情報の選択と収集・提供に必要なメディアを評価する力をつけるとともに、メディア選択・収集・更新・廃棄の基準等の実務を知る。メディアの組織化に関しては、分類や件名の付与などの基本的事項を押さえるとともに、演習を行う。また、提出物に対するフィードバックは学習支援システム等を通じて行い、リアクションペーパーにおける質問やコメントは授業で紹介し、フィードバックを行う。講義は原則として対面で行うが、状況に応じてオンラインで実施する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	学校図書館メディアの教育的意義と役割	学校図書館のメディアと教育の関わりとその役割について、最新の教育動向も踏まえながら捉える。
2	学校図書館メディアの種類と特性	学校図書館メディア基準等を参考にしながら、学校図書館で取り扱うメディアについて、その歴史と種類について学ぶ。
3	学校図書館メディアの授業での活用	複数のメディアを活用した授業事例等を、新学習指導要領やGIGAスクール構想などとにも結びつけながら考察する。
4	学校図書館メディア、組織化の流れ、組織化の意義	学校図書館メディアを児童生徒に提供するまでの流れについて、その全体的な流れを把握する。
5	学校図書館メディアの選択①	学校図書館メディアを受け入れる際に考慮するポイント、収集方針等について学ぶ。
6	学校図書館メディアの選択②	学校図書館メディアを購入際の予算や、その組織化、方法等について学ぶ。
7	学校図書館メディアの組織化の意義	学校図書館メディアの分類はなぜ必要か、その歴史を学ぶとともに、その意義、種類などについて学ぶ。
8	学校図書館メディアの組織化の実際・目録法①	目録の意義や種類と特性、コンピュータ化の歴史や実際について学ぶ。
9	学校図書館メディアの組織化の実際・目録法②	日本目録規則（NCR)の仕組みと意義、またその歴史や活用について知る。
10	図書館メディア組織化の実際・主題索引法①	日本十進分類法（NDC)の仕組みと意義、またその歴史や活用について知る。
11	図書館メディア組織化の実際・主題索引法②	基本件名表目表（BSH)の仕組みと意義、またその歴史や活用について知る。
12	メディアの保存と装備	メディアの保存方法や提供方法について学ぶ。また、装備等の実習を行う。
13	図書館レイアウト、排架とサイン	学校図書館のレイアウト計画を立て、その効率的な方法について考えるとともに、児童生徒にとって使いやすい図書館はどういう図書館か考える。
14	学校図書館メディアの実際・まとめ	講義全体を振り返るとともに、最近の動き等を確認しながら、これからの学校図書館について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
可能であれば実際に学校図書館に行き、学校図書館のレイアウト、分類、目録、配架を見て、メディアの全体像を具体的に掴むようにする。また、GIGAスクール構想等、ICTに関するメディアが多数学校教育の現場に入っていることを意識し、積極的にそれらのメディアの最新動向を知るとともに、活用にも努めること。なお、本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。随時資料を配布する。

【参考書】
『学校図書館メディアの構成』「探究　学校図書館学」編集委員会編著　全国学校図書館協議会　２０２０
『改訂新版　学校図書館メディアの構成』北克一　平井尊士　放送大学教育振興会　２０１６
『学校図書館メディアの構成』小田光宏編　樹村房　２０１６
他、授業内適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業時の発言など授業への積極的な貢献度、レポート課題、演習課題。
平常点（授業への積極的な貢献度、授業時の小課題）：40 %
提出レポート「複数のメディアを使った授業を考える」：20 %
演習課題等：40 %

【学生の意見等からの気づき】
授業目標の明示を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
可能であれば自身のパソコンを用意することが望ましい。資料配布や課題提出に授業支援システムを使用する。

【その他の重要事項】
本科目は司書教諭資格取得のための科目である。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Students learn how to use school library's functions and resources for teaching. For that purpose they learn an inquiry learning and information literacy. This subject is a weak point in Japanese school library. To realize that teaching needs using school library, library staffs(teacher librarian and school librarian)have to appeal the meaning of school library to teachers.
【Learning Objectives】

To acquire the knowledge of school library media necessary for school libraries, and to learn how to prepare for the selection process. After understanding the characteristics of each media, think about how to structure the media for users, and learn the meanings of classification and subject classification, and how to assign them. In addition, students will learn the basics of cataloging for media search and the basics of easy-to-use layout and arrangement of the library's collections.
【Learning activities outside of classroom】
If possible, actually visit the school library to see the layout, classification, cataloging, and distribution of the school library to get a concrete picture of the media as a whole. In addition, be aware that many ICT-related media, such as the GIGA school concept, have entered the field of school education, and actively learn about the latest trends in these media and strive to make use of them.The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.【Grading Criteria /Policy】
Positive contribution to the class, such as speaking up in class, report assignments, and exercise assignments.
Ordinary points (active contribution to class, small assignments during class): 40 %.
Submitted report "Thinking about teaching with multiple media": 20%.
Exercises, etc.: 40 %.

読書と豊かな人間性

有山　裕美子

配当年次／単位：2～4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は学校図書館における読書活動について、「学び」と「読書」を軸にしながら、読書活動の意義と目的や、読書教育の歴史や法規、児童文学の変遷について系統的に学ぶ科目である。講義内では、子どもの発達段階に応じた作品や指導方法を念頭に置きながら、学校図書館における読書、そして教育カリキュラムを支える読書のあり方についても体験的にとりあげていく。
この講義を通し、読書の意義や目的を知り、学校図書館でどう活用していくかについて実践的に学ぶことにより、司書教諭として子どもと本をつなぐ役割について理解することを目的とする。

【到達目標】
1．読書にはどのような意義や目標があるか述べることができる。
2．学校図書館と読書指導の関わりについて説明することができる。
3．子どもの発達段階とそれぞれの段階に応じた読書指導について説明をすることができる。
4．子どもと本をつなぐ方法を知り、実践することができる。
5．各教科や探究的な学習と学校図書館の関わりについて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
演習や発表等を随時行い、受講生が主体的に学習に参加できるようにする。また、授業毎のリアクションペーパー提出の他、学生からの積極的な発信を期待する。可能であれば、実際に読書指導等を行っている場所への見学や外部ゲスト講師の招聘も検討したい。また、提出物に対するフィードバックは学習支援システムを通じて行い、リアクションペーパーにおける質問やコメントは授業で紹介し、フィードバックを行う。講義は基本的に対面で行うが、状況に応じてオンラインで行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション／読書の意義と目的／読書教育	授業の内容、授業の進め方、課題、評価の方法など。 読書とは何か、学校図書館における読書指導の意義とは何かについて考える。
第2回	読書教育の歴史	子どもの読書活動の歴史、および子どもの読書活動の法律の変遷について学ぶ。
第3回	学校図書館と読書指導／司書教諭と学校司書の役割	学校図書館と読書指導の関わりについて学ぶとともに、学校図書館の基本的な業務を担う、司書教諭と学校司書の役割について考える。
第4回	子どもの読書の実情と読書環境／「子どもの読書活動推進に関する基本的な計画」	日本や海外における子どものための作品がどのような変遷をたどってきているかについて学ぶ。 読み継がれてきた本、新しい本の動向について理解する。
第5回	子どもの本の理解①ファーストブック、絵本、幼年童話、児童読み物	読書の導入的段階における本について、楽しみや生き方に関わる読書を中心に、発達段階に応じた資料を提示しながら考える。
第6回	子どもの本の理解②ノンフィクション、科学読みもの、レファレンスブック、YA、電子書籍など	子どもを取り巻く読書環境の現状、様々な形態やジャンルの図書について学ぶ。電子書籍やICTを活用したものなど､出来るだけ新しい動向を取り入れる。
第7回	学校図書館における子どもの読書環境の整備	学校図書館における子どもの読書環境の整備について、メディアの選択や施設など、さまざまな角度から学ぶ。
第8回	子どもの読書に関する発達段階と読書教育	子どもの発達段階に応じた、読書能力の発達と、読書興味の発達について学ぶ。
第9回	子どもと本を結びつける活動①読み聞かせ、ブックトーク、ストーリーテリング	子どもと本を結びつける活動として、読み聞かせ、ブックトーク、ストーリーテリングなどを中心に学ぶ。
第10回	子どもと本を結びつける活動②読書へのアニマシオン、ビブリオバトル、読書会など	読書感想文や読書会、アニマシオンやビブリオバトルなど様々な読書体験の方法について学ぶ。
第11回	各教科における学校図書館の活用と読書指導	各教科における学校図書館の活用と読書指導の関わりについて考える。
第12回	探究的な学習における学校図書館や情報の活用と読書指導	読書の展開的指導について、調べ学習を中心に、教科指導や総合的な学習の時間等における指導に重点を置きながら学ぶ。
第13回	一人ひとりのニーズに応じた読書指導／バリアフリー図書 地域社会との連携による子どもの読書活動推進	一人ひとりのニーズに応じた読書指導や、学校図書館活動の中で展開する読書活動、バリアフリー図書について学ぶ。 地域、公共図書館との連携を考える中で、生涯学習としての読書のあり方について学ぶ。
第14回	学校図書館における読書の現状と今後の課題	これまでの学習内容を振り返り、学校図書館における読書活動及び読書指導についてまとめるとともに、現状や今後の課題について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各授業で学んだことを復習し、次回の講義に備える。適宜プレゼンテーションや課題に向けての準備を行う。指示されたテキストを事前に読むなど。なお、本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とする。なお、本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。適宜資料を配布する。

【参考書】
ライブラリー学校図書館学　第１巻『読書と豊かな人間性』金沢みどり・河村俊太郎著　勉誠出版　2023年　￥2,500（本体）978-4-585-30401-2
『本を読む本』M .J. アドラー　C .V. ドーレン著　外山滋比古　槇未知子訳　講談社文庫　1997年　1070円　978-4-061-59299-5　ほか
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加態度、課題・レポート、試験を総合的に評価する。演習やディスカッション等、積極的に講義に取り組む姿勢は、特に高く評価する。平常点（授業の参加態度、授業後の振り返りシート等を含む）50点、課題・レポート50点。

【学生の意見等からの気づき】
講義等における学生の意見を尊重しながら、講義を進める。

【学生が準備すべき機器他】
可能であれば自身のパソコンを用意することが望ましい。資料配布や課題提出に授業支援システムを使用する。

【その他の重要事項】
本講義は、司書教諭資格を取得するための科目である。

【授業中に求められる学習活動】
D,E,F,G

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course focuses on reading activities in school libraries, centering around "learning" and "reading". It systematically covers the significance and objectives of reading activities, the history and regulations of reading education, and the evolution of children's literature. In lectures, we consider books and teaching methods suitable for children's developmental stages, while also experientially addressing reading in school libraries and its role in supporting the educational curriculum.
Through this course, students will understand the significance and objectives of reading, and learn practically about how to utilize reading in school libraries. The aim is to comprehend the role of a librarian-teacher in connecting children with books.
【Learning Objectives】
· Can describe the significance and goals of reading.
· Can explain the relationship between school libraries and reading instruction.
· Can explain reading instruction appropriate to each stage of a child's development.
· Knows and can practice methods to connect children with books.
· Can explain the relationship between various subjects, inquiry-based learning, and school libraries.
【Learning activities outside of classroom】
Review what you have learned in each class and prepare for the next lecture. Prepare for presentations and assignments as appropriate. Read the assigned textbooks in advance, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. The standard preparation/review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Attitude toward class participation, assignments/reports, and examinations will be evaluated comprehensively. Attitude to actively engage in lectures, such as exercises and discussions, will be especially highly evaluated. 50 points for regular class work (including presentations on assignments, etc.), 20 points for assignments and reports, and 30 points for the final examination.

情報メディアの活用

有山　裕美子

配当年次／単位：2～4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高度情報社会を生きていく子どもたちには「生きる力」としての情報活用能力を育成することが求められている。学校図書館は、子どもたちがその情報活用能力を身につけていくうえで、大きな役割を担わなければならない。そのために、司書教諭には、多様な情報メディアの特性と活用方法についての理解が必要とされる。この科目は、さまざまな情報メディアの種類と特性の理解を図るとともに、学校図書館がそれらの情報メディアをどのように選択・整備し、活用していくかについて講義する。また、情報メディアを活用していく上で必要な著作権やデジタル・シティズンシップについても理解を深められるようにする。

【到達目標】
1．さまざまな情報メディアの特性を理解し、有効に活用するための知識を習得する。
2．学校教育における学校図書館の役割を理解した上で、学校図書館において、各種情報メディアをどのように活用していくかをイメージできるようになる。
3．自身が情報を発信することにも視野を置き、著作権をはじめとしたルールについての知識を習得するとともに、実際の学校現場で活用できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
随時、ワークショップやディスカッションを取り入れるので、各自興味関心を持って積極的に取り組んでほしい。また、近所の公共図書館など､様々な図書館を積極的に利用・見学しておくこと。また、提出物に対するフィードバックは、授業内および学習支援システム等を通じて行い、リアクションペーパーにおける質問やコメントは授業で紹介するなど、随時フィードバックを行う。講義は基本的に対面で行うが、状況に応じてオンラインで実施することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション／情報化社会と学校教育	本講義の概要、進め方などについての説明を行う。 情報化社会と学校教育との関わりについて解説する。
第2回	学校図書館を取り巻く今日的課題と情報活用能力	学校図書館を取り巻く今日的課題と、情報活用能力の育成について、学習指導要領等の解説もまじえながら学ぶ。
第3回	教育メディアの歴史	情報メディアの歴史について、総務省情報通信白書などを参考にしながら、高度情報社会としての現代社会や、情報化における動向について学ぶ。また、GIGAスクール構想や、Society5.0など、学校教育をめぐる動向にも注目する。また、学校図書館の意義・目的について、教育課程の編成と学校図書館のかかわりや、学習指導要領に書かれた学校図書館に関わり記述等にも触れながら、「学校図書館とは何か」という問題について、の再確認を行う。また、新学習指導要領とメディア情報リテラシーの関わりについても触れる。
第4回	情報メディアの種類と特性（1）図書を中心に	図書を中心として情報メディアの種類と特性について学ぶ。具体的には、レファレンスブックを中心に、雑誌や新聞活用について取り上げる。
第5回	情報メディアの種類と特性（2）デジタルメディアを中心に	インターネットでの情報通信に用いられる技術や暗号化の技術、検索エンジンの技術やアルゴリズムなどについて学ぶとともに、デジタルメディアの種類と特性について学ぶ。
第6回	電子書籍の特性と作成方法および活用（実習）	電子書籍の特性と、その作成方法について実践的に学ぶ。
第7回	学校図書館におけるICT活用およびインターネット情報源と情報検索	学校図書館と情報リテラシーにかかわる実践を取り上げ、紹介する。実際にインタアーネット情報源を紹介し、授業での活用方法を検討する。
第8回	情報検索演習（実習）インターネット情報源	インターネット上の情報源について、図書の文献情報を検索する、内容を示す記号等を検索する、論文・記事の文献情報を検索する、文献以外の情報を検索するなど、検索方法や目的を変えながら検索する方法を学ぶ。また、国立国会図書館のデータベース等の具体的な活用方法を学ぶ。
第9回	情報検索演習（実習）オンラインデータベース	オンラインデータベースの活用を通し、情報検索の過程について、情報要求の明確化、情報対象の選択、検索語の選択、検索の実施、検索結果の評価など、そのプロセスを追いながら、実践的に学ぶ。
第10回	児童生徒の情報行動の実態と指導　デジタル・シティズンシップ	子どもたちが主体的に情報に向き合っていくためのデジタル・シティズンシップについて学ぶ。SNSの投稿や、フェイクニュースなど具体的な例を取り上げながら、その課題と向き合い、実践的に考える機会とする。
第11回	学校図書館における情報メディアの活用事例	学校図書館における情報メディアの活用事例について取り上げる。創造的な場としても学校図書館のあり方や電子書籍等の導入など、今後の課題と展望についても考察する。
第12回	特別な支援を必要とする児童生徒と情報メディア	特別な支援を必要とする児童生徒への対応や、そのデジタル活用における著作権法や学校教育法の改正等にも触れる。

第13回	情報メディアを取り巻く連携の事例　情報メディアの活用と知的財産権	相互協力や、学校図書館支援センターなどの社会的連携や、学校図書館の地域活動等に触れる。知的財産の概略を知るとともに、法に定められた各種の知的財産や、自由に利用できる情報知識とオープン化の動きなど、知的財産権について最新動向を学ぶ。また、子どもたちが関わる教室における著作物の利用について、著作権法35条を中心に、既存著作物の適法引用や特定の人物、キャラクター等の利用、また、児童生徒の創造的活動と法規範などについて学ぶ。図書委員会活動の創作的活動や、授業における生徒の創作的活動など、学校教育における著作権について押さえる。
第14回	まとめ	13回までの講義を振り返り、これからの学校図書館における情報メディアの活用について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
随時情報検索等を行い、情報の効果的活用方法取得を目指す。授業以外の場面でも、情報化の最新動向に常に目を向け、積極的に関わろうとすること。各回講義終了後は、講義内容についても目を通し、復習すること。なお、本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
『情報メディアの活用 (探究 学校図書館学第5巻)』「探究 学校図書館学」編集委員会　学校図書館協議会 (2021/8/10)　978-4793322785
『メディアリテラシーを学ぶ: ポスト真実世界のディストピアを超えて 大学生の学びをつくる』坂本旬著　大月書店 (2022/1/26)　978-4272412433
『メディアリテラシー 吟味思考(クリティカルシンキング)を育む』坂本旬　山脇岳志編著　時事通信社 (2021/12/22)　978-4788717978

ほか　適宜講義内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
評価は、講義内容の理解度（情報メディアの種類や特性、その活用方法など）および授業内における参加態度（プレゼンテーションやディスカッション等に積極的に参加しているか)、また、課題に向けての準備がしっかりとできているか、問題意識がしっかりしているか、自ら進んで課題に取り組む姿勢があるか等、総合的に評価する。平常点（授業の参加態度、授業後の振り返りシート等を含む）50点、課題・レポート50点。

【学生の意見等からの気づき】
講義毎にリアクションペーパーを回収、生徒からの疑問や要望に応える。疑問点や、さらに深く学びたいことなど、是非積極的に発信して欲しい。

【学生が準備すべき機器他】
可能であれば自身のパソコンを用意することが望ましい。資料配布や課題提出に授業支援システムを使用する。

【その他の重要事項】
本講義は、司書教諭資格取得のための講義である。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In our advanced information society, children need to develop information literacy as a fundamental "life skill". School libraries play a crucial role in helping children acquire these skills. Consequently, librarian-teachers must understand the characteristics and usage of diverse information media. This course aims to deepen understanding of various types of information media and their characteristics, and to lecture on how school libraries should select, organize, and utilize these media. Additionally, the course will enhance understanding of essential topics such as copyright and digital citizenship in the context of utilizing information media.
【Learning Objectives】
· Acquire knowledge to understand the characteristics of various information media and effectively utilize them.
· Gain an understanding of the role of school libraries in school education, and be able to envision how to utilize various information media in school libraries.
· Develop knowledge about rules, including copyright, with a view to also being a source of information dissemination, and become capable of applying this knowledge in actual school settings.
【Learning activities outside of classroom】
Students will search for information as needed and aim to acquire methods for effective use of information. Students are encouraged to keep an eye on the latest trends in informatization outside of class and to be actively involved. After each lecture, students are expected to read through and review the lecture content. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
The evaluation will be based on the level of understanding of the lecture content (types and characteristics of information media and how to use them) and the attitude of participation in class (whether the student actively participates in presentations, discussions, etc.), as well as on whether the student is well prepared for the assignment, has a solid awareness of the issues, and is willing to work on his or her own. The evaluation will be based on a comprehensive evaluation of the student's attitude toward the assignment. 60 points for regular work (including presentations on assignments, etc.), 40 points for assignments and reports.

社会教育概論Ⅰ

荒井　容子

配当年次／単位：2～4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
成人の学習とそれを支える社会教育実践に関わるさまざまな事例や考え方について、受講生同士の集団討議という、すぐれた社会教育実践における学習方法の一端を実体験しながら、人々の学習とそれを支える社会教育実践についての理解を深めていく。

【到達目標】
人々の学習・学習運動とそれを支える社会教育実践の実際について知り、そのあり方について、表面的な経過にとどまらず、その学習・運動・実践に向き合う姿勢・意志にまで思いを馳せる感性と、現実を深く考え、分析する力が養われる。
ある程度人数お多い集団の中でも、話し合いを通じて考えを深めあっていく、社会教育の実践内容・現場で特に必要とされる実践方法を、学習者の立場から体験でることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
多様な実践事例、学習・実践に関する批判的理論、また社会教育職員という実践者からの見方などを紹介する。
講義期間中、各自に何らかの社会教育事業に参加して課題２を提出してもらい、講義最終日に、簡単な報告レポートをもって報告してもらう（参加の課題は若干修正する場合がある）。
毎回課す宿題と講義後の感想・意見への応答は必要に応じて講義中に行う。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第１ラウンド　社会教育のイメージ１	社会教育とは何か－バズセッション―
2	第１ラウンド　社会教育のイメージ２	社会教育のイメージ　日本の社会教育活動事例をもとに討議　事前にビデオ鑑賞して回答しておいた内容をもとに
3	第２ラウンド　「成人の学習」をどう考えるか１	なぜ「学ぶ」のか
4	第２ラウンド　「成人の学習」をどう考えるか２	どんなふうに「学ぶ」のか
5	第３ラウンド　成人識字教育の実践と理論１	成人の識字・非識字について　貧困と識字　そしてフレイレの思想と方法
6	第３ラウンド　成人識字教育の実践と理論２	フレイレの実践方法、理論と思想　銀行型vs課題提起型　討論
7	第４ラウンド　日本における社会教育実践の蓄積１	生活記録運動とその後の「書く」学習の展開
8	第４ラウンド　日本における社会教育実践の蓄積２	環境破壊に向き合った漁村の住民運動と学び－「風成のおんなたち」－
9	第４ラウンド　日本における社会教育実践の蓄積３	公害と戦う学習運動－「公害」と向き合う力の可能性－それを拓く社会教育実践
10	第５ラウンド　社会教育職員による社会教育実践事例１	住宅地での若い職員の歩み
11	第５ラウンド　社会教育職員による社会教育実践事例２	農村の変貌の中で人々の学びを支え続けて
12	第５ラウンド　社会教育職員に３よる社会教育実践事例	一人ひとりの生き方をみつめながら
13	第６ラウンド　現代の社会教育実践・社会教育運動	生涯学習論の矛盾・学習権宣言と社会教育運動・成人教育運動の課題
14	第６ラウンド　現代の社会教育実践・社会教育運動	参加した社会教育事業についての報告（課題２）をもとにした討論会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
当該回のための宿題のために事前に読んでおく必要のあるレジュメ、資料を前の回の講義終了後に、授業支援システムを通じて提供する。

【参考書】
社会教育全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所（第７版）2005 年、（第８版）2011 年、（第９版）2017 年。

【成績評価の方法と基準】
社会教育事業参加レポート（課題２）の提出、報告会に参加しての報告、最終レポート（課題１）の提出の三つは単位習得の必須条件となる。評価は上記三つのうち前二者で25%、後一者で50%、他に、講義前に毎回提出する宿題への回答と講義後に毎回提出する「感想・意見」、課題２のためのウォームアップ課題への回答を、総計25％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
各回の宿題、「感想・意見」は熟考する機会として課していることは継続して注意喚起する必要がある。また提出した文書の保存の方法、提出ミスを防ぐための方法について新授業支援システムの仕様に合わせた注意喚起が必要である。なんらかの社会教育事業に参加するという課題を、２段階に分けて課すことで、学生たちの社会教育事業に対する親近感がより養われると思われるので工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムによる「お知らせ」を通じて講義に関する指示を出すこともあるので、「お知らせ」のe メールが確実に自分に届くようにしておくこと。

【Outline (in English)】
This course introduces some good cases of people's learning and social education that support it. Students are expected to discuss about these cases and ideas through "buzz sessions" (small-group discussions) to present the result of group discussion to the whole class at each class meeting.
At the end of the course, students are expected to understand good idea and real image of people's learning and social education that support it.
Students must read the lecture note for each class and write down some comments on the topic at its test of the University learning-support system, Hoppii before each class. Students also must write down their comments on the discussion in the class at its test of Hoppii after it. The standard preparation and review time for each class is 2 hours each.
Grading is according to the total evaluation of Second essay with the discussion of final class (35%), First essay (60%), and class contribution (15%). Students are required to present their Second report at their group discussion of the final class meeting.

社会教育概論Ⅱ

荒井　容子

配当年次／単位：2～4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会教育・成人教育の歴史を、人々の学習運動と公権力による社会教育政策（法制度及び教育活動）の推進という二つの方向からとらえ、その関係について、史実をもとに考えていく。

【到達目標】
人々の学習運動と公権力による社会教育政策それぞれの展開と、「社会教育」をめぐる相互の展開についての理解が深まる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
日本の社会教育史について講義したのち、他の数か国の成人教育運動の歴史をとりあげて概観し、最後に、国際的な成人教育運動の歴史と現状について紹介する。講義内容については毎回バズ・セッション（受講者同士の小グループ討議と討議結果の全体での共有）を行い、理解を深める。
毎回宿題、講義の感想・意見の提出を課すが、これについては講義時に必要に応じて講義時に応答する。課題については、最後の講義日に相互に検討する報告会を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	社会教育・成人教育の歴史の概要	社会教育とは何か－バズセッションと概念説明―
2	第１ラウンド　日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以前１	近代化政策と自由民権運動の中での学習運動1
3	第１ラウンド　日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以前２	①近代化政策と自由民権運動の中での学習運動２　ビデオ鑑賞（宿題）をともに ②「通俗教育」政策の展開
4	第１ラウンド　日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以前３	「社会教育」制度化と民衆の自己教育運動の展開（労働学校運動、自由大学運動）
5	第１ラウンド　日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以前４	社会教育制度の完成と崩壊
6	第２ラウンド　日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以後１	戦後社会教育法制度の新たな建設と統制政策の復活・自己教育運動の再展開
7	第２ラウンド　日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以後２	社会教育「民主化」運動と多様な自己教育運動・社会教育運動の展開 －「学習権」「権利としての社会教育」と住民参加の展開
8	第２ラウンド　日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以後３	自治体社会教育行政の蛇行－行政「合理化」政策と「生涯学習」政策の登場
9	第２ラウンド　日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以後４	社会教育政策の後退・変質と社会教育を求める住民・職員の新たな運動
10	第３ラウンド　世界の成人教育史・運動史１	英国、スカンジナビア諸国、北アメリカ、ラテンアメリカでの成人教育運動
11	第３ラウンド　世界の成人教育史・運動史２	抑圧に対する抵抗としての文化運動
12	第３ラウンド　世界の成人教育史・運動史３	成人教育運動の国際的ネットワークの展開
13	第３ラウンド　世界の成人教育史・運動史４	社会変革における学習運動・成人教育運動の力　シリアでの青年たちよる「秘密」図書館づくり
14	第４ラウンド　総括討論会	社会教育・成人教育の歴史から、その今後あり方を考える （各自のレポートをもとにバズ・セッション）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
当該回のための宿題のために事前に読んでおく必要のあるレジュメ、資料を前の回の講義終了後に、学習支援システムを通じて提供する。

【参考書】
藤田秀雄, 大串隆吉編『日本社会教育史』エイデル研究所 1984年12月。
千野陽一監修『現代日本の社会教育』（増補版）エイデル研究所2015年9月。
社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』2017年9月。

【成績評価の方法と基準】
最終レポート（課題・期限は講義内で提示）を70％、講義内で適宜課す「宿題」と「感想・意見」は30％で評価する。最終レポートの課題は通常、講義を受講していなければ執筆できない内容になるので積極的に講義に参加して欲しい。また講義最終回では、最終レポートをもとにしたバズ・セッションを行う。このバズ・セッションへの参加は単位取得のための必要条件となる。

【学生の意見等からの気づき】
配布資料については、重要部分をマークしたものは、講義後に必要に応じて配布していた。学生自身が資料と向き合い、独自に資料を読み取ることができるようにするためだった。しかし、資料を多く配布することもあり、講義前の資料配布時から、マークを付けたもの資料を配布することも、学生の講義内容理解に役に立つとの意見を学生から得た。そこで今年度は事前配布時にもマークを付けたものも配布してみることにする。また、講義の遅刻者が多いので、遅刻せずに出席するよう動機づけの工夫をする。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムによる「お知らせ」を通じて講義に関する指示を出すこともあるので、「お知らせ」のeメールが確実に自分に届くようにしておくこと。

【Outline (in English)】
This course reviews the outline of the history of social education in Japan with some learning movements by people and some social education policies and movements. It also introduces some historical movements of adult education in the other countries including the international movement of adult education up to date. Students are expected to discuss about these movements and policies thorough “buzz sessions” (small-group discussions) and to present the result of group discussion to the whole class at each class meeting.

At the end of the course, students are expected to understand the complexed relation between the learning movements of people and the social education policy by political power in the development of social education and adult education.

Students must read the lecture note for each class and write down some comments on the topic at its test of the University learning-support system, Hoppii before each class. Students also must write down their comments on the discussion in the class at its test of Hoppii after it. The standard preparation and review time for each class is 2 hours each.

Grading is according to the total evaluation of Final essay with the discussion of final class (70%) and class contribution (30%). Students are required to present their Final report at their group discussion of the final class meeting.

図書館情報学概論Ⅰ

山口　洋

配当年次／単位：2～4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
司書課程で最初に学ぶ科目として、図書館についての学習全般にわたる基礎的な内容を取り上げ、他の司書課程科目で学習する内容へのつながりや方向付けを示す。
具体的には、図書館が存在する意義や役割、機能を理解し、歴史における図書館の歩みの概要を把握し、現状と課題、今後の展望について考える基本的力を養う。また司書に求められる姿勢を考える。

【到達目標】
本科目の到達目標は下記の通り。
1. 図書館の機能や社会における意義や役割について十分に理解できる
2. 図書館の歴史、利用者のニーズについて、説明できる
3. 公共サービスとして図書館の存在意義を理解し、説明できる
4. 情報の専門職としての司書の役割について理解し、説明ができる
5. 図書館職員が社会教育に携わる意味を説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義形式である。なお適宜、受講生との討論も行う。学習支援システムlms2025、Googleclassroomを活用して、授業資料の配信、コメントペーパーの提出、レポート提出、フィードバックを行う。
また適宜、オンライン授業を行うが、リアルタイムオンライン授業の場合はZOOMを利用し、オンデマンド型オンライン授業の場合は資料等を学習支援システムから配信する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	リアルタイムオンライン授業。現代の図書館の現状、司書資格取得、就職についての現状を説明する
第2回	図書館とは何か	図書館の定義と意義、種類、生涯学習と図書館について学ぶ
第3回	世界史にみる図書館の発展	書物の誕生から図書館と書物の発展の歴史を学ぶ
第4回	日本における図書館の歴史	日本における近代図書館の歴史を学ぶ
第5回	図書館の理念1	図書館と知的自由、民主主義、図書館の権利宣言を学ぶ
第6回	図書館の理念２	ユネスコ公共図書館宣言、図書館の自由に関する宣言を学ぶ
第7回	図書館法規と行政、施策	図書館法と関連法の概略、図書館施策を学ぶ
第8回	公共図書館の制度と機能1	公共図書館の機能を中小レポートとひまわり号の事跡を学ぶ
第9回	公共図書館の制度と機能2	公共図書館の課題、市民と図書館の関わりを学ぶ
第10回	学校図書館の制度と機能	学校図書館法、学校図書館の機能と課題を学ぶ
第11回	国立国会図書館の制度と機能	国立国会図書館法、機能と課題を学ぶ
第12回	大学図書館、専門図書館の制度と機能	関連法規・基準、機能と課題を学ぶ
第13回	町田における図書館運動	浪江虔と地域文庫、多摩地域の図書館活動を学ぶ
第14回	まとめ	オンデマンド型オンライン授業 司書とはどういう仕事か、司書に求められることは何かを考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。準備学習においてはテキストを熟読して、復習では授業内容、専門用語を復習し、発展学習として参考書など関連文献を読むこと。

【テキスト（教科書）】
『図書館情報学基礎資料』第5版　今まど子・小山憲司編著　樹村房、2024　　￥1200,　ISBN978-4-88367-386-5

【参考書】
竹内悊著．生きるための図書館：一人ひとりのために．岩波書店，2019，238p，(岩波新書，新赤版1783)，ISBN 978-4-0043-1783-8

塩見昇編著．図書館概論．六訂版．日本図書館協会，2024，284p，(JLA図書館情報学テキストシリーズIII，１)，ISBN978-4-8204-2407-9

【成績評価の方法と基準】
最終レポート50％、課題（小レポート、調査）及び受講報告（コメントペーパ）等40％、平常点（出席・取組等）10％に換算して評価。合計で100点。60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
理解しやすい事例をさらに充実させたい

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当する
図書館司書及び図書館協議会委員の実務経験をもとに図書館活動の具体的事例を提示しながら解説する

【Outline (in English)】
【Course outline】
Learn basics of the library science.
【Learning Objectives】
The goals of this course.
① Understand the function of the library and a role in the society enough.
② Understand the history of the library and the civic request for the library.
③ Understand the significance of existence of the library as public service.
④ Understand the specialty of the librarian and can recognize the role.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours.　Depending on the content of the lecture, we will instruct you to investigate terms and matters in advance. Use textbooks, and reference books for preparatory learning. Also, in the review, try to organize your knowledge so that you can explain the important matters of the lesson contents by yourself.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Final report:50%、Short reports:40%、in class contribution:10%

図書館情報学概論Ⅱ

竹之内　禎

配当年次／単位：2〜4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目では、貴重な情報資源を長期間保存し多くの人がインターネットを通じて利用できるようにしたデジタルアーカイブをはじめとして、図書館が機能的に情報提供サービスを行うための仕組みについて学習します。現在、インターネットを通じて様々な情報資源が活用できるようになっています。司書はその利用法を熟知していなくてはなりません。授業では、コンピュータを利用して、OPAC、データベース、デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源を実際に比較検討して理解を深めていきます。授業内では司書としての情報リテラシーの涵養、すなわち、自ら調べまとめる力の育成を重視して、PCを利用して調べたことをまとめる演習を行います。

【到達目標】
この授業では、終了時に学生が以下の能力を身につけていることを目標とします。
1) 図書館に関わる各種の情報技術とその背景にある思想を理解する
2) 図書館業務に関わる情報検索、情報発信、情報管理の技術を身につける
3) 情報技術のこれまでの歴史や思想をふまえて、今後の図書館や図書館員のあるべき姿について論じることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
ネットワーク情報資源の種類や成り立ちなどを概観した後、コンピュータを利用して、OPAC、データベース、デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源を実際に比較検討して理解を深めていきます。授業では司書としての情報リテラシーの涵養、すなわち、自ら調べまとめる力の育成を重視して、PCを利用して調べたことを小レポートにまとめる形式で進めます。学習支援システムで毎週、教材と課題をアップロードするので、期日までに取り組んで提出してください。課題のフィードバックは、授業資料及び授業内でのコメントを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	国立国会図書館「レファレンス協同データベース」（レファ協）の解説と事例のまとめ
第2回	検索検定	情報科学技術協会（INFOSTA）検索技術者検定の過去問に見る情報技術の論点
第3回	国際子ども図書館デジタルアーカイブ(1)	絵本ギャラリーの解説と事例のまとめ
第4回	国際子ども図書館デジタルアーカイブ(2)	電子展示会ほか
第5回	国立国会図書館デジタルアーカイブ(1)	国立国会図書館デジタルコレクション
第6回	国立国会図書館デジタルアーカイブ(2)	歴史的音源、WARPほか
第7回	公共図書館のデジタルアーカイブ	都道府県立・市町村立図書館が提供する地域資料のデジタルアーカイブ
第8回	海外のデジタルアーカイブ	Europeanaほか
第9回	OPACの比較	大学図書館と公共図書館
第10回	情報検索の基礎知識	論理演算と検索の評価指標
第11回	オンラインデータベースの種類と概要	地域資料の組織化 絵本の組織化 学校図書館における組織化
第12回	情報ユニバーサルデザイン(1)	Webアクセシビリティ
第13回	情報ユニバーサルデザイン(2)	カラーユニバーサルデザイン
第14回	情報ユニバーサルデザイン(3)	マルチメディアDAISY図書

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習支援システムで、毎週、教材と課題をアップロードするので、期日までに取り組んで提出してください。
本授業のための予習・復習の時間は各回2時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
評価の方法：毎回のまとめ課題70％（1回5点×14回），学期末レポート30%
評価の基準：
1) デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源の特徴を説明できるか
2) 特別な配慮が必要な利用者を想定した情報技術について説明できるか
3) レポート作成に必要な情報機器の操作スキルが身についているか

【学生の意見等からの気づき】
調査とまとめの作業を通じて知識形成を図ります。

【学生が準備すべき機器他】
PC教室で実施します。オンライン授業の回はPCを使用できる環境で取り組んでください。

【その他の重要事項】
本科目は対面授業を基本としながら、オンライン授業も取り入れるハイブリッド形式で実施予定です。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, students will learn about the mechanisms for the functional provision of information services by libraries, such as digital archives, which preserve valuable information resources for a long period of time and make them available to many people through the Internet.
【Learning Objectives】
In this course, students are expected to use computers to actually compare and examine network information resources such as OPACs, databases, and digital archives to deepen their understanding.
At the end of the course,students expected to acquire the information literacy as a librarian.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to spend
at least two hours for each class meeting. Everyweek on the Hoppi,students are required to complete weekly assignments.
【Grading Criteria】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
1) Weekly short reports:70％
2) Term-end report:30%
Grades will be decided based on the contents of weekly assignments.
3)Evaluation criteria
・Ability to explain the characteristics of network information resources such as digital archives.
・Ability to explain information technology assuming users with special needs.

· Ability to operate information devices in order to create reports.

図書館制度・経営論

山口　洋

配当年次／単位：2～4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館に関する法令、条例、図書館政策、図書館行政について学ぶとともに、図書館経営の考え方や職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態について学ぶ。また、現代の図書館を巡る諸問題についても解説し、司書としての必要な知識の習得も目指す。

【到達目標】
図書館制度と経営の基礎知識を習得する。
1　図書館法を始めとする図書館に関する法令が理解できる
2　公立図書館の制度・政策・経営の知識を深めることができる
3　上記の知識を活用して図書館における諸課題について自ら考えられる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義形式である。なお適宜、受講生との討論も行う。学習支援システムlms2025、Googleclassroomを活用して、授業資料の配信、コメントペーパーの提出、レポート提出、フィードバックを行う。
また適宜、オンライン授業を行うが、リアルタイムオンライン授業の場合はZOOMを利用し、オンデマンド型オンライン授業の場合は資料等を学習支援システムから配信する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	図書館をめぐる法体系	リアルタイムオンライン授業 1.日本国憲法　2.教育基本法　3.社会教育法　4.図書館法
第2回	図書館法逐条解説１　総則	1.図書館法の目的と図書館の定義　2.図書館奉仕　3.司書および司書補　4.設置及び運営上望ましい基準
第3回	図書館法逐条解説2　公立図書館および私立図書館：	1.公立図書館の設置2.公立図書館の職員3.図書館協議会4.入館料など5.公立図書館の補助6.私立図書館7.図書館同種施設
第4回	地方自治体の図書館関連条例など	1. 公共図書館の法的根拠2. 地方自治体における関係法令3. 地方自治体における物品管理（図書館の場合）
第5回	他館種の図書館に関する法律など	1.他館種との連携　2.学校図書館　3.国立図書館　4.大学図書館　5.そのほかの図書館
第6回	図書館サービス関連法規	1.読書に関連する法律と図書館サービス　2.著作権法と図書館サービス　3.個人情報の保護に関する法律と図書館サービス　4.労働関連法規と図書館サービス
第7回	図書館政策（国，地方自治体）	1.国の生涯学習政策2.国の図書館政策3.都道府県の図書館政策
第8回	公共機関・施設の経営方法と図書館経営	1.経営とは何か2.公共機関・施設の経営方法3.公立図書館の経営
第9回	図書館の組織・職員１	1. 教育委員会　2. 組織構成　3. 図書館長の役割　4. 人事管理
第10回	図書館の組織・職員２	1.図書館協議会　2.図書館を支える住民団体　3.図書館ボランティア
第11回	図書館の施設・設備	1.図書館建築のあり方　2.図書館建築計画書の実践　3.図書館の設置及び運営上の望ましい基準における施設・設備
第12回	図書館のサービス計画と予算の確保	1. 図書館のサービス計画　2. 予算の確保
第13回	図書館業務／サービスの調査と評価	1. 図書館業務／サービスの調査　2. 図書館業務／サービスの評価
第14回	図書館の管理形態の多様化	オンデマンド型オンライン授業 1. 管理運営、業務の外部化　2.業務委託　3.指定管理者制度　4.ＰＦＩと市場化テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。準備学習においてはテキストを熟読して、復習では授業内容、専門用語を復習し、発展学習として参考書など関連文献を読むこと。

【テキスト（教科書）】
手嶋孝典編著．図書館制度・経営論．第2版，学文社，2017，154p，(ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望，5)，ISBN978-4-7620-2701-7
『図書館情報学基礎資料 第5版』今まど子・小山憲司編著　樹村房、2024　　￥1200，　ISBN978-4-88367-386-5
適宜プリントを配布

【参考書】
鑓水三千男著．図書館と法：図書館の諸問題への法的アプローチ．改訂版増補，日本図書館協会，2021，（JLA図書館実践シリーズ，12），ISBN 9784820421009
e-gov法令検索サイト、日本図書館協会ウェブサイト、例規集などへのアクセスや検索方法は授業内で紹介する

【成績評価の方法と基準】
小テスト50％、課題（小レポート）及び受講報告（コメントペーパ）等40％、平常点（出席・取組等）10％に換算し、合計で100点。60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
法令に関する考え方をより分かりやすく紹介する

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当する。
図書館司書及び図書館協議会委員の実務経験をもとに、図書館制度や運営の実際を具体的に解説する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Learn about a system and the management about the library.
【Learning Objectives】
The goals of this course.
①Understand the laws and ordinances about the library.
② Understand the knowledge of a policy, the management of the public library.
③ Understand the significance of existence of the library as public service.
④Understand the problems of the public library.
【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours. Depending on the content of the lecture, we will instruct you to investigate terms and matters in advance. Use textbooks, and reference books for preparatory learning. Also, in the review, try to organize your knowledge so that you can explain the important matters of the lesson contents by yourself.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Final Shot test:50%、Short reports:40%、in class contribution:10%

図書館サービス概論

有山　裕美子

配当年次／単位：2〜4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
一口に図書館サービスといっても、地域や館種によって様々な違いがある。本授業では、公共図書館を中心に、実際の図書館におけるサービスを例に挙げながら、図書館サービスの種類及び概略について、またそれぞれのサービスのあり方について講義を行う。また、さらに講義内では理論と実践を結びつけ、実際にサービス計画を立てることで、図書館サービスの現状を評価分析し、課題を把握し、改善を提案することを課す。

【到達目標】
1.図書館の社会的使命がどのように達成されるか説明できる。
2.社会的な課題に対して適切な図書館サービスを提案できる。
3.今後あるべき図書館サービスについて討議できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
随時、ワークショップやディスカッションを取り入れるので、各自興味関心を持って積極的に取り組んでほしい。また、近所の公共図書館など､様々な図書館を積極的に利用・見学しておくこと。また、提出物に対するフィードバックは、授業内および学習支援システム等を通じて行い、リアクションペーパーにおける質問やコメントは授業で紹介するなど、随時フィードバックを行う。講義は対面を原則とするが、状況に応じてオンラインで実施することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション／図書館サービスの機能と理念	本講義の概要、進め方などについての説明を行う。 図書館サービスの機能と理念について押さえる。
第2回	図書館サービスとは何か／図書館観や図書館サービス観の変化 図書館サービスの種類	図書館の種類や、それぞれの館種における図書館サービスの概略を知るとともに、その意義と役割について考える。
第3回	図書館サービスとそのネットワーク／図書館システムや相互貸借、広域利用制度	公共図書館における役割分担や、情報ネットワーク、広域利用のあり方など、具体的な図書館の例を挙げながら学ぶ。
第4回	図書館における閲覧サービスのアクセス方法や利用形態および、その課題	資料や情報提供する上での、資料の分類や目録、デジタル化などについて学ぶ。 図書館のレイアウトや排架の工夫、館内サインやディスプレイについて考える。
第5回	図書館における貸出サービス	貸出サービスや利用者登録、返却や督促、リクエストサービスなど、資料提供の意義と種類を知る。
第6回	図書館における情報提供サービス	レファレンスサービスやカレントアウェアネスサービス、オンライン・データベースを利用した情報検索など、情報サービスの意義と種類を知る。 利用者からの相談や質問回答サービス、インターネット活用等について考える。
第7回	地域支援サービス	地域支援サービスのあり方について、さまざまな自治体の例を上げながらその特色を学ぶ。
第8回	図書館における著作権制度（電子メディアを含む）	著作権制度について知るとともに、図書館における著作権の種類と概要について知る。 電子書籍など電子メディアに関する著作権について知る。
第9回	図書館サービスと市民、利用者の関わり、その協働や接遇、コミュニケーション	広報活動の意義と方法、種類などを知る。 利用者に対する接遇とコミュニケーションについて知る。 図書館利用教育の種類と方法、情報活用能力の育成について考える。
第10回	児童サービス、ヤングアダルトサービスその歴史や対象、具体的なサービス、学校との連携	児童サービスやYAサービス、学校図書館支援などについて考える。また、児童サービスの実演や、お話会のプログラム作成などを行う。
第11回	障害者サービス、および高齢者サービスの基本理念や種類、具体的なサービス	高齢者や障害者に対するサービスのあり方について考える。
第12回	多文化サービスの概要と、実施に向けた手順	多文化サービスや、学校図書館支援をはじめとした外部機関との連携について考える。
第13回	アウトリーチサービスの概要と、実施に向けた手順 集会・文化活動の歴史と意義、各種事業	アウトリーチサービスおよび集会・文化活動の歴史と意義、実際の取り組みについて学ぶ。
第14回	図書館サービスの課題と展望 図書館サービス計画提案	講義を振り返り、図書館サービスについて考える。新しい図書館サービスの提案を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の後半部分で、実際のサービス計画を立案するので、そのことを意識しながら受講するとともに、休みの日を利用して近所の公共図書館等を積極的に活用すること。講義期間中に、実際に利用(見学)した公共図書館に関わる課題を課す。各回の講義内容についても目を通しておくこと。なお、本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
『図書館サービス概論:ひろがる図書館のサービス (講座・図書館情報学 5)』　山本順一・小黒浩司　監修　ミネルヴァ書房　２０１８年　３０８０円　978-4623083961
『図書館サービス概論 (JLA図書館情報学テキストシリーズ 3-4)　』　小田光宏　庭井史絵　監修　日本図書館協会　2023年　3000円　978-4820423089
ほか、講義内で、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
中間レポートと期末レポート、レポートを元にしたプレゼンテーションを講義内で課す。これらにおいては、論点をしっかりと押さえた上で、自分なりの分析、および評価、課題提起ができているかどうかを評価する。また、授業内における参加態度、プレゼンテーションやディスカッションに積極的に参加しているか、また、課題に向けての準備がしっかりとできているか、問題意識がしっかりしているか、自ら進んで課題に取り組む姿勢があるか等、総合的に評価する。平常点（課題発表等を含む）60点、課題・レポート40点

【学生の意見等からの気づき】
講義毎にリアクションペーパーを回収、生徒からの疑問や要望に応える。疑問点や、さらに深く学びたいことなど、是非積極的に発信して欲しい。

【学生が準備すべき機器他】
可能であれば自身のパソコンを用意することが望ましい。資料配布や課題提出に授業支援システムを使用する。

【その他の重要事項】
本講義は、司書資格取得を目指すための科目である。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The term "library services" encompasses a variety of differences depending on the region and type of library. In this course, focusing mainly on public libraries, we will lecture on the types and overviews of library services, using real examples from actual libraries, as well as discuss the nature of each service. Moreover, the lectures will link theory and practice. By planning actual services, students will evaluate and analyze the current state of library services, identify challenges, and propose improvements.
【Learning Objectives】
· Can explain how the social mission of libraries is achieved.
· Can propose appropriate library services in response to social issues.
· Can discuss what library services should be like in the future.
【Learning activities outside of classroom】
In the latter part of the lecture, you will be planning the actual service plan, so you should take the class with this in mind and actively use the public libraries in your neighborhood on your days off. During the lecture period, students will be required to complete assignments related to public libraries they have actually used (or visited). Students are also expected to read through the content of each lecture. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
A mid-term report, a final report, and a presentation based on the reports will be assigned in the lecture. In these reports, students will be evaluated on their ability to analyze, evaluate, and raise issues based on a solid grasp of the issues. In addition, students will be evaluated comprehensively on their participation in class, whether or not they actively participate in presentations and discussions, whether or not they are well prepared for the assignments, whether or not they have a solid awareness of the issues, and whether or not they are willing to tackle the assignments on their own initiative. Ordinary points (including assignment presentations, etc.): 60 points, Assignments and reports: 40 points.

児童サービス論

松田　ユリ子

配当年次／単位：**2〜4年次／2単位**
開講時期：**春学期授業**/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共図書館の専門職として司書が持つべき児童サービスについての知識の習得を目指す。公共図書館における子どものための図書館サービスについて広い視野から理解し、人々の生涯に渡る学習と楽しみのために子どものための図書館サービスが果たすべき役割について考える。

【到達目標】
(1)図書館サービスの対象者である「子ども」について知る。
(2)「子ども」向けの図書館資料について知る。
(3)「子ども」と資料とを結びつける活動の企画や実施、評価方法について知る。
(4)地域や学校などとの協働活動について知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
教科書および関連する文献を読み、与えられたテーマで期日までにレポートを提出する。
翌週までに講師からのコメントを受け取り、指定された時間にやり取りの過程で生じた疑問点や考察したことをディスカッションする。
提出物に対するフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義のすすめ方と概要
第2回	児童サービスの意義	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第3回	子どもの生活と読書	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第4回	児童サービスの資料	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第5回	児童コレクションの形成と管理	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第6回	児童サービスの諸活動	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第7回	児童サービスの運営	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第8回	子どものための図書館プログラム	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第9回	子どもと資料をつなぐ技術	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。また実際に技術を体験する。
第10回	乳幼児サービス／ヤングアダルトサービス／特別な支援	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第11回	子どもの読書活動推進とネットワーク	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第12回	学習支援と学校図書館	事前に教科書の指定箇所を読み、課題を提出し、それに基づいて議論を行う。
第13回	様々な児童サービスと連携	公共図書館の児童サービスをフィールドワークした結果発表に基づいて議論を行う。
第14回	まとめ	まとめと最終課題の提示

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。その他に、児童図書館や公共図書館児童コーナーの体験調査を課す。また、講義で取り上げられた資料を中心に、できるだけ多くの児童サービスのための資料を読むこと。

【テキスト（教科書）】
堀川照代. 児童サービス論 新訂版(JLA図書館情報学テキストシリーズ Ⅲ-6). 日本図書館協会, 2020.

【参考書】
汐崎順子. 児童サービスの歴史:戦後日本の公立図書館における児童サービスの歴史. 創元社, 2007.
東京子ども図書館. よみきかせのきほん. 東京子ども図書館, 2018.
東京子ども図書館. ブックトークのきほん:21の事例つき. 東京子ども図書館, 2016.
リリアン・H・スミス. 児童文学論. 岩波書店, 2016.

【成績評価の方法と基準】
各レポート提出が最低条件である。レポート70％、最終レポート30％の比率で評価を行う。質問やディスカッションなど授業参加の状況なども加味する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
例年身近な公共図書館の児童サービスをできる限り現地で見聞きすることを課してきたが、施設によって担当者へのインタヴュー等が難しい場合があった。そこで、学生としてではなく、児童資料を利用する一利用者としての体験を課し、そこから分かったことを持ち寄って議論する方法を取ることも可としたい。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンが必要だが、用意できない場合は相談すること

【その他の重要事項】
教科書だけでなく、示された参考文献その他の情報も可能な限り参照すること。また、参照した文献は全て必ずレポート末尾に書誌情報を明記すること。

【Outline (in English)】
【Course outline】 The goal of this course is to provide students with the knowledge required to plan, implement and evaluate a program of public library services for children.
【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to understand library services for children in public libraries from a broad perspective, and to consider the role that library services for children should play in people's lifelong learning and enjoyment.
【Learning activities outside of classroom】 Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text, and submit a report on the assigned topic by the due date.
【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (70%), term-end report (30 %), and in-class contribution.

情報サービス論

栗原　智久

配当年次／単位：2〜4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報とは？　情報サービスとは？
この授業では、図書館における情報サービス、その意味・意義・種類・内容・特徴などについて学習します。何を使って、どのようなかたちで、どういった方法で提供するか。
また、情報のもととなる情報源・レファレンスツールについてみていきます。
発信型情報サービス、情報利用教育についても考えます。

【到達目標】
①図書館における情報サービスを理解する。
②レファレンスサービス、情報検索においての情報（源）を知る。
＊演習、実際のサービスにつながる知識の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
対面授業による講義が基本ですが、授業をもとに、みなさんに調査してもらう機会も設けます。（提出）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス　オリエンテーション	資格課程におけるこの授業の意味・スケジュールなどにふれた上で、まず情報サービス機関についてみなさんに考えてもらいます。
第2回	情報・情報サービス	一般的な情報・情報サービスを確認します。主にインターネット（ウェブ）情報について詳細にみてみます。
第3回	図書館における情報サービス	図書館における情報サービスの種類・内容・方法などを学習します。実際に図書館を調査レポートしてもらいます。（提出）
第4回	アナログ情報とデジタル情報	アナログ情報とデジタル情報の種類・特徴などを紙媒体と非紙媒体、印刷メディアと電子メディアという言葉とともに整理・学習します。
第5回	情報源	アナログ情報とデジタル情報の授業をもとに、図書館で考えられる情報源を具体的にあげてみます。
第6回	レファレンスサービスの理論	レファレンスインタビュー、レファレンスプロセスといった図書館用語を理解の上、サービスの理論について学習します。
第7回	レファレンスサービスの実際	理論をもとに、実際のプロセスをみてみます。考察します。
第8回	情報検索の理論	パソコン、インターネットを使って情報検索する際の理論について学習します。
第9回	レファレンスツール	アナログ情報とデジタル情報、情報源の授業をもとに、レファレンスツールを具体的にあげてみます。その使途など、実際に図書館を調査レポートしてもらいます。（提出）
第10回	事実検索と情報	レファレンスサービスにおいて、事実を検索するとはどういうことか、学習・考察します。
第11回	文献検索と情報	レファレンスサービスにおいて、文献を検索するとはどういうことか、学習・考察します。
第12回	発信型情報サービス	能動的発信の情報サービスについて、オンラインによるものをはじめとして、みていきます。評価します。
第13回	図書館(情報)利用教育・情報リテラシー	図書館の情報サービスを利用する、利用させる教育―情報リテラシーについて学習・考察します。
第14回	まとめと試験	まとめと試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前後にプリントをよく読んで、準備・復習します。授業をもとに、宿題（課題レポート）として、ある図書館における情報サービス、レファレンスツールを調査してもらう予定です。（提出）
毎回、準備学習に2時間、復習に2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回テキストプリントを配布します。

【参考書】
『情報サービス論』日本図書館協会・2012年
『情報サービス演習』新訂版 齋藤泰則 大谷康晴共編著（栗原智久著）・日本図書館協会・2020年
ほかいろいろな情報サービス論のテキストを参考にします。

【成績評価の方法と基準】
平常点(25%)　提出物(25%)　期末試験(50%)

【学生の意見等からの気づき】
みなさんが図書館に興味・関心のあることはわかっています。数ある図書館サービス、その中にある情報サービスというものを調べ、考えたくなるような学習内容を目指します。

【その他の重要事項】
図書館司書課程必修科目。情報サービス演習より前の履修が望ましい。
博物館図書室、公共図書館協議会での実務経験を示せればと思っています。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students understand Information Service in Library.
By the end of the course, students should be able to do Information Service in Library.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
In-class performance(25%) Report(25%) Term-end examination(50%)

情報サービス演習

竹之内　禎

配当年次／単位：2〜4年次／4単位
開講時期：年間授業/Yearly
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館における情報サービスとは、利用者の情報ニーズに応じ、その問題解決のために、情報を提供し、または情報入手を支援するサービスのことをいいます。現代の図書館では重要なサービスに位置づけられています。この授業では、演習をとおして利用者の情報ニーズを満たすための情報サービスの具体的な方法について学びます。

【到達目標】
1.利用者の情報要求を把握し、適切な情報源を選ぶことができる。
2.利用者の質問に対応して、的確な回答を提供することができる。
3.講義内容を理解し、演習レポートを適切にまとめることができる。
4.利用者向けのレファレンスサービス案内を企画・作成し、報告することができる。また、他の受講生の報告を適切に評価することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・利用者の情報要求を把握して適切な情報資源を入手し提供するまでのレファレンスサービスのプロセスについて、事例をもとに解説します。
・レファレンスサービスのスキルを高めるために、演習課題を通じて、図書館分類に即した蔵書の把握、各種データベース等の利用法を学びます。
・情報発信型サービスとして、図書館情報資源活用法のツール作成の演習を行います。
・受講生は毎回、レファレンス事例と図書館情報資源の探索を課題として行い、Hoppii及び授業内での報告を求められます。報告内容は授業資料及び授業内で教員が批評するとともに、受講生相互の意見交換も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス、情報サービスの設計と評価、レファレンスサービス	授業の概要ついて説明します。図書館における情報サービスの全体像と、その核となるレファレンスサービスの概要を学び、それを踏まえて情報サービスの設計と評価について理解します。
第2回	レファレンスサービスと情報源	レファレンスサービスの事例から、使用されている情報源を確認しながら検討します。
第3回	レファレンスプロセスとインタビュー、レファレンスの記録	利用者の質問にはじまり図書館員の回答にいたるレファレンスサービスの処理過程について、レファレンスサービスの事例をもとに、利用者と図書館員の双方の視点から考察します。また、レファレンス事例の記録方法について学びます。
第4回	哲学・心理学・宗教に関するレファレンスツールの調査	図書館で哲学・心理学・宗教に関するレファレンスツールを調査します。
第5回	哲学・心理学・宗教に関するレファレンス回答事例の調査・報告	レファレンス事例集から参考事例を検索し、利用者に寄り添って調査・回答している事例を選び、使用されている情報源とレファレンスプロセスを確認します。
第6回	歴史・伝記に関するレファレンスツールの調査	図書館で歴史・伝記に関するレファレンスツールを調査します。
第7回	歴史・伝記に関するレファレンスツールの報告	図書館で調査した歴史・伝記に関するレファレンスツールについて報告します。
第8回	地理・地域事情に関するレファレンスツールの調査	図書館で地理・地域事情に関するレファレンスツールを調査します。
第9回	地理・地域事情に関するレファレンスツールの報告	図書館で調査した地理・地域事情に関するレファレンスツールについて報告します。
第10回	歴史・伝記に関するレファレンス回答事例の調査・報告	レファレンス事例集から参考事例を検索し、利用者に寄り添って調査・回答している事例を選び、使用されている情報源とレファレンスプロセスを確認します。
第11回	地理・地域事情に関するレファレンス回答事例の調査・報告	紙媒体の資料とインターネット情報源を複合的に活用して、ニーズにあった情報を獲得する方法を把握します。
第12回	社会科学領域のレファレンスツールの調査	図書館で社会科学領域のレファレンスツールを調査します。
第13回	社会科学領域のレファレンス回答事例の調査・報告	レファレンス事例集から参考事例を検索し、利用者に寄り添って調査・回答している事例を選び、使用されている情報源とレファレンスプロセスを確認します。
第14回	社会科学領域のレファレンスツールの報告	図書館で調査した社会科学領域のレファレンスツールについて報告します。
第15回	芸術に関するレファレンスツールの調査	図書館で芸術に関するレファレンスツールを調査します。
第16回	芸術に関するレファレンスツールの報告	図書館で調査した芸術に関するレファレンスツールについて報告します。
第17回	芸術に関するレファレンス回答事例の調査・報告	レファレンス事例集から参考事例を検索し、利用者に寄り添って調査・回答している事例を選び、使用されている情報源とレファレンスプロセスを確認します。
第18回	文学に関するレファレンスツールの調査	図書館で文学に関するレファレンスツールを調査します。
第19回	文学に関するレファレンスツールの報告	図書館で調査した文学に関するレファレンスツールについて報告します。
第20回	レファレンスサービスのための文学史	レファレンスサービスに必要な日本文学及び世界文学の基礎知識を学びます。
第21回	文学に関するレファレンス事例の調査・報告	レファレンス事例集から参考事例を検索し、利用者に寄り添って調査・回答している事例を選び、使用されている情報源とレファレンスプロセスを確認します。
第22回	自然科学・工学・生活科学・産業領域のレファレンスツールの調査	図書館で自然科学・工学・生活科学・産業領域のレファレンスツールを調査します。

第23回	自然科学・工学・生活科学・産業領域のレファレンス事例の調査・報告	レファレンス事例集から参考事例を検索し、利用者に寄り添って調査・回答している事例を選び、使用されている情報源とレファレンスプロセスを確認します。
第24回	自然科学・工学・生活科学・産業領域のレファレンスツールの報告	図書館で調査した自然科学・工学・生活科学・産業領域のレファレンスツールについて報告します。
第25回	学術文献の探索	学術文献データベース探索法（J-STAGE、CiNii Research、Google Scholar、Web of Science、Scopus、PubMed）
第26回	統計、法令・判例、特許情報資源	e-Gov法令検索、政府統計の総合窓口（e-Stat）、OECD Stat、特許情報プラットフォーム J-PlatPat
第27回	言語に関するレファレンスツールの調査	図書館で言語に関するレファレンスツールを調査します。
第28回	言語に関するレファレンスツールの報告	図書館で調査した言語に関するレファレンスツールについて報告します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容を復習し、与えられた課題について、図書館などで文献調査に取り組みます。本授業のための調査・復習時間は各4時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
参考書などは、適宜授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業の2/3以上の出席と2/3以上の課題提出を単位取得の前提として、情報サービスに関する報告、演習（課題に対する回答の提出内容）によって総合的に評価します。配分は授業での報告50％、課題提出50％です。授業に対する積極的な貢献度が認められる場合、最終評価の参考にします。

【学生の意見等からの気づき】
大学図書館所蔵の限られたレファレンスブックだけでなく、オンライン情報資源も活用してレファレンス回答を行う手法を検討していきます。

【その他の重要事項】
本科目は対面授業を基本としながら、オンライン授業も取り入れるハイブリッド形式で実施予定です。
対面授業は、原則として図書館での演習となります。掲示、連絡等を確認してください。

【Outline (in English)】
Course outline
Students learn about how to respond user’s need.
Firstly, go to library and research various books.
Secondly, search databases through the Internet.
Thirdly, make presentations about research results and learn how to express them effectively.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1. To be able to understand user’s information needs and select appropriate information sources.
2. To be able to respond to user questions and provide accurate answers.
3. To be able to understand the contents of lectures and appropriately summarize exercise reports.
4.To be able to plan, create, and report on reference service guides for users. In addition, students can appropriately evaluate the reports of other students.
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policy
Grading will be decided based on reports in class (50%), and the quality of reports submitted online (50%).

図書館情報資源概論

山口　洋

配当年次／単位：2〜4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館資料の特質と、資料選択、収集、保存、蔵書管理に関わる業務について解説します。また出版流通や著作権、資料収集提供に関わる諸問題についても触れます。

【到達目標】
①図書館における各種資料の特徴を説明できる
②資料収集、保存、提供の役割を説明できる
③現在の図書館界における資料の課題を理解できる
④関連する用語や法令、宣言などを理解し説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義形式である。なお適宜、受講生との討論も行う。学習支援システムlms2025、Googleclassroomを活用して、授業資料の配信、コメントペーパーの提出、レポート提出、フィードバックを行う。
また適宜、オンライン授業を行うが、リアルタイムオンライン授業の場合はZOOMを利用し、オンデマンド型オンライン授業の場合は資料等を学習支援システムから配信する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	図書館情報資源	リアルタイムオンライン授業 図書館情報資源とは何か？ 図書館におけるその意義を考える
第2回	情報資源の歴史	情報の記録化とメディアの歴史について解説する
第3回	印刷資料	図書館資料の中で印刷資料について解説する
第4回	非印刷資料	点字資料、録音資料、マイクロ資料、映像資料、音声資料について解説する
第5回	電子資料	パッケージ系電子メディアとネットワーク情報資源について解説する
第6回	出版流通システム	日本における出版流通の仕組みを解説し、図書館との関わりを考える
第7回	図書館の「知的自由」1	図書館の知的自由と図書館資料との関係を収集・提供の視点から考える
第8回	図書館の「知的自由」2	具体的な事例を検討して考える
第9回	資料の収集と選択1	資料収集と選択の理論と実践を解説する
第10回	資料の収集と選択2	収集方針の意義を実例から考える
第11回	蔵書管理	蔵書管理の意義と仕組みを解説する
第12回	資料の組織化	資料の受け入れ、登録、装備、予算管理について解説する
第13回	書庫管理	書庫管理の意義、蔵書点検、資料保存について解説する
第14回	まとめ	オンデマンド型オンライン授業 図書館資料の意義を再び考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。講義内容に応じて、事前に用語や事項の調査を指示します。テキストや参考図書、実際の図書館を利用して準備学習をしましょう。また復習では、授業内容の重要事項を自分で説明できるように知識の整理を心がけてましょう。

【テキスト（教科書）】
『図書館情報学基礎資料 第5版』今まど子・小山憲司編著　樹村房、2024　　￥1200,　ISBN978-4-88367-386-5

【参考書】
前川恒雄､石井敦共著『新版　図書館の発見』(NHKブックス)、2006
竹内さとる著『生きるための図書館』(岩波新書)、2019
授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点20％、小レポート20%，最終レポートを60%として，以下の点を評価します。
①図書館における各種資料の特徴を説明できる
②資料収集、保存、提供の役割を説明できる
③現在の図書館界における資料組織の動向を理解できる
④関連する用語や法令、宣言などを理解し説明できる

【学生の意見等からの気づき】
実務に基づく事例をさらに豊かにして理解しやすい内容にします。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当する。
図書館司書の実務経験をもとに、図書館資料に関する業務活動を念頭に解説する。

【授業中に求められる学習活動】
C,D,E

【Outline (in English)】
【Course outline】
Learn the characteristics of library materials and the work related to the selection, collection, storage, and collection management of library materials.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
① Explain the characteristics of various materials in the library.
② Explain the role of collecting, storing, and providing materials.
③ Understand the current trends in material organizations in the library world.
④ Understand and explain related terms, laws and regulations.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours. Depending on the content of the lecture, we will instruct you to investigate terms and matters in advance. Use textbooks, and reference books for preparatory learning. Also, in the review, try to organize your knowledge so that you can explain the important matters of the lesson contents by yourself.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Final reportn:60%、Short reports:20 %、in class contribution:20%

図書館情報資源特論

山口　洋

配当年次／単位：2〜4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館資料について、公立図書館で重視される逐次刊行物、政府刊行物、地域資料を中心に学習します。また資料の収集・提供に関する諸問題について検討します。

【到達目標】
①公共図書館における資料の特徴を説明できる
②各種資料の収集、運用方法を説明できる
③現在の図書館界における資料組織の動向を理解できる
④関連する用語や法令、宣言などを理解し説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義形式である。なお適宜、受講生との討論も行う。学習支援システムlms2025、Googleclassroomを活用して、授業資料の配信、コメントペーパーの提出、レポート提出、フィードバックを行う。
また適宜、オンライン授業を行うが、リアルタイムオンライン授業の場合はZOOMを利用し、オンデマンド型オンライン授業の場合は資料等を学習支援システムから配信する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	図書館情報資源 図書資料とは	リアルタイムオンライン授業 この授業で扱う図書館資料の図書館における意義を考える
第2回	図書資料と逐次刊行物	図書資料の特徴を確認する。逐次刊行物の特徴を解説する
第3回	逐次刊行物の運用	逐次刊行物の運用を解説する
第4回	政府刊行物1	政府刊行物の特徴と種類を解説する
第5回	政府刊行物2	政府刊行物の運用を解説する
第6回	地域資料1	地域資料の特徴と種類を解説する
第7回	地域資料2	地域資料の運用と組織化を解説する
第8回	知的財産権	知的財産権について解説する
第9回	著作権と図書館	著作権と図書館のついて解説する
第10回	資料保存	資料保存と酸性紙問題について解説する
第11回	資料収集に関する諸問題1	資料収集に関する実際の事例を検討する
第12回	資料収集に関する諸問題2	近年の事例を検討する
第13回	資料提供に関する諸問題	資料提供に関する実例を検討する
第14回	まとめ	オンデマンド型オンライン授業 図書館資料の意義を再び考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。講義内容に応じて、事前に用語や事項の調査を指示します。参考図書や実際の図書館を利用して準備学習をしましょう。また復習では、授業内容の重要事項を自分で説明できるように知識の整理を心がけてましょう。

【テキスト（教科書）】
『図書館情報学基礎資料 第5版』今まど子・小山憲司編著　樹村房、2024　　￥1200,　ISBN978-4-88367-386-5
適宜プリントを配布

【参考書】
馬場俊明編著『図書館情報資源概論』（JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ；8）、日本図書館協会、2018
前川恒雄､石井敦共著『新版　図書館の発見』（NHKブックス）、2006
授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点20％、小レポート20%，最終レポート60%として，以下の点を評価します。
①公共図書館における資料の特徴を説明できる
②各種資料の収集、運用方法を説明できる
③現在の図書館界における資料組織の動向を理解できる
④関連する用語や法令、宣言などを理解し説明できる

【学生の意見等からの気づき】
分かり易い事例を示しながら授業展開を行います

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当する。
図書館司書の実務経験をもとに、図書館資料についての実務上の様々な事例を紹介する。

【授業中に求められる学習活動】
C,D,E

【Outline (in English)】
【Course outline】
Learn the characteristics of Public library materials.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
①Explain the characteristics of materials in public libraries.
②Understand how to collect and manage library materials.
③Understand the trends of library materials in the world of libraries.
④ Understand and explain related terms, laws and declarations.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours. Depending on the content of the lecture, we will instruct you to investigate terms and matters in advance. Use textbooks, and reference books for preparatory learning. Also, in the review, try to organize your knowledge so that you can explain the important matters of the lesson contents by yourself.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Final report:60%、Short reports:20%、in class contribution:20%

情報資源組織論

山口　洋

配当年次／単位：2〜4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館における資料組織（分類や目録）の意義、目的と方法について学ぶ。到達目標は、資料組織について理解を深めるとともに、図書館司書として必要な知識や思考力を習得することに置く。

【到達目標】
①図書館における資料組織の意味を説明できる
②分類の基礎知識を修得している（主に用語や考え方）
③目録の基礎知識を修得している（主に用語や考え方）
④現在の図書館界における資料組織の動向を理解できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義形式である。なお適宜、受講生との討論も行う。学習支援システムlms2025、Googleclassroomを活用して、授業資料の配信、コメントペーパーの提出、レポート提出、フィードバックを行う。
また適宜、オンライン授業を行うが、リアルタイムオンライン授業の場合はZOOMを利用し、オンデマンド型オンライン授業の場合は資料等を学習支援システムから配信する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	情報資源組織化の意義と理論	リアルタイムオンライン授業 資料組織の目的、意義について解説する。
第2回	主題による組織化	主題分析・組織法の意義について解説する。
第3回	分類法	分類の歴史、基本原理、分類法の機能について解説する。
第4回	件名法	件名法の基本原理、各種件名標目表について解説する。
第5回	目録法	目録法の基本、意義を解説する
第6回	新しい目録規則の動向	国際規格の変化から日本の目録規則への影響を紹介する
第7回	目録規則	日本目録規則を中心に紹介する
第8回	書誌コントロール	書誌コントロールの目的と動向を紹介する
第9回	書誌情報の流通	コンピュータ目録における書誌情報作成と流通の仕組みを紹介する
第10回	装備と配架	図書館における資料装備と配架について紹介する
第11回	多様な情報資源の組織化	地域資料、絵本、視聴覚資料、学校図書館における組織化を紹介する
第12回	OPAC	OPACの基本と最新のOPACについて紹介する
第13回	ネットワーク情報資源の組織化	各種ネットワーク情報資源、メタデータ、ウェッブの組織化について解説する。
第14回	まとめ	オンデマンド型オンライン授業 授業を振り返り、情報資源組織の意義を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。講義内容に応じて、事前にテキストを読み、用語などの調査をしておきましょう。また復習では、授業内容の重要事項を自分で説明できるように知識の整理を心がけてましょう。

【テキスト（教科書）】
『情報資源組織論』竹之内禎、山口洋、西田洋平編著　東海大学出版部　2020　￥3080
ISBNM：978-4-486-02188-9

【参考書】
『図書館情報学基礎資料 第5版』今まど子・小山憲司編著　樹村房、2024　　￥1200

【成績評価の方法と基準】
①最終レポート：40％　②小テスト：40％　③平常点：20％
平常点は発言や小レポートなど提出物状況などの評価等で総合的に判断する
①図書館における資料組織の意味を説明できるか
②分類の基礎知識（用語や概念）を修得しているか
③目録の基礎知識（用語や概念）を修得しているか

【学生の意見等からの気づき】
実務に基づく事例をより豊かに提示します

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当する
図書館司書及び図書館協議会委員の実務経験をもとに図書館活動の具体的事例を提示しながら解説する

【授業中に求められる学習活動】
C,D,E

【Outline (in English)】
【Course outline】
Explain the significance, purpose and method of the document organization (classification and catalog) in the library. The goal is to understand the document organization and master the knowledge and thinking skills necessary as a library librarian.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
① Understand the meaning of the library material structure.
② Have acquired basic knowledge of classification and catalog.
③ Understand the current trends of material organizations in the world of libraries.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours. Depending on the content of the lecture, we will instruct you to investigate terms and matters in advance. Use textbooks, and reference books for preparatory learning. Also, in the review, try to organize your knowledge so that you can explain the important matters of the lesson contents by yourself.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Final reportn:40%、Short test:40％、in class contribution:20%

情報資源組織演習

山口　洋

配当年次／単位：2〜4年次／4単位
開講時期：年間授業/Yearly
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、分類や目録作業を通して受講生が主題分析、分類付与の方法、目録作成の技術を習得し、図書館資料の組織化に関わる能力を身につけることを目標とします。具体的には、『日本十進分類法』（NDC）、『基本件名標目表』（BSH）、『日本目録規則』（NCR）の構成とその使用方法を学びます。

【到達目標】
①『日本十進分類法』（NDC）を使用して、各主題分野に応じた適切な分類記号を与えることができる
②『基本件名標目表』（BSH）を使用して、各主題分野に応じた適切な件名を与えることができる
③『日本目録規則』（NCR）に従って、各種情報資源に対する目録データを作成できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は技術の習得を目的とした演習形式で進めます。
各回は最初に解説を行い、課題を利用して各人の技術習得を目指します。課題については受講生に発表する機会があります。また授業内で個別の添削を実施して、受講生の理解度に合わせた個別指導を行います。
併せて、学習支援システムlms2025、Googleclassroomを活用して、授業資料の配信、コメントペーパーの提出、フィードバックを行います。
適宜、オンライン授業を行いますが、リアルタイムオンライン授業の場合はZOOMを利用し、オンデマンド型オンライン授業の場合は資料等を学習支援システムから配信します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	情報資源組織化の意味	リアルタイムオンライン授業 組織化の目的と仕組みの概観を解説する
第2回	『日本十進分類法』10版（NDC10）の解説①	日本十進分類法の解説（本表、補助表）
第3回	『日本十進分類法』10版（NDC10）の解説②	日本十進分類法の分類規定解説
第4回	NDC10の0類1類の分類法	NDC10の0類（総記）1類（哲学）の解説と演習
第5回	NDC10の2類の分類法	NDC10の2類（歴史）の解説と演習
第6回	NDC10の3類の分類法	NDC10の3類（社会科学）の解説と演習
第7回	NDC10の4類の分類法	NDC10の4類（自然科学）の解説と演習
第8回	NDC10の5類の分類法	NDC10の5類（技術．工学）の解説と演習
第9回	NDC10の6類の分類法	NDC10の6類（産業）の解説と演習
第10回	NDC10の7類の分類法	NDC10の7類（芸術）の解説と演習
第11回	NDC10の8類の分類法法	NDC10の8類（言語）の解説と演習
第12回	NDC10の9類の分類	NDC10の9類（文学）の解説と演習解説と件名作業
第13回	授業内試験と解説	分類付与について
第14回	『基本件名標目表』（BSH）	オンデマンド型オンライン授業 件名の概要と件名規程の解説
第15回	図書記号と別置記号	オンデマンド型オンライン授業 図書記号と別置記号の解説。著者記号の使い方
第16回	『日本目録規則』（NCR）解説　1	FRBRの解説からNCR2018の特徴
第17回	『日本目録規則』（NCR）解説　2	『日本目録規則』（NCR2018）の基本項目解説
第18回	和書目録作成①単行書	単行書の記述方法
第19回	和書目録作成②単行書の様々な事例	単行書の記述方法
第20回	和書目録作成③シリーズものの図書（基礎）	シリーズものの図書の記述方法
第21回	和書目録作成④シリーズものの図書（発展）	シリーズものの図書の記述方法
第22回	和書目録作成⑤多様な事例の図書	分冊など多様な事例の図書の記述
第23回	アクセスポイント	アクセスポイントの付与
第24回	総合演習①	色々な目録を作成体験する
第25回	総合演習②	目録作成技術を完成する
第26回	実力問題（試験）と解説	実力問題に取り組む
第27回	コンピュータ目録	コンピュータ目録のデータを知る
第28回	まとめ	オンデマンドオンライン授業 まとめと資料組織の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。予習はテキストの該当箇所の確認と配信資料のチェック、用語の調査確認のみで構いませんが、復習は繰り返し行い、習った内容が定着するように心がけてましょう。また、分類は日頃より図書館の書架を利用して親しむ様に心がけるとよいでしょう。質問は授業支援システムから常に受け付けます。復習しながら分からない箇所はこれを使って質問しましょう。

【テキスト（教科書）】
竹之内禎ほか編著『情報資源組織演習：情報メディアへのアクセスの仕組みをつくる』，ミネルヴァ書房，2025（刊行予定は4月）
＊テキスト刊行が授業開始より遅れるため、それを補う教材を第2回授業（対面）でプリント配布する。

【参考書】
小林康隆編著『NDCの手引き：「日本十進分類法」新訂10版入門』（JLA図書館実践シリーズ；32）、日本図書館協会、2017
『図書館情報学基礎資料 第5版』今まど子・小山憲司編著　樹村房、2024　　￥1200，　ISBN978-4-88367-386-5

【成績評価の方法と基準】
平常点20％、演習課題20%，実力問題60%として，以下の点を評価します。
1)『日本十進分類法』（NDC）を使用して，各主題分野に応じた適切な分類記号を与えることができるか
2)『基本件名標目表』（BSH）を使用して，各主題分野に応じた適切な件名を与えることができるか
3)『日本目録規則』（NCR）に従って，各種情報資源に対する目録データを作成できるか

【学生の意見等からの気づき】
事例問題をさらにわかりやすく示すようにします

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当する

図書館司書及び図書館協議会委員の実務経験をもとに図書館活動の具体的事例を提示しながら解説する
「情報資源組織論」を履修済みまたは履修中であることを前提として授業を進めます。

【授業中に求められる学習活動】
C,D,E,F,G

【Outline (in English)】
【Course outline】
Learn subject analysis, classification method, cataloging skills.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
① Master the "Nippon Decimal Classification" (NDC).
② Master the "Basic subject heading table" (BSH).
③ Master the "Nippon Cataloging Rules" (NCR).
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours. To prepare, check the text, check the handouts, and check the terms. In the review, let's confirm what you learned in class.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 60%、Short reports : 20%、in class contribution: 20%

図書館演習

山口　洋

配当年次／単位：2～4年次／4単位
開講時期：年間授業/Yearly
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
司書課程の各科目で学んだ内容を発展的に学習し、基礎科目に関する領域の課題を選択し、応用かつ実践的授業と位置付け講義や演習を行う。具体的には、公立図書館を中心に図書館サービスの意義や、市民にとって公立図書館とは何かを考え、司書として必要な知識と考え方を習得することを目指す。また授業を通して、自分はどの様な司書を目指すのか？ そのことを常に考えてもらいます。

【到達目標】
①司書として必要な知識を身につける
②図書館の現状を理解し、自ら情報を収集し、分析できる
③図書館に関する諸課題について理解し、自らの考えを持てる
④司書として就職するための具体的なキャリアデザインを描けるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業形態は演習である。学習支援システムを活用して資料配付、レポート提出、フィードバックを行う。前期は、図書館に関する基礎的事項の演習を行い、図書館実習に参加予定の学生のサポートも行う。夏休みに図書館見学（日野市立図書館など）を実施予定。後期は、日野市立図書館等の見学経験を基に、図書館に関する基本文献の輪読、討論を行い、公共図書館活動に理解を深める。
学習支援システムlms2025、Googleclassroomを活用して、授業資料の配信、コメントペーパーの提出、レポート提出、フィードバックを行う。
オンライン授業の場合は、リアルタイムオンライン授業はZOOMを利用し、オンデマンド型オンライン授業は資料等を学習支援システムから配信する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	リアルタイムオンライ授業 自己紹介（各自の図書館体験を語る）。図書館の機能、図書館の種類とその根拠法令について確認する。
第2回	図書館学の五法則を検討する	テキスト『生きるための図書館』を読む
第3回	身近な図書館とは何か	テキスト『生きるための図書館』を読む
第4回	新しい図書館像を創る	テキスト『生きるための図書館』から
第5回	図書館の自由	最近の事例を調べて検討する
第6回	図書館司書とは何か	図書館員の倫理綱領を読む
第7回	図書館サービスの種類	公立図書館の各種サービスを確認する
第8回	図書館の業務分析１	実際の図書館評価資料を読み込む
第9回	図書館の業務分析２	図書館評価を検討する
第10回	図書館の管理形態の多様化	具体的な管理形態について検証する
第11回	公立図書館調査1	図書館施設や立地を調査
第12回	公立図書館調査2	図書館活動を調査
第13回	公立図書館調査3	調査結果を報告する
第14回	日野市立図書館事前調査	オンデマンド型オンライン授業 図書館見学の準備をする
第15回	日野市立図書館見学の結果を報告する	オンデマンド型オンライン授業 提出されたレポート内容についての講評。補足説明
第16回	日野市立図書館見学の結果を検討する	見学によって明らかになった事項や課題点を検討する
第17回	市民の図書館の理念1	中小レポートの意義を考える
第18回	市民の図書館の理念2	『市立図書館』（JLAパンフレット）を事前に読み、その主張を考える
第19回	市民の図書館の実践1	日野市立図書館の業務報告1を輪読
第20回	市民の図書館の実践2	日野市立図書館の業務報告2を輪読
第21回	市民の図書館の実践3	日野市立図書館の業務報告3を輪読
第22回	人と本を結ぶ活動	テキスト『生きるための図書館』を読む
第23回	目指すべき図書館像を考える１	身近な図書館の現状を調べて報告する
第24回	目指すべき図書館像を考える２	身近な図書館を評価する
第25回	ワークショップ１	これからの図書館像を考える（グループワーク）
第26回	ワークショップ２	前回の成果を受けて各自の考える図書館像を考える
第27回	ワークショップ３	成果を発表し、それをもとに議論を深める
第28回	目指すべき図書館、司書	オンデマンド型オンライン授業 １年間の学びから得た公共図書館のあり方についてレポートにまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
夏休み期間中に日野市立図書館等への見学を予定。また希望者は図書館実習（都立図書館等）や図書館のインターンシップに参加できる可能性もある（詳細はガイダンスで説明）

【テキスト（教科書）】
竹内悊著．生きるための図書館：一人ひとりのために．岩波書店，2019，238p．(岩波新書，新赤版1783)．ISBN 978-4-0043-1783-8
『図書館情報学基礎資料 第5版』今まど子・小山憲司編著　樹村房、2024　　￥1200，　ISBN978-4-88367-386-5
その他適宜プリントを配布

【参考書】
日本図書館協会編．市民の図書館．増補版．日本図書館協会，1976，168p，ISBN4-8204-7600-9

【成績評価の方法と基準】
最終レポート50％、課題（小レポート）及び受講報告（コメントペーパー）等40％、平常点（出席・取組等）10％に換算し、合計で100点。60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
図書館見学の主軸にしながら、実践的な授業内容にします。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当する
図書館司書及び図書館協議会委員の実務経験をもとに図書館活動の具体的事例を提示しながら解説する
「図書館情報学概論Ⅰ」「図書館制度・経営論」「図書館サービス概論」を履修済み、または履修中であることが望ましい。
初回授業には必ず出席すること。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Learn about progressive learning of the library science.
【Learning Objectives】
The goals of this course.
①Acquire necessary knowledge as a librarian.

② Understand the significance of existence of the library as public service.
③Consider about the problem of the public library.
④Let's create the carrier design as the librarian.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours. Depending on the content of the lecture, we will instruct you to investigate terms and matters in advance. Use textbooks, and reference books for preparatory learning. Also, in the review, try to organize your knowledge so that you can explain the important matters of the lesson contents by yourself.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Final report:50%、Short reports:40%、in class contribution:10%

社会教育経営論

荒井　容子

配当年次／単位：2～4年次／4単位
開講時期：年間授業/Yearly

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域社会での、おとなから子どもまでの、人々の学びの多様な実態を理解し、それを支える社会教育について、社会教育施設、民間の社会教育事業・活動等の現状を理解し、施設経営、事業展開について、その成果を評価し、課題を析出するための理念と手法を学んでいく。

【到達目標】
地域社会で人々の学びを支える多様な取り組みの意義を、人々の学びに対する地域社会の諸機関・諸団体からの期待とも関連させながら、地方自治体の社会教育行政施策のあり方も含め、全体としてとらえることができる力が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
資料等をもとに説明したあと討議を行いながら講義を進める。春学期の学習成果をもとに、各自で特定自治体を選び、当該地域での社会教育施設・施策、住民の学習運動に関する調査を実施してもらい、その成果を中間レポートとして、秋学期はじめに提出してもらう。秋学期第2回講義では、この中間レポートを受講生全体で検討する。講義最終回には秋学期の学習成果を踏まえて中間レポートを改定した最終レポート提出し報告してもらい、全体で検討しあう。この中間レポート、最終レポートの講義中の検討における教員から質問・コメントが、受講生の学習成果提出に対するフィードバックにあたる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	学びの多様性	社会教育経営の前提となる、人間にとっての「学び」の意味。
2	人々と地域社会、日常生活と地域社会	人々にとっての地域社会の多様な意味。
3	地域社会での人々の学びの全体像	地域社会での人々の学びの多様性。
4	人々の学びに関する統計調査１	日本における調査―国、自治体レベル－と、国際的調査の概要
5	人々の学びに関する統計調査２	地方自治体での人々の「学び」に関する統計調査－受講生による調査報告－
6	人々の学びに関する事例調査・歴史調査	地域社会での人々の学びに関する事例調査・歴史調査の実態・価値・課題。
7	人々の学びを支援する多様な形態とそのあり方	人々の学びを支援するとはどういうことか、教育本質論から考え、また、その多様なあり方を確認する。
8	学びを支援する方法としての場所の提供１	社会教育施設・学校等の教育機関を通じた施設提供－その実際と評価。
9	学びを支援する方法としての場所の提供２	教育機関以外よる施設提供－その実際と評価。
10	施設提供の方法－方法とそれを決める主体	社会教育施設の運営－審議会等の意味
11	学びを支援する方法としての学習プログラムの提供	学習プログラムの実際と、概要－類型等。
12	地域住民からの期待に応える学習プログラムの策定方法	学習者としての地域住民からの期待に応える学習プログラム等の実際とその評価。
13	地域の諸機関・諸組織から求められる学習プログラムの意味と策定方法	地域の学校等諸機関や諸組織からの期待に応える学習プログラム等の実際とその評価。
14	住民自身が学習プログラム等の企画者になる意義	学習者としての地域住民が事業企画の担い手となることの実際とその評価
15	地域社会での人々の学びの支援の実際１	受講生による実態調査報告（春学期の学習成果を踏まえた調査報告）１
16	地域社会での人々の学びの支援の実際２	受講生による実態調査報告（春学期の学習成果を踏まえた調査報告）２
17	社会教育に関わる日本の法制度１	社会教育に関わる日本の法体系。
18	社会教育に関わる日本の法制度２	社会教育法の条文解説－概要（含 沿革）１
19	社会教育に関わる日本の法制度３	社会教育法の条文解説－公民館、職員（含　歴史と「改正」の沿革）２
20	社会教育施設等の概要	社会教育施設整備の歴史と現状
21	社会教育施設の運営・事業展開のための費用	社会教育運営・事業展開のための予算獲得・資金調達の実際とあり方
22	人々の学びを支援するための情報収集と広報	社会教育施設運営・事業展開のための情報収集・広報の実際とそのあり方。
23	民間諸団体による社会教育活動の歴史と現状	社会教育機関と学校との連携の歴史と現状。
24	社会教育機関と諸機関・諸組織との連携	社会教育機関と学校・民間組織との「連携」の全体像
25	社会教育職員制度の歴史と課題	施設運営・事業展開を担う職員体制の現状と課題。
26	社会教育職員制度整備の方法	施設運営・事業展開のための社会教育職員確保の課題と方法。
27	地域社会での人々の学びの実際－改めて多様な実態をイメージしてみる	最終レポート１（特定地域・自治体での人々の学びの全体像―イメージ図）をもとにイメージを膨らませる。
28	地域社会で人々の学びを支える「仕組み」の継続と改革　―未来を見据えて	最終レポート２（特定地域・自治体における、人々の学びの支援の実際の再分析）をもとに討議し、社会教育経営の課題について確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から身近な社会教育施設やさまざまな学習活動、社会教育事業に興味をもち、自主的に参加して体験を積んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義時に、適宜、講義内容に合わせた資料を提示する。

【参考書】
社会教育全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所（第7版）2005年、（第8版）2011年、（第9版）2017年。

【成績評価の方法と基準】
春学期のまとめてとして課すレポートを30％程度、講義内でのその報告を10％程度、秋学期のまとめとして課す最終レポート１・２を合わせて40％程度、講義内でのそれらの報告を10％程度、また毎回の講義での討議等への貢献度を10％程度で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
資料をモニターで共同視聴しながら解説する際、配布資料が多いので、すでに提供している資料であっても、提供している資料のうちのどの資料をそのとき共同視聴しているのか,、毎回、丁寧に説明しながら、解説する必要がある。特にHoppiiのサイトを使って学生がそこか資料を開く手順をなぞりながら資料を開示するとわかりやすいようだ。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムによる授業資料と「お知らせ」のeメールが確実に自分に届くようにしておくこと。

【Outline (in English)】
This curse introduces the ideas and ways to grasp the structure of social education policy and institution management in each to support learning activities of people in their community lives, through analyzing the variety of people's learning activities, the public policies and institution by local government, both the national and the local legal systems, residents' movements and activities, some facilities related to people's learning in community level both private and public sectors.

At the end of the course, students are expected to get whole picture of the existed situation of peoples learning in the local community level and understand the complexed situation of social education system and policies both of local and national governments.

Students are also expected to get some ideas and methods to analyze critically the existed business, practices and movements related to social education by the variety of actors and the existed evaluation system of them. Students are finally expected to get the ambition to cultivate more creative ways of social education management.

Students are expected to give comments at each class meeting. Students must submit Spring-term essays at the first class of the Fall term with some own research at the actual community and must have their presentation on their Spring term essay at the second class of Fall term. This report must be written through the research on some actual municipality. Students also must submit Fall-term essay and must have their presentation on their Fall-term essays at the last class.

The standard preparation and review time for each class is 2 hours each. Grading is according to the total evaluation of Spring term essay (30%), the presentation of it (10%), Fall term essay1＆2 (40%), the presentation of it（10％） and the contribution to each class meeting (10%).

社会教育総合演習（実習を含む）

栗山　究

配当年次／単位：2〜4年次／4単位
開講時期：年間授業/Yearly

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　演習と実習を通し、社会教育を総合的・体験的に捉え、地域に学びあいの環境を生み出す仕組みや仕掛けをつくる社会教育士あるいは社会教育主事に求められる基礎的・実践的な知見と身体的な感覚を獲得し、それらを実際生活に生かしていく能力と資質を身につけていきます。

【到達目標】
　演習と実習を通して、「生涯学習支援論」と「社会教育経営論」で学修した諸知見を応用することで、教育の受け手として授業に参加することだけに留まらない学びあい（社会教育・相互学習）の視点を培い、各自の問題意識に対する課題把握と課題克服ための方途を、集団的・体験的に獲得していくことが目標です。
　以上から、社会教育士、社会教育主事として必要な資質と能力に関する基礎的かつ実践的な知見と感覚を身につけることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
　演習では、本演習で過去に諸先輩が向き合った実践事例を参考に、受講者が相互に当該実践とその理念を文献輪読で学びあい、社会教育事業に関するプロジェクトの企画運営を行います。この経験を通じて何らかの成果物を創出し、次世代に還元します。今年の仮事例は「法政大学（多摩キャンパス）とエコミュージアム」とします。
　実習では、受講者が各自で関心ある地域の社会教育施設や市民活動の場などの実習先を選定し、実習へ参画し、実習報告書を作成します。学内では、実習に向けた準備過程と進捗状況等の経験を受講者相互に共有するとともに、実習報告会の企画運営を行うことで、実習を通して獲得した知識と感覚の実際生活への定着を図ります。
　実習への参画は必修で、日時、活動内容等は、実習先と受講者の条件に応じて柔軟に対応していきます。また、少人数の受講者で構成される社会教育主事任用資格課程科目であるという例年の特徴を活かし、受講者相互と実習先の事情や条件を勘案の上、可能な限り、実習先への訪問・相互交流の機会を確保していきたいと思います。
　従って、下記の「授業計画」は、受講者数や受講者相互の問題意識と興味関心の程度および実習先等の現場の事情や条件に応じて、かなりの程度、柔軟に変更していくものと把握しておいてください。受講者との相互調整の結果、実習先との交流・訪問やプロジェクトの実施など、授業時間外の時間や休日・休暇期間中の日時に実施される可能性があることも十分に想定しておいてください。同時に、これら演習・実習の過程で、学外授業を実施することになった場合の交通費や実費等については、受講者負担を原則とします。
　演習を通した成果物、受講者各自の実習報告書については、授業内の相互学習の場を通して、随時フィードバック（共有）していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	演習・実習オリエンテーション	受講生相互の自己紹介を行い、本演習テーマ設定と実習の目的と進め方について共有します
2	実習①　実習先に関する事前学習（1）実習先候補への依頼	希望する活動内容領域を受講者相互に共有し、実習候補先へ依頼を行います
3	演習①　課題発見のためのワークショップ（1）本年度演習での課題発見	相互の問題関心を共有し、本年度受講生のプロジェクト内容を探ります
4	実習②　実習先に関する事前学習（2）実習先との調整	策定中の実習計画（実習先、日時、活動内容、事前交流・訪問等）を受講者相互に共有します
5	演習②　課題発見のためのワークショップ（2）問題の整理	社会教育事業に関するプロジェクトの企画運営に係る実施計画を策定します
6	実習③　実習先に関する事前学習（3）実習先に関する情報収集	確定した実習先の来歴・組織・運営体制等の詳細を受講者相互に把握します
7	演習③　課題発見のためのワークショップ（3）本年度演習での課題設定	社会教育事業に関するプロジェクトの企画運営に係る実施計画を確定します
8	実習④　実習先に関する事前学習（4）実習先の状況把握	確定した実習先の地域社会の状況と活動内容との関連を受講者相互に把握します
9	演習④　課題に対するアクション（1）プロジェクトの試行	第7回で確定した実施計画に基づき具体的アクションを試行します
10	実習⑤　実習先に関する事前学習（5）実習前の最終確認	第6回・第8回の共有内容をもとに実習時における受講者各自の目標・課題を相互に確認します
11	演習⑤　課題に対するアクション（2）夏季休暇中の宿題の確認	第9回で試行したアクションをふりかえり、求められた課題を確認し、夏季休暇中の宿題を定めます
12	実習⑥　実習先との交流・訪問（1）例：地域づくり・地域文化関係	実習先との交流を通し、実習先の実践内容を受講者相互に学習します
13	実習⑦　実習先との交流・訪問（2）例：社会教育施設・NPO等	実習先との交流を通し実習先の実践内容を受講者相互に学習します
14	実習⑧　実習先との交流・訪問（3）例：青少年関係施設・居場所関係	実習先との交流を通し実習先の実践内容を受講者相互に学習します
15	実習⑨　実習の進捗状況報告（1）例：実習先での活動内容	実習に携わりながら受講者相互に体験事項の連絡と共有を行います
16	演習⑥　課題に対するアクション（3）先行知見の収集	第11回のアクションで確認しあった宿題を基に、夏季休暇中に得られた知見の相互共有を行います
17	実習⑩　実習の進捗状況報告（2）例：社会教育職員のあり方	実習に携わりながら、受講者相互に体験事項の連絡と共有を行います
18	演習⑦　課題に対するアクション（4）実施計画の見直し	ここまでのアクションをふりかえり、開催・運営するプロジェクトの実施計画を再検討します
19	実習⑪　実習の進捗状況報告（3）例：実習時に設定した目標・課題	実習に携わりながら、受講者相互に体験事項の連絡と共有を行います
20	演習⑧　課題に対するアクション（5）最終準備	プロジェクトの企画運営の当日に向けて最終的な準備を行います
21	演習⑨　課題に対するアクション（6）プロジェクトの実行	企画した実施計画に基づき社会教育事業に関するプロジェクトを開催・運営します
22	演習⑩　プロジェクトのまとめ（1）ふりかえり	第21回で実施したプロジェクトを受講者相互にふりかえります
23	演習⑪　プロジェクトのまとめ（2）本年度の成果物作成	第22回までのアクションをふりかえり、受講者相互に何らかの成果物をまとめます
24	実習⑫　実習報告会に向けた準備（1）実習先への依頼含む	実習を終えて受講者相互に実習をふりかえり、報告会開催に向けた準備を進めます
25	実習⑬　実習報告会に向けた準備（2）成果・新たな課題の整理	各自の報告事項、当日プログラムの策定、企画運営に関する準備を進めます
26	演習⑫　プロジェクトのまとめ（3）成果物の完成（次年度に向けて）	本年度の成果物を受講者相互・関係者各位に共有・還元します
27	実習⑭　実習報告会の実施	受講者相互の企画運営よる報告会を実施し、関係者とともに内容を共有します
28	演習・実習のまとめ	演習成果物と実習報告会をふりかえり、これまで体験した内容をどのように生かしていくかを考えます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　本演習・実習に関する準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　特に使用しませんが、演習・実習での相互学習の結果として、何らかの共通テキストが必要になる場合があることも想定しておいてください。

【参考書】
　必要に応じ、各回の演習・実習内で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
　演習は、(1) 演習への積極的参画（15％）、(2) 社会教育事業に関するプロジェクトの企画運営（20％）、(3) 成果物の創出と還元（15％）から、実習は (4) 実習報告書の内容（20％）、(5) 実習報告会の企画運営（30％）から、それぞれ総合的に評価し、60％以上の得点を得ることが合格となります。
　(3)（4）の提出と（2）(5) の企画運営の実施は、単位修得の必要条件となります。到達目標を具体的実践に即して自分なりにさらに一歩深められていることが、評価基準となります。

【学生の意見等からの気づき】
　本年度演習・実習担当者の変更によりフィードバックはできません

【学生が準備すべき機器他】
　初回の案内は4月に入りましたら、学習支援システムを通して通知しますので、情報の更新事項を必ず確認してください。必要に応じてメールによる連絡も併用します。
　演習・実習では、授業時間内に各自で利用可能な個人用端末を持参ください。演習・実習がオンラインとなった場合は、マイク・カメラ機能を備えた端末より受講できる環境を各自で準備してください。
　演習・実習の相互学習の結果として受講者相互の合意が得られ、実習先訪問・プロジェクトの実施等、学外授業を実施することになった場合で発生する交通費・実費等は受講者負担が原則となります。

【その他の重要事項】

本演習・実習は、社会教育主事の任用資格ならびに社会教育士の称号を取得するための文部科学省令で定められる「社会教育に関する科目」群の選択必修専門科目に位置づきます。

本演習・実習は２年生以上が受講できますが、社会教育・生涯学習に関する専門的知見を十分に獲得出来ていない段階で実習を実施しても効果的な学習になりにくい可能性も想定されることから、なるだけ「社会教育概論（生涯学習論）」、「生涯学習支援論」、「社会教育経営論」のいずれかの科目を、事前に単位修得しておくことを推奨します。

演習・実習とも、社会教育固有の方法論ともいわれる相互学習を意識しながら展開しますので、受講者相互に無断での欠席・遅刻等は避けてください。受講者相互の連絡共有方法も授業内で確認していきます。

極力、受講者相互の希望や事情に配慮し、本演習・実習を展開していきたいと思います。自分なりに学習した内容をふりかえり、その内容を更に探究していこうとする姿勢や行動は、積極的に応援していきます。

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

Through exercises and practical training, students will gain a comprehensive and hands-on understanding of Adult and Community Education, acquire the basic and practical knowledge and physical senses required of a Social Education Coordinator or Social Education Director who creates frameworks and mechanisms to create an environment for interactive learning in the community, and acquire the ability and qualities to apply these to real-life situations.

【Learning Objectives】

Through exercises and practical training, the goal is to cultivate a perspective of interactive learning (Adult and Community Education and mutual learning) that goes beyond simply participating in classes as a recipient of education, and to gain a collective and experiential understanding of issues and methods to overcome them.

Through the above, students will be able to acquire comprehensive and practical knowledge and sense of the qualities and abilities required to be a Social Education Coordinator and a Social Education Director.

【Learning activities outside of classroom】

In the seminar, students learn from each other through literature reading and plan and manage projects related to Adult and Community Education projects.

In the practical training, students select a training site, such as a local Social Education facility or a place for civic activities, in which they are interested, participate in the practical training, and prepare a report on the practical training. Afterwards, students plan and manage a debriefing session on the practical training.

【Grading Criteria /Policies】

Comprehensive evaluation will be made from active participation in seminars (15%), planning and management of projects related to Adult and Community Education projects (20%), creation and return of project-related deliverables (15%), submission of practical training reports and their contents (20%), and planning and management of practical training debriefing sessions (30%).

生涯学習支援論

栗山　究

配当年次／単位：2～4年次／4単位
開講時期：年間授業/Yearly

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちは一人ひとりが自分自身の人生を主体的に生きるために、いつでもどこでも自らの実際生活に即して相互に学びあう営みを続けています。
授業ではそうした学びあいの営みの基本的な特徴を探り、誰もが生きやすい社会をつくろうとしている地域住民の学びあいの実践と関連づけながら、地域の学習活動を支える人びとの基盤となる理論や実践に関する知識や技法を習得し、住民の学びあいを支える人たちの役割を考察します。

【到達目標】
①：私たちが地域で学んでいることの意味を捉えられるようになり、その概要を説明できるようになります。
②：①で捉えられた学習者相互の学びあいを支援する人たちの役割を理解し、そこでのより良い学びあいを促す条件整備のあり方や技法を主体的に考えられるようになります。
②で理解した考えを、これからの多様な実践の場面で活かしていけるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義と演習（グループワーク・ディスカッションなど）を組み合わせて進めていきます。春学期の初頭から演習形式の展開（相互学習）が中心となりますので、自分なりに学習した内容をふりかえり、その内容を探究していこうとする姿勢や行動は積極的に応援していきます。レポート課題も授業内の相互学習を通してフィードバック（共有）していきます。
少人数の受講者で構成される社会教育主事資格課程科目（社会教育士の称号取得含む）であるという例年の特徴を活かし、授業内での相互学習を踏まえ、可能な限り、地域で展開している社会教育実践の現場や社会教育施設等を訪問し、住民・社会教育職員とともに学習を深めていく機会等を用意したいと考えています。従って、下記の「授業計画」は、受講者人数・受講者相互の問題意識や興味関心の程度および現場の条件に応じて柔軟に変更していく可能性があります。
相互学習の結果、学外授業を実施することになった場合の交通費等については、受講者負担となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	社会教育職員のおかれる現在を確認し、昨年までの事例を参考に授業の進め方を話しあいます
2	社会教育・生涯学習に関する講座・事業等の学習プログラム	講義で使用する専門的な基本用語の内容を確認し受講者各位の問題関心の相互共有をおこないます
3	学習論の基礎①　成人の学習	ノールズのアンドラゴジー概念から成人の学習を支える考え方を考察します
4	学習論の基礎②　相互学習・共同学習	受講者相互の話しあいの意味を考え、この授業での学習方法のあり方を検討します
5	生涯学習支援の事例に学ぶ①　例：高齢者世代の学び	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
6	生涯学習支援の事例に学ぶ②　例：子ども・若者世代の学び	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
7	生涯学習支援の事例に学ぶ③　例：障害のある人たちとともにある学び	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
8	生涯学習支援の事例に学ぶ④　例：在住外国人とともにある学び	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
9	学習講座の企画づくりの基本的視点①　学習テーマの設定	文献輪読を通してその前提条件を確認します
10	学習講座の企画づくりの基本的視点②　企画運営会議と当日運営	文献輪読を通してその具体的ポイントを確認します（講師との関係含む）
11	学習講座の企画づくりの基本的視点③　講座終了後の関わりと評価	文献輪読を通してその具体的ポイントを確認します（広報のあり方含む）
12	生涯学習支援の実際事例の検討①：生涯学習センター職員の仕事	実際の職員になったことを仮定して一日の仕事と来館者との関わりのあり方を考察します
13	生涯学習支援の実際事例の検討②：地域別家庭教育講座づくりを事例に	当該概念を吟味して実際の学習講座づくりのあり方を検討します
14	生涯学習支援の実際事例の検討③：市民創作・企画運営会議型、集会系事業	各種の講座・事業運営と「学びの循環」のあり方を検討します
15	実際の学習講座等の参加・参画・運営体験①　事例のもちより	実際に参加・参画・運営してきた生涯学習支援の現場の実践を報告しあいます
16	実際の学習講座等の参加・参画・運営体験②　内容の検討	生涯学習支援の現場で行われていた実際の学習支援の方法を検討しあいます
17	実際の学習講座等の参加・参画・運営体験③　課題の抽出	生涯学習支援の現場から得られた学習支援上の課題を克服する方途を検討しあいます
18	社会教育施設職員の役割	学習者の学びに寄り添う公務労働者としての役割を検討します
19	学習支援者の力量形成	実際生活や研修等を通して学習支援者はどのような役割を果たしているかを考えます
20	実際の社会教育事業の実践事例分析①　第1回企画運営会議記録の輪読	地域社会における住民の学びの諸相を検討し、学習講座づくりを展望します
21	実際の社会教育事業の実践事例分析②　第2回企画運営会議記録の輪読	NPO、社会教育関係団体との協働のあり方を考えます
22	実際の社会教育事業の実践事例分析③　第3回企画運営会議記録の輪読	講座に参画する学習者の学習課題を検討します
23	実際の社会教育事業の実践事例分析④　第4回企画運営会議記録の輪読	学習者主体の学びの条件整備のあり方を考え、その展開方法を検討します
24	実際の社会教育事業の実践事例分析⑤　第5回企画運営会議記録の輪読	学習支援者が提供する／した学習素材を検討します
25	実際の社会教育事業の実践事例分析⑥　第6回企画運営会議記録の輪読	学習者の学びあいと地域社会での実践の関わりを考えます
26	実際の社会教育事業の実践事例分析⑦　第7回企画運営会議記録の輪読	企画運営会議での学びあいと成立した講座との関係を考えます
27	実際の社会教育事業の実践事例分析⑧　第8回企画運営会議記録の輪読	講座を踏まえた新たな学習課題と地域社会での実践の展開を考えます
28	全体のまとめ　レポート発表会	この授業での学習をどう生かしていくかを考えます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回授業では、受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読し、相互学習のあり方を受講者相互に検討していく予定です。秋学期は、持続可能な地域社会づくりに関する現代的課題の学習を取り扱った実際の社会教育事業の実践記録「3.11以後の社会とエネルギー問題」を事前に配布する予定です。それぞれの文献・実践記録は授業当日までに読んできて、自身の考えを整理してきてください。
回によって、受講者相互でレジメを作成して臨んでいただく場合もあります。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各回テーマに応じて適宜、授業内で指示するほか、担当教員がレジメを作成して配布します。資料の一部は、学習支援システムより配信します。

【参考書】
「月刊社会教育」編集委員会編『月刊社会教育』旬報社（各月発行中）。その他、必要に応じて、各回の授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】
（1）授業（相互学習、学外授業の場合は当該授業を含む）への積極的な参加（40％）と、（2）夏休みと学年末のレポート課題（各30％）から総合的に評価します。
（2）の提出は単位修得の必要条件となります。到達目標①②の内容を具体的事例に即して自分なりにさらに一歩深められていることが、評価基準となります。

【学生の意見等からの気づき】
初回の授業で通年授業の大まかな進め方・授業運営方針をガイダンスします。社会教育固有の方法論ともいわれる相互学習を意識しながら授業は展開しますので、受講を希望される学生は、必ず出席するようにしてください。なお、相互学習のもつ意味は、授業内で学習していきます。

【学生が準備すべき機器他】
授業初回の案内は４月に入りましたら、学習支援システムを通して通知しますので、必ず確認してください。授業では、授業時間内に各自で利用可能な個人用端末を持参ください。

【その他の重要事項】
本科目は、社会教育主事の任用資格ならびに社会教育士の称号を取得するための文部科学省令で定められる「社会教育に関する科目」群の必修専門科目の一つに位置づきます。

本授業では、公立の社会教育施設で事業を担当していた教員の実務経験に基づき、そこでの教育活動（学習支援）の実際について解説する機会を適宜、設けていきます。

【Outline (in English)】

In this class, we will learn the basic characteristics of adult learning and understand that various types of learning are created in our lives in contemporary society, as they relate to themselves and to the educational practices of their respective communities.

Therefore, based on specific examples, we will discuss the following two perspectives. The first is the role and scope of "adult and community education" in confronting the various problems of contemporary society. The second is the role and significance of adult and community education staff and learning facilitators who support residents' interactive learning.

【Learning Objectives】

By the end of the course, you will be able to do the followings:

A. Capture and outline the meaning of what we are learning in our community.

B. Understand the role of those who support mutual learning among learners and be able to proactively consider conditions and methods to promote better learning among learners.

【Learning activities outside of classroom】

During the spring semester, you will read and review literature assigned by the teacher based on your own interests. In the fall semester, we will be analyzing practical records of adult and community education projects that deal with learning about contemporary issues for a sustainable society.

You are encouraged to read them and organize your thoughts before the day of class. In addition, depending on the session, you may be asked to prepare resumes for each other.

Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Overall evaluation will be based on active participation in class (40%) and reports from the summer vacation and the end of the school year (30%each).

博物館概論

森屋　雅幸

配当年次／単位：1～4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館（ミュージアム）の定義や理念、目的や機能に関する講義を通し、博物館の諸活動に従事するのに不可欠な基礎的知識を習得し、専門性の基礎となる能力を養うことを目的とする。

【到達目標】
博物館の理念や目的、博物館の成り立ちや多様性、法令や諸制度に関する知識を習得し、現代社会において博物館が果たす役割や意義を理解して、論理的に説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式の授業を実施する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックするなど、受講者との双方向の授業を意識して実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博物館とは何か	博物館の定義・理念について博物館法やICOMの憲章等から解説する。
第2回	博物館の誕生	西洋におけるミュージアムの誕生から日本における博物館の創設まで概観し、講義する。
第3回	博物館発達の歴史	明治時代から戦後、高度経済成長を経て現代に至るまでの日本における博物館の歴史を概観し、講義する。
第4回	博物館学史	博物館学の学史について主要な研究を紹介し、博物館学の目的等についても講義する。
第5回	博物館の法制度	博物館法および関連する文化財保護法やその他制度を解説する。
第6回	博物館の種類	館種、設置者別などによる博物館の種類について紹介する。
第7回	博物館の機能Ⅰ	博物館の機能である収集・保管・展示の方法と現場での実践を紹介し、その意義を講義する。
第8回	博物館の機能Ⅱ	博物館の機能である調査研究・教育普及の方法と現場での実践を紹介し、その意義を講義する。
第9回	学芸員の役割	学芸員の博物館における役割と現代に求められる姿を解説する。
第10回	博物館と文化財保護	文化財保護において博物館が果たす役割について講義する。
第11回	博物館と地域社会Ⅰ	博物館と地域のコミュニティ、まちづくりの関わりを示す博物館論と博物館を拠点としたコミュニティによるまちづくりの事例を紹介する。
第12回	博物館と地域社会Ⅱ	「エコミュージアム」の理論とフランスにおける歴史、日本国内における実践事例を紹介する。
第13回	現代の博物館の現状・課題と展望	現代の博物館の現状と課題を確認するとともに、今後の博物館がどのようにあるべきか展望を講義する。
第14回	試験・まとめと解説	本授業のまとめ・解説をするとともに、到達目標を達成できたか確認する筆記試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の準備学習・復習の内容は、初回の授業で指示します。初回の授業の準備学習は、過去に自分が見学して印象に残っている博物館や現在興味のある博物館の概要をまとめておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
自分が興味・関心のある博物館を日頃から見学すること。東京国立博物館、国立科学博物館、国立美術館（国立西洋美術館、国立近代美術館等）はキャンパスメンバーとして常設展を無料で見学ができるので活用すること。

【テキスト（教科書）】
毎回、講義資料を配布します。

【参考書】
鷹野光行他編『新編博物館概論』（同成社、2011年）
金山喜昭『博物館と地方再生－市民・自治体・企業・地域との連携－』（同成社、2017年）
岩城卓二・高木博志編『博物館と文化財の危機』（人文書院、2020年）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー・授業への貢献（40％）、授業内課題（20％）、期末試験（40％）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
Through lectures on the definition, philosophy, purpose, and functions of museums, this course aims to provide students with the basic knowledge that is indispensable for engaging in various museum activities and to develop skills that will serve as the foundation of their expertise.

博物館資料論

森屋　雅幸

配当年次／単位：1〜4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館資料の収集、整理・保管などに関する理論や方法に関する知識・技術を習得し、博物館の調査研究活動について理解することを通じて、博物館資料に関する基礎的能力を養うことを目的とする。

【到達目標】
博物館資料の多様性や多面性について理解し、学芸員になるための基礎的な知識を習得するとともに、博物館資料を収集、研究し、活用するための方策について考察することができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式の授業を実施する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックするなど、受講者との双方向の授業を意識して実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博物館資料の概念	ガイダンスと博物館資料という考え方が形成されてきた背景を講義する。
第2回	博物館資料と博物館活動	博物館資料の条件、資料化の過程、資料の価値、コレクション形成の意義などについて講義する。
第3回	博物館資料の多様性Ⅰ	博物館法等に示される博物館資料について講義する。
第4回	博物館資料の多様性Ⅱ	文化財保護法と博物館資料の関わりについて、歴史的な観点も含めて講義する。
第5回	博物館資料の収集	博物館資料の収集について、その方針や手法について講義する。
第6回	博物館資料の保管	博物館資料の保管について、資料を収蔵までのプロセスなどを講義する。
第7回	博物館資料の展示	博物館資料の展示について、展示環境や資料借用なども含めて解説する。
第8回	博物館資料の調査研究Ⅰ	博物館資料の調査研究とその還元の実際について講義する。
第9回	博物館資料の調査研究Ⅱ	博物館資料の調査研究をとくに市民参加の観点から講義する。
第10回	博物館資料の公開と近年の動向	博物館資料のデジタル・アーカイブ化とその公開・発信について説明する。
第11回	博物館資料のもつ現代的意義	博物館資料の他分野での活用について、事例を示して解説する。
第12回	博物館資料の活用	改正博物館法・博物館法を受けて、博物館資料の活用に求められるものと課題について講義する。
第13回	博物館資料のの保存・活用をめぐる近年の動向	博物館資料の保存・活用をめぐる近年の動向と課題について講義する。
第14回	試験・まとめと解説	本授業のまとめ・解説をするとともに、到達目標を達成できたか確認する筆記試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業で取り上げた事例について、自主的に文献や現地調査をするなど準備学習・復習に努めるとともに、最新の関連した報道も日常的に調べておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回、講義資料を配布する。

【参考書】
青木豊編『人文系博物館資料論』（雄山閣、2012年）
加藤有次他編『博物館資料論〔新版博物館学講座5〕』（雄山閣、1999年）
金山喜昭編『博物館の収蔵庫問題と新たなコレクション管理』（雄山閣、2024年）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー・授業への貢献（40％）、授業内課題（20％）、期末試験（40％）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to acquire knowledge and skills related to theories and methods of collecting, organizing, and storing museum materials, and to develop basic skills related to museum materials through understanding of research and study activities of museums.
Students are expected to make efforts to prepare for and review the cases discussed in each class by independently conducting literature and field research, as well as to research the latest related news reports on a daily basis. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading methods and criteria are as follows Reaction paper and contribution to class (40%), in-class assignments (20%), and final exam (40%)

視聴覚教育Ⅰ

原田　雅子

配当年次／単位：2〜4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館は多様な視聴覚教材（実物、データなど）を用いて教育を行う場であるため、現在博物館が扱うアナログ／デジタル情報についてデータの利活用も含めて俯瞰し、博物館で実施されている視聴覚教育法の概要と特徴を知る。また一部を体験することで、博物館での教育手法やその意義について学び、博物館または学校などの教育現場で生かせる知識を習得する。

【到達目標】
博物館で行われている視聴覚教育のありかたや様々な手法について知り、考えることで、適切な場面で必要な手法を行える。
また、博物館資料データの取り扱い・利活用の方法、著作権法などのメディアリテラシーの基礎を知ることで、教育現場におけるデータの取り扱いを理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義と参加者によるディスカッションを行う。また、可能な場合は、校外実習として博物館で行われる教育手法を体験する。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありうる。
課題（レポートや試験）に関しては、提出当日あるいは次回の授業においてフィードバックを行う。授業中のフィードバックが困難な場合は、メールによって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義：博物館の機能	イントロダクション：博物館の役割と種類を俯瞰し、それぞれの役割と種類における情報媒体の在り方を知る。
2	講義：博物館と視聴覚教育の歴史	近現代の博物館教育の歴史を振り返り、その中で視聴覚教育がどのように発展してきたかをたどる。
3	講義：博物館での情報の記録	博物館は情報を集積する場所であるが、そこでどのように情報が収集、保存され、また、記録・管理されるのかを知る。
4	講義：博物館の収蔵品・展示物と情報デジタル化	博物館では現在は多くの収蔵品の情報をデジタル化しているが、それによるメリット・課題を、実際に博物館がポータルサイト等を通じて公開しているデータを通じて考える。
5	講義：博物館の収蔵品・展示物情報、研究データの利活用	デジタル化された博物館情報の中でも、とくに3D情報や位置情報など、21世紀になって新たに注目されているデータの収集・活用をとりあげる。
6	講義：博物館の視聴覚教材	実際に博物館でどんなものが視聴覚教材として使われているかを考え、分類し、その分類の特徴に基づいてそれぞれの教材としての意義を考察する。
7	講義：博物館と様々な立場の人々の視聴覚教育	博物館はそもそも生涯学習の場として学齢期のみならずあらゆる世代・立場（病気や障がい、貧困の有無など）の人々の教育を目的としている。それらの事例にスポットを当て、博物館がしている教育、できる教育を考える。また、点字を打つ実演を行うことで、視覚偏重になりがちな博物館の在り方について考える。
8	講義：博物館と知的財産・メディアリテラシー	博物館での情報の発信の際にとくに重要になる著作権などの関連法規の基礎知識を学ぶ。
9	講義：博物館の展示物とブログを使った意見交換学習プログラムの体験	（可能な場合は博物館を訪れ、）教員が用意したブログに投稿する形の学習プログラムを実施する。鑑賞教育の一つ、Visual Thinking Strategyについても紹介する。
10	演習：博物館の展示物とブログを使った意見交換学習プログラムについての考察	前回博物館で実施した学習プログラムの作品についてディスカッションを行い、その意義を考察する。また、学習プログラムそのものの改善点についても考察を行う。
11	講義：情報でつながる博物館	実際に博物館で行われた研究の中で、インターネットやテレビなどの媒体が効果的に使用された例や、ゲームやクラウドファンディングなど、新しい媒体を通じて博物館が基盤を強めていく取り組みを紹介する。
12	講義：自分の行いたい視聴覚教育を企画してみよう	博物館教育における未来予測に関する資料を紹介し、これまでの内容を踏まえて、自分が実施したい視聴覚教育プログラムについて考え、企画書や指導案を作ってみる。
13	講義：これからの視聴覚教育を考える	前回作成した企画書・指導案の内容の共有を行い、これまでの講義を振り返る。博物館における視聴覚教育とは何かを考える。
14	まとめ	テストを行うことで、全体の理解度を確認する。また、その内容について解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
時間を見つけて博物館のwebサイトを見たり、博物館展示を見学したりすることで、講義の内容が理解しやすくなります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
博物館情報・メディア論（放送大学教育振興会）

【成績評価の方法と基準】
①平常点（30%）、②講義期間中の提出課題（30%）、③講義最終回に実施するテスト（40%）による。
合計60%以上得点した場合に合格。ただし、①〜③のうち１つでも０%のものがあれば不合格。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
対面授業であってもパソコンを使用する。PowerPoint を多用するので、Microsoft Officeなどのオフィスツール搭載のパソコン推奨。

【Outline (in English)】
Course Outline
Since museums are places where education is conducted using a variety of audiovisual materials (real objects, data, etc.), this course provides an overview of the analog and digital information currently handled by museums, including the utilization of data, and an overview of the audiovisual education methods implemented in museums and their characteristics. By experiencing some of these methods, students will learn about the educational methods used in museums and their significance, and acquire knowledge that can be used in museums and schools.
Learning Objectives
The goals of this course are to
(1) Understand the meaning of audiovisual education and various methods used in museums.
(2) Obtain basic skills about how to handle and utilize museum data and the basics of media literacy, such as copyright law, in order to understand how to handle data in the field of education.
Learning Activities Outside of Classroom
Students will be expected to find time to look at museums' website and visit museum exhibits to better understand the content of the lecture.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policies
Final grade will be calculated according to the following process,
(1) Ordinary score (30%), (2) Assignments submitted during the lecture (30%), and (3) Test at the end of the lecture (40%).
Students will pass if they score 60%or more in total. However, students will fail the course if any of the items (1) through (3) are not completed.

視聴覚教育Ⅱ

原田　雅子

配当年次／単位：2〜4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館における情報提供のコンテンツの制作実習を通じ、多様な来館者に向けた情報発信のために、対象と学習目的を設定し、適切な情報の選択を行い、提供する情報を整理して発信できるようになることを目的とする。

【到達目標】
博物館において扱う情報の意義及び活用方法を理解する。
教育に関わる視聴覚メディアについて、実際にコンテンツを作成してみる中でその特性を理解し、情報発信において活用する能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
博物館における情報提供のコンテンツ作成実習を通じ、多様な来館者に向け、対象と学習目的を設定し、適切な情報の選択を行い、情報発信することを学ぶ。受講人数やコンテンツ作成の進行具合等により、授業計画は変更される可能性がある。
課題（レポートや試験）に関しては、提出当日あるいは次回の授業においてフィードバックを行う。授業中のフィードバックが困難な場合は、メールによって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	博物館展示における情報発信	多様な学びのニーズに合わせた情報の提供について学ぶ。
2	情報発信の事例紹介	携帯情報端末利用、3Dモデル利用などの導入事例を元に、効果的な利用法を考える。
3	情報発信の対象設定	情報を伝える対象と目標の設定について学ぶ。
4	ソフト実習	コンテンツを制作するソフトウェアの使い方を学ぶ。 ソフトウェアは受講者の状況等に応じて使用するものを変更する場合がある。
5	情報デザインI	情報デザインの基本的な考え方を学ぶ。
6	情報デザインII	情報デザインの基本的な考え方を学ぶ。
7	コンテンツ作成のための全体構成・素材準備	情報を伝えたい対象を特定し、コンテンツ全体の構成を考える。情報を伝えるために必要な素材を集める。
8	コンテンツ編集	これまでに集めた素材を編集する。
9	博物館コンテンツの体験	（可能な場合は、）実際に博物館を訪れ、博物館のコンテンツ利用を体験する。
10	コンテンツ作成の中間発表	中間発表と、相互評価を行う。
11	コンテンツの修正	評価をもとに修正点を整理し、コンテンツの更新を行う。
12	完成したコンテンツの講評	全体の構成をチェックし、完成したコンテンツの発表と相互評価を行う。
13	コンテンツの改善	作成したコンテンツの課題の抽出と改善を行う。
14	理想の博物館コンテンツを考える	博物館が行うべき情報発信の姿について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博物館における情報発信の演習を行うので、時間を見つけて博物館のwebサイトを見たり、博物館展示を見学したりすることをすすめます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。必要に応じて資料を配付します。

【参考書】
博物館情報・メディア論（放送大学教育振興会）

【成績評価の方法と基準】
①講義の中で作成したコンテンツおよびレポート（70%）、②平常点（30%）の合計が
60%以上で合格。①②のいずれかが０点の場合は不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
対面授業であってもパソコンを使用する。PowerPoint を多用するので、Microsoft Officeなどのオフィスツール搭載のパソコン推奨。

【Outline (in English)】
Course Outline
Through hands-on training in the production of content for information provision in museums, the objective is for participants to be able to set targets and learning objectives, select appropriate information, and organize and disseminate the information to be provided in order to disseminate information to a variety of visitors.
The goals of this course are to
(1) Understand the meaning and utilization of information at museums.
(2) Understand the characteristics of audiovisual media related to education through the actual creation of content, and acquire the ability to utilize them in the transmission of information.
Learning Activities Outside of Classroom
Students will be expected to find time to look at museums' website and visit museum exhibits to better understand the content of the lecture.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policies
Final grade will be calculated according to the following process,
(1) Content and report created in the lecture (70%),
(2) Normal score (30%).
Students will pass if they score 60%or more in total.
If either of ① or ② is zero, the student will fail the course.

グローバル社会のローカリティ

竹元　秀樹

配当年次／単位：2〜4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前世紀の国民国家に組み込まれた地域社会とは異なる、グローバル化した現代社会におけるローカルな場所の実態と意味を、主に社会学の方法に基づいて理解する。
授業の前半は、「再帰的近代化論」に依拠して、グローバル化による社会変容の実態を明らかにする。特に、ローカルな場所において生起した問題について明らかにする。
そして、授業の後半は、個人と集団の関係の再構築を踏まえた、新しいローカリティの形成による地域社会の安定化について、事実とデータに基づき講義する。

【到達目標】
・新しいローカリティの可能性と困難を、肯定的にせよ批判的にせよ事実とデータに基づいて理解・説明できる。
・新しいローカリティを踏まえた社会形成についての自らの考えを論理的に表明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は対面による講義形式で実施する。
授業への学生の積極的参加と教員との双方向交流を促すために、リアクションペーパーを提出してもらう。
教材（講義資料）は学習支援システムで事前に配布する。
授業計画は概ね以下を予定しているが、受講生の問題関心によって若干変更する可能性がある。
リアクションペーパーについては、次回の授業でいくつか取り上げ、講評を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と構成の説明
2	ローカル社会のゆらぎ問題	グローバル化によるローカル社会の個人・集団の帰属関係のゆらぐ状況について解説する。
3	二つの近代化	ゆらぐ帰属関係を生み出す近代化の構造・推移を解説する。
4	リスク社会と個人化	グローバル化によりローカルな場所での社会の不安定化を生み出す「リスク社会」と「個人化」について解説する。
5	脱埋め込みと再埋め込み	グローバル化によりローカルな場所での社会の不安定化を生み出す「脱埋め込み」と「再埋め込み」について解説する。
6	個人主義化と情報社会化	戦後の社会形成に大きな影響を及ぼした「個人主義化」と「情報社会化」による社会変容の実態を解説する。
7	社会の類型の把握	社会変容が「リアル乖離社会」から「リアル密接社会」と「リアル同調社会」に分離して推移したことを解説する。
8	リアル密接社会の構築	地域社会の安定化につながる新しいローカリティを形成するためには、「リアル密接社会」の構築が重要であることを解説する。
9	個人の再構築	「リアル密接社会」を実現するためには、まずは個人が「本来あるべき姿の個人主義」を身につけることの重要性を解説する。
10	道標となる概念	「本来あるべき姿の個人主義」を身につけるための道標となる、４人の社会学者が主張する概念を解説する。
11	個人と中間集団との関係の再構築	地域社会の安定化につながる新しいローカリティを形成するための次なる重要事項としての個人と中間集団との関係の再構築について概説する。
12	中間集団の限界	グローバル化を主軸にした近代化の進展による、ローカルな場所での大きな不安定化の原因になっている中間集団の限界について解説する。
13	異質的なコミュニティ・ビロンギング	個人と中間集団との関係の再構築を実現する方法として、「異質的なコミュニティ・ビロンギング」という概念を解説する。
14	事例分析からの解明	「異質的なコミュニティ・ビロンギング」の構築過程について、実際行われている地域活動を事例にして解明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義の内容が多岐にわたるために、特に指定しない。

【参考書】
都度、講義の引用・参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーが20％、論述式の定期試験が60％。授業参加の総合的評価が20％。

【学生の意見等からの気づき】
二律背反関係にある「個人の確立」と「集団の秩序」という二大価値観の両立問題について、より理解が深まるように分かりやすく講義をする。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムへのアクセスが必須。
ただ画面を眺めるだけでなく自分のノートを作ることが重要。

【その他の重要事項】
コースの専門的科目なので入門科目以上の知識が必要。

【Outline (in English)】
(Course outline)This lecture aims to study making local society below globalization by sociological perspective.
(Learning Objectives)The goals of this lecture are sociological understanding of the policy for local society below globalization.
(Learning activities outside of classroom)Reading some directed books and writing a report.
(Grading Criteria /Policy)Positivity of classroom:20%, Short Report:20%, Final Exam:60%.

地域社会学

竹元　秀樹

配当年次／単位：2〜4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前世紀の国民国家に組み込まれた地域社会とは異なる、グローバル化した現代社会におけるローカルな場所の実態と意味を、主に社会学の方法に基づいて理解する。
授業の前半は、「再帰的近代化論」に依拠して、グローバル化による社会変容の実態を明らかにする。特に、ローカルな場所において生起した問題について明らかにする。
そして、授業の後半は、個人と集団の関係の再構築を踏まえた、新しいローカリティの形成による地域社会の安定化について、事実とデータに基づき講義する。

【到達目標】
・新しいローカリティの可能性と困難を、肯定的にせよ批判的にせよ事実とデータに基づいて理解・説明できる。
・新しいローカリティを踏まえた社会形成についての自らの考えを論理的に表明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は対面による講義形式で実施する。
授業への学生の積極的参加と教員との双方向交流を促すために、リアクションペーパーを提出してもらう。
教材（講義資料）は学習支援システムで事前に配布する。
授業計画は概ね以下を予定しているが、受講生の問題関心によって若干変更する可能性がある。
リアクションペーパーについては、次回の授業でいくつか取り上げ、講評を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と構成の説明
2	ローカル社会のゆらぎ問題	グローバル化によるローカル社会の個人・集団の帰属関係のゆらぐ状況について解説する。
3	二つの近代化	ゆらぐ帰属関係を生み出す近代化の構造・推移を解説する。
4	リスク社会と個人化	グローバル化によりローカルな場所での社会の不安定化を生み出す「リスク社会」と「個人化」について解説する。
5	脱埋め込みと再埋め込み	グローバル化によりローカルな場所での社会の不安定化を生み出す「脱埋め込み」と「再埋め込み」について解説する。
6	個人主義化と情報社会化	戦後の社会形成に大きな影響を及ぼした「個人主義化」と「情報社会化」による社会変容の実態を解説する。
7	社会の類型の把握	社会変容が「リアル乖離社会」から「リアル密接社会」と「リアル同調社会」に分離して推移したことを解説する。
8	リアル密接社会の構築	地域社会の安定化につながる新しいローカリティを形成するためには、「リアル密接社会」の構築が重要であることを解説する。
9	個人の再構築	「リアル密接社会」を実現するためには、まずは個人が「本来あるべき姿の個人主義」を身につけることの重要性を解説する。
10	道標となる概念	「本来あるべき姿の個人主義」を身につけるための道標となる、４人の社会学者が主張する概念を解説する。
11	個人と中間集団との関係の再構築	地域社会の安定化につながる新しいローカリティを形成するための次なる重要事項としての個人と中間集団との関係の再構築について概説する。
12	中間集団の限界	グローバル化を主軸にした近代化の進展による、ローカルな場所での大きな不安定化の原因になっている中間集団の限界について解説する。
13	異質的なコミュニティ・ビロンギング	個人と中間集団との関係の再構築を実現する方法として、「異質的なコミュニティ・ビロンギング」という概念を解説する。
14	事例分析からの解明	「異質的なコミュニティ・ビロンギング」の構築過程について、実際行われている地域活動を事例にして解明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義の内容が多岐にわたるために、特に指定しない。

【参考書】
都度、講義の引用・参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーが20％、論述式の定期試験が60％。授業参加の総合的評価が20％。

【学生の意見等からの気づき】
二律背反関係にある「個人の確立」と「集団の秩序」という二大価値観の両立問題について、より理解が深まるように分かりやすく講義をする。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムへのアクセスが必須。
ただ画面を眺めるだけでなく自分のノートを作ることが重要。

【その他の重要事項】
コースの専門的科目なので入門科目以上の知識が必要。

【Outline (in English)】
(Course outline)This lecture aims to study making local society below globalization by sociological perspective.
(Learning Objectives)The goals of this lecture are sociological understanding of the policy for local society below globalization.
(Learning activities outside of classroom)Reading some directed books and writing a report.
(Grading Criteria /Policy)Positivity of classroom:20%, Short Report:20%, Final Exam:60%.

マス・コミュニケーション論

藤田　真文

配当年次／単位：2〜4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これからのメディアコミュニケーションを支える重要な基本技術である生成AIについて、様々な角度から理解を深める。

【到達目標】
メディアコミュニケーションを支える重要な基本技術である生成AIの性質を、受講生が理解できている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義第１回から４回までは、生成AIと基本技術である機械学習、自然言語処理、大規模言語モデルの基本的な仕組みを概説します。第５回から７回までは、文章でAIを動かすプロンプトエンジニアリングについて理解を深めてもらいます。第８回はそれまでの講義内容をふまえた中間レポートの作成方法を解説します。第９回以降は、自然言語処理、画像解析を簡単なPythonコードを動かしながら理解してもらいます。第14回でまとめを行います。
　毎回リアクションペーパーを通じ受講者自身で講義内容を振り返ってもらいます。中間で生成AIに関わるレポートを書いてもらいます。また、定期試験で生成AIに対する理解度を試します。毎回の課題と中間レポートについては、授業中にコメントをしてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生成AIとは	生成AIの歴史や種類を概観する
第2回	機械学習入門	機械学習の基本的な仕組みを理解する
第3回	自然言語処理入門	自然言語処理の基本的な仕組みを理解する
第4回	大規模言語モデル	大規模言語モデルの基本的な仕組みを理解する
第5回	プロンプトエンジニアリング	プロンプトエンジニアリングの基本を理解する
第6回	トリガープロンプト	プロンプトエンジニアリングの様々なパターンを試みる
第7回	トリガープロンプト／発展的な技術	トリガープロンプトの様々なパターンを試み、発展的な技術を理解する
第8回	中間レポート解説	中間レポートの作成の仕方について解説する
第9回	自然言語処理実践	Pythonによって自然言語処理を実践する
第10回	LLM実践	PythonによってLLM（大規模言語モデル）を実践する
第11回	画像解析入門	画像解析の基本的な仕組みを理解する
第12回	画像解析実践	Pythonによって画像解析を実践する
第13回	画像生成AI	画像生成AIの基本的な仕組みを理解する
第14回	生成AIの将来	生成AIの将来について理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
鎌形桂太(2024)『IT基礎教養　自然言語処理&画像解析　“生成AI”を生み出す技術』インプレス、2,992円
岡瑞起・橋本康弘(2024)『AI時代の質問力　プロンプトリテラシー　「問い」と「指示」が生成AIの可能性を最大限に引き出す』翔泳社、1,700円

【参考書】
参考書は特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】
①中間レポート＝30％
②定期試験＝50％
③毎回の課題＝20％
以上３点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度の授業改善アンケートには「授業内で提示されているパワーポイント資料もHoppiiの教材の方にアップしてほしい」との要望があったので、今年度はパワーポイント資料のPDFをアップするようにしました。その結果、今年度は「レジュメがシンプルな構図でまとめてあって復習しやすかったです」などの評価をもらい、ある程度は成果があったものと思います。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The purpose of this class is to deepen understanding of generative AI, an important basic technology that will support future media communication, from various angles.
【Learning Objectives】
Students are able to understand the nature of generative AI, an important basic technology supporting media communication.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
The evaluation will be based on the following three points: 1) Mid-term report = 30%　2) Regular exam = 50%3) Every assignment = 20%

福祉社会学Ⅰ

堅田　香緒里

配当年次／単位：2〜4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
福祉が社会の中でどのような意味や機能をもつのかについて学ぶ。

【到達目標】
1）福祉国家の歴史／学説史を理解する。
2）現代社会における福祉の意味や機能ならびに課題を理解する。
3）これからの福祉社会を展望するために必要な基礎的能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義の前半では、社会が福祉を必要としてきた背景やそれを支えてきた理念や規範について、福祉国家の歴史および学説史の検討を通して学ぶ。そのうえで、講義の後半では、現代社会における福祉の意味や課題を理解するために重要な幾つかの論点を取り上げ、解説する。これらを通して、これからの福祉社会を展望するために必要な基礎的能力を養うことを目的とする。
※なお、授業計画は、参加者の興味・関心および進捗状況に応じて変更の可能性もある。
※課題については、適宜授業時間内にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	福祉とは何か、必要とは何か
2	福祉国家とは何か	福祉国家の目的・編成・機能
3	福祉国家の歴史①生成期	救貧法から戦後福祉国家誕生まで
4	福祉国家の歴史②拡大期	社会支出の増大、社会権の確立
5	福祉国家の歴史③危機と再編	右派からの批判、「新しい社会運動」による異議申し立て
6	福祉国家論①	産業主義理論、権力資源論から福祉レジーム論へ
7	福祉国家論②	福祉レジーム論の新展開、脱商品化と脱家族化
8	福祉国家論③	福祉レジーム論への批判と、新しいレジーム論
9	福祉国家の論点①シティズンシップ	権利と義務、市民共和主義と自由主義、フェミニスト・シティズンシップ、国籍と難民
10	福祉国家の論点②自由とセキュリティ	「生の保障」と「治安」、福祉国家の監視国家化
11	福祉国家の論点③：ケアと再生産	生産、再生産、ケア、家事労働
12	福祉国家の論点④：自立と依存	フェミニズム／障害学が投げかける問い
13	福祉国家の論点⑤：再分配と承認	「声」の政治、マイノリティ
14	授業内試験、まとめ	授業内試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。講義は毎回の配布資料に沿って進めます。

【参考書】
武川正吾・森川美絵・井口高志・菊地英明（2020）『よくわかる福祉社会学』ミネルヴァ書房.

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、テーマ毎に設定する課題の提出40％、最終テスト60％で行う。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the history and the function of modern welfare state. By the end of the course, students are expected to understand the meaning and function of welfare in society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following; 1)short reports 40%, 2)term-end examination 60%.

福祉社会学Ⅱ

堅田　香緒里

配当年次／単位：2〜4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
福祉政策および周辺の諸政策について学び、そのうえで、今日の福祉政策が抱える課題やそれを克服するための展望について考える。

【到達目標】
1）既存の福祉政策の内容や目的・背景にある規範を理解する。
2）福祉政策が現在直面している課題について理解する。
3）これからの福祉政策のあり方について各々が展望する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
今日、福祉国家を支えてきた様々な社会的諸条件が揺らぐ中、福祉政策の再編が進行しつつある。こうした現代的文脈を踏まえ、講義の前半では、とりわけ日本の福祉政策および周辺の諸政策を取り上げ、その目的・内容及び背景にある規範について学ぶ。講義の後半では、これらの福祉政策が現代社会において直面している諸課題を検討し、それを克服するために近年検討されている新しい政策構想に触れ、これからの福祉政策のあり方を展望する。
※授業計画は、参加者の興味・関心や進捗状況に応じて変更の可能性もある。
※課題については、適宜授業時間内にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	福祉政策の目的・編成・機能
2	福祉政策の実際①：障害者福祉	自立生活、介助サービス
3	福祉政策の実際②：高齢者福祉	介護保険、介護労働、ケア
4	福祉政策の実際③：子ども家庭福祉	社会手当、保育サービス、ひとり親
5	福祉政策の実際④：低所得者福祉	生活保護、生活福祉資金、生活困窮者支援
6	福祉政策の周辺①：健康の保障	医療保険、予防的介入
7	福祉政策の周辺②：教育の保障	教育政策、奨学金
8	福祉政策の周辺③：住宅の保障	公営住宅、「ホームレス」政策
9	福祉政策の現代的課題①	雇用の不安定化に伴う諸課題
10	福祉政策の現代的課題②	家族の不安定化に伴う諸課題
11	福祉政策の現代的課題③	コミュニティの再編に伴う諸課題
12	新しい福祉政策①	ワークフェア
13	新しい福祉政策②	アクティベーション、参加所得
14	新しい福祉政策③	ベーシックインカム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。講義は毎回の配布資料に沿って進めます。

【参考書】
武川正吾・森川美絵・井口高志・菊地英明（2020）『よくわかる福祉社会学』ミネルヴァ書房.

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、テーマごとにに設定する課題の提出40％、最終レポート60％で行う。

【学生の意見等からの気づき】
毎回提出してもらうリアクションペーパーへの授業内応答を、引き続き行う。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of challenges and prospects facing modern welfare state. By the end of the course, students are expected to understand the situation surrounding today's welfare policies and to acquire the ability to envision desirable future welfare policies. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following; 1)short reports 40%, 2)term-end examination 60%.

博物館経営論

森屋　雅幸

配当年次／単位：1～4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館の適切な管理・運営について理解し、博物館経営（ミュージアム・マネジメント）に関する基礎的能力と応用力を養うことを目的とする。

【到達目標】
博物館の経営基盤、使命・計画・評価、博物館倫理（行動規範）、市民参画・他館連携、地域社会との関わりなど博物館経営に関する理解を深め、現代に求められる博物館の適切な管理・運営について考察できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式の授業を実施する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックするなど、受講者との双方向の授業を意識して実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博物館経営とはなにか	授業ガイダンスに加え、博物館を経営の視点から考える必要性と「ミュージアム・マネジメント」の概念について講義する。
第2回	博物館の社会的使命とその役割	博物館の社会的使命とは何か説明し、使命書の作成や行動計画の立案について講義する。
第3回	博物館の経営基盤Ⅰ	博物館に関する法令から、博物館経営の歴史や経営を支える行財政制度について、講義する。
第4回	博物館の経営基盤Ⅱ	博物館の財政状況や施設・設備・組織・人材の実態を講義する。
第5回	博物館経営の現状Ⅰ	公立博物館における近年の経営動向について解説する。
第6回	博物館経営の現状Ⅱ	私立博物館における近年の経営動向について解説する。
第7回	博物館経営の現状Ⅲ	独立行政法人、指定管理者制度、PFIについて説明する。
第8回	博物館における連携Ⅰ	ボランティアなどの博物館における市民参画ついて講義する。
第9回	博物館における連携Ⅱ	企業・他館との連携やネットワークについて講義する。
第10回	博物館の企画運営Ⅰ	ユニバーシティ・ミュージアムの歴史と経営について講義する。
第11回	博物館の企画運営Ⅱ	地域社会と連携・協働する博物館経営について講義する。
第12回	博物館における危機管理	博物館の災害対策について日常的な防災と地震・水害への対策を事例に講義する。
第13回	博物館経営の課題と展望	近年の改正博物館法・博物館法において博物館経営に求められる博物館の姿と、課題について講義する。
第14回	試験・まとめと解説	本授業のまとめ・解説をするとともに、到達目標を達成できたか確認する筆記試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業で取り上げた事例について、自主的に文献や現地調査をするなど準備学習・復習に努めるとともに、最新の関連した報道も日常的に調べておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回、講義資料を配布する。

【参考書】
金山喜昭編『転換期の博物館経営』（同成社、2020年）
佐々木亨・今村信隆『博物館経営論〔改訂新版〕』（放送大学教育振興会、2023年）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー・授業への貢献（40％）、授業内課題（20％）、期末試験（40％）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to understand the proper management and operation of museums and to develop basic and applied skills in museum management.

博物館経営論

杉長　敬治

配当年次／単位：1～4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は、博物館の経営上の課題を解決していくためのスキルを習得することを目的に、博物館経営についての基本知識と博物館経営の現状と課題について学習します。

【到達目標】
博物館の根拠法である博物館法が制定された1951年から60年代、博物館が急増した1970年代から80年代.バブル経済の崩壊以降の経済的低迷の時代、そしてグローバル化と情報化・デジタル化が急激に進み、社会構造が大きく変化した現在とでは、博物館の経営環境は大きく変化しています。経営環境の変化に伴い、博物館に求められている役割や期待は、大きく変わってきました。受講生は、博物館の経営環境の変化と博物館に期待されている社会的役割について理解を深め、環境の変化に対応し、社会の期待に応える博物館となるために必要な博物館経営（ミュージアム・マネジメント）の考え方を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業では、博物館経営に関する基本知識を講義します。講義内容を踏まえて、受講生には、①授業内容に関連した課題への回答と②各自が選択した博物館について、実地調査その他のリサーチに基づいて経営分析（当該博物館の課題を解決するための取組）をしてもらいます。授業時のリアクションペーパーでのコメントは、講義を活性化するためのツールとして活用しますので、受講者は積極的にコメントしてください。最終授業では、受講生の学習成果を相互に確認するために、博物館の現状認識を交換する場を設ける予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス－博物館経営の基本概念と博物館の業種特性、博物館の経営資源を中心に	博物館の経営（マネジメント）の重要性が強調されるようになった背景、博物館経営の基本概念、博物館の業種特性、博物館の経営資源について学習する。
2	博物館の目的・使命（ミッション）・事業計画、評価・改善の取組	博物館の目的・使命がどのように設定されているかについて学習する。また、目的・使命を達成する上で、事業の計画・実施・評価・改善からなるPDCAサイクルを機能させることの重要性について理解を深める。
3	経営資源から見た日本の博物館の現状	博物館の経営資源（ヒト・モノ・カネ・経営力）に着目して、我が国の博物館の現状（経営資源が乏しい館が多いこととその背景、資金調達を巡る問題）について学習する。
4	博物館の課題と国の博物館政策の動向	日本の博物館の抱える課題と国の博物館政策の概要や歴史について学習する。
5	国立博物館の経営－現状と課題	独立行政法人制度の下で運営されている国立博物館を中心に、国立博物館の現状と課題について学習する。外国の代表的な博物館と日本の国立博物館の経営状況を比較し、日本の国立博物館の特徴について理解を深める。
6	公立博物館の経営－現状と課題	指定管理者制度や地方独立行政法人制度によって運営している館と直営館の違いに着目しながら、公立博物館の現状と課題について学習する。
7	私立博物館の経営－現状と課題	私立博物館の成立事情に触れながら、私立博物館の特徴と課題、国の支援策について学習する。
8	博物館経営とマーケティング	マーケティングは、博物館の経営戦略を構築する上で基本的なツールである。マーケティングの視点から博物館経営の在り方を考える。
9	博物館のプロモーション・会員制度・ブランド戦略	博物館のマーケティング活動のうち、プロモーション活動、会員制度、ブランド戦略を中心に学習する。
10	博物館の支援組織と他の組織との連携・協力－現状と課題	博物館運営を支援する組織（友の会・後援会）とボランティアについて学習する。経営資源を豊かにするために必要な他の組織との連携・協力の現状と課題について学習する。
11	博物館の利用者サービス施設と施設設備の諸問題	ミュージアムショップ、レストランその他の利用者サービス施設と博物館の施設設備に係わる諸問題（施設設備の老朽化やバリアフリーへの対応）について学習する。
12	博物館経営におけるイノベーション	博物館経営には、イノベーションが求められている。博物館のイノベーションの事例を取り上げ、イノベーションが可能となる条件を探る。
13	博物館の倫理規程・行動規範	博物館活動において倫理上問題になった事例を取り上げ、博物館の倫理規程・行動規範の意義・内容について学習する。
14	博物館における危機管理・授業のまとめ	博物館が直面する様々な危機と危機への対応の在り方（危機管理）について学習する。最後に、授業のまとめとして、講義と課題を通して受講生が考えたことを共有する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。受講生は、学習支援システムに掲載した資料や参考書に目を通して講義を受講してください。受講生は、授業期間中博物館をできるだけ視察し、博物館を見る眼を鍛えてください。

【テキスト（教科書）】
授業で恒常的に使用する教科書はありません。レポートを作成する際に参照してほしい文献を、参考書の欄に記載してあります。この他にも適宜授業で文献を紹介します。

【参考書】
①改正博物館法で博物館はどうなる、金山喜昭編、同成社、②転換期の博物館経営、金山喜昭、同成社、③ミュージアム・マーケティング、F・コトラー、N・コトラー、第一法規、④マネジメント、P．F．ドラッカー、ダイヤモンド社他、⑤ミュージアムが都市を再生する、上山信一、稲葉郁子、日本経済新聞社、⑥博物館学・美術館学・文化遺産学基礎概念事典、フランソワ・メレス他、東京堂出版、⑦ザ・ミュージアム；世界の知と美の殿堂、O・ホプキンズ、河出書房新社、⑧国（文科省）の博物館統計である社会教育調査（https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa02/shakai/）、⑨その他（授業内で適宜紹介します。）

【成績評価の方法と基準】
博物館経営についての理解の度合いを判定するため、レポートにより評価します。配点は、①授業期間中に提出する「課題レポート」（授業をより深く理解するために、受講生が課題を4つ選択して作成するもの）が40%、②最終（第14回）授業時に提出する「博物館経営分析レポート」が50%、③平常点（10％）です。②のレポートは、受講生が博物館が公開している経営情報と実地調査等により博物館をリサーチし、その成果を基に経営分析（経営状況の把握、経営上の課題の抽出、課題の解決策の提案）を行うものです。

【学生の意見等からの気づき】
講義内容に関する質問には、回答を共有するために原則学習支援システムを使用して回答します。受講生が、授業環境に問題があると感じた場合には、その都度指摘してください。

【学生が準備すべき機器他】
授業に関する諸連絡・教材配付は、原則学習支援システムで行います。各回の授業の前後に必ず学習支援システムにアクセスしてください。

【その他の重要事項】
この科目は、学芸員資格を取得する上で必要な科目のひとつです。学芸員資格の取得は目指さないが、博物館の経営に関心のある受講者も念頭に置いて、授業を進行します。①質問や意見は、授業への参画のための重要なツールで、授業を興味深いものにする上で重要な役割を果たします。②博物館を理解する上では“歩く・見る・聞く”そして“考える”がセットになった行動が必要不可欠です。皆さんの博物館体験を深化させてください。また、博物館の経営状況を示す事業報告書、財務諸表や評価資料を公開する館が増えており、博物館の経営を考える上では、これらのデータを丹念に読み取ることが必要です。授業ではこれらのデータの読み方も学習します。講義は、博物館での勤務や生涯学習・文化行政での実務経験を踏まえて、博物館の現状と国の博物館政策・文化政策の状況を伝えていきます。

【Outline (in English)】
（Course outline）Students will learn basic knowledge about museum management and the current state and issues of museum management in Japan, and aim to acquire skills to solve the management issues of museums.The goal of this subject is to acquire the basic management knowledge that museums need to meet the expectations of society.
（Learning Objectives）The aim of this course is to acquire the basic knowledge necessary for museum management.
（Learning activities outside of classroom）Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policies）Grading will be decided based on term-end report (50%)、short reports(50%).

博物館資料保存論

今野　農

配当年次／単位：1～4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館における基本的な機能の１つである「資料保存」について学習する。代表的な資料の劣化要因や環境管理、さらに、歴史的・自然的環境の 保護に対する博物館の役割について、学総的見地から理解を深める。講 義を通じ、資料保存に関する基礎的な能力を身に付け、資料を将来へ継承していくことに対する意識の向上を目指す。

【到達目標】
講義の序盤では、主として材質や劣化要因、取扱いなど、「資料」に関する知識が習得できる。中盤では、温湿度や生物等、資料を取り巻く「環境管理」に関する知識が習得できる。終盤では、博物館外に立地する「地域資 源の保護」に関する知識が習得できる。これら一連の講義を総括して、資料の劣化やその展示・収蔵環境に関し、学芸員としての知識の基盤が形成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
パワーポイントと配布資料による講義を中心とする。その他、サンプルや用具等を講義中に適宜回覧する。また、各回にリアクションペーパーの提出、ないし小テストを課し、記載された重要な事項や質問、小テストの解説については、各回の講義冒頭で取り上げて議論を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博物館における資料保存の意義	学芸員資格課程における資料保存論の位置付けを明確化し、博物館における資料保存の意義について解説する。
第2回	資料の種類・材質と維持管理	主な資料の種類や材質の特性、および維持管理上の留意点について解説する。
第3回	資料の調査	資料の状態調査・現状把握の方法、代表的な分析機器について解説する。
第4回	資料の修復・保存処理	木材、金属等を素材とした資料について、修復や保存処理の方法について解説する。
第5回	資料の梱包・輸送	資料の輸送における保存上の留意点や梱包方法、材料等について解説する。
第6回	日本の伝統的保存法	日本の風土に根差して文化財を伝世してきた、伝統的保存方法について解説する。
第7回	博物館における環境管理・温湿度管理	資料保存における環境管理の概要、および温湿度による劣化とその対策について解説する。
第8回	有害物質管理と照明管理	汚染物質や光による劣化とその対策について解説する。
第9回	有害生物管理	生物被害の種類、日本の代表的な害虫、ＩＰＭ（総合的有害生物管理）について解説する。
第10回	災害と保全対策	災害の種類（火災、地震、水害、盗難等）と対策、復興支援等について解説する。
第11回	地域資源の保存・活用と博物館	地域資源の保存と活用等、地域全体を対象とする博物館の沿革と役割について解説する。
第12回	歴史的環境の保護と博物館	歴史的建造物や史跡等をはじめとする文化財の保護、および博物館の役割について解説する。
第13回	自然環境の保護と博物館	「種の保存」や環境教育等、自然環境の保護における博物館の役割について解説する。
第14回	まとめ・学芸員の役割	授業のまとめとして、資料保存に果たすべき学芸員の役割について解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
分野・専攻を問わず、様々な博物館へ頻繁に足を運ぶ。講義中に関心を持った点、理解が不足していた点は、文献を読むなどして知識を補っておく。小テストの後半は授業の復習的な内容に相当するため、それまでの配付資料を読み返しておく。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
・石﨑武志・編著（2024.10）『博物館資料保存論（第2版）』講談社
・国立文化財機構東京文化財研究所（2011.12）『文化財の保存環境』中央公論美術出版
・京都造形芸術大学（2002.4）『文化財のための保存科学入門』飛鳥企画

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー：60%（内、平常点50%程度、各回コメント、ないし小テスト10%程度）、最終試験：30%。

【学生の意見等からの気づき】
授業の工夫や満足度は例年通り好評であったため、この点は水準の維持を図る。授業時間外の学習活動については、一昨年より導入した事前のレジュメ配布により、多くの学生が講義日前の予習が可能となるように努める。サンプルや機材等の提示も、一定数の好評が得られているので、本年度も継続する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course provides students with basic knowledge of preservation of the museum collections. The aria of this course is preservation of the museum collections, environmental agents of museums, and preservation of historic and natural properties.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings;
– acquire knowledge of proper handling, storage, exhibit, restoration, and packing and shipping techniques of museum objects.
– acquire knowledge of controlling environmental agents (e.g., temperature, relative humidity, light, and air pollution) and Integrated Pest Management.
– acquire knowledge of preservation and conservation of historic monuments and heritages, and protection of the natural environment.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content by reading references.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the followings;
Term-end examination: 30%, Short reports : 10%, in class contribution: 60%.

博物館資料保存論

清水　玲子

配当年次／単位：1～4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学芸員資格を取得する際に必要な博物館における資料保存の基礎について学習する。資料を展示すると共に資料を保存（保全）する役割を、博物館は担っている。この相反する事柄を可能にする為に、資料に劣化や害を及ぼす要因、資料を展示及び保存する環境を適切に保つ為に土台となる知識を修得する。また、博物館は地域の文化財保護の担い手でもあることから、文化財の保存や活用等についても見ていきたい。

【到達目標】
博物館における資料の展示及び収蔵の環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを通して、博物館資料の保存に関する基礎的能力を養う。
到達目標としては、博物館における資料保存及び資料の置かれる環境に関して科学的に分析できる為の基礎学力を身に着けることを目指す。次に、資料劣化の原因を把握し、対策を構築できる応用能力を育む為に、自ら考えることの重要度を理解し実行できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・pptによる資料を提示しながら、実施する。
・講義後に、リアクションペーパーを毎回提出。
・第1回目の講義URLの案内はHoppiiのお知らせ機能から送付。
・ワークショップを実施予定。
・ワークショップの日程により、授業内容は前後することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
講義	はじめに（オリエンテーション）	オンライン講義を履修する上の注意点や評価方法などの説明,博物館資料と学芸員の役割を考える
講義	養生と梱包	資料の貸借等における調書の作成や輸送の手順及び保存上の留意点について。
講義	文化財保護の歴史	近代以降の文化財保護の法制度の変遷について
講義	文化財と博物館	保護から活用へ文化財の位置づけが大きく変化する中で、博物館の役割とは何か。
講義	美術資料の取り扱い①	美術資料の保存において、学芸員に必要な知識と技術について学ぶ
講義	美術資料の取り扱い②	美術資料の保存において、学芸員に必要な知識と技術について学ぶ
ワークショップ	資料保存の意義	資料保存の意義について考える
講義	美術資料の取り扱い③	美術資料の保存において、学芸員に必要な知識と技術について学ぶ
講義	展示室の環境①	資料を保存する環境について（劣化要因として温度と湿度）
講義	展示室の環境②	資料を保存する環境について（劣化要因となる光）
講義	展示室の環境③	資料を保存する環境について（劣化要因となる光）
講義	資料の修復と保全	資料の修復と保全に関する手法と注意事項
講義	まとめ	本講義のまとめ
ワークショップ	期末課題	期末課題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・原則、授業後にリアクションペーパーを提出してもらうが、その他については、必要に応じて告知する。
・本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは設定していない。授業はパワーポイント投影しながら進める。必要があれば、資料を配布予定。

【参考書】
『歴史を未来につなぐ：「3・11からの歴史学」の射程』東京大学出版、2019年5月
金山喜昭『博物館と地方再生－市民・自治体・企業・地域との連携－』同成社、2017年3月
奥村弘・村井良介・木村修二『地域歴史遺産と現代社会 (地域づくりの基礎知識 1)』神戸大学出版会、2018年1月
吉田 正人『世界遺産を問い直す』山と渓谷社、2018年8月
*その他、必要に応じて授業内で告知する。

【成績評価の方法と基準】
・講義終了後に、理解の程度を確認する為のリアクションペーパーを提出。
小課題50％　期末課題50％　にて評価する。
＊詳細は、第1回目の講義（オリエンテーション）で説明する。

【学生の意見等からの気づき】
他の出席者との関係性が希薄になるという学生からの意見があったので、ワークショップを取り入れ、お互いに意見交換したり、共に何かを考える時間を設けながら進める予定である。

【学生が準備すべき機器他】
期末課題に関して、スマホを使用する可能性がある。

【Outline (in English)】
Students learn the basics of preservation of museum materials, which is necessary to obtain a curator's license. Museums are responsible for exhibition and preserving materials. In order to fulfill this contradictory role, the basic knowledge for the proper maintenance of deterioration and harmful factors, exhibition and preservation environment is acquired. In addition, since museums are responsible for the protection of local cultural properties, we would like to take a look at the preservation and utilization of cultural properties.

博物館展示論

松丸　裕之

配当年次／単位：1～4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
空間の情報メディアとしての展示、特に博物館における展示とはどのようなものか、ここでは展示の基本的な概要をはじめ博物館展示の特性、企画・デザイン・制作の進め方について実践例を通じて学ぶ。授業では、博物館の展示の現場に携わる外部の多様な専門家からその実践について話しを聞くことも予定している。また講義の他、実際の展示施設での学びや、展示企画構成を実践するグループワークも予定している。

【到達目標】
①博物館展示の特性について理解を深める
②情報メディアとしての展示を構成するストーリー・演出要素等について理解する
③展示がどのように構成し出来上がっているかを理解する
④小規模の展示を企画・構成することができるようになる
＊尚、事前に博物館概論・博物館資料論等を履修し博物館概要について理解しておくことを推奨します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
予め用意するパワーポイントをもとに講義を進める。
各回終了後にリアクションペーパーを提出するとともに、施設の実地見学を予定している。またグループワークでは受講生を任意にグループ分けし、与えられたテーマをもとにグループで企画構成を行いプレゼンテーションし、最後に講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要説明、進め方、博物館展示論の概要等。
第2回	博物館展示概論-博物館展示とは何か	博物館展示の特性・役割、諸類型等について展示の歴史を通じて学ぶ。
第3回	博物館展示のプロセス	博物館展示を支える人々、展示の構成・プロセス等について実際例をもとに学ぶ。
第4回	様々な博物館展示	国内外の多様なテーマによる博物館展示のあり方について学ぶ。
第5回	博物館展示の技術 Ⅰ 企画する	博物館展示の企画とはどのようなものか、どのように組み立てるのかを実際例をもとに学ぶ。（ゲストスピーカーを予定）
第6回	博物館展示の技術 Ⅱ デザインする	博物館展示のデザイン・設計とはどのようなものか、どのように行いどこにこだわるのか等について実際例をもとに学ぶ。（ゲストスピーカーを予定）
第7回	博物館展示のエレメント Ⅰ実物資料と展示ケース・照明 /グループワーク①	博物館展示における主要な要素である実物資料の取り扱いについて、その展示方法と合わせて学ぶ。
第8回	現地学習	都内の施設を実地見学・学習予定。（レポートを提出すること）＊日曜を予定
第9回	博物館展示のエレメント Ⅱ展示解説・グラフィック /グループワーク②	展示の主要な解説手段であるグラフィック及び様々な解説手段について学ぶ。
第10回	博物館展示のエレメント Ⅲ模型・造形	博物館展示をわかりやすく表現する手段としての模型・造形・レプリカ（複製）等について、その実際例を通じて制作過程と留意点等について学ぶ。（ゲストスピーカーを予定）
第11回	博物館展示のエレメント Ⅳ映像・音響 /グループワーク③	近年急速に発展する博物館展示における映像等のあり方・技術・事例について、その実際例をもとに学ぶ。
第12回	グループワーク④	事前に与えられたテーマをもとにグループ毎にディスカッションし、企画・構成を検討　まとめ作業を行う。
第13回	プレゼンテーション	最終企画案をまとめ、グループごとにプレゼンテーションし、講評する。
第14回	博物館を楽しむ、まとめテスト	博物館展示をめぐる今後の課題・役割についてまとめを行う。まとめテストを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
３館以上のミュージアム（博物館・資料館・科学館等）に行き、展示の構成・ストーリー・演出・空間の特徴について確認・まとめておくこと。
またそれ以外にも積極的に各種施設見学を行うこと。
（当大学はキャンパスメンバーズ会員のため東博等無料で見学が可能）

【テキスト（教科書）】
里見親幸「博物館展示の理論と実践」同成社
＊パワーポイント資料を中心に使用予定

【参考書】
日本展示学会編「展示学事典」2019　丸善出版

【成績評価の方法と基準】
出席 40%、グループワーク・プレゼンテーション 20%、レポート 20%、テスト（講義毎の小テスト及び期末テストを予定、教科書・講義内容から出題）20%

【学生の意見等からの気づき】
受講者からのフィードバックを大切に授業運営を進める。

【その他の重要事項】
・第8回「現地学習」は、日曜に行います。日程等詳細は講義の中で説明します。(各自入館料・交通費が必要)
・尚、担当講師は長年展示会社にて博物館等の施設・展示計画の実務を行ってきており、これらの実践を通して博物館展示を様々な角度から見ていきます。

【Outline (in English)】
In this course, we will learn about the basic outline of exhibitions, as well as the characteristics, planning, design, and production methods of museum exhibitions, through practical examples. In the class, we also plan to hear from a variety of external experts who are involved in museum exhibitions about their practices. In addition to lectures, there will also be learning at actual exhibition facilities and group work to practice exhibition planning composition.

博物館展示論

大山　裕

配当年次／単位：1～4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人類がこれまで歩んできた歴史や、その営みのなかで育まれた文化を伝える技術としての展示について、その多様な手法と効果、これからの可能性について学びます。

【到達目標】
１．博物館展示とは何かを理解し、他の展示との違いを知る。
２．博物館展示における多様な表現を知り、その特徴を理解する。
３．展示室を構成する展示ケースや展示台などの各種の展示什器や展示手法の特性を理解し、展示の目的や展示資料に適した展示空間をつくれるようになる。
４．展示表現の意義や効果、その可能性ついて考え、博物館の理解者、博物館の未来を支える人材となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
学期の途中で変更になる場合には、別途提示します。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
人に伝える技術として広まった展示の歴史を知り、博物館という施設の中で、様々な表現メディアを駆使して、対象に応じて分かりやすく伝える展示方法について学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	展示とは何か１	本講義の概要と、博物館とは何か、博物館における展示について解説し、今日の博物館展示のあり方を学ぶ。
第2回	展示とは何か２	博物館展示の事例を紹介しながら諸類型を理解し、博物館展示はどのようにすべきかについて学ぶ。
第3回	博物館における学び１	生涯学習、学校との連携、地域づくりなど、博物館の社会的役割について学ぶ。
第4回	博物館における学び２	子どもや高齢者、障がい者、外国人など多様な来館者に対応する展示手法、参加型展示について学ぶ。
第5回	展示空間の構成１	展示の構想、計画、設計など、博物館をつくる流れ、展示空間のつくり方を学ぶ。
第6回	展示空間の構成２	展示資料の配置や見せ方、動線計画と視線計画について学ぶ。
第7回	展示の芸術性１	博物館と美術館の比較、解説や鑑賞について展示の表現方法を学ぶ。
第8回	展示の芸術性２	物語性、記憶や共感を伝える展示表現を学ぶ。
第9回	展示の科学性	資料保存の考え方と、文化財の保存と活用について学ぶ。
第10回	特別講義	文化財の保存や活用ついて、ゲスト講師から最新事例などを学ぶ。
第11回	展示の解説と造型１	グラフィックパネルにおけるデザインと効果について学ぶ。
第12回	展示の解説と造型２	模型、パノラマ、ジオラマ等について学ぶ。
第13回	展示照明	照明計画の要点と課題について学ぶ。
第14回	展示評価、博物館展示のまとめ	博物館の評価について学ぶ。最後に博物館展示のまとめを行い、講義で学んだ重要な点を再確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義で扱った事項については、実際に博物館等を訪れ、できるだけ自分の目で確かめること。

【テキスト（教科書）】
里見親幸　「博物館展示の理論と実践」同成社

【参考書】
特に無し。

【成績評価の方法と基準】
授業後の感想文５０％、複数回実施する課題レポート５０％によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生からのフィードバック（感想文、質問等）を大切にして授業運営をすすめる。

【学生が準備すべき機器他】
特に無し。

【その他の重要事項】
特に無し。

【Outline (in English)】
Learn about the various methods, effects, and future possibilities of display as a technology to convey the history of humankind and the culture that has been cultivated through that activity.

博物館教育論

渡邊　祐子

配当年次／単位：1〜4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、ミュージアムにおける教育活動の理念、活動の基礎となる学習理論、国内外のミュージアムの具体的な事例に関する講義を通して、ミュージアムの教育的な役割と意義について理解を深めます。

【到達目標】
実際のミュージアムの利用体験と照らし合わせながら講義の内容について理解を深め、ミュージアムの教育活動や日常場面で活かされる論理的思考力、コミュニケーション能力、チームワーク、創造力といった基礎的能力を養います。また、博物館教育の理論と実践を関連づけることで、具体的な教育プログラムをデザインするスキルを身につけ、教育的な働きかけができるようになることを期待します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この授業は講義と演習を中心に構成されます。具体的には、座学のほか、現地リサーチ、グループ企画、授業内発表、ワークショップの開催といった実践的な活動を通じて、博物館における教育の役割を深く理解することを目指します。このような授業での活動は、授業で学んだ知識と具体的な教育現場でのイメージを結びつけて、把握するのに役立てられます。
授業で提出した課題に対しては、個別のフィードバックを提供するだけでなく、授業内で全体に向けたフィードバックも行います。それにより、学生一人ひとりの理解度を高めるとともに、クラス全体の学習効果を向上させることをねらいます。
※授業形態（対面 or オンライン）を予定から変更する場合、各回の授業開始前に学習支援システムを通じてアナウンスしますので、必ず確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の目的、進め方、計画、評価などの概要について説明します。
第2回	博物館教育とは何か	ミュージアムとは何か、“博物館教育”（museum education）とは何かについて学びます。また、なぜミュージアムにおいて教育が重視されるようになったのか、歴史をたどりながら理解していきます。
第3回	博物館教育の学習理論	ミュージアムでの学びにみられる特徴について、学校教育などとの比較をふまえて理解していきます。
第4回	教育資源としての展示	ミュージアムでの実物教授の学び（object-based learning）について理解し、教育的な活用事例を見ていきます。
第5回	展示見学	ミュージアムの展示を見学し、調べ学習をします。
第6回	ミュージアムと来館者をつなぐ①	ミュージアムの資料や展示を生かしたプログラムの実践実例を知り、プログラムの企画・立案のプロセスについて学びます。
第7回	ミュージアムと来館者をつなぐ②	ミュージアムが教育活動のために作成している教材やウェブなどの媒体、アーカイブの事例を知り、制作のプロセスを学びます。
第8回	ミュージアムと来館者をつなぐ③	ミュージアムで活躍する市民（アート・コミュニケータ）の役割と活動について学びます。
第9回	ワークショップ体験	ミュージアムで実践されているワークショップと同じ内容の活動を授業内で体験します。
第10回	プログラム・メイキング①	教育プログラムを立案するためのプロセスを理解したところで、グループごとに与えられたテーマに沿った企画を考えます。
第11回	プログラム・メイキング②	グループごとに与えられたテーマに沿った企画内容を考え、企画案を作成します。
第12回	グループ発表①	グループごとに作成した企画案を発表します。（前半）
第13回	グループ発表②	グループごとに作成した企画案を発表します。（後半）
第14回	まとめと試験	ミュージアム教育の意義や課題について、授業を通して得られた知見を整理・確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業では、ミュージアムの見学や、その体験をもとにしたプログラム案の企画・発表を予定しています。そのため、授業内容と合わせて各館のホームページを閲覧して多様な教育プログラムについての知識を深めたり、授業内で紹介する博物館教育に関する報告書、文献等を読んだりするための、準備学習及び課題が適宜課されます。授業外の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、資料を配布します。

【参考書】
J.H. フォーク・L.D. ディアーキング『博物館体験』（雄山閣出版）
G.E. ハイン『博物館で学ぶ』（同成社）
稲庭彩和子、伊藤達矢、河野佑美、鈴木智香子、渡邊祐子『こどもと大人のためのミュージアム思考』（左右社）ほか

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的参加、グループ発表、企画課題、レポート課題を含む）50％と期末試験50％の合計で評価します。
※4回以上の欠席がある場合、単位取得に必要な基礎的内容を十分に学修できていないと判断し、成績評価を不可（不合格）とします。

【学生の意見等からの気づき】
基礎的な理解を深めるための講義の他、調べ学習、グループワーク、プレゼンテーション等、参加型授業の側面も重要視していきたいと思います。

【その他の重要事項】
東京都美術館で子どものための博物館教育を行ってきました。美術館での実務経験をもとに、国内外の先進的な事例を具体的に取り上げ、多様性を尊重した「博物館の教育」づくりの基本や方法を伝えます。
また、何かしら配慮が必要とする学生は、大学を介して教員まで連絡してください。
参考：東京都 東京都多文化共生ポータルサイト「やさしい日本語」活用事例 2021年3月
https://www.seikatubunka.metro.tokyo.lg.jp/chiiki_tabunka/tabunka/tabunkasuishin/files/0000001620/13_museum-start.pdf

【Outline (in English)】
This course surveys the principles and practices of museum education. It explores the kinds of learning that occur in museums and how educational programming can engage diverse audiences.
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination 50%, in class contribution 50%.

博物館教育論

荒川　裕子

配当年次／単位：1〜4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会教育施設として位置づけられている博物館＝ミュージアム（歴史博物館、美術館、文学館、自然科学系博物館、等々が含まれる）では、資料の収集、研究、展示等と並んで、教育普及の活動が重要な役割を果たしています。この授業では、ミュージアムにおける教育の意義や効果について、理論的基盤と実践事例の双方の観点から考え、これからのミュージアム教育のあるべき姿を探ります。

【到達目標】
DEIなども勘案しつつ、さまざまなバックグラウンドをもつ人びとを対象に展開されているミュージアム教育の現状とその意義を理解することができるとともに、今後さらにミュージアムでの学びを深化させていくにはどうすればよいかを具体的に考えたり企画できる力を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
各回ごとにトピックを設定し、ビジュアル資料や文献資料を用いて具体的な事例を紹介しながら、ミュージアム教育についての理解を深めていきます。また、各自が実際にミュージアムで実施されている教育活動に参加し、そこから得られた知見をプレゼンテーション等を通じて共有します。基本的に毎回リアクションペーパーを書いてもらい、次の授業の際にフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ミュージアム教育とは何か	授業のガイダンスとして、この領域で扱うトピックスについて概説する。
第2回	ミュージアムでの体験と学び	学校での学びとミュージアムにおける学びの違いについて考え、ミュージアム教育の特質を理解する。
第3回	生涯学習とミュージアム①	なぜミュージアム教育の必要性が重視されるようになったのか、生涯学習社会の観点から考える。
第4回	生涯学習とミュージアム②	現在、国内外で展開されているミュージアム教育の法的・理論的枠組みを理解する。
第5回	学校と連携したミュージアム教育	小学校や中学校と連携して展開される教育プログラムについて検討する。
第6回	地域と連携したミュージアム教育	地域のニーズや特性を生かしたミュージアム教育について検討する。
第7回	ミュージアム教育の手法①	ミュージアムの持つ資料や展示を生かした講座、講演会、ギャラリートーク等について学ぶ。
第8回	ミュージアム教育の手法②	ミュージアムが教育目的で作成、配布、頒布等を行っている印刷資料やウェブを通した情報公開について学ぶ。
第9回	ミュージアム教育の手法③	ミュージアムにおけるワークショップや体験学習について、具体例を手がかりに学ぶ。
第10回	教育プログラムの立案に向けて	教育プログラムを実際に立案するためのプロセスや留意事項を理解する。
第11回	教育プログラムの作成と発表①	グループごとに教育プログラムを立案し、受講生全体で検討する（グループ1）。
第12回	教育プログラムの作成と発表②	グループごとに教育プログラムを立案し、受講生全体で検討する（グループ2）。
第13回	教育プログラムの作成と発表③	グループごとに教育プログラムを立案し、受講生全体で検討する（グループ3）。
第14回	振り返りとまとめ	ミュージアム教育の意義や課題について、授業を通して得られた知見を整理・確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学期の途中でミュージアムにおけるフィールド調査を実施し、その成果をもとにレポートを書いたり、プレゼンテーションをしてもらう予定です（その際、若干の入場料等が発生する可能性があります）。また、授業に関連した事例を調べるなどの課題が適宜出されます。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しないが、ほぼ毎回、資料を配布します。

【参考書】
黒沢浩（編・著）『博物館教育論』講談社、
ほか、授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（課題の成果、ディスカッションへの積極的な参加など）：55％
期末レポート：45％

【学生の意見等からの気づき】
教室内での学びに終始せず、博物館でのフィールド調査とそのフィードバックを充実させていきたいと考えています。

【Outline (in English)】
In the museums, including historical museum, fine art museum, museum of literature, museum of natural science and so on, which are positioned as social adult educational facilities, educational activities for the visitors are very important alongside collecting materials, doing research and planning exhibition. In this class, we will consider the significance and effects of so-called ‘museum education’ from the viewpoint of both theory and practice, and explore the future form of it.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end report: 45％, in class contribution: 55％

博物館実習Ⅰ

森屋　雅幸

配当年次／単位：2〜4年次／2単位
開講時期：年間授業/Yearly
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館の実務に関するさまざまな知識・技術や心構え・作法を習得するとともに、将来、博物館のみならず、文化・教育関連施設や関連するNPO等の分野でも活用できる技能を養うことを目的とする。

【到達目標】
学芸員としての心構えや作法、資料の観察・記録・整理・展示など博物館活動に関わるさまざまな知識・技術を理解し、実践へとつなげることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この授業では、博物館活動の基礎となる実習を行う。前期には大学のコレクションを用いた実務実習を行う。後期には各種の資料の取り扱いなどを学ぶ。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックするなど、受講者との双方向の授業を意識して実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	事前指導	ガイダンスとして実習全体の事前指導に加え、「博物館学芸員という仕事・実務」に関して概説する。
第2回	博物館資料の取り扱い（実務実習のための指導）	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に実資料に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第3回	博物館資料の取り扱いⅠ	資料の整理・実測(1)
第4回	博物館資料の取り扱いⅡ	資料の整理・実測(2)
第5回	博物館資料の取り扱いⅢ	資料の整理・実測(3)
第6回	博物館資料の取り扱いⅣ	資料の整理・実測(4)
第7回	博物館資料の取り扱いⅤ	取り扱い資料の整理・調査・観察・記録に至る成果を発表し、実務実習・調査研究の成果・考察について発表する。
第8回	博物館資料の取り扱いⅥ	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に実資料（考古資料）に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第9回	博物館資料の取り扱いⅦ	アーカイブ実習（1）
第10回	博物館資料の取り扱いⅧ	アーカイブ実習（2）
第11回	博物館資料の取り扱いⅨ	アーカイブ実習（3）
第12回	博物館資料の取り扱いⅩ	アーカイブ実習（4）
第13回	博物館見学会Ⅰ	東京および近郊の博物館における学芸員からの業務の解説を通して、博物館の実務を理解する。
第14回	事後指導	前期の実習の総括・講評・指導
第15回	ガイダンス・コレクション調査Ⅰ	後期の実習のガイダンスと、夏季休暇中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（郷土玩具等）に関して、その成果を報告する。
第16回	コレクション調査Ⅱ	夏季休暇中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（郷土玩具等）の資料カードを作成する。
第17回	コレクション調査Ⅲ	夏季休暇中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（郷土玩具等）の資料カード作成の続きを行う。
第18回	コレクション調査Ⅳ	夏季休暇中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（郷土玩具等）のキャプションを作成する。
第19回	コレクション調査Ⅴ	夏季休暇中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（郷土玩具等）のキャプション作成の続きを行う。
第20回	コレクション調査Ⅵ	夏季休暇中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（郷土玩具等）の写真撮影を行う。
第21回	博物館資料の取り扱いXI	美術資料（掛軸など）の取り扱いと展示を体験する。
第22回	博物館資料の取り扱いXⅡ	考古資料の取り扱いと梱包・運搬を体験する。
第23回	博物館資料の取り扱いXⅢ	考古資料の取り扱いと展示を体験する。
第24回	博物館資料の取り扱いXⅣ	文書資料の取り扱いと整理を体験する。
第25回	博物館資料の取り扱いXⅤ	拓本実習（1）
第26回	博物館資料の取り扱いXⅥ	拓本実習（2）
第27回	博物館見学会Ⅱ	東京および近郊の博物館における学芸員からの業務の解説を通して、博物館の実務を理解する。
第28回	事後指導	課題提出、実習全体の総括・講評・指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
夏休み中に資料収集をすることは、ホームワークとする。

【テキスト（教科書）】
随時プリントなどを配布する。

【参考書】
随時プリントなどを配布する。

【成績評価の方法と基準】
平常点と課題の提出によって評価する。
平常点50％、課題50％。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
本授業は25名を上限とする。なお、初回の授業にて希望者を選考する。また見学会や授業の詳細は、授業内の指示および資格課程実習準備室の掲示などを留意すること。

【Outline (in English)】
The purpose is to acquire various techniques, attitudes, and manners related to museum work, and to develop skills that can be used in the future not only in museums but also in fields such as cultural and educational facilities and related NPOs.

博物館実習Ⅰ

森屋　雅幸

配当年次／単位：2〜4年次／2単位
開講時期：年間授業/Yearly
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館の実務に関するさまざまな知識・技術や心構え・作法を習得するとともに、将来、博物館のみならず、文化・教育関連施設や関連するNPO等の分野でも活用できる技能を養うことを目的とする。

【到達目標】
学芸員としての心構えや作法、資料の観察・記録・整理・展示など博物館活動に関わるさまざまな知識・技術を理解し、実践へとつなげることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
この授業では、博物館活動の基礎となる実習を行う。前期には大学のコレクションを用いた実務実習を行う。後期には各種の資料の取り扱いなどを学ぶ。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックするなど、受講者との双方向の授業を意識して実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	事前指導	ガイダンスとして実習全体の事前指導に加え、「博物館学芸員という仕事・実務」に関して概説する。
第2回	博物館資料の取り扱い（実務実習のための指導）	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に実資料に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第3回	博物館資料の取り扱いⅠ	資料の整理・実測(1)
第4回	博物館資料の取り扱いⅡ	資料の整理・実測(2)
第5回	博物館資料の取り扱いⅢ	資料の整理・実測(3)
第6回	博物館資料の取り扱いⅣ	資料の整理・実測(4)
第7回	博物館資料の取り扱いⅤ	取り扱い資料の整理・調査・観察・記録に至る成果を発表し、実務実習・調査研究の成果・考察について発表する。
第8回	博物館資料の取り扱いⅥ	博物館資料を取り扱う上での基礎知識、特に実資料（考古資料）に関する基礎知識と具体的な取扱手技・調査方法を解説する。
第9回	博物館資料の取り扱いⅦ	アーカイブ実習（1）
第10回	博物館資料の取り扱いⅧ	アーカイブ実習（2）
第11回	博物館資料の取り扱いⅨ	アーカイブ実習（3）
第12回	博物館資料の取り扱いⅩ	アーカイブ実習（4）
第13回	博物館見学会Ⅰ	東京および近郊の博物館における学芸員からの業務の解説を通して、博物館の実務を理解する。
第14回	事後指導	前期の実習の総括・講評・指導
第15回	ガイダンス・コレクション調査Ⅰ	後期の実習のガイダンスと、夏季休暇中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（郷土玩具等）に関して、その成果を報告する。
第16回	コレクション調査Ⅱ	夏季休暇中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（郷土玩具等）の資料カードを作成する。
第17回	コレクション調査Ⅲ	夏季休暇中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（郷土玩具等）の資料カード作成の続きを行う。
第18回	コレクション調査Ⅳ	夏季休暇中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（郷土玩具等）のキャプションを作成する。
第19回	コレクション調査Ⅴ	夏季休暇中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（郷土玩具等）のキャプション作成の続きを行う。
第20回	コレクション調査Ⅵ	夏季休暇中に各自が現地調査で収集したコレクション資料（郷土玩具等）の写真撮影を行う。
第21回	博物館資料の取り扱いXI	美術資料（掛軸など）の取り扱いと展示を体験する。
第22回	博物館資料の取り扱いXⅡ	考古資料の取り扱いと梱包・運搬を体験する。
第23回	博物館資料の取り扱いXⅢ	考古資料の取り扱いと展示を体験する。
第24回	博物館資料の取り扱いXⅣ	文書資料の取り扱いと整理を体験する。
第25回	博物館資料の取り扱いXⅤ	拓本実習（1）
第26回	博物館資料の取り扱いXⅥ	拓本実習（2）
第27回	博物館見学会Ⅱ	東京および近郊の博物館における学芸員からの業務の解説を通して、博物館の実務を理解する。
第28回	事後指導	課題提出、実習全体の総括・講評・指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
夏休み中に資料収集をすることは、ホームワークとする。

【テキスト（教科書）】
随時プリントなどを配布する。

【参考書】
随時プリントなどを配布する。

【成績評価の方法と基準】
平常点と課題の提出によって評価する。
平常点50％、課題50％。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
本授業は25名を上限とする。なお、初回の授業にて希望者を選考する。また見学会や授業の詳細は、授業内の指示および資格課程実習準備室の掲示などを留意すること。

【Outline (in English)】
The purpose is to acquire various techniques, attitudes, and manners related to museum work, and to develop skills that can be used in the future not only in museums but also in fields such as cultural and educational facilities and related NPOs.

博物館実習Ⅱ

小西　雅徳

配当年次／単位：2～4年次／2単位
開講時期：年間授業/Yearly
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博物館における特別展を含む企画展の実施は学芸員活動の花形です。この授業では企画展実施過程の手法を学びつつ、日本及び海外での博物館活動の現状にも触れていきます。例えばコレクションの関係や館規模・組織等の問題から、集客性に重点をおいて企画展を重視する傾向が何故あるのかを考えていきます。企画展は学芸員を志す者にとって最も興味深い分野ですので、学生各人の企画力やグループ討議を通じて企画展実施のノウハウを学びながら、博物館の裏方を支える学芸員の世界をのぞいてみましょう。

【到達目標】
企画展を実施するには様々な専門性に加え、多様な価値観や社会観を基本とした企画展実施への過程というものがあります。受講生にはその実際の手法をテキストや画像あるいは実資料を手に取りながら実体験的に学んでいきます。企画展実施までの手法を課題発表の繰り返しにより、受講生の豊かな発想や視点を加えつつ、博物館現場の実際に近い状況をシミュレーションします。同時に博物館学という基礎能力の構築と豊かな企画展創造への個々人のスタイルを引き出していきたいです。後期授業では個々人の企画力に加え、グループワークとしての企画展を構想・発表して企画展実施計画までの到達点を確認します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業内容は、前期と後期とを通じて①博物館展示の意義、②企画展実施の工程と手順、③学生個々人の企画展案発表、④グループ企画展発表とし、適宜配布資料により授業を進めていきます。前期は主として講義形式ですが博物館の展示状況をスライド等で紹介し、博物館資料の古代鏡等の実資料にも触れます。後期は各人の企画展発表やグループ発表準備にあてます。発想を重視した企画力を高め、大規模展で主流となりつつあるプロジェクト体制をグループワークを通じて模擬体験します。発表はパワーポイントとなります。レポート課題を随時課していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス　博物館展示と学芸員の世界観	授業の狙いや課題提示について説明します。学芸員の心得や七つ道具等を紹介します。
第2回	博物館展示の時代的、地域的変遷推移や、日本と海外の企画展の違いについて考える	博物館の始まりと展示の種類・手法について、特に常設展と企画展との違いを比較検証し、海外と日本の学芸員のスタイルについて紹介します。
第3回	企画展プロセス①－企画展を考える種の探し方とは？	企画展実施までの工程手順―その1－展示のための素材探し、展示発送の種- ヒントの探し方を考える。
第4回	企画展プロセス②－話題となった企画展を分析してみること	企画展実施までの工程手順―その2－成功した企画展例を基に、自分なりにシミュレーションしてみる。
第5回	スライド（海外博物館の展示状況）	欧米博物館・美術館の展示状況をスライドで解説します。
第6回	展示構想と企画書　企画展を構想する①	展示構想の内容と要点について説明し、企画書に盛り込む内容を整理する。課題として企画書を作成準備する。
第7回	展示設営（展示レイアウト－展示導線と照明計画	展示レイアウト－展示導線と照明計画について説明する。パワポ資料提示。
第8回	レポート課題　企画展を構想する	前回までの展示の進め方を参考に自分が取り組んでみたい企画展を構想し提出してください。
第9回	展示解説パネル、キャプション作成や効果的な演出力について	学芸員が存在する理由の一つは解説者、説明者であり、また作文者であること。ライターとしての学芸員像を提示する。
第10回	展示小道具とサイン計画	常備すべき展示小道具や新たに発注する小道具について考える。またサイン作成も重要。
第11回	展示図録・パンフレット等の作成手順及び情報端末導入について	展示図録・パンフレット等の作成手順。大規模展示では音声ガイド等の様々な情報媒体が導入されている。その取り組み方を考える。
第12回	借用交渉と調書	学芸員の力量は資料を見る目と同時に、借用交渉の態度にも表れる。資料をみて調書を作成する。
第13回	企画展発表Ⅰ①	各回10名程度に分け、パワポ5枚程度を作成し発表する。
第14回	企画展発表Ⅰ②	パワポ5枚程度を作成し発表する。発表終了後、後期の発表課題について事前説明を行う。
第15回	資料目録の作成手順と資料保存修復の仕方について	展示の第一歩は出展目録の作成にある。展示資料の1次候補から2次候補への絞り込みを、エクセルデータ等の目録作成から始め、また、展示を実施する際の資料の修復等について説明する。
第16回	企画展を構想する②	前期発表を肉付けした企画展の構想について説明する。
第17回	企画展発表前事前相談	各人の取り組みについて相談し、課題を克服する。
第18回	企画展発表Ⅱ－①	各回7名程度に分け、パワポ10枚程度を作成し発表する。
第19回	企画展発表Ⅱ－②	パワポ10枚程度を作成し発表する。
第20回	企画展発表Ⅱ－③	パワポ10枚程度を作成し発表する。
第21回	グループ企画展実施① グループ紹介と自己の主張について	5人前後でグループ編成し討議を行う。発表内容の絞り込みを行う。
第22回	グループ企画展実施②　グループ企画展から発表題を絞り込む	相互に企画展を紹介することで、グループ発表案を決定し、内容構成を整理する。
第23回	グループ企画展実施③　展示企画の具体像の作文化	発表企画展の内容、特に出品目録や目玉展示を考える。
第24回	グループ企画展実施④　教育普及と観覧者の希望する展示とは何かを考える	企画展における教育普及のあり方を考え、更に集客方法や展示の仕方と広がりを考える。
第25回	グループ企画展実施⑤　ミュージアムグッズについて	博物館の魅力の一つとしてグッズがある。独自のグッズを考えてみよう。
第26回	グループ企画展実施⑥　最終発表に向けた調整を行う	最終発表案の詰めや発表時間を調整する。パワポ内容やレジュメ原稿を整理する。

第27回	発表　グループ数が多い場合には、発表順を決め2回に分けて実施する場合がある	各グループが15分程度で発表する。パワーポイントを用いて発表する。1年間の成果を問う。
第28回	発表評価と企画展の将来的展望について（まとめ）	発表案について評価すると共に、日本の企画展の将来像や展示評価について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。企画展発表のためにはいろいろな展示会への見学参加を希望します。レポート課題を最低3回程度課しパワポ等で発表を行います。最新の展示状況を俯瞰しながら自分の企画展発表のシーズ（種）を探していきましょう。

【テキスト（教科書）】
特に指定はしませんが、展示論に関する本には目を通してください。テキストは随時授業時に配布します。

【参考書】
特別展図録や展示論関係本を参考図書として推薦します。

【成績評価の方法と基準】
出席7割以上確認の上、成績は課題発表等から評価していく。学生自身のオリジナリテイを評価したいと考えています。積極的な発言者を評価する共に、自由自在な発想力を評価します。後期に行われるグループ発表に欠席した場合には成績を評価しないこともあります。前期の出席や評価についても適宜課題等を通じて確認していきます。

【学生の意見等からの気づき】
机上討議なので、企画展本来の面白さをどれだけ伝えられるか心配ですが、このスタイルの授業はそれなりに学生からも評価されていると考えています。授業時に実物資料を手に取ることが好評です。本物のもつ価値観を体験してください。、後期のグループワークは総じて楽しいとの評価がある一方で、仲間を形成できない学生の姿を時々散見しますので、授業に問題があった場合は遠慮なく声をかけください。

【学生が準備すべき機器他】
グループ討議ではPCを用意していただきます。個人用に加え必要があれば貸し出し用も用意します。情報共有としてPCを活用してほしいですが、最近ではスマートフォンでやり取りするケースも多く実際その使用を認めています。

【その他の重要事項】
特にありません。

【Outline (in English)】
Learn how to organize exhibitions at the museum.In the first half the lesson,you will learn various steps besed on the text.In the second half,we will organize a group and present a special exhibition.　At the same time,learn about the differences between the world and japan in their approach to museum activities.

博物館実習Ⅱ

杉山　享司

配当年次／単位：2～4年次／2単位
開講時期：年間授業/Yearly

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
展覧会は博物館学芸員の主たる活動の一つです。この授業では展覧会の企画から展覧会チラシ（フライヤー）の制作までを通して、学芸員の仕事の実際について学び、資料の活用方法や展示に関する技術の習得を目指します。

【到達目標】
この授業では、展覧会の企画から実施までのプロセスを理解し、その上で受講生自らが展覧会を立案して展覧会の企画書にまとめ、最終的にそれを展覧会チラシ（フライヤー）として完成させ、発表するまでを到達目標とします。この授業を履修することによって、展覧会活動に必要となる知識や技術などの習得が可能となることでしょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
学習支援システムを通して資料を配布し、それに基づきながら対面形式による実習授業を進めていきます。当該の授業回のねらいや目的を提示しますので、受講生は配布された資料や参考動画を視聴し、学芸員の仕事に関する知識を深めながら各自に与えられた課題（企画書や展覧会チラシ）に取り組んでください。なお、課題報告に際してはデザイン思考に基づく視点を取り入れ、教師や受講生同士による質疑応答を重視しながら授業を進めます。多様な意見を取り入れながら合意形成をはかることで、新たな視点や考え方のヒントが得られることでしょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の授業に関するガイダンス	授業の内容や目的、その進め方について説明し、博物館の使命や意義、学芸員の役割やその仕事について解説する
2	日本における博物館の歩み	展覧会の歴史を紐解きながら、東京国立博物館の概要と収蔵する資料について紹介する
3	国内における私立博物館の活動紹介	日本民藝館の歴史とその概要について紹介する
4	海外における博物館の歴史と活動の紹介	海外における博物館の歴史を紐解きながら、大英博物館の概要について紹介する
5	企画展の開催とその意義について	企画展の歴史やその意義、そして開催方法などについて解説する
6	展覧会実施までのプロセス①	展覧会（企画展）の立案から企画書の作成までの過程を解説する
7	展覧会実施までのプロセス②	出品交渉などの準備から展覧会実施までの過程を解説する
8	展覧会企画書の作成とデザイン思考について	展覧会実施までのプロセスを理解した上で、企画書の作成方法や注意点について解説し、企画書を実際に作成してみる。併せて、展覧会企画とデザイン思考との関連について解説する
9	受講生による1回目の展覧会企画書案の発表	受講生による1回目の「展覧会企画書案」の発表と、デザイン思考に基づく受講生と教師による討議を行い、修正点を見出していく
10	受講生による2回目の展覧会企画書案の発表	受講生による2回目の「展覧会企画書案」の発表と、デザイン思考に基づく受講生と教師による討議を行い、修正点を見出していく
11	受講生による3回目の展覧会企画書案の発表	受講生による3回目の「展覧会企画書案」の発表と、デザイン思考に基づく受講生と教師による討議を行い、修正点を見出していく
12	受講生による1回目の展覧会企画書（確定版）の発表	受講生による1回目の「展覧会企画書」の最終発表と講評を行う
13	受講生による2回目の展覧会企画書（確定版）の発表	受講生による2回目の「展覧会企画書」の最終発表と講評を行う
14	13回目に統合	同上
15	秋学期の授業に関するガイダンス	授業の内容や目的、その進め方について説明し、春学期に行った「展覧会企画書」作成の総括を行う
16	企画書を基にした展覧会チラシ（フライヤー）の作成とデザイン思考について	展覧会チラシ（フライヤー）の作成方法やその際の注意点について解説し、併せてデザイン思考に基づく作業について理解を深める
17	学芸員と資料保存	学芸員が必要とする資料保存に関する基本的な考え方について解説する
18	資料保存の変遷と博物館の役割	日本における資料保存の歴史と文化財IPMについて解説する
19	無形文化の保存に関する博物館の役割について	学芸員が担う無形文化の保存と継承について紹介する
20	受講生による1回目の展覧会のチラシ案の発表	春学期の企画書に基づき作成した展覧会チラシ案の1回目の発表を行い、デザイン思考に基づく受講生と教師による討議を通して修正点を見出していく
21	受講生による2回目の展覧会のチラシ案の発表	春学期の企画書に基づき作成した展覧会チラシ案の2回目の発表を行い、デザイン思考に基づく受講生と教師による討議を通して修正点を見出していく
22	受講生による3回目の展覧会のチラシ案の発表	春学期の企画書に基づき作成した展覧会チラシ案の3回目の発表を行い、デザイン思考に基づく受講生と教師による討議を通して修正点を見出していく
23	展覧会の実見（学外での実習）	学芸員の案内を受けながら、東京都内の博物館施設で開催されている展覧会を見学する
24	受講生による1回目の展覧会チラシ（確定版）の発表	受講生による1回目の「展覧会チラシ」の最終発表と講評を行う
25	受講生による2回目の展覧会チラシ（確定版）の発表	受講生による2回目の「展覧会チラシ」の最終発表と講評を行う
26	受講生による3回目の展覧会チラシ（確定版）の発表	受講生による3回目の「展覧会チラシ」の最終発表と講評を行う
27	授業のまとめと解説	展覧会企画のプロセスや学芸員の役割と仕事について改めて解説し、本授業を通して学んだことを受講生に発表してもらう
28	27回目に統合	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博物館に関する学問は現場から生まれたものです。受講生各位は積極的に多くの展覧会を見学するなど、日頃から意識して様々な博物館施設を利用するよう心掛けて下さい。

【テキスト（教科書）】
教員が作成した授業テキストをプリントして配布します。

【参考書】
必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
春学期の課題「企画書の作成と発表」の評価50％、秋学期の課題「展覧会チラシの制作と発表」の評価50％。なお、授業回数の1/3を超えて欠席した場合には、成績評価の対象とはなりません。

【学生の意見等からの気づき】
受講生同士の積極的な意見交換がなされるよう、各自が毎時間発言する機会を設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
当授業は「実務経験のある教員による授業」に該当しており、教員は美術館の学芸員として長年にわたり現場に携わっています。そこで、この授業では出来るだけ現場で得た新しい情報や知識を伝えるとともに、学芸員や博物館の仕事に関する質問についても応えていきたいと思います。

【Outline (in English)】
An exhibition which is one of the basic items of curator's activities.
In this lesson, from the planning of the exhibition to the production of the flyer, we aim to master the technique of utilizing the materials and the exhibition.

博物館実習Ⅲ

森屋　雅幸

配当年次／単位：3〜4年次／2単位
開講時期：年間授業/Yearly
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマは、博物館の実務実習である。博物館で働く学芸員の実務に触れることで、専門的で多様な技能を身につけることを目的とする。

【到達目標】
博物館に関する基礎知識や基本的技能をベースに、博物館での館務実習を通して、博物館の業務を理解するとともに、学芸員として求められる技能を実践へとつなげることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
受講前年度までに「博物館概論」、「博物館経営論」、「博物館資料論」、「博物館資料保存論」、「博物館展示論」、「博物館情報・メディア論」、「博物館教育論」、「博物館実習Ⅰ」、「博物館実習Ⅱ」の9科目全てを取得した者のみを対象に、2週間（10日間）以上の館務実習を実施する。
実習先としては、(1) 全国の博物館における館園実習コース及び (2) 法政大学博物館展示施設での展示実習コースを選択する。受け入れ先の博物館の都合により、実習日数が10日を満たない場合は、不足分を秋学期に学内での学芸員実務で補う。このほか、実習前後に計5回の事前（実習ガイダンス）・事後（実習発表会）の指導のほか、個別の面接指導・課題指導等を実施する(全員が対象)。
なお、新型コロナ感染拡大の影響に伴い、今後の予定や、変更等が生じた場合は資格課程準備室等からメール等で連絡をする。
最終授業となる実習報告会では、実習のまとめや振り返りだけでなく、学芸員となるための準備や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導	博物館実習Ⅲ（館務実習）の事前指導。概要、受講条件・年間スケジュール、受講及び応募に向けての準備学習を指導。
実習前②	事前指導	受講生の志望に即した実習計画の設定、応募施設の選択等に関する個別面談指導。
実習前③	事前指導	実習計画を踏まえた博物館学芸員実習希望登録書・身上書等の作成・提出。
実習前④	事前指導	「博物館実習Ⅲ」の履修登録手続等の確認、学内学外実習の応募先の決定、実習計画・関連書類の整備。
実習前⑤	事前指導	博物館実習の事前指導。（実務実習の方針、実習にのぞむ心構え・姿勢、事前準備・予習事項）
実習中	館園実習（10日間）	現場の学芸員によるガイダンス等を行う。 学内実習の場合は担当教員によるガイダンスを行う。 ・実習館の見学、説明。 ・展示企画、準備、実施などを行う。 ・資料整理を行う。 ・教育普及活動。 ・実習授業の反省会。
実習後①	事後指導	事後指導ガイダンス。実習を終えての礼状作成、実習成果報告およびプレゼンテーションに関する指導。
実習後②	事後指導	実習成果・考察を明示した報告課題（実習日誌・実習レポート・年度報告書用レジュメ）とプレゼンテーション用電子資料のまとめ・提出。
実習後③	事後指導	受講者全員による実習成果の発表会。 実習授業全体の振り返りと総評。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料を事前に読むこと。
実習する館を事前に下調べする。

【テキスト（教科書）】
資料を配布する。

【参考書】
随時指示する。

【成績評価の方法と基準】
実習先での評価(50%)
ガイダンスを含めた平常点(20%)
課題提出物（30%）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
*第1回ガイダンス【受講準備】（前年度12月）
*個別指導【施設選択、希望実習館への問い合わせ、提出書類作成、応募】
*第2回ガイダンス【登録、学内・学外実習先の決定】（4月）
*第3回ガイダンス【事前指導】（7月）
*実地実習
*実習先への礼状の送付
*第4回ガイダンス【報告準備】（10月）
*事後指導・実習報告会および情報交換会（12月上旬に市ヶ谷キャンパスで開催予定）形式：各自制作のレジュメおよびパワーポイントによる成果発表。
なお、本講座に関する指示・通知に関しては、各ガイダンスならびに資格課程実習準備室の掲示板等で常に確認するようにしてください。

【学内実習】
学内実習の実務実習は、春学期（6月）及び秋学期（10月〜11月）にそれぞれ10日間実地する。学外の各博物館の都合で実習日数が10日に満たない場合、不足分を秋学期の学内実習で補う。

【Outline (in English)】
The theme of this class is practical museum training. The objective of this class is to develop professional and diverse skills through exposure to the practical work of curators working in museums.

メディアと人間Ⅰ

李　舜志

配当年次／単位：1〜4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
メディアと人間が切っても切り離せない関係で結ばれていることを学び、メディアの分析、設計、表現に資する基礎的な知見を習得する。メディアと人間Ⅰは基礎編として主に各メディアの特徴とその歴史を学び、メディアと人間Ⅱでは応用編としてテクノロジーについての哲学や理論を扱う予定である。

【到達目標】
書物やラジオ、映画などの各メディアがどのように誕生し、人間社会にどのような影響を与えたのかを大まかに理解する。それにより自分なりの「メディア観」を作り上げていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的に、各回ごとに具体的なメディア（書物やラジオ、漫画など）を取り上げつつ、その歴史的意義を考察する。リアクションペーパーに沿って授業内容を変更する場合もある。授業内でリアクションペーパーによる感想や質問に回答する時間も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法、課題について説明する。
2	文字（アルファベット）の誕生	アルファベットの誕生が人間社会に与えたインパクトについて学ぶ。
3	書物の誕生	ヨーロッパにおける書物の誕生を例に、書物の生産・流通・消費が人間社会に与えた影響について学ぶ。
4	学校の誕生	書物をはじめとする「教育メディア」を取り上げつつ、学校の誕生について学ぶ。
5	絵本の誕生	子ども向け絵本の誕生にまでさかのぼり、子ども観の変遷と現代的課題を学ぶ。
6	ラジオの誕生	ラジオの誕生がもたらしたインパクトについて、政治利用に焦点を当てつつ学ぶ。
7	写真の誕生	写真が誕生当時与えたインパクトと、加工が容易になった現代における写真の意義について学ぶ。
8	中間試験	中間試験を行う。
9	映画の誕生	ニュースや娯楽、プロパガンダなど、黎明期の多面的な映画について学ぶ。
10	テレビの誕生	絶大な影響力を誇ってきたテレビの、その隆盛と衰退について学ぶ。
11	ビデオゲームの誕生	商業的・文化的に絶大な影響力を持つビデオゲームについて、その歴史と独自性について学ぶ。
12	インターネットは民主主義の敵か	インターネットの持つ政治的なポテンシャルがどのように議論されているかについて学ぶ。
13	「人間」の条件	メディアが「人間」の条件であることを把握し、メディアの変化に伴い「人間」もまた変化することを理解する。
14	期末試験	期末試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
李舜志『ベルナール・スティグレールの哲学　人新世の技術論』、法政大学出版局、2024年。
佐藤卓己『現代メディア史　新版』、岩波書店、2018年。
吉見俊哉『メディア文化論　メディアを学ぶ人のための１５話　改訂版』、有斐閣アルマ、2012年。

【成績評価の方法と基準】
中間試験：50％
期末試験：50％

【学生の意見等からの気づき】
事前にHoppiiに授業資料をアップする。ファイルの種類はパワーポイントとPDFの二種類。
座席の都合上、スクリーンに映した資料が見づらい場合があるため、適宜配慮する。

【Outline (in English)】
The goals of this course are to learn the relationship between media and human being and acquire knowledges and skills regarding analyze, design and expression of media.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on midterm exam(50%) and final exam(50%).

比較文化論 I

李　舜志

配当年次／単位：1〜4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
メディアと人間が切っても切り離せない関係で結ばれていることを学び、メディアの分析、設計、表現に資する基礎的な知見を習得する。メディアと人間Iは基礎編として主に各メディアの特徴とその歴史を学び、メディアと人間IIでは応用編としてテクノロジーについての哲学や理論を扱う予定である。

【到達目標】
書物やラジオ、映画などの各メディアがどのように誕生し、人間社会にどのような影響を与えたのかを大まかに理解する。それにより自分なりの「メディア観」を作り上げていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的に、各回ごとに具体的なメディア（書物やラジオ、漫画など）を取り上げつつ、その歴史的意義を考察する。リアクションペーパーに沿って授業内容を変更する場合もある。授業内でリアクションペーパーによる感想や質問に回答する時間も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法、課題について説明する。
2	文字（アルファベット）の誕生	アルファベットの誕生が人間社会に与えたインパクトについて学ぶ。
3	書物の誕生	ヨーロッパにおける書物の誕生を例に、書物の生産・流通・消費が人間社会に与えた影響について学ぶ。
4	学校の誕生	書物をはじめとする「教育メディア」を取り上げつつ、学校の誕生について学ぶ。
5	絵本の誕生	子ども向け絵本の誕生にまでさかのぼり、子ども観の変遷と現代的課題を学ぶ。
6	ラジオの誕生	ラジオの誕生がもたらしたインパクトについて、政治利用に焦点を当てつつ学ぶ。
7	写真の誕生	写真が誕生当時与えたインパクトと、加工が容易になった現代における写真の意義について学ぶ。
8	中間試験	中間試験を行う。
9	映画の誕生	ニュースや娯楽、プロパガンダなど、黎明期の多面的な映画について学ぶ。
10	テレビの誕生	絶大な影響力を誇ってきたテレビの、その隆盛と衰退について学ぶ。
11	ビデオゲームの誕生	商業的・文化的に絶大な影響力を持つビデオゲームについて、その歴史と独自性について学ぶ。
12	インターネットは民主主義の敵か	インターネットの持つ政治的なポテンシャルがどのように議論されているかについて学ぶ。
13	「人間」の条件	メディアが「人間」の条件であることを把握し、メディアの変化に伴い「人間」もまた変化することを理解する。
14	期末試験	期末試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
李舜志『ベルナール・スティグレールの哲学　人新世の技術論』、法政大学出版局、2024年。
佐藤卓己『現代メディア史　新版』、岩波書店、2018年。
吉見俊哉『メディア文化論　メディアを学ぶ人のための１５話　改訂版』、有斐閣アルマ、2012年。

【成績評価の方法と基準】
中間試験：50％
期末試験：50％

【学生の意見等からの気づき】
事前にHoppiiに授業資料をアップする。ファイルの種類はパワーポイントとPDFの二種類。
座席の都合上、スクリーンに映した資料が見づらい場合があるため、適宜配慮する。

【Outline (in English)】
The goals of this course are to learn the relationship between media and human being and acquire knowledges and skills regarding analyze, design and expression of media.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on midterm exam(50%) and final exam(50%).

メディアと人間Ⅱ

李　舜志

配当年次／単位：1〜4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、「人新世」と称される危機的な状況において、技術とは何か、技術とどう付き合っていけばいいのか、考察することを目的とする。
それを通して、本を読むこと、音楽を聴くこと、絵を描くこと、ゲームをプレイすること、サッカーをすること等が、現代そして未来においてとても重要な意味を持つことを学ぶ。

【到達目標】
技術、人新世、資本主義、労働について、従来の論点とこれからの課題について理解すること。本授業であつかうテーマを、ただ丸暗記するのではなく、他の授業や生活のなかで経験したことと関連づけつつ考察することが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
テキストの沿いつつ、具体的な作品や映像を取り上げつつ考察する。リアクションペーパーに沿って授業内容を変更する場合もある。授業内でリアクションペーパーによる感想や質問に回答する時間も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法、課題について説明する。
2	人新世とは何か	人新世の定義を確認する。
3	人間と技術の誕生	ギリシャ神話、人類学、哲学から人間と技術の誕生について分析する。
4	「私」になること	個体化のプロセスについて、技術に焦点を当てつつ分析する。
5	「われわれ」になること	「われわれ」という集団が生成するメカニズムについて、技術に焦点を当てつつ分析する。
6	チューリング・マシンと意識の有限性	コンピューターと人間の意識の相違について分析する。
7	アテンションをめぐる戦い	注意が資源として奪い合われている現状について分析する。
8	中間試験	中間試験を行う。
9	資本主義とは何か①	資本主義社会における労働の歴史的発展と、現代の働き方について分析する。
10	資本主義とは何か②	資本主義社会における消費のあり方を、とくに高度資本主義（消費社会）に焦点をあてて分析する。
11	自動社会とは何か	現代のアルゴリズムによる統治を旧来の統治と比較し、その意義を検討する。
12	労働とは何か	「AIが人間に取って代わる」という未来予測を、労働の二義性の観点から分析する。
13	「人間」とは何か	古代ギリシャ以来の「人間」観を理解し、現代における「人間」についてまとめを兼ねて分析する。
14	期末試験	期末試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
李舜志『ベルナール・スティグレールの哲学　人新世の技術論』、法政大学出版局、2024年。

【参考書】
ベルナール・スティグレール『愛するということ　「自分」を、そいて「われわれ」を』、新評論、2007年。
ベルナール・スティグレール『偶有(アクシデント)からの哲学：技術と記憶と意識の話』、新評論、2009年。

【成績評価の方法と基準】
中間試験（第二回〜第七回から出題）：50％
期末試験（第九回〜第十三回からの出題）：50％

【学生の意見等からの気づき】
学習内容の理解と試験対策のために、教科書への書きこみ・付箋を奨励する。

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to examine what technology is and how we should deal with it in the critical situation known as the "Anthropocene."
Through this, students will learn that reading books, listening to music, drawing pictures, playing games, playing soccer, etc. are very important today and in the future.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Mid-term examination (questions from the 2nd to 7th sessions): 50%.
Final examination (questions from the 9th to 13th sessions): 50%.

比較文化論Ⅱ

李　舜志

配当年次／単位：1〜4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、「人新世」と称される危機的な状況において、技術とは何か、技術とどう付き合っていけばいいのか、考察することを目的とする。
それを通して、本を読むこと、音楽を聴くこと、絵を描くこと、ゲームをプレイすること、サッカーをすること等が、現代そして未来においてとても重要な意味を持つことを学ぶ。

【到達目標】
技術、人新世、資本主義、労働について、従来の論点とこれからの課題について理解すること。本授業であつかうテーマを、ただ丸暗記するのではなく、他の授業や生活のなかで経験したことと関連づけつつ考察することが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
テキストの沿いつつ、具体的な作品や映像を取り上げつつ考察する。リアクションペーパーに沿って授業内容を変更する場合もある。授業内でリアクションペーパーによる感想や質問に回答する時間も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法、課題について説明する。
2	人新世とは何か	人新世の定義を確認する。
3	人間と技術の誕生	ギリシャ神話、人類学、哲学から人間と技術の誕生について分析する。
4	「私」になること	個体化のプロセスについて、技術に焦点を当てつつ分析する。
5	「われわれ」になること	「われわれ」という集団が生成するメカニズムについて、技術に焦点を当てつつ分析する。
6	チューリング・マシンと意識の有限性	コンピューターと人間の意識の相違について分析する。
7	アテンションをめぐる戦い	注意が資源として奪い合われている現状について分析する。
8	中間試験	中間試験を行う。
9	資本主義とは何か①	資本主義社会における労働の歴史的発展と、現代の働き方について分析する。
10	資本主義とは何か②	資本主義社会における消費のあり方を、とくに高度資本主義（消費社会）に焦点をあてて分析する。
11	自動社会とは何か	現代のアルゴリズムによる統治を旧来の統治と比較し、その意義を検討する。
12	労働とは何か	「AIが人間に取って代わる」という未来予測を、労働の二義性の観点から分析する。
13	「人間」とは何か	古代ギリシャ以来の「人間」観を理解し、現代における「人間」についてまとめを兼ねて分析する。
14	期末試験	期末試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
李舜志『ベルナール・スティグレールの哲学　人新世の技術論』、法政大学出版局、2024年。

【参考書】
ベルナール・スティグレール『愛するということ　「自分」を、そいて「われわれ」を』、新評論、2007年。
ベルナール・スティグレール『偶有(アクシデント)からの哲学：技術と記憶と意識の話』、新評論、2009年。

【成績評価の方法と基準】
中間試験（第二回〜第七回から出題）：50％
期末試験（第九回〜第十三回からの出題）：50％

【学生の意見等からの気づき】
学習内容の理解と試験対策のために、教科書への書きこみ・付箋を奨励する。

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to examine what technology is and how we should deal with it in the critical situation known as the "Anthropocene."
Through this, students will learn that reading books, listening to music, drawing pictures, playing games, playing soccer, etc. are very important today and in the future.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Mid-term examination (questions from the 2nd to 7th sessions): 50%.
Final examination (questions from the 9th to 13th sessions): 50%.

表象文化論A

髙橋　愛

配当年次／単位：1～4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間は自らが生きる世界を多様なシステムを通じて表象し、その行為によって、たえず文化を創造、展開してきた。本授業の目的は、さまざまな文化事象の歴史的文脈や時代の政治的・社会的背景を検討し、表象を成り立たせている諸要素や様態について考察することである。

【到達目標】
本授業では、言語テクスト、絵画、写真、映画、建築などのジャンルを横断しながら、個々の作品がいかなる歴史的・社会的文脈において制作され、いかなる装置によって表象されたのかを考え、文化事象を読み解く方法を提示する。それを手がかりとして、受講生は各自が関心を持つ対象にアプローチし、広い視野をもって、解析する。さらに、自ら適切に表現することもできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・講義形式で授業を進める。各回の授業のはじめに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容と方法の説明、導入
2	中世①	聖地巡礼ブームとロマネスク建築
3	中世②	都市の発展とゴシック建築（2019年のパリ・ノートルダム大聖堂火災と修復プロジェクト、2024年の一般公開再開までの過程も説明）
4	ルネサンス	フランス・ルネサンスとユマニスム
5	古典時代①	絶対王政とヴェルサイユ宮殿、ロココ文化
6	古典時代②	啓蒙思想の発展と市民社会
7	近代①	ナポレオンの時代と芸術
8	近代②	近代都市パリと印象派
9	近代③	ポスト印象派の画家たちとゆかりの地
10	近代④	ジャポニスム
11	近代～現代	パリ万博とエッフェル塔
12	現代（20世紀）	「グラン・プロジェ」大規模都市再開発とパリの文化発信力
13	現代（21世紀）	今世紀における文化の継承と発展、課題
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
単位認定で考慮されるのは、授業での学習状況と参加度（リアクションペーパーの内容も含む）、学期末試験である。評価はそれらの総合点を100点満点として行われる。成績評価の内訳は、学期末試験50％、平常点50％とする。

【学生の意見等からの気づき】
2024年12月に一般公開を再開したパリのノートルダム大聖堂など、今年度も新しい情報を積極的に紹介しながら「過去」と「現在」のつながりが体感できる授業を行いたい。

【Outline (in English)】
The main aims of this course are to help students understand the various phenomena in Europe and deepen knowledge of cultural representation. Before/after each class meeting, students are required to spend two hours to understand the course content. Upon successful completion of the course, they will be able to comprehend the basic concepts of these topics, as well as to approach their own subject. Grading will be based on term-end examination (50%) and in class contribution (50%).

表象文化論Ｂ

濱中　春

配当年次／単位：2〜4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スイスの作家ヨハンナ・シュピーリの『ハイジ』（1880-81年）とその翻訳や挿絵、絵本・アニメ・映画などによる翻案を対象として、物語作品へのアプローチの方法を具体的な事例を通して学ぶとともに、翻訳や翻案による作品の変容について考える。

【到達目標】
・「作者の意図」や「登場人物の心情」といった観点を超えて物語作品に歴史的文脈を踏まえて分析的にアプローチする方法を知る。
・メディア（表現媒体）による表現可能性の違いや翻案による作品の変容について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・学期の前半にはシュピーリの『ハイジ』、後半にはその翻訳や挿絵、翻案作品をとりあげる。
・授業は基本的に講義形式でおこなうが、受講生のコメントを紹介したり、意見を聞く機会も設ける。
・提出されたリアクションペーパーに対するフィードバックは次回の授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方と『ハイジ』の概要
2	作者と時代	シュピーリの生涯と19世紀のスイス、ヨーロッパ
3	ジャンル	児童文学、少女小説、ビルドゥングス・ロマン
4	作品分析（1）	アルプスとフランクフルト
5	作品分析（2）	自然と健康
6	作品分析（3）	鉄道・郵便・電信
7	作品分析（4）	宗教という主題
8	翻訳	『ハイジ』に見る言語と文化の翻訳可能性
9	図像	『ハイジ』の図像化とその変遷
10	絵本	言葉、イメージ、書物が語る『ハイジ』の物語
11	アニメーション	『アルプスの少女ハイジ』（1974）
12	映画（1）	『アルプスの少女ハイジ』（1965）
13	映画（2）	『ハイジ アルプスの物語』（2015）
14	ツーリズム	『ハイジ』の「聖地巡礼」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・シュピーリの『ハイジ』を教科書として指定された版で読む。
・授業で紹介された参考文献を読んだり、映像作品を見る。
・レポート課題に取り組む。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ヨハンナ・シュピリ『アルプスの少女ハイジ』松永美穂訳（角川文庫、2021年）

【参考書】
ちばかおり・川島隆『図説　アルプスの少女ハイジ』増補改訂版（河出書房新社、2022年）
川島隆『ハイジの生みの親ヨハンナ・シュピーリ』（青弓社、2024年）
その他、授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
中間レポート40％、期末レポート40％、平常点20％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
ひきつづき物語と翻案によるその変容について考えることのおもしろさを伝えたい。

【Outline (in English)】
This course introduces students to the ways to analyse the narrative work and its adaptaions. As examples it takes Johanna Spyri's "Heidi" (1880/81) and its translations, illustrations, and adaptations such as picture books, animations and movies.
Students will be expected to read Spyri's "Heidi" and the references and to watch the films outside of classroom. Your required study time is two hours for each class meeting.
Grading will be decided based on mid-term report (40%), term-end report (40%), and in-class contributions (20 %).

美術史（日本）A

稲本　万里子

配当年次／単位：3〜4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
平安時代後期に制作された絵巻を取りあげ、基礎知識を説明する。さらに、どのような技法と表現法が使われているのか解説し、制作年代や注文主などの諸問題を検討する。
視覚表象（ヴィジュアル・イメージ）をさまざまな角度から分析する手法を知るために、絵巻を鑑賞し、技法と表現法を理解し、美術史研究の現況を把握する。

【到達目標】
授業で取りあげた絵巻の基礎知識を習得し、技法と表現法について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式でおこなう。はじめに、美術史と絵巻についての概説をおこなう。次に、平安時代後期に制作された「源氏物語絵巻」「信貴山縁起絵巻」「伴大納言絵巻」を取りあげ、基本的な事柄を説明する。毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写しながら、どのような技法が用いられ、どのような表現がなされているか説明するので、映写時はノートをとることよりも、スライドをじっくり見てもらいたい。そのうえで、制作年代や注文主などの諸問題を検討する。その際、ジェンダーやクラスの視点から注文主の権力や幻想、欲望を読み解く新しい美術史学（ニュー・アート・ヒストリー）の方法を紹介する。授業で紹介する手法を用いて、現代の我々を取り巻く視覚表象の問題についても考えてもらいたい。質問はリアクションペーパーで受けつける。翌週の授業開始時に答え、皆でシェアする。筆記試験の結果と優秀レポートは、成績提出後に講評をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、展覧会の見方	授業内容の説明
第2回	美術史概説	美術史の研究方法・ジャンル・時代区分
第3回	絵巻概説、「源氏物語絵巻」Ⅰ	絵巻の形態、鑑賞法、「源氏物語絵巻」概説
第4回	「源氏物語絵巻」Ⅱ	「源氏物語絵巻」柏木第一段〜御法段
第5回	「源氏物語絵巻」Ⅲ	「源氏物語絵巻」情景選択法、竹河第一段〜橋姫段
第6回	「源氏物語絵巻」Ⅳ	「源氏物語絵巻」早蕨段〜東屋第二段、蓬生段・関屋段、若紫段
第7回	「源氏物語絵巻」Ⅴ	「源氏物語絵巻」諸問題の検討
第8回	「信貴山縁起絵巻」Ⅰ	「信貴山縁起絵巻」概説、飛倉巻
第9回	「信貴山縁起絵巻」Ⅱ	「信貴山縁起絵巻」延喜加持巻、尼公巻
第10回	「信貴山縁起絵巻」Ⅲ	「信貴山縁起絵巻」諸問題の検討、レポートの書き方
第11回	「伴大納言絵巻」Ⅰ	「伴大納言絵巻」概説、上巻、中巻
第12回	「伴大納言絵巻」Ⅱ	「伴大納言絵巻」下巻、諸問題の検討
第13回	授業のまとめⅠ	筆記試験の説明
第14回	授業のまとめⅡ	各作品の相違点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は各2時間を標準とする。授業後、作品と作品名が一致するように参考図版を見ておくこと。ただし「源氏物語絵巻」については、『源氏物語』の内容を講義する時間がないので、あらかじめ物語のあらすじを把握しておくことが望ましい。参考書に記した『すぐわかる源氏物語の絵画』が便利。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。毎回スライドとプリントを使って進める。プリントは学修支援システムにアップするので、各自でダウンロードすること。

【参考書】
入門書として、田口榮一監修、稲本万里子・木村朗子・龍澤彩『すぐわかる源氏物語の絵画』（東京美術、2009）、稲本万里子『源氏の系譜―平安時代から現代まで』（森話社、2018）、佐野みどり『じっくり見たい『源氏物語絵巻』』（小学館、2000）、泉武夫『躍動する絵に舌を巻く 信貴山縁起絵巻』（小学館、2004）、黒田泰三『思いっきり味わいつくす伴大納言絵巻』（小学館、2002）。
各作品についての参考図版、参考文献は授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
学期末の筆記試験80％、リアクションペーパー20％。
筆記試験は、基礎知識を習得しているか否かを判断する。ただし、筆記試験の点数の1/4をレポート点に代えることもできる。レポートの提出は任意。レポートの内容については授業中に説明する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度とは授業内容が異なるので、確認のうえ受講すること。教室の設備にかんする苦情は受けつけない。

【学生が準備すべき機器他】
毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写する。対面授業の場合は、学生が準備すべき機器はない。オンライン授業のときは、PC推奨。

【その他の重要事項】
時間配分により、実際の授業では順序や内容が変わることがある。
本務校の都合により対面授業がオンライン授業に変更になる場合は、学修支援システムから連絡する。

【Outline (in English)】
Course outline
In this class, basic knowledge will be explained mainly on narrative scroll from the Late Heian period. Furthermore, I will explain what kind of techniques and expressions are used, and examine various issues such as the production date and the client.
Students will appreciate picture scrolls, understand techniques and expression, and grasp the current state of art history research in order to learn techniques for analyzing visual images from various angles.
Learning Objectives
Become able to explain the basic knowledge of narrative scrolls covered in class, and be able to explain techniques and expressions.
Learning activities outside of classroom
The standard preparation and review time is 2 hours each. After the lecture, look at the reference illustrations so that the work and the work name match.
Grading Criteria /Policy
Written exam 80%at the end of the semester, reaction paper 20%.

美術史（日本）B

稲本　万里子

配当年次／単位：3〜4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、平安時代後期から鎌倉時代に制作された絵巻を取りあげ、基礎知識を説明するとともに、どのような技法と表現法が使われているのか解説し、制作年代や注文主などの諸問題を検討する。秋学期は、どのような社会がどのような視覚表象（ヴィジュアル・イメージ）を作り出したのかという問題に重点をおいて講義を進める。
この授業の目的は、視覚表象をさまざまな角度から分析する手法を知るために、絵巻を鑑賞し、技法と表現法を理解し、美術史研究の現況を把握することである。

【到達目標】
授業で取りあげた絵巻の基礎知識を習得し、技法と表現法について説明することができる。
どのような社会がどのような視覚表象を作り出したのか説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式でおこなう。はじめに、美術史と絵巻についての概説をおこなう。次に、平安時代後期から鎌倉時代に制作された絵巻を取りあげ、基本的な事柄を説明する。毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写しながら、どのような技法が用いられ、どのような表現がなされているか説明するので、映写時はノートをとることよりも、スライドをじっくり見てもらいたい。そのうえで、制作年代や注文主など、視覚表象と社会をめぐる諸問題を検討する。その際、ジェンダーやクラスの視点から注文主の権力や幻想、欲望を読み解く新しい美術史学（ニュー・アート・ヒストリー）の方法を紹介する。授業で紹介する手法を用いて、現代の我々を取り巻く視覚表象の問題についても考えてもらいたい。質問はリアクションペーパーで受けつける。翌週の授業開始時に答え、皆でシェアする。筆記試験の結果と優秀レポートは、成績提出後に講評をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、展覧会の見方	授業内容の説明
第2回	美術史概説、絵巻概説	美術史の研究方法、ジャンル、時代区分、絵巻の形態、鑑賞法
第3回	「鳥獣人物戯画」	「鳥獣人物戯画」の鑑賞と検討
第4回	「病草紙」	「病草紙」の鑑賞と検討
第5回	似絵	似絵作品の鑑賞と検討
第6回	「華厳宗祖師絵伝」	「華厳宗祖師絵伝」の鑑賞と検討
第7回	「北野天神縁起絵巻」	「北野天神縁起絵巻」の鑑賞と検討
第8回	「平治物語絵巻」	「平治物語絵巻」の鑑賞と検討
第9回	「男衾三郎絵巻」	「男衾三郎絵巻」の鑑賞と検討、レポートの書き方
第10回	「一遍聖絵」	「一遍聖絵」の鑑賞と検討
第11回	「春日権現験記絵巻」	「春日権現験記絵巻」の鑑賞と検討
第12回	「伊勢物語絵巻」	「伊勢物語絵巻」の鑑賞と検討
第13回	授業のまとめⅠ	筆記試験の説明
第14回	授業のまとめⅡ	様式の展開と各作品の相違点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は各2時間を標準とする。授業後、作品と作品名が一致するように参考図版を見ておくこと。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。毎回スライドとプリントを使って進める。プリントは学修支援システムにアップするので、各自でダウンロードすること。

【参考書】
入門書として、若杉準治編『絵巻物の鑑賞基礎知識』（至文堂、1995）、榊原悟監修、佐伯英里子・内田啓一『すぐわかる絵巻の見かた』（東京美術、2004）。
各作品についての参考図版、参考文献は授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
学期末の筆記試験80％、リアクションペーパー20％。
筆記試験は、基礎知識を習得しているか否かを判断する。ただし、筆記試験の点数の1/4をレポート点に代えることもできる。レポートの提出は任意。レポートの内容については授業中に説明する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度とは授業内容が異なるので、確認のうえ受講すること。教室の設備にかんする苦情は受けつけない。

【学生が準備すべき機器他】
毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写する。対面授業のときは、学生が準備すべき機器はない。オンライン授業のときは、PC推奨。

【その他の重要事項】
時間配分により、実際の授業では順序や内容が変わることがある。
本務校の都合により対面授業がオンライン授業に変更になる場合は、学修支援システムから連絡する。

【Outline (in English)】
Course outline
In this class, basic knowledge will be explained mainly on narrative scroll from the Late Heian period to Kamakura period. Furthermore, I will explain what kind of techniques and expressions are used, and examine various issues such as the production date and the client. In the fall semester, lectures will focus on the question of what kind of society created what kind of visual image.
Students will appreciate picture scrolls, understand techniques and expression, and grasp the current state of art history research in order to learn techniques for analyzing visual images from various angles.
Learning Objectives
Become able to explain the basic knowledge of narrative scrolls covered in class, and be able to explain techniques and expressions.
Become able to explain what kind of society produced what kind of visual image.
Learning activities outside of classroom
The standard preparation and review time is 2 hours each. After the lecture, look at the reference illustrations so that the work and the work name match.
Grading Criteria /Policy
Written exam 80%at the end of the semester, reaction paper 20%.

美術史（西洋） A

安藤　智子

配当年次／単位：3〜4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近代から現代までの美術史の文脈において、芸術作品を様々な視点から考察するとともに、その鑑賞方法を習得する。

【到達目標】
芸術作品の主題、様式、技法等に関する美術史の基礎知識の習得に加え、同時代の鑑賞者の特徴、美術制度や社会状況を踏まえた上で、多角的・重層的に捉える視点を持って、芸術作品を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業当日に資料をアップした上で講義を行う。
講義では、パワーポイントで作品の画像を映写し解説していく。
授業の最後にリアクションペーパーを配布し、各自の考察や感想を記入してもらう。
このリアクションペーパーの提出によって出席とみなす。リアクションペーパーの内容が貧弱で不適切であった場合に欠席となるので留意すること。
また、期末試験の対策として、絵画のディスクリプションについて解説し、授業内で記述方式の演習を行うので必ず出席すること。
春学期は西洋美術史を学習する上での基礎編、秋学期はその応用編といった構成になっている。できれば秋学期も通じ、１年間受講してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と展覧会情報 美術史の学習方法・参考文献
第2回	美術史の基礎概念	美術におけるジャンルとは？
第3回	美術史の基礎用語	絵画鑑賞の基礎となる概念及び造形的な要素を説明する
第4回	絵画のジャンル① 神話画・宗教画・寓意画	ギリシア神話や聖書に典拠した絵画や事物に意味を読み取る寓意、また時事的な絵画まで、物語や出来事を表現する絵画を見ていく
第5回	絵画のジャンル③ 肖像画・風景画・風俗画	物語画以外のジャンルの絵画について外観する
第6回	物語から表象へ	聖書の主題である「受胎告知」を例にとり、テキストから絵画イメージへの変換の過程を検証する
第7回	ロココ芸術から新古典主義へ	ロココから新古典主義の様式の変容を、王侯貴族の支配する社会から市民社会への変革と関係づけて理解する。
第8回	ロマン主義の絵画	時事的な主題を扱った作品や人間の暗部に焦点を当てたロマン主義の絵画を紹介する
第9回	美術館見学	美術館に行き、作品を鑑賞する。
第10回	クールベのレアリスム	第二共和政の時代に起きた新しい美術運動としてのレアリスムを考察する。
第11回	パリの都市大改造	ナポレオン３世が進めたオスマンの都市改造計画により、パリは経済が活況になり文化が花開く。この時期に都市を描いた作品を見ていく。
第12回	印象派の展覧会 絵画のディスクリプションの演習	画家たちが自主的に企画したという視点で印象派の展覧会を検討し、新しい絵画とアカデミックな絵画との相違点を理解する。 また、期末試験の対策として、絵画のディスクリプションについて解説し演習を行う。
第13回	田舎の表象	パリ中心の都市文化とは対照的に、田舎の自然の風景や農民の姿を表象した絵画を考察する。
第14回	まとめと質疑応答	これまでの考察をもとに、芸術作品への見方の多様性を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
美術館にできるだけ出向いて、常設のコレクションや企画展に展示されている実際の美術作品を見てほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、参考文献を授業中に適宜紹介する。

【参考書】
『世界美術大全集　西洋編』、小学館、19-24巻、1993-96年
高階秀爾・三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』、新書館、1997年
三浦篤『まなざしのレッスン１―西洋伝統絵画』、東京大学出版会、2001年
三浦篤『まなざしのレッスン２－西洋近現代絵画』、東京大学出版会、2015年
E.H.ゴンブリッチ『美術の物語』、ファイドン、2007年日本語版初版。

【成績評価の方法と基準】
期末筆記試験（７０％）と、平常点（主に授業で紹介した作品に対するコメント、３０％）を参考に成績評価を決定する。
芸術作品に関する基礎知識を身に付けた上で、分析と論証の手続きが一定のレベルに達しているかを評価基準とする。平常点には授業内コメントを含む。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけアート作品を見る機会を増やしてもらうために、授業中に開催中の展覧会の紹介する。また状況が許せば展覧会見学も実施したい。

【Outline (in English)】
Focusing on modern and contemporary art created in Europe, particularly in France, we will study art history from a variety of perspectives.
The goal of this course is to learn how to understand works of art in the context of art history.
If possible, students should voluntarily go to museums to view artworks based on the knowledge they learn in class.
The final grade will be determined by short comments written by the students at the end of each class (30%) and the exam at the end of the course (70%).

美術史（西洋） B

安藤　智子

配当年次／単位：3〜4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近代から現代までの美術史の文脈において、芸術作品を様々な観点から考察するとともに、その鑑賞方法を習得する。

【到達目標】
芸術作品の生成と構造を、美術史の基礎概念をもとに、さらに深く理解する。
芸術と社会との関係性をより多角的に捉える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業当日に資料をアップした上で講義を行う。
パワーポイントで作品の画像を映写し解説していく。
授業最後にリアクションペーパーを配布し、各自の考察や感想を記入してもらう。
このリアクションペーパーの提出によって出席とみなす。リアクションペーパーの内容が貧弱で不適切であった場合に欠席となるの留意すること。
期末試験は講義の内容を理解しているかを問うもので、論述式で解答する。
春学期にすでに絵画のディスクリプションについては解説するので、この知識と理解をベースに論述することが望まれる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要 美術史へのアプローチ
第2回	筆触の多様性〜印象主義から新印象主義へ	美術史の流れに従って、筆触という技法の表現が変容していく過程を考察する
第3回	視点とパースペクティブ〜セザンヌからキュビスムへ	絵画空間における視点、及びパースペクティヴに着目し、１９世紀後半から２０世紀初頭にかけて、ドラスティックな絵画空間の変化を確認する。
第4回	素朴さへの憧れ〜ゴーガンとゴッホ	近代社会の進歩や工業化に反発し、非西洋文明のイメージを具現化したゴーガンやゴッホの絵画を検証する
第5回	異文化との出会い	１９世紀にイギリスやフランスで開催された万国博覧会から異国の文化、とくに日本美術がヨーロッパ諸国に波及する過程を追う
第6回	象徴主義	１９世紀から２０世紀にかけて制作された絵画における物語の表象とゴーガンにおける象徴主義までを考察する
第7回	アヴァンギャルド芸術①	２０世紀初頭の、フォーヴという美術運動、それに続く西欧社会の軍国主義を反映したイタリア未来派の絵画について考察する
第8回	アヴァンギャルド芸術②	２０世紀初頭に現出した美術運動であるダダとシュルレアリスムについて解説する
第9回	ドイツ表現主義と抽象絵画	対象を現実に見ているように再現する芸術作品から、概念によって構成された芸術作品へと転換する過程を考察する
第10回	美術市場の形成	１９世紀から２０世紀にかけて、画商やコレクターの活動を参照し、個人コレクションが形成される過程を見る
第11回	写真と絵画	１９世紀に登場した写真が及びした視覚芸術への影響を考察する
第12回	コンテンポラリーアート	２０世紀後半から現代までの美術動向を見る。とくに近年の展覧会で紹介された美術作品を概観する。
第13回	美術館見学	実際に芸術作品を見て考察を深める
第14回	双方向の授業によるディスカッション	これまでの総括 芸術と社会との関係性を包括的に考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
できれば、春学期と通年で履修してください。
様々な美術館の展覧会に出向き、芸術作品を実際に鑑賞してください。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業の内容に沿って参考図書を適宜紹介していきます。

【参考書】
世界美術大全集　西洋編』、小学館、19-24巻、1993-96年
高階秀爾・三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』、新書館、1997年
三浦篤『まなざしのレッスン１―西洋伝統絵画』、東京大学出版会、2001年
三浦篤『まなざしのレッスン２－西洋近現代絵画』、東京大学出版会、2015年
E.H.ゴンブリッチ『美術の物語』、ファイドン、2007年日本語版初版。

【成績評価の方法と基準】
対面授業の場合は、学期末試験（７０％）と、平常点（主に授業で紹介した作品についてのコメント、３０％）を参考に成績評価を決定する。
　芸術作品に関する基礎知識を身に付けた上で、分析と論証の手続きが一定のレベルに達しているかを評価基準とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業の内容に沿って、開催中の展覧会を紹介する。
秋に開催される展覧会によって状況が変わる場合があるが、展覧会見学を行う予定。

【Outline (in English)】
Focusing on modern and contemporary art created in Europe, particularly in France, we will study art history from a variety of perspectives.
The goal of this course is to learn how to understand works of art in the context of art history.
If possible, students should voluntarily go to museums to view artworks based on the knowledge they learn in class.
The final grade will be determined by short comments written by the students at the end of each class (30%) and the exam at the end of the course (70%).

考古学概論

高橋　健

配当年次／単位：2～4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
旧石器時代から古墳時代までの概要を学ぶ。
日本史の基盤となる原始・古代の人間集団の動向を理解し、歴史学・考古学の研究を行う上で不可欠な歴史的事実の解釈方法を身につけることを目標とする。

【到達目標】
考古学的な成果に基づいて、各時代における文化的な特色、人々の自然環境・社会環境への対応、人間集団のありかたについて説明することができるとともに、それらを比較検討することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
日本列島において人類が活動を開始した旧石器時代から、狩猟・採集経済に生活の基礎がおかれた縄文時代、大陸型の水稲耕作が広がった弥生時代、前方後円墳が営まれ政治権力が発達した古墳時代までの展開について、考古資料を中心として学ぶ。また稲作導入後に異なる歴史をたどった北海道島についても扱う。
授業方法は講義形式による。授業はパワーポイントを使用するが、プリントも併用する。質問やリアクションペーパーへのフィードバックについては授業時間内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の概要と方法・評価基準
第2回	旧石器時代の姿	人類の進化と旧石器文化
第3回	日本の旧石器文化	日本列島における旧石器文化の展開
第4回	縄文時代の概要	地域的・時期的な多様性と共通性
第5回	縄文時代の生業	狩猟・漁労と採集・栽培
第6回	縄文時代の社会	集落と墓からみる社会構造
第7回	縄文から弥生へ	稲作の伝来と社会の変化
第8回	弥生のムラの姿	環濠集落と集団関係
第9回	青銅器と貝製品	遠くに運ばれる儀礼の道具
第10回	弥生墓制と社会の特質	地域的な墓制の展開と地方間の関係
第11回	続縄文文化	稲作を行わなかった地域
第12回	前方後円墳の成立と波及	古墳の成立と社会
第13回	古墳文化の変容と終焉	技術革新と古代国家への道
第14回	擦文文化とオホーツク文化	アイヌ文化の祖先

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連文献を読み、旧石器時代から古墳時代にかけての理解を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
日本列島を中心とした旧石器時代から古墳時代にかけての概説書を読んでおくこと。このほかの文献については授業内で紹介する。
佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ
佐藤宏之（2019）『旧石器時代　日本文化のはじまり』敬文舎
今村啓爾（2017）『縄文文化　考古調査ハンドブック17』ニューサイエンス社
石川日出志（2010）『農耕社会の成立　シリーズ日本古代史1』岩波新書
白石太一郎（2001）『古墳とその時代　日本史リブレット4』山川出版

【成績評価の方法と基準】
期末に論述式の筆記試験を行う（ノート持ち込み可）。試験は成績評価の70％とする。平常点は成績評価の30％とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
※担当者は博物館学芸員として実務経験を有しており、授業では物質資料にもとづく歴史展開を中心に講義する。

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will learn an overview of the Japanese archipelago from the Paleolithic period to the Kofun period.
（Learning Objectives）
The purpose of this course is to understand the trends of primitive and ancient human groups, which form the basis of Japanese history, and to learn how to interpret historical facts, which are essential for conducting historical and archeological research.
（Learning activities outside of classroom）
Students should read related literature and deepen their understanding of the period from the Paleolithic period to the Kofun period. The standard time for preparation and review for this class is two hours each.
（Grading Criteria /Policy）
Submit a reaction paper for each class.
Grading will be decided based on %)%), term end examination (70%) and in class contribution (30%).

日本考古学

高橋　健

配当年次／単位：2〜4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本列島の旧石器時代から古墳時代にかけての歴史展開において、物質文化にもとづいて講義する。
社会を支える食料の獲得・生産の方法が時代によってどのように変化したのかを学ぶ。

【到達目標】
日本列島の環境に適応したそれぞれの時代の生業とその特徴について説明することができる。また、考古資料から生業にアプローチする方法とその有効性について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
人間の生活のもっとも基礎となる食料の獲得・生産・加工の方法がどのように変化したのかを、考古資料にもとづいて探る。各回の授業でトピックを設定して行う予定である。
授業方法は講義形式による。授業はパワーポイントを使用するが、プリントも併用する。質問やリアクションペーパーへのフィードバックについては授業時間内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	概要説明	授業の方法・評価基準　この授業で扱う時代の概説
第2回	旧石器時代の環境	遊動的な生活
第3回	旧石器時代の生活	洞穴遺跡の生業
第4回	縄文時代の環境	時期と地域による環境の変化
第5回	縄文時代の生業①	貝塚と動物質食料
第6回	縄文時代の生業②	植物質食料を探る
第7回	縄文時代の生業③	理化学的分析など
第8回	縄文時代の調理	土器を使った料理
第9回	弥生時代の生業①	穀物栽培の開始
第10回	弥生時代の生業②	農耕民による狩猟と漁労
第11回	弥生・古墳時代の調理	コメ調理方法の変化
第12回	北方地域の生業①	稲作を行わなかった文化：続縄文文化・擦文文化
第13回	北方地域の生業②	外来の文化：オホーツク文化
第14回	総括	考古学からみた生業の変遷

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書等をよく読み、時代ごとの特徴を理解するとともに、環境と生業についての知見を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
西本豊弘・新美倫子編2010『事典人と動物の考古学』吉川弘文館
工藤雄一郎他編2013『ここまでわかった! 縄文人の植物利用』新泉社
横浜市歴史博物館編2019『おにぎりの文化史』河出書房新社
その他の参考書は、授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
成績の70％は物質文化を扱うレポート評価とする。平常点は30％とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
※担当者は博物館学芸員として実務経験を有しており、授業では物質資料にもとづく歴史展開を中心に講義する。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This class will cover the historical development of Japan from the Paleolithic to the Kofun period, based on material culture.
（Learning Objectives）
Students learn how the methods of acquiring and producing food have changed over time.
（Learning activities outside of classroom）
The standard time for preparation and review for this class is two hours each. Students should read references to understand the characteristics of each eras and deepen their knowledge of the environment and subsistence.
（Grading Criteria /Policy）
Submit a reaction paper for each class. Your overall grade in the class will be decided based on term-end report (70%) and in class contribution (30%).

民俗学Ⅰ

室井　康成

配当年次／単位：2〜4年次／2単位
開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本民俗学の創始者・柳田国男（1875－1962）の研究歴に沿いながら、民俗学の基礎を学ぶ。柳田の生涯は、西南戦争前の明治の初年から、アジア太平洋戦争後の高度経済成長期にまで及ぶ。言わば日本近代を凝縮した人生とも言えるわけで、その経歴に沿いながら、柳田が「民俗」に着目した動機とその社会背景を明らかにし、そこから彼が「民俗」の研究を通じて構想した社会像を考える。

【到達目標】
「民俗」とは、いったい何だろう。民俗芸能・民俗文化財・民俗宗教など、この語を冠した言葉は多用されているが、ここで言う「民俗」とは、私たちの日常生活のあり方を規定する文化的な事象を指している。しかし所与のものではなく、「近代」という時代状況の中で発見されたものである。その「民俗」が、何ゆえその時代に、いかなる契機によって発見されたのか。本講義では、「民俗」および「民俗学」を理解する前段階として、日本における民俗学の創始者・柳田国男の思想と学問を手掛かりとして、この問題を理解し、併せて現代を生きる私たちにとって、「民俗」の何が問題なのかということを考える視座を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めます。講義内で受講生に対し発問することはありますが、リアクションペーパーなどは求めません。質問等に対するフィードバックは適宜講義内で行ないます。また、講義時に配布するレジュメに、教員へのアクセス方法を記しておりますので、講義時間外でも質問等を受け付けることは可能です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義全体の趣旨を説明します。
第2回	DVD『柳田国男―民俗の心を探る旅』の視聴と解説	柳田国男の生涯を描いた映像作品を視聴し、その特徴と問題点を指摘します。
第3回	生い立ちと貧困問題	柳田の民俗学構想には彼が幼少時に見聞した原体験があるとされ、その事例を確認します。
第4回	関西から関東への転居	柳田が幼少時に経験した関西から関東への転居が、その後の民俗学に与えた影響を考えます。
第5回	恋愛抒情詩人から農政官僚へ	柳田は学生時代、後に高名な文学者となる友人を多く持ちました。彼らとの交流が後の民俗学に与えた影響を考えます。
第6回	近代化論と農業政策論	柳田は大学卒業後、農商務省の高級官僚となります。その職務を通じて彼が披歴した近代観・農業観の特徴を確認します。
第7回	『遠野物語』を読む（1）	柳田が官僚時代に刊行した『遠野物語』の学史的位置づけを押さえます。
第8回	『遠野物語』を読む（2）	具体的に『遠野物語』を通読し、そこから読み取れる柳田の思想を考えます。
第9回	政策課題としての「民俗」の発見	柳田の中で発見された「民俗」は、どのような性格のものであったのかを確認します。
第10回	ジャーナリストへの転向と大正デモクラシー	柳田は官僚を辞した後、ジャーナリストになりました。その時代の世相と彼の思想との関連性を考えます。
第11回	民俗学の組織化と柳田国男の孤立	柳田はジャーナリストとして活動しつつ民俗学の体系化を目指します。その過程で起きた問題点の学史的意味を考えます。
第12回	日本の敗戦と新たな民俗学構想	柳田は日本の戦争を止められなかったのは、自身を含めた知識人の力不足だったと考えました。柳田は民俗学を通じてどのような社会貢献をしようとしていたのかを考えます。
第13回	「公民」養成論としての民俗学へ	戦後の柳田は、民俗学の目的を「公民の養成」と明言しました。その意味を検討し、民俗学とは何かを考えます。
第14回	試験と総括	本講義を総括し、受講生諸氏の理解度を机上試験で測ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義では毎回教員がレジュメを配布するので、そこに記された参考文献については通読しておいてください。また授業外の学習は、上記参考文献を用いた予習・復習（2時間程度）のほか、個々の学生の日常生活の中に散見される「民俗」的な事象・問題に気配りし、それらを学問的に考える姿勢を求めます（随時）。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。講義時に教員においてレジュメを作成し、配布します。

【参考書】
福田アジオ『種明かししない柳田国男－日本民俗学のために』（2023年，吉川弘文館）
室井康成『柳田国男の民俗学構想』（2010年，森話社）
室井康成『事大主義－日本・朝鮮・沖縄の「自虐と侮蔑」』（2019年，中央公論新社）
室井康成『政治風土のフォークロア－文明・選挙・韓国』（2023年，七月社）
岩本通弥他偏『民俗学の思考法－〈いま・ここ〉の日常と文化を捉える』（2021年，慶応義塾大学出版会）
その他は、授業時に配布するレジュメで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・最終授業時に実施する試験の回答内容のみで成績を判定します（試験100％）。ただし、どのような内容を出題するかは、終講の３～４回前の授業時にお知らせします。
・試験は実質的には机上リポートになります。そのため講義内容の理解度が成績判定の基準になります。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特にありませんが、近現代の日本および東アジアの歴史に興味がないと、退屈な時間を過ごさざるを得なくなります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this class, you will learn about the history and characteristics of Japanese folklore-studies. Since the concept of folklore varies from country to country, this lesson will accurately learn the concept of "folklore" used in Japan.
【Learning Objectives】
Understanding Japanese folk-culture and the concept of folklore.
【Learning activities outside of classroom】
Reading the bibliography.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination;100%

民俗学Ⅱ

室井　康成

配当年次／単位：2～4年次／2単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「レジャー」が一般化した高度経済成長期において、人々の観光への意欲を掻き立てる重要なツールとなったのがテレビの紀行番組である。だが、映像を含むあらゆる視覚資料には製作者の恣意が反映されているものであり、紀行番組もまた然りである。本講義では、そこに描かれた風景や製作意図、その時代的意味合いについての理解に努める。

【到達目標】
戦後の高度経済成長に歩調を合わせる形で放送され、その後の紀行番組に大きな影響を与えたNHKの『新日本紀行』を事例として、その時代に求められた風景や、そこから除外された問題を同時代史の文脈から読み解き、あわせて民俗学的観点から映像作品と同時代性を理解する力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めます。講義内で受講生に対し発問することはありますが、リアクションペーパーなどは求めません。質問等に対するフィードバックは適宜講義内で行ないます。また、講義時に配布するレジュメに、教員へのアクセス方法を記しておりますので、講義時間外でも質問等を受け付けることは可能です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
講義	ガイダンス	講義全体の概要を説明します。履修希望者は必ず出席して下さい。
講義	「新日本紀行」の時代背景と政治性―高度経済成長期の求められた風景と現実（1）	放送当時の時代背景を講義します。
講義	「新日本紀行」の時代背景と政治性―高度経済成長期の求められた風景と現実（2）	「新日本紀行」の撮影・編集など制作手法の特徴や傾向について講義します。
講義	テレビ時代到来の意味	NHKドキュメント映像『山の分校の記録』を視聴し、解説します。
講義	隠蔽された公害	「新日本紀行」の『歌が生まれて、そして』（長崎県奈留島）の回を視聴し、解説します。
講義	「観光化」の光と影	「新日本紀行」の『湘南・電車通り』（神奈川県鎌倉）の回を視聴し、解説します。
講義	北海道開拓一世たちの心象風景	「新日本紀行」の『十津川物語』（北海道・奈良県）の回を視聴し、解説します。
講義	日本復帰前の「南島」への視線	「新日本紀行」の『沖縄本島』（沖縄県沖縄本島）の回を視聴し、解説します。
講義	変わりゆく瀬戸内海の島暮らし	「新日本紀行」の『塩飽衆昨今』（香川県・岡山県）の回を視聴し、解説します。
講義	夢を追う人々と都市の活気	「新日本紀行」の『太秦映画村』（京都府太秦）の回を視聴し、解説します。
講義	首都にきらめく江戸言葉と在来知	「新日本紀行」の『江戸の残る町』（東京都神田）の回を視聴し、解説します。
講義	「日本のふるさと」という幻想	「新日本紀行」の『新・遠野物語』（岩手県遠野）の回を視聴し、解説します。
講義	「新日本紀行」が描いた「日本」	高度経済成長期に求められた「日本」像について、これまで視聴した『新日本紀行』を振り返りながら講義します。
講義	試験と総括	本講義を総括し、受講生諸氏の理解度を机上試験で測ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義では毎回教員がレジュメを配布するので、そこに記された参考文献については通読しておいてください。また授業外の学習は、上記参考文献を用いた予習・復習（2時間程度）のほか、個々の学生の日常生活の中に散見される「民俗」的な事象・問題に気配りし、それらを学問的に考える姿勢を求めます（随時）。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。講義時に教員においてレジュメを作成し、配布します。

【参考書】
講義時に配布するレジュメに記載します。

【成績評価の方法と基準】
・最終授業時に実施する試験の回答内容のみで成績を判定します（試験100％）。ただし、どのような内容を出題するかは、終講の３～４回前の授業時にお知らせします。
・試験は実質的には机上リポートになります。そのため講義内容の理解度が成績判定の基準になります。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特にありませんが、戦後日本の生活史・文化史・経済史などに興味がないと、受講中とても退屈な時間を過ごさなくてはなりません。

【Outline (in English)】
Because the period of high economic growth when "leisure" became popular, television travel programs have become an important tool in stimulating demand for tourism. However, all visual media, including video, reflect the producers' arbitrary interests, and this applies no less to travel programs. This course aims for students to understand the landscape depicted, the producer's intention and the historical implications.


法政大学
HOSEI University